

# 深谷市民まちづくりアンケート

---

## 調査報告書

令和2年8月

深谷市

# 目次

1. I. アンケート調査結果の概要.....	2
1. アンケート調査の実施方法.....	2
2. アンケート調査結果の信頼度.....	3
3. アンケート調査結果の概要.....	4
4. 市全体、地区別の調査結果の分析.....	8
2. II. アンケート調査結果の詳細.....	19
1. 回答者属性.....	19
2. 深谷市のまちづくりについて.....	21
3. 深谷市の施策について.....	150
4. 自由記入欄（まちづくり全般について）.....	174
3. III. アンケート調査結果の単純集計結果.....	180
1. 深谷市のまちづくりについて.....	180
2. 深谷市の施策について.....	184
3. 自由記入欄（まちづくり全般について）.....	188
4. 最後に、あなた自身のことについておたずねします。.....	188

# 1. I. アンケート調査結果の概要

## 1. アンケート調査の実施方法

### (1) 目的

「深谷市総合振興計画・後期基本計画」に基づき、施策を推進するにあたり、「深谷市民まちづくりアンケート」を実施することで、今後のまちづくりの参考にするための、現在の深谷市の姿および市民の意向や市民ニーズを把握することを目的としています。

### (2) アンケートの方法

- ①調査対象：深谷市に居住する20歳以上の市民2,000人を住民基本台帳から無作為抽出しました。
- ②調査方法：アンケート票を郵送により配布・回収しました。
- ③調査期間：令和2年5月11日から同年5月27日に実施しました。

### 注意：

- ◆ 図表の数値は回答率を表しています。
- ◆ 図表の数値は小数点第1位未満を四捨五入しており、合計が100%にならない場合があります。
- ◆ 複数回答の設問では、合計が100%を超える場合があります。
- ◆ 「Ⅲ-2 深谷市の施策」について
  - ・重要度：「重要である」2点、「まあ重要である」1点、「あまり重要でない」-1点、「まったく重要でない」-2点と重要度に応じて得点を設定し、この得点に各々の回答者数を乗じて総得点を算出した上、その総得点を「わからない」「無回答」を除いた回答者数で除した数値です。数値が大きいほど重要度が高く、小さいほど重要度が低いことを表します。
  - ・満足度：「満足である」2点、「まあ満足である」1点、「やや不満である」-1点、「不満である」-2点と満足度に応じて得点を設定し、重要度と同様に算出した数値です。数値が大きいほど満足度が高く、小さいほど満足度が低いことを表します。
- ◆ 調査報告書上の重要度・満足度の値、およびその時系列比較の結果は、小数点第3位を四捨五入した値を記載していますが、時系列比較の計算過程においては、四捨五入を行う前の値を使用しているため、紙面上の計算結果と異なる場合があります。

## 2. アンケート調査結果の信頼度

無作為抽出によるアンケート調査実施にあたり、一般的に統計資料として信頼できる調査結果（信頼度±95%）を確保するために必要な回収票数を、以下の計算式により算出しました。各記号の説明および設定値は下表のとおりです。

### ・計算式

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{K(\alpha)}\right)^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

### ・各記号の説明と設定値

記号	説明	設定値
n	必要なサンプル数	
N	母数	令和2年4月1日時点の住民基本台帳人口（18歳以上）の総数（121,664人）とする
ε	信頼度の誤差範囲	±5%とする
K(α)	信頼度に基づく定数（※）	信頼度95%設定により、1.96とする
P	母比率	安全性の確保を考慮し、50%と設定する

以上より、必要な回収票数は以下のように算出され、

$$n = \frac{121,664}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \times \frac{121,664-1}{0.5 \times (1-0.5)} + 1} \approx 383$$

深谷市においては、383票回収すれば信頼度95%±5%の調査結果を得ることが分かります。

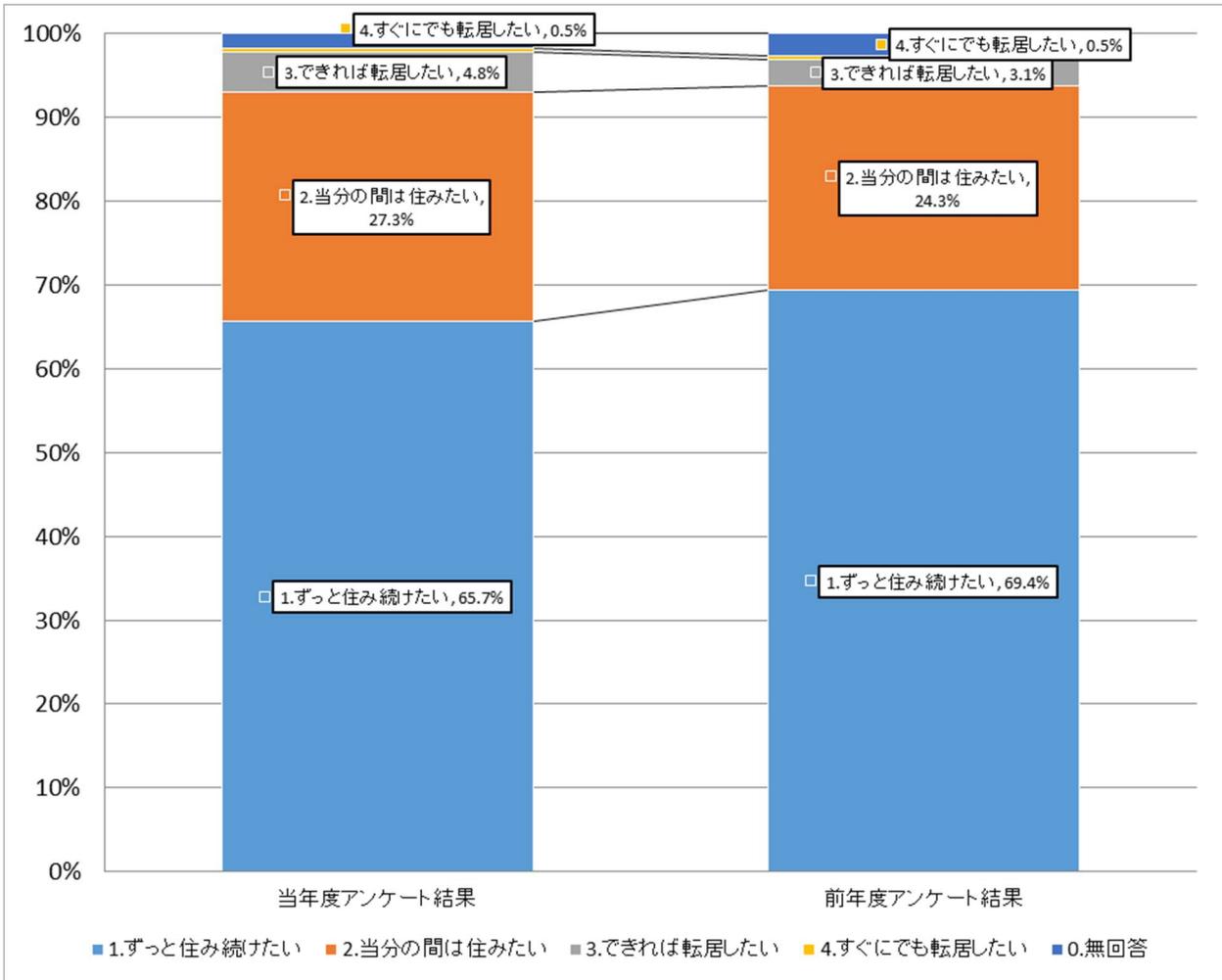
今回の調査では856票の有効回答が回収されたため、調査結果は統計的に信頼できるものと考えられます。

### 3. アンケート調査結果の概要

#### (1) 「深谷市民まちづくりアンケート」について

後期基本計画に基づき、施策を推進するにあたり、市民の市の施策に対する重要度、満足度などを把握するために、令和2年5月11日から同年5月27日までの期間にアンケート調査を実施しました。アンケート調査の対象は無作為に抽出した深谷市在住の満20歳以上の男女2,000人であり、アンケート票の有効回答数は、856人（42.8%）でした。

#### (2) 深谷市への定住意識について

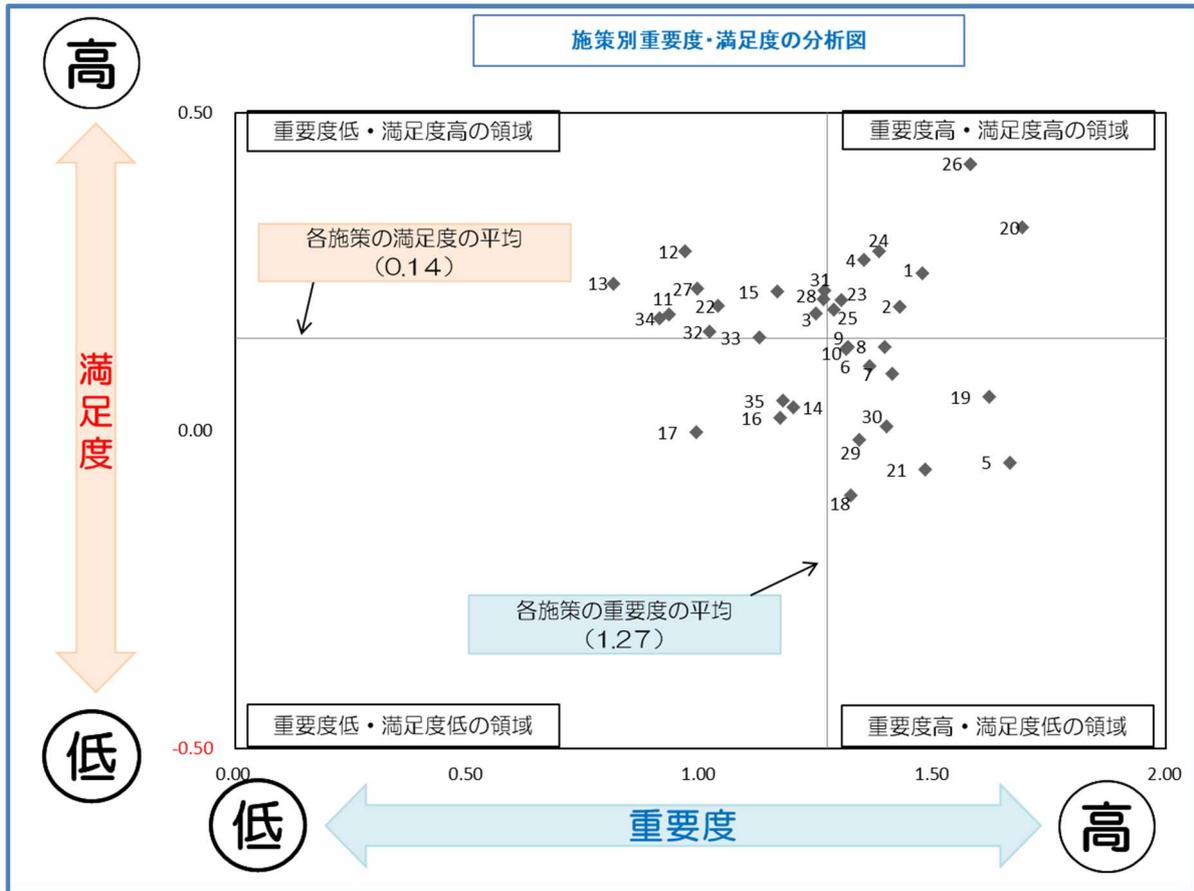


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が65.7%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が27.3%となっています。合計は93.0%と9割を超えており、前年度に引き続き、深谷市民の定住意識が高いことがうかがえます。

### (3) 深谷市の施策の重要度・満足度について

深谷市が実施している施策について、重要度・満足度に関する調査を行いました。

#### ① 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	20	消防・救急体制の充実
15	農畜産物の販売流通体制の充実	23	自然・生活環境の保全
22	地域コミュニティの推進	24	環境衛生の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	25	良好な市街地・住環境形成の推進
28	治水対策の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
31	人権・個性が尊重される社会の実現		
32	男女共同参画の実現		
33	情報発信・共有の推進		
34	市民との協働・交流の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
35	行財政運営の推進	8	障害者福祉の推進
		9	「生きる力」を育む学校教育の推進
		10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
		18	就労環境の整備
		19	災害に強い防災体制の推進
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

#### <重要度高・満足度高>

重要度が高く、満足度も高い領域には「子育て支援の充実」、「保育サービスの充実」、「健康づくりの推進」、「消防・救急体制の充実」、「自然・生活環境の保全」、「環境衛生の推進」、「良好な市街地・住環境形成の推進」、「水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

#### <重要度高・満足度低>

重要度が高く、満足度が低い領域には、「地域医療体制の充実」、「地域福祉の推進」、「高齢者福祉の推進」、「障害者福祉の推進」、「「生きる力」を育む学校教育の推進」、「家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」、「就労環境の整備」、「災害に強い防災体制の推進」、「防犯・空き家対策の推進」、「道路・交通環境整備の推進」、「公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

#### <重要度低・満足度高>

重要度が低く、満足度が高い領域には、「青少年の健全育成の推進」、「生涯学習の推進」、「郷土の歴史・文化の継承と活用」、「スポーツ・レクリエーションの推進」、「農畜産物の販売流通体制の充実」、「地域コミュニティの推進」、「自然・文化を生かした景観形成」、「治水対策の推進」、「人権・個性が尊重される社会の実現」、「男女共同参画の実現」、「情報発信・共有の推進」、「市民との協働・交流の推進」などの施策が該当します。

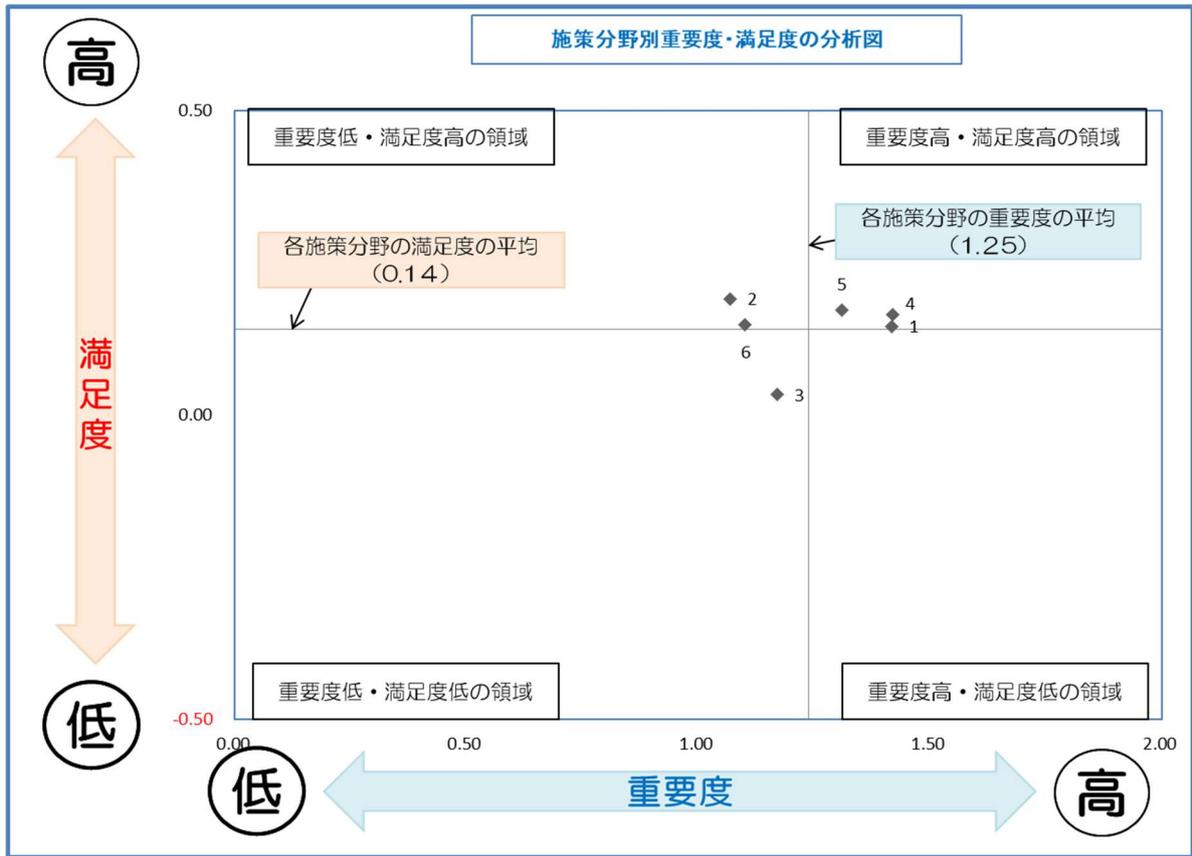
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないか確認する必要があります。

#### <重要度低・満足度低>

重要度が低く、満足度も低い領域には、「農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「商工業の振興」、「観光資源の整備と活用」、「行財政運営の推進」などの施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、住民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

② 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
6	協働・行政経営	4	暮らし・環境
		5	都市・生活基礎
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
3	産業振興		

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞に分類される施策分野は、1. 子育て・保健・福祉、4. 暮らし・環境、5. 都市・生活基礎の3分野であり、＜重要度高・満足度低＞に分類される施策分野はありませんでした。

また、＜重要度低・満足度高＞に分類される施策分野は、2. 教育・文化、6. 協働・行政経営の2分野であり、＜重要度低・満足度低＞に分類される施策分野は、3. 産業振興の1分野となっています。

今年度のアンケートでは、＜重要度高・満足度低＞に分類された施策分野はなかったことから、おおむね市民ニーズに即した取り組みが行われているといえます。

#### 4. 市全体、地区別の調査結果の分析

アンケート調査の結果を分析し、その分析結果を市全体、地区ごとに分類すると、以下のとおりです。

##### (1) 調査からわかったこと（市全体）

###### ➤ 市への定住意識

- ・「令和元年度深谷市民まちづくりアンケート（以下、「前年度アンケート）」の結果から大きな変化は見られず、高い割合を維持しています。
- ・「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は、ほとんどの地区で9割前後と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少数であることがうかがえます。

###### ➤ 子育て・保健・福祉について

- ・地域で子どもを育む活動に「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は3割未満となっています。
- ・小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は7割を超えており、「前年度アンケート」の結果からは1割増加していることがわかります。
- ・中学生以下（中学3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、子育てのしやすいまちと回答した人の割合は7割を超えており、その割合は「前年度アンケート」の結果から大きな変化は見られません。
- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は約6割となり、「前年度アンケート」の結果から大きな変化は見られません。
- ・定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていると回答した人の割合は7割を超えており、その割合は「前年度アンケート」の結果から大きな変化は見られません。
- ・7割を超える市民に、かかりつけ医がいることがうかがえます。その割合は「前年度アンケート」の結果から大きな変化はありませんでした。
- ・健康的な食生活に「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は8割を超えているものの、「前年度アンケート」の結果からは微減していることがわかります。

- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる自治会や民生委員などがあると回答した人の割合は、半数を超える結果となっているものの、「前年度アンケート」の結果から微減していることがわかります。

➤ 教育・文化について

- ・生涯学習を「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は約3割となり、「前年度アンケート」からは微増していることがわかります。
- ・芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会が「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は、3割未満となっています。さらに、男女によっても差がみられ、男性は女性に比べ、5.9ポイント少ないことがわかります。
- ・スポーツやレクリエーションを「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、「前年度アンケート」から微増しているものの、4割以下という結果となっています。

➤ 産業振興について

- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は半数は超えているものの、「前年度アンケート」と比較すると微減しています。
- ・深谷産の農畜産物を購入することを「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は約6割であり、地域や年代によって意識に差があることがうかがえます。
- ・自身または家族の仕事と生活のバランスが「とても取れている」または「やや取れている」と回答した人の割合の合計は7割を超え、「前年度アンケート」と比較すると微増しています。

➤ 暮らし・環境について

- ・自宅に災害に対する備えが「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は約4割と、「前年度アンケート」と比較すると微増しています。
- ・地震発生時の避難所・避難場所を、市民の約2割が「知らない」と回答しており、「前年度アンケート」と比較すると微減しています。
- ・1年間で消費者トラブルに巻きこまれた人の割合は、「前年度アンケート」と同様、ごくわずかであることがうかがえます。

- ・約6割の市民が、日ごろ防犯対策を「十分とっている」または「ある程度はとっている」と回答しており、「前年度アンケート」と比較すると微増しています。
- ・地域活動（自治会や町内会での活動など）へ「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は、半数以下となっているものの、「前年度アンケート」と比較すると微増していることがわかります。
- ・環境に配慮した取組（省エネ、自然や川の保全活動など）を、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、「前年度アンケート」と比較して微減しています。また、環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は約6割ほどで、「前年度アンケート」と比較すると微増しています。
- ・環境問題を以前より意識するようになったと回答した人の割合は半数を超えており、「前年度アンケート」と比較すると微増しています。
- ・8割以上の市民が、普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていることがうかがえます。

#### ➤ 都市・生活基盤について

- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると回答した人の割合は半数以上になっています。
- ・住まい周辺の住環境に「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は約7割となり、「前年度アンケート」と比較して大きな変化はありませんでした。地域により40%台～80%台と、大きな差があることがわかります。
- ・約7割の市民が、身近に自然に親しむことができる環境があると回答していることがうかがえます。
- ・市内に魅力的なまち並みや景観が「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は半数以下となっており、地域により40%台～60%台と、バラつきがあることがわかります。
- ・7割以上の市民が、水害に対して安心した生活を送ることができていると感じており、「前年度アンケート」の結果から大きな変化は見られません。
- ・約半数の市民が、市内の道路を利用する際に不便を感じると回答していることがわかります。不便を感じないと回答している方が「前年度アンケート」と比較すると微増しているものの、公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）についても、約半数が不便を感じると回答しており、道路と公共交通機関のどちらにおいても、多くの人が不便を感じていることがうかがえます。

➤ 協働・行政経営について

- ・深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると感じている人は、約6割でした。
- ・この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことがあると回答した人の割合は、1割未満と少ないものの、「前年度アンケート」と比較すると、微増しています。
- ・お互いの人権について「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は6割を超えており、「前年度アンケート」と比較すると、微増しています。
- ・市内で、外国人とのトラブルなどを「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は約1割と少なく、「前年度アンケート」と比較すると、微減しています。
- ・性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思うと回答した人の割合の合計は、約6割となり、「前年度アンケート」と比較すると、微増しています。
- ・男女共同参画について「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は、約2割となっており、「前年度アンケート」の結果から大きな変化は見られません。
- ・6割を超える市民が、市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていると回答しています。
- ・市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合の合計は約7割でした。「前年度アンケート」と比較して、大きな変化はありませんでした。
- ・約半数の市民が、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると回答しています。
- ・市民活動に興味「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合の合計は、3割に届かず、「前年度アンケート」と比較して、大きな変化はみられませんでした。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを「知っている」と回答した人の割合は5割未満となっており、性別や年代によって差があることがうかがえます。

- ・約7割の市民が、花と緑をいかしたまちづくり活動について「興味がある」と回答しています。「参加したい」と回答した人の割合についても「前年度アンケート」「前年度アンケート」と比較して微増しています。

## (2) 調査からわかったこと（地区別）

### ➤ 深谷地区

- ・中学生以下のお子さんを持つ保護者の中で、深谷市が子育てのしやすいまちだと思いと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）がいると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・地震発生時の避難所・避難場所を知っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・地域活動（自治会や町内会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていないと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

### ➤ 藤沢地区

- ・地域で子どもを育む活動に参加している（例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など）と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・中学生以下のお子さんを持つ保護者の中で、深谷市が子育てのしやすいまちだと思いと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・かかりつけのお医者さんはいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・健康的な食生活に気をつけていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

- ・ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れている（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分）と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・地域活動（自治会や町内会での活動など）へどの程度参加していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはないと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・この1年間に自分の人権が侵害されたと思っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

#### ➤ 幡羅地区

- ・これからもずっと深谷市に住み続けたいと思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

- ・お住まい周辺の住環境に満足していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはないと回答している市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・男女共同参画の意識は以前と比べて意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

#### ➤ 明戸地区

- ・これからもずっと深谷市に住み続けたいと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・地域で子どもを育む活動に参加している（例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会や PTA 活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など）と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・かかりつけの医者があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・スポーツやレクリエーションを行っているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがあると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

- ・市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じないと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・お互いの人権について意識をして生活していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことがあると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・男女共同参画の意識は以前と比べて意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

#### ➤ 大寄地区

- ・地域で子どもを育む活動に参加している（例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など）と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを両立できていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・健康的な食生活に気をつけていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

- ・スポーツやレクリエーションを日常的に行っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・地震発生時の避難所・避難場所を知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っているという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じないと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・男女共同参画の意識は以前と比べて意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動はありと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

#### ➤ 八基地区

- ・地域で子どもを育む活動に参加している（例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA 活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など）と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

- ・ 普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ かかりつけのお医者さんがいると回答した市民の割合が低いことがうかがえます。
- ・ 健康的な食生活に気をつけていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ スポーツやレクリエーションを日常的に行っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがあると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れている（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分）と回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 日ごろ、防犯対策をとっていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 地域活動（自治会や町内会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ あなたの身近に、自然に親しむことができる環境があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市内に魅力的なまち並みや景観があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

- ・水害に対して安心した生活を送ることができていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じないと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・お互いの人権について意識をして生活をしていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していると回答した市民の割合が高いことがうかがえます。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

#### ➤ 豊里地区

- ・これからもずっと深谷市に住み続けたいと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の中で、仕事と子育てを両立できていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていないと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

- ・日ごろ、防犯対策をとっていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・お住まい周辺の住環境に満足していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内に魅力的なまち並みや景観があると思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・水害に対して安心した生活を送ることができていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・お互いの人権について意識をして生活をしていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思うと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

#### ➤ 上柴地区

- ・この 1 年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があったと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

- ・ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・地域活動（自治会や町内会での活動など）へ参加していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・お住まい周辺の住環境に満足していると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・あなたの身近に、自然に親しむことができる環境があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・水害に対して安心した生活を送ることができていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことがあると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

#### ➤ 南地区

- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）がいると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していると回答した市民の割合が高いことがうかがえます。
- ・地震発生時の避難所・避難場所を知っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

- ・環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになったと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内に魅力的なまち並みや景観があると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

#### ➤ 岡部地区

- ・これからもずっと深谷市に住み続けたいと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の中で、仕事と子育てを両立できていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の中で、深谷市が子育てのしやすいまちだと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・健康的な食生活に気をつけていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・自身または家族の、仕事と生活のバランスが取れていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・日ごろ、防犯対策をとっていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っているという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・お住まい周辺の住環境に満足していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・あなたの身近に、自然に親しむことができる環境があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内に魅力的なまち並みや景観があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

- ・ 深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ この 1 年間に自分の人権が侵害されたと思ったことがあると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

#### ➤ 川本地区

- ・ 生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思うと回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。

#### ➤ 花園地区

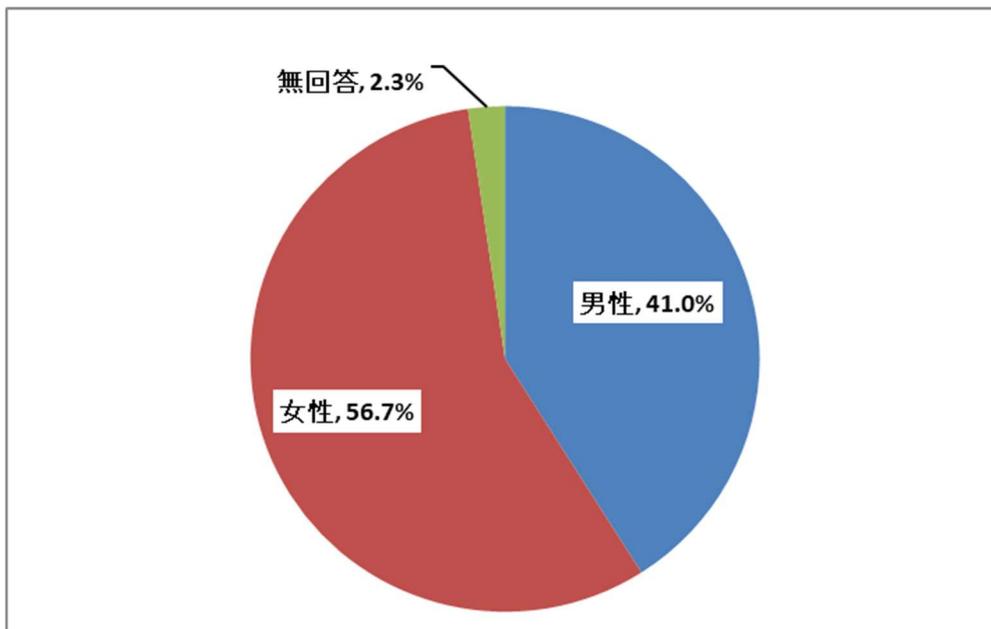
- ・ 中学生以下（中学校 3 年生まで）のお子さんを持つ保護者の中で、深谷市が子育てのしやすいまちだと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ かかりつけのお医者さんはいると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

- ・この 1 年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があったと回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・スポーツやレクリエーションを日常的に行っていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れている（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分）と回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）があると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・地震発生時の避難所・避難場所を知っていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・日ごろ、防犯対策をとっていると回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っているという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・水害に対して安心した生活を送ることができていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはないという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていないという回答した市民の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思うという回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると回答した市民の割合が相対的に高いことがうかがえます。

## 2. II. アンケート調査結果の詳細

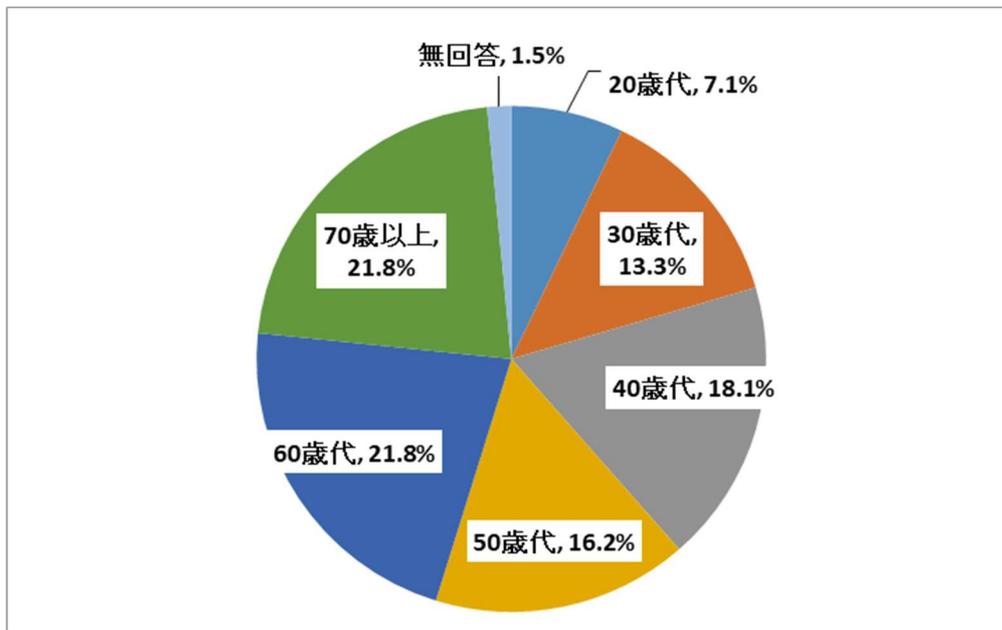
### 1. 回答者属性

#### (1) 性別



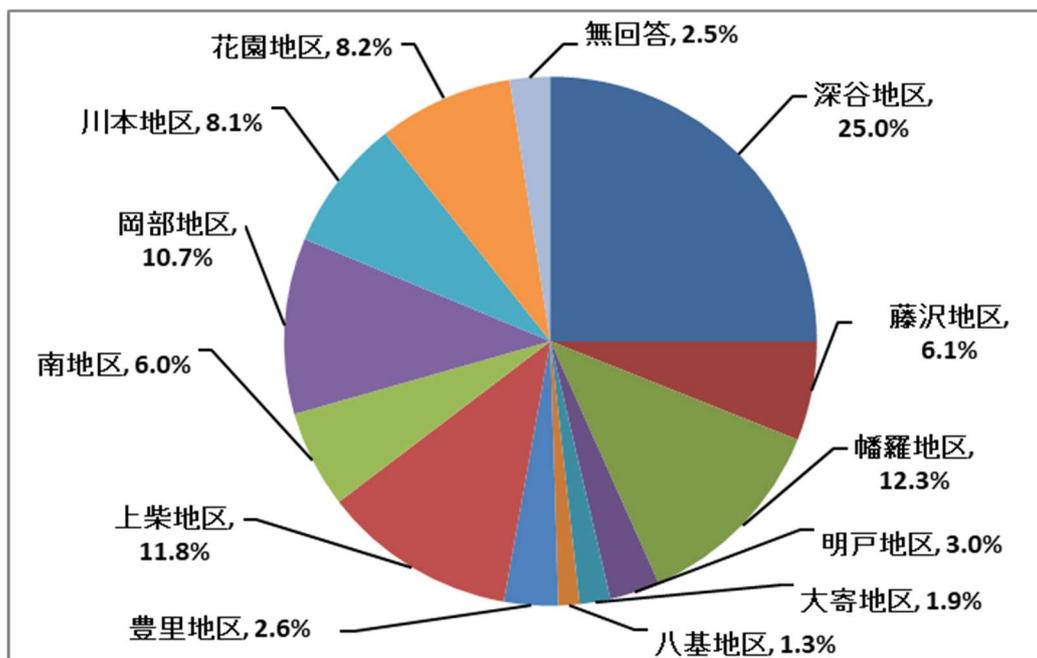
男性が 41.0%、女性が 56.7%と、回答者は女性の割合が多くなっています。

#### (2) 年齢



年齢では、60歳代、70歳代が最も多く、21.8%となっています。次いで、40歳以上 18.1%、50歳代 16.2%、30歳代 13.3%となっており、最も少ないのは20歳代で7.1%となっています。

### (3) 居住地区

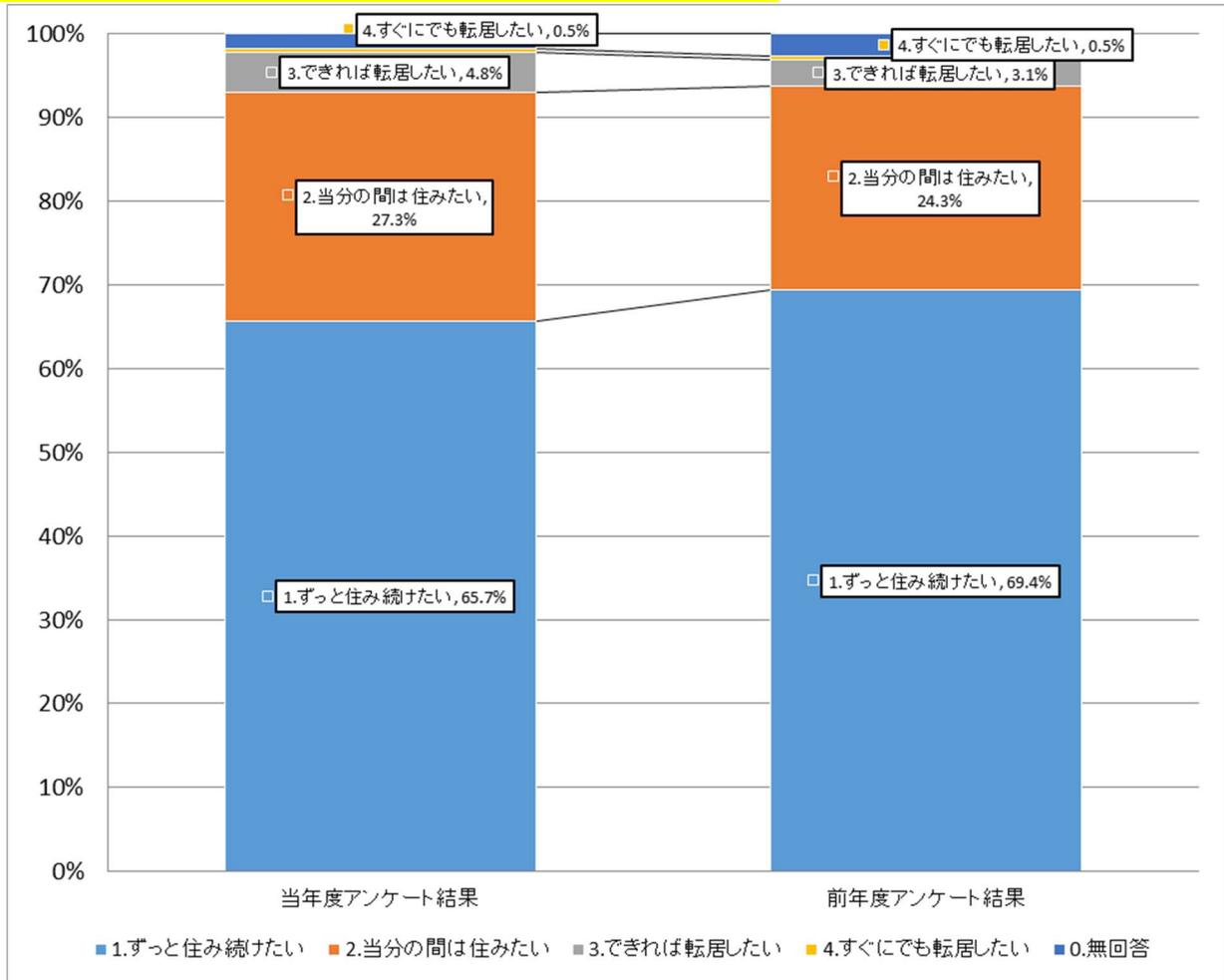


深谷地区が最も多く 25.0%となっています。次いで、幡羅地区で 12.3%、上柴地区で 11.8%、岡部地区 10.7%となっています。最も少ないのは八基地区であり、1.3%となっています。

## 2. 深谷市のまちづくりについて

### (1) 深谷市のまち全体の印象について (1. 問1)

これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

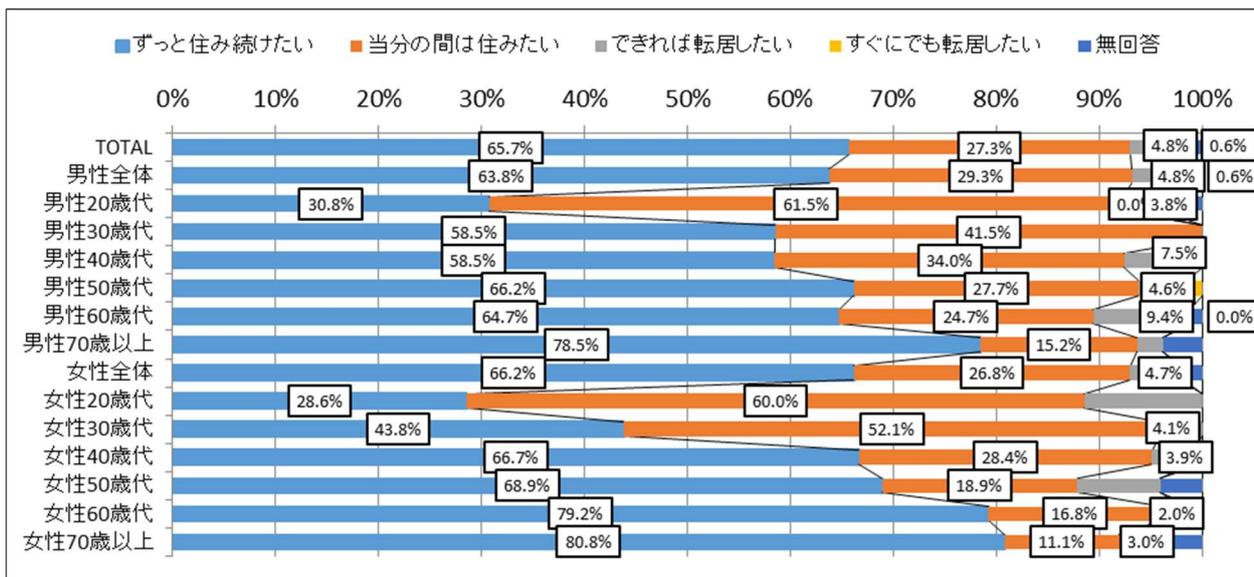


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が 65.7%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が 27.3%となっており、2つの合計は 93.0%と 9 割を超えていることから、深谷市民は定住意識が高いことがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住みたい」と回答した人の割合は 93.7%であり、前年度アンケートと比較して、ほぼ変動はありませんでした。

母集団		ずっと住み続けたい	当分の間は住みたい	できれば転居したい	すぐにも転居したい	無回答	合計
TOTAL	856	65.7%	27.3%	4.8%	0.6%	1.6%	100.0%
男性全体	351	63.8%	29.3%	4.8%	0.6%	1.4%	100.0%
男性 20 歳代	26	30.8%	61.5%	0.0%	3.8%	3.8%	100.0%
男性 30 歳代	41	58.5%	41.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	58.5%	34.0%	7.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	66.2%	27.7%	4.6%	1.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	64.7%	24.7%	9.4%	0.0%	1.2%	100.0%
男性 70 歳以上	79	78.5%	15.2%	2.5%	0.0%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	66.2%	26.8%	4.7%	0.4%	1.9%	100.0%
女性 20 歳代	35	28.6%	60.0%	11.4%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	43.8%	52.1%	4.1%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	66.7%	28.4%	3.9%	1.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	68.9%	18.9%	8.1%	0.0%	4.1%	100.0%
女性 60 歳代	101	79.2%	16.8%	2.0%	1.0%	1.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	80.8%	11.1%	3.0%	0.0%	5.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	62.6%	32.2%	4.2%	0.0%	0.9%	100.0%
藤沢地区	52	67.3%	23.1%	5.8%	0.0%	3.8%	100.0%
幡羅地区	105	75.2%	21.0%	3.8%	0.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	80.8%	19.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	87.5%	6.3%	6.3%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	11	54.5%	36.4%	0.0%	0.0%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	60.7%	25.0%	10.7%	3.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	63.4%	32.7%	2.0%	0.0%	2.0%	100.0%
南地区	51	60.8%	31.4%	5.9%	0.0%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	66.3%	19.6%	7.6%	3.3%	3.3%	100.0%
川本地区	69	66.7%	29.0%	4.3%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	62.9%	30.0%	5.7%	0.0%	1.4%	100.0%
無回答	21	47.6%	28.6%	9.5%	0.0%	14.3%	100.0%

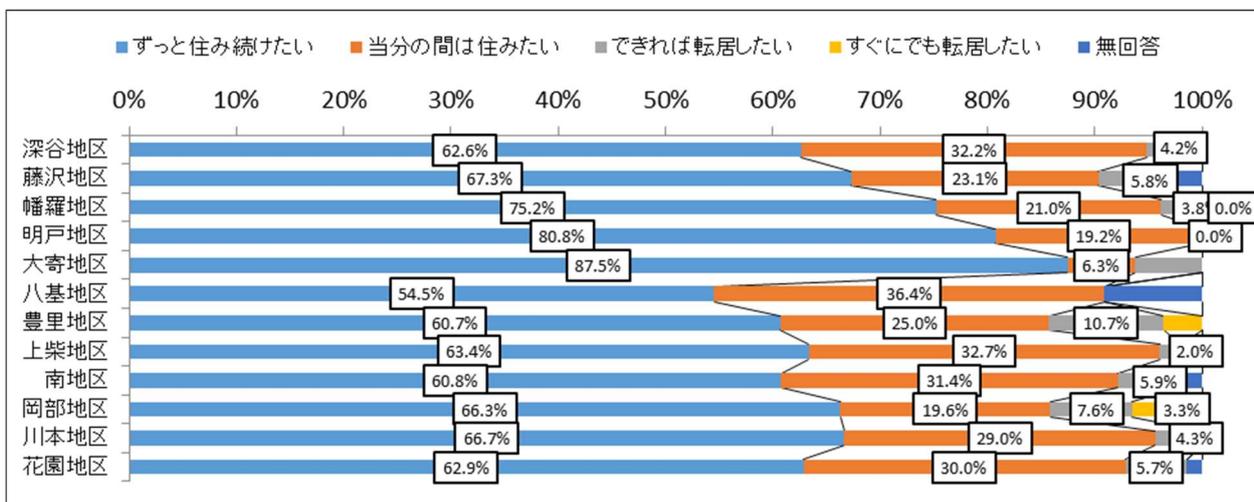
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ずっと住みたい」と回答した人の割合は、男性が 63.8% であるのに対し、女性は 66.2% となっています。男女ともに多くの市民が、住みたいと考えていることがうかがえます。

また、「ずっと住みたい」と回答した人の割合が最も少ない世代は男性、女性ともに 20 歳代（男性 30.8%、女性 28.6%）であり、一方で最も多い世代は、男性、女性ともに 70 歳代（男性 78.5%、女性 80.8%）となっています。

## ➤ 地区別



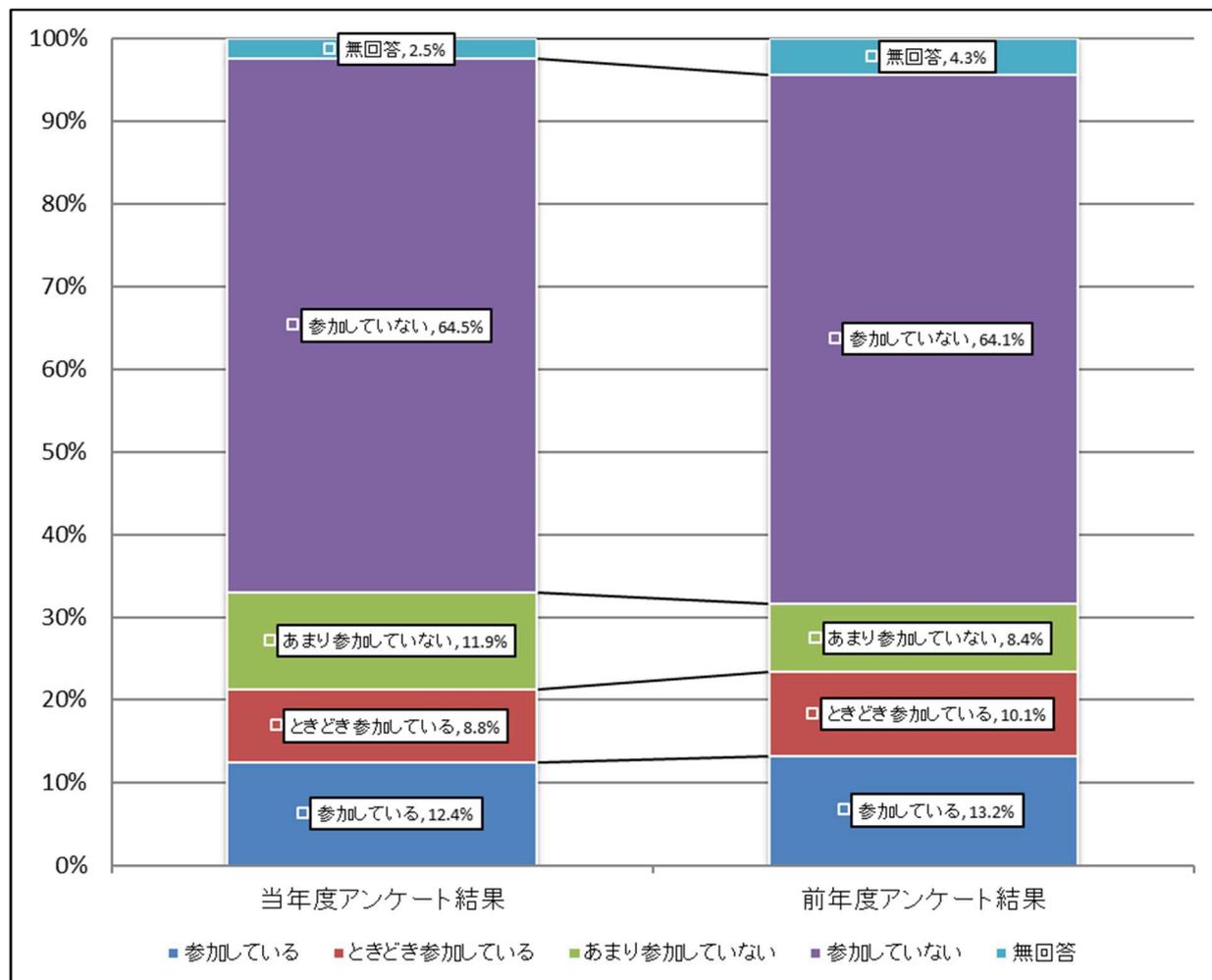
地区別にみると、「ずっと住みたい」と回答した人の割合は、八基地区においては 54.5% と低い数値になっている一方で、大寄地区においては 87.5% と高い数値になっています。地域によって意識に差があることがわかります。

ただし、「ずっと住みたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計はすべての地区で 8 割以上と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少ないことがうかがえます。

## (2) 子育て・保健・福祉について

### ① 子育てについて (2. 問1~3)

地域で子どもを育む活動に参加していますか。(例: ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など)



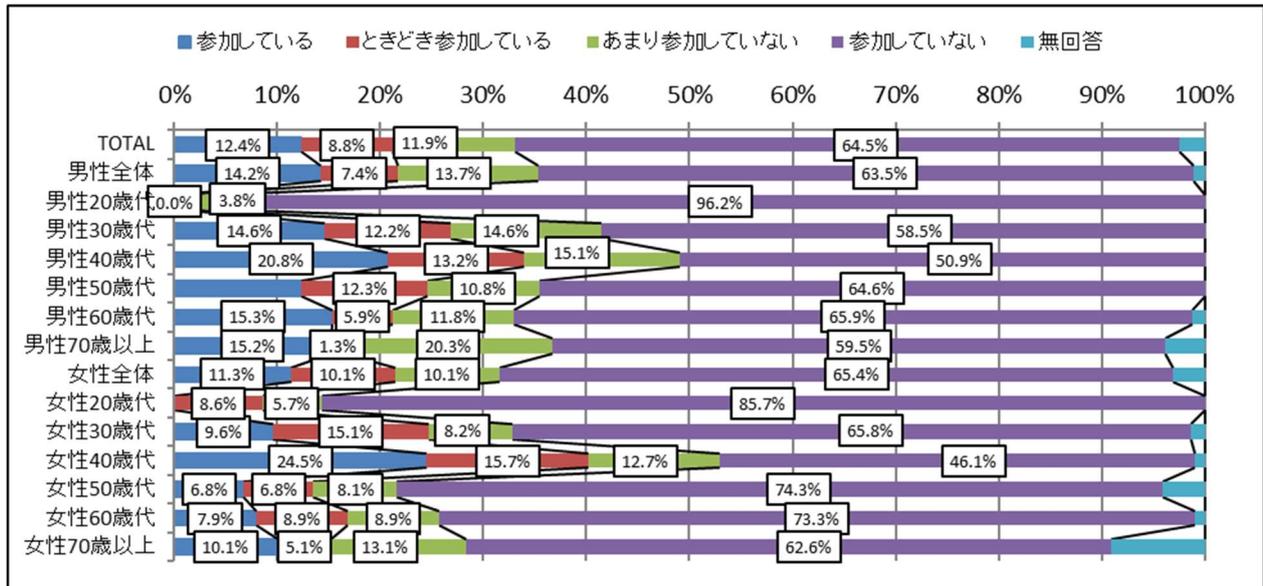
「参加していない」と回答した人の割合が 64.5%と最も多く、次いで、「参加している」と回答した人の割合が 12.4%、「ときどき参加している」と回答した人の割合が 8.8%、「あまり参加していない」と回答した人の割合は 11.9%となっています。

「参加している」「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 21.2%であり、活動に参加している市民は 3 割にも満たない状況です。

また、前年度アンケートの結果は、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 23.3%であり、前年度アンケートと比較して、ほぼ変動はありませんでした。「参加していない」または「あまり参加していない」と回答した人の割合が前年度に比べ、3.9%増加という結果となっています。

母集団		参加している	参加している ときどき	参加していない あまり	参加していない	無回答	合計
TOTAL	856	12.4%	8.8%	11.9%	64.5%	2.5%	100.0%
男性全体	351	14.2%	7.4%	13.7%	63.5%	1.1%	100.0%
男性 20 歳代	26	0.0%	0.0%	3.8%	96.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	14.6%	12.2%	14.6%	58.5%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	20.8%	13.2%	15.1%	50.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	12.3%	12.3%	10.8%	64.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	15.3%	5.9%	11.8%	65.9%	1.2%	100.0%
男性 70 歳以上	79	15.2%	1.3%	20.3%	59.5%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	11.3%	10.1%	10.1%	65.4%	3.1%	100.0%
女性 20 歳代	35	0.0%	8.6%	5.7%	85.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	9.6%	15.1%	8.2%	65.8%	1.4%	100.0%
女性 40 歳代	102	24.5%	15.7%	12.7%	46.1%	1.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	6.8%	6.8%	8.1%	74.3%	4.1%	100.0%
女性 60 歳代	101	7.9%	8.9%	8.9%	73.3%	1.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	10.1%	5.1%	13.1%	62.6%	9.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	14.0%	5.1%	12.1%	66.8%	1.9%	100.0%
藤沢地区	52	5.8%	5.8%	13.5%	69.2%	5.8%	100.0%
幡羅地区	105	13.3%	8.6%	12.4%	65.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	11.5%	19.2%	11.5%	57.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	25.0%	12.5%	0.0%	56.3%	6.3%	100.0%
八基地区	11	9.1%	9.1%	0.0%	72.7%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	10.7%	14.3%	14.3%	60.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	8.9%	11.9%	11.9%	63.4%	4.0%	100.0%
南地区	51	5.9%	13.7%	13.7%	64.7%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	13.0%	8.7%	10.9%	64.1%	3.3%	100.0%
川本地区	69	18.8%	8.7%	14.5%	58.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	14.3%	8.6%	8.6%	67.1%	1.4%	100.0%
無回答	21	4.8%	4.8%	19.0%	57.1%	14.3%	100.0%

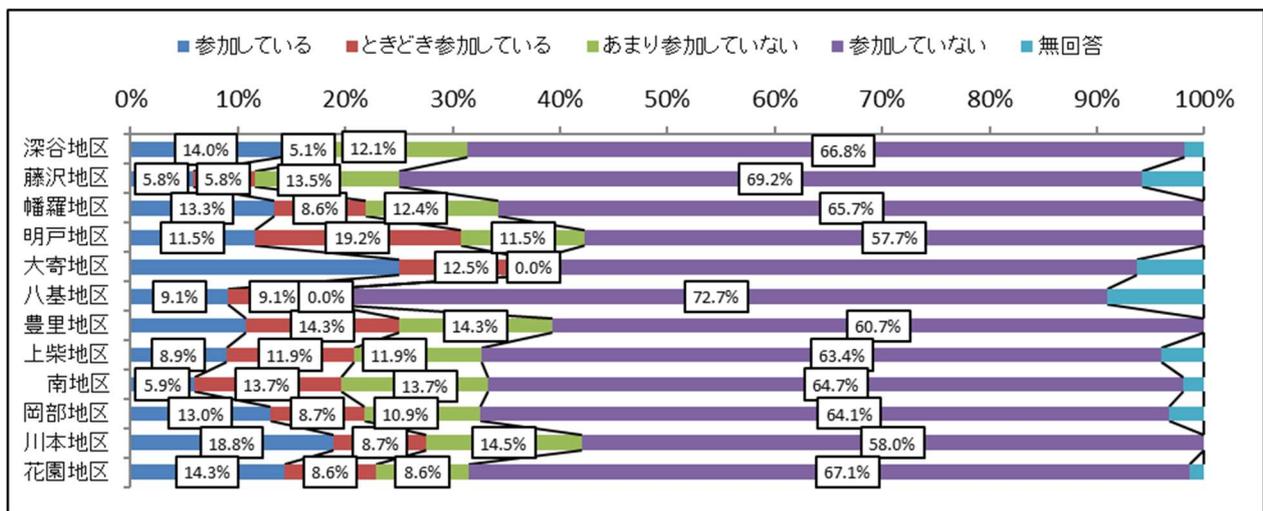
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は、男性が21.7%、女性は21.4%となっています。このことから、性別によつての活動への参加率の差がないことがわかります。

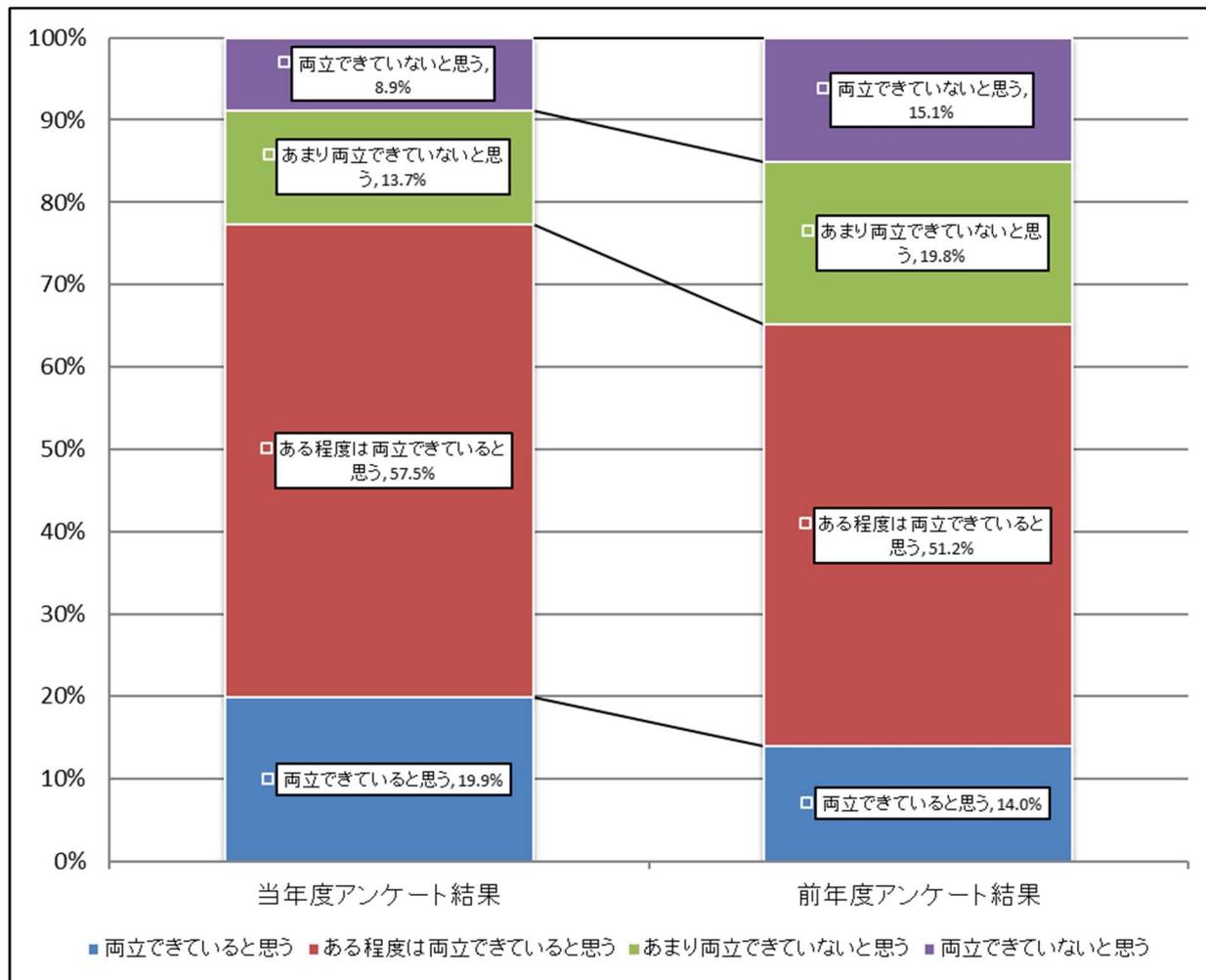
また、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性、女性ともに20歳代（男性0.0%、女性8.6%）でした。一方で、最も多い世代は、男性、女性ともに40歳代（男性34.0%、女性40.2%）となっています。世代によつて、大きな差があることがうかがえます。

## ➤ 地区別



地区別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ない地区は、藤沢地区（11.5%）であり、次いで八基地区（18.2%）となっています。最も多い地区は、大寄地区（37.5%）であり、次いで明戸地区（30.8%）となっています。地域によつても、比較的差があることがうかがえます。

**小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。  
仕事と子育てを両立できていると思いますか。**



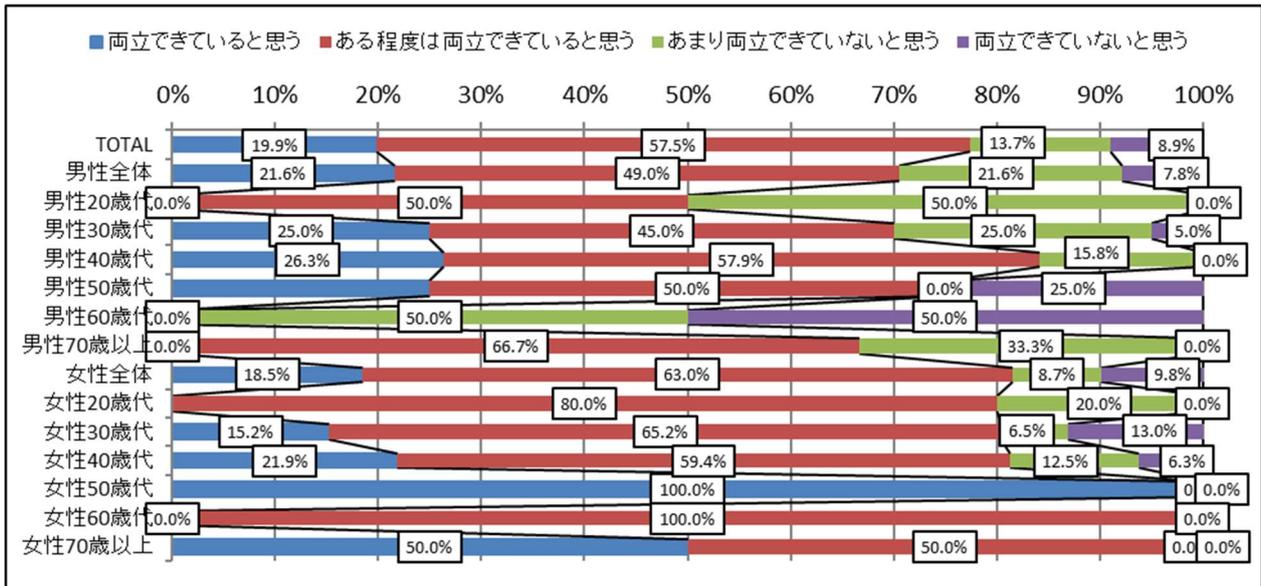
「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合が 57.5%と最も多く、次いで、「両立できていると思う」と回答した人の割合が 19.9%、「あまり両立できていないと思う」と回答した人の割合は 13.7%、「両立できていないと思う」と回答した人の割合が最も少なく 8.9%となっています。

「両立できていると思う」「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は 77.4%であり、小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち、7割以上は、仕事と子育ての両立ができていると回答しています。

また、前年度アンケートの結果は、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は 65.2%であり、前年度アンケートと比較して増加となっています。

母集団		両立できていると思う	ある程度は両立できていると思う	あまり両立できていないと思う	両立できていないと思う	無回答	合計
TOTAL	146	19.9%	57.5%	13.7%	8.9%	0.0%	100.0%
男性全体	51	21.6%	49.0%	21.6%	7.8%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	20	25.0%	45.0%	25.0%	5.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	19	26.3%	57.9%	15.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	4	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	92	18.5%	63.0%	8.7%	9.8%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	5	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	46	15.2%	65.2%	6.5%	13.0%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	32	21.9%	59.4%	12.5%	6.3%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 60 歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	4	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	40	27.5%	55.0%	10.0%	7.5%	0.0%	100.0%
藤沢地区	6	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	22	27.3%	50.0%	18.2%	4.5%	0.0%	100.0%
明戸地区	5	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	0	—	—	—	—	—	—
豊里地区	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	16	6.3%	81.3%	6.3%	6.3%	0.0%	100.0%
南地区	9	22.2%	55.6%	11.1%	11.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	16	6.3%	50.0%	37.5%	6.3%	0.0%	100.0%
川本地区	11	18.2%	54.5%	0.0%	27.3%	0.0%	100.0%
花園地区	12	8.3%	83.3%	8.3%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	6	16.7%	33.3%	16.7%	33.3%	0.0%	100.0%

➤ 性別・世代別

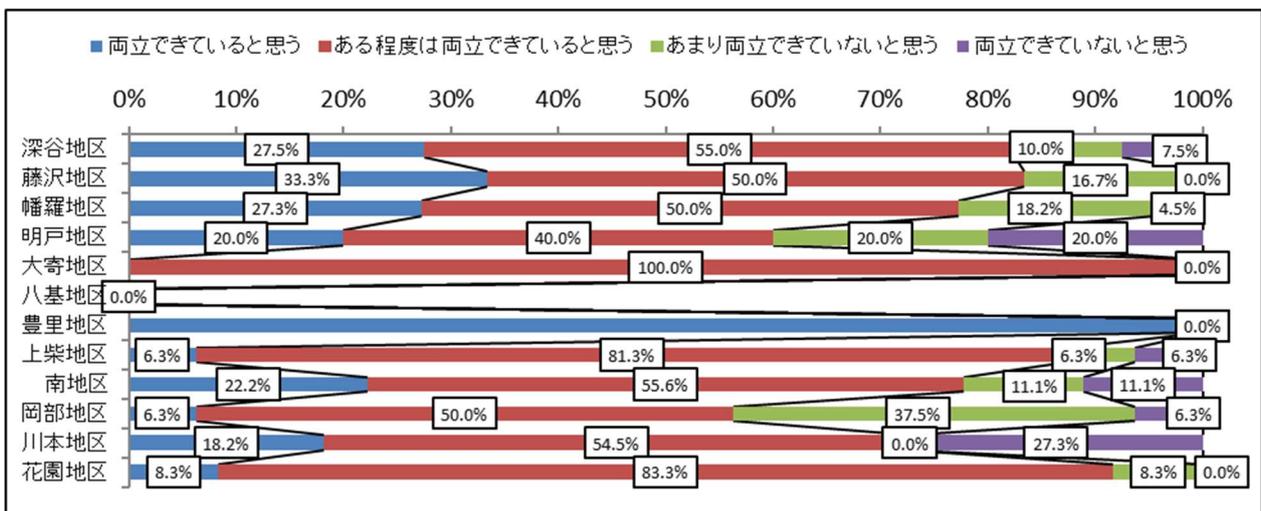


「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は男性は70.6%、女性は81.5%となっています。

30歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は男性が70.0%であるのに対し、女性は80.4%となっています。

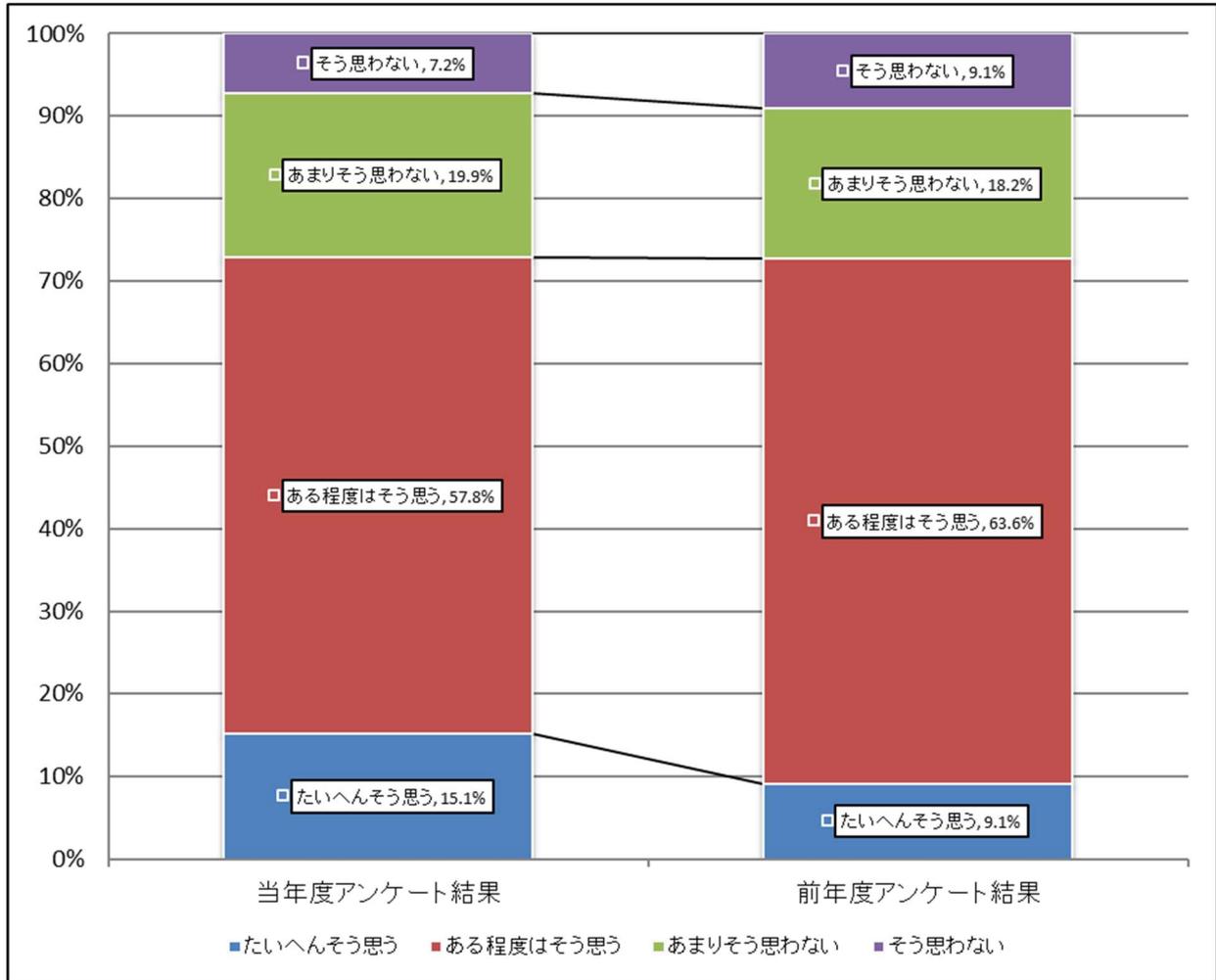
40歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合は男性が84.2%であるのに対し、女性は81.3%と、30歳代よりも両立できていると回答している人の割合が高くなっています。

➤ 地区別



地区別にみると、10人以上が回答し、かつ、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、岡部地区（56.3%）であり、最も多い地区は、深谷地区（82.5%）となっています。

中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。  
 深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。



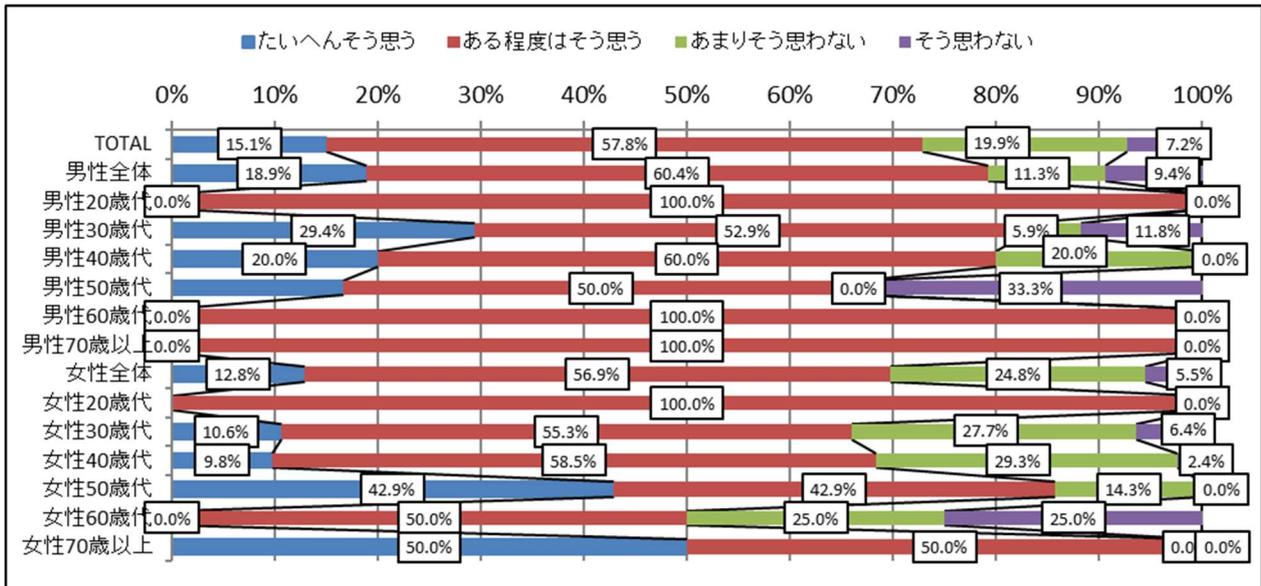
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 57.8%と最も多く、次いで、「あまりそう思わない」が 19.9%、「たいへんそう思う」が 15.1%、「そう思わない」と回答した人の割合は 7.2%となっています。

「たいへんそう思う」「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 72.9%であり、中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち7割以上が子育てのしやすいまちだと回答しています。

また、前年度アンケートの結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 72.7%であり、前年度アンケートと比較して、若干の増加となっています。

母集団		たいへんそう思う	ある程度は そう思う	あまり そう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	166	15.1%	57.8%	19.9%	7.2%	0.0%	100.0%
男性全体	53	18.9%	60.4%	11.3%	9.4%	0.0%	100.0%
男性20歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	17	29.4%	52.9%	5.9%	11.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	20	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性50歳代	6	16.7%	50.0%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	2	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	4	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	109	12.8%	56.9%	24.8%	5.5%	0.0%	100.0%
女性20歳代	5	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	47	10.6%	55.3%	27.7%	6.4%	0.0%	100.0%
女性40歳代	41	9.8%	58.5%	29.3%	2.4%	0.0%	100.0%
女性50歳代	7	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	4	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	4	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	44	18.2%	63.6%	13.6%	4.5%	0.0%	100.0%
藤沢地区	8	12.5%	75.0%	12.5%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	28	21.4%	53.6%	21.4%	3.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	6	0.0%	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	0	—	—	—	—	—	—
豊里地区	0	—	—	—	—	—	—
上柴地区	19	21.1%	57.9%	10.5%	10.5%	0.0%	100.0%
南地区	6	0.0%	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	14	14.3%	42.9%	28.6%	14.3%	0.0%	100.0%
川本地区	16	6.3%	75.0%	12.5%	6.3%	0.0%	100.0%
花園地区	15	6.7%	46.7%	46.7%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	7	14.3%	28.6%	28.6%	28.6%	0.0%	100.0%

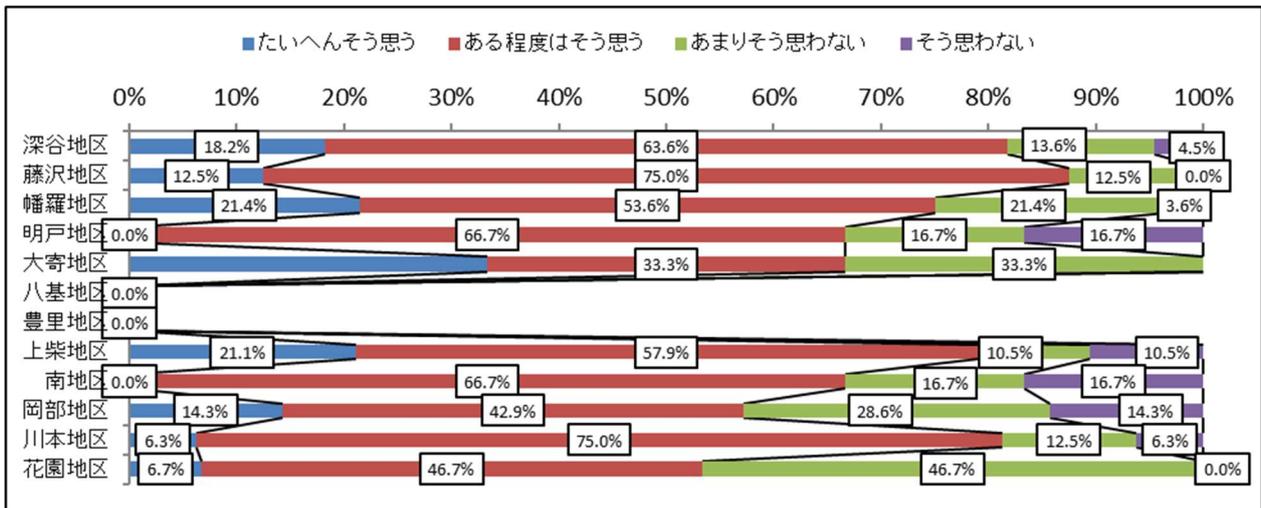
➤ 性別・世代別



「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性は79.2%、女性は69.7%となっています。

30歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が82.4%であるのに対し、女性は66.0%と男女によって意識に差がみられます。40歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が80.0%であるのに対し、女性は68.3%となっています。

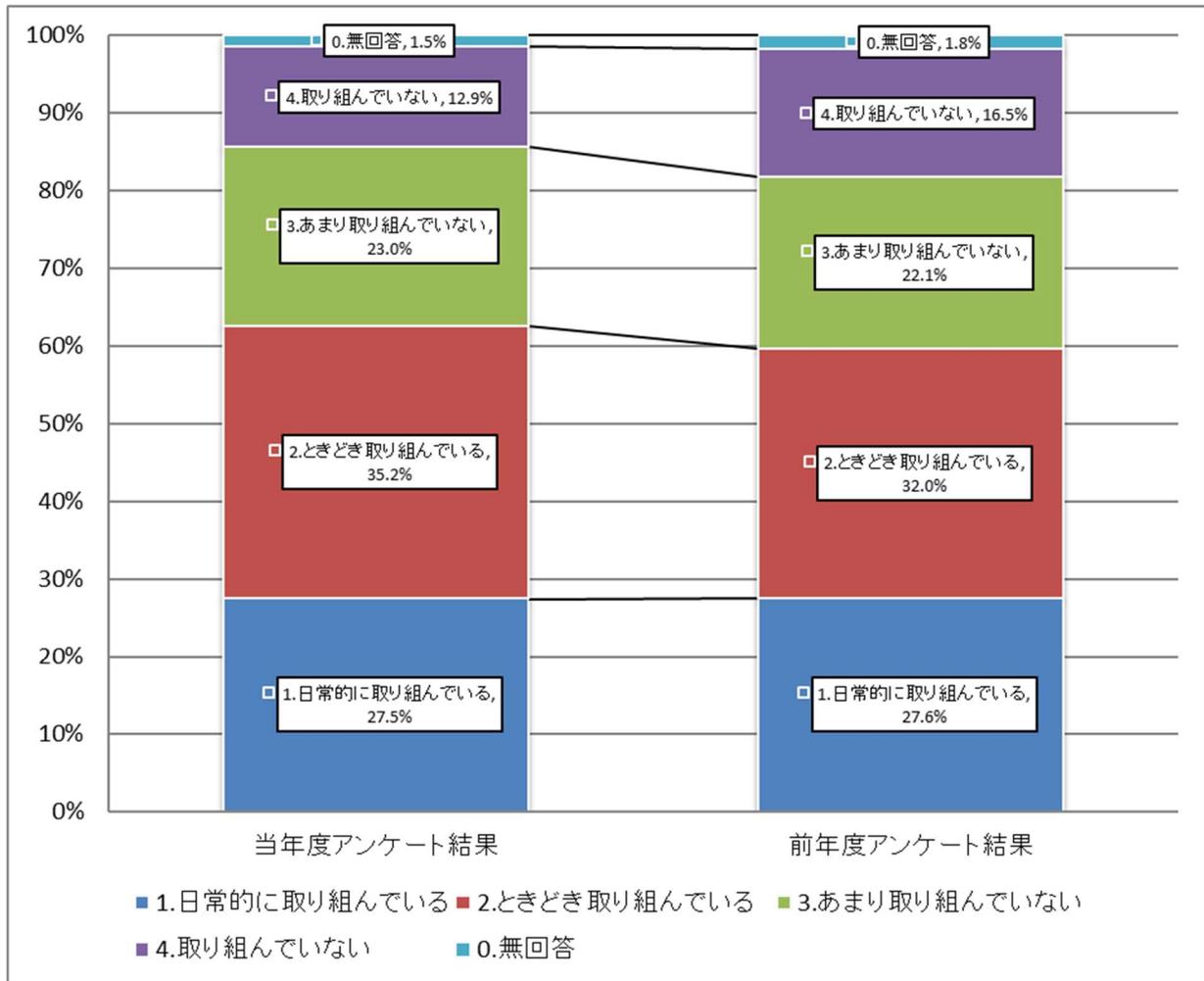
➤ 地区別



地区別にみると、10人以上が回答し、かつ、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、花園地区（53.3%）であり、最も多い地区は、深谷地区（81.8%）となっています。

② 保健について（2. 問4～7）

普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。



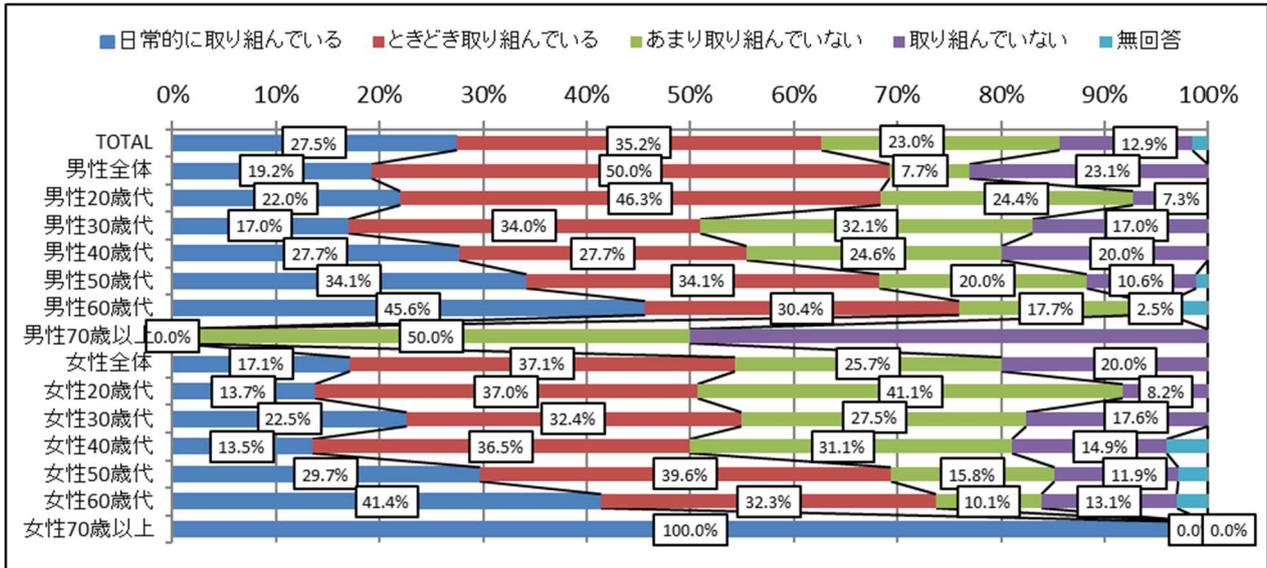
「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が 35.2%と最も多く、次いで、「日常的に取り組んでいる」と回答した人の割合は 27.5%、「あまり取り組んでいない」と回答した人の割合は 23.0%、「取り組んでいない」と回答した人の割合は 12.9%となっています。

「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は、62.6%であり、6割以上の市民が普段の生活で健康づくりに取り組んでいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果をみると「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は 59.6%であり、普段の生活で健康づくりに取り組んでいる人の割合は、「前年度アンケート」と比較して 3.0ポイント増加していることがうかがえます。

母集団		日常的に取り組んでいる	ときどき取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	無回答	合計
TOTAL	856	27.5%	35.2%	23.0%	12.9%	1.5%	100.0%
男性全体	351	19.2%	50.0%	7.7%	23.1%	0.0%	100.0%
男性 20 歳代	26	22.0%	46.3%	24.4%	7.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	17.0%	34.0%	32.1%	17.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	27.7%	27.7%	24.6%	20.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	34.1%	34.1%	20.0%	10.6%	1.2%	100.0%
男性 60 歳代	85	45.6%	30.4%	17.7%	2.5%	3.8%	100.0%
男性 70 歳以上	79	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性年齢不詳	2	24.9%	35.5%	23.9%	13.8%	1.9%	100.0%
女性全体	485	17.1%	37.1%	25.7%	20.0%	0.0%	100.0%
女性 20 歳代	35	13.7%	37.0%	41.1%	8.2%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	22.5%	32.4%	27.5%	17.6%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	13.5%	36.5%	31.1%	14.9%	4.1%	100.0%
女性 50 歳代	74	29.7%	39.6%	15.8%	11.9%	3.0%	100.0%
女性 60 歳代	101	41.4%	32.3%	10.1%	13.1%	3.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	26.6%	35.0%	24.8%	12.6%	0.9%	100.0%
藤沢地区	52	40.4%	32.7%	15.4%	9.6%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	29.5%	33.3%	28.6%	8.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	19.2%	50.0%	23.1%	7.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	31.3%	37.5%	6.3%	18.8%	6.3%	100.0%
八基地区	11	27.3%	18.2%	36.4%	9.1%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	39.3%	25.0%	21.4%	14.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	21.8%	38.6%	24.8%	13.9%	1.0%	100.0%
南地区	51	37.3%	35.3%	17.6%	7.8%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	20.7%	38.0%	19.6%	18.5%	3.3%	100.0%
川本地区	69	30.4%	37.7%	17.4%	14.5%	0.0%	100.0%
花園地区	70	25.7%	30.0%	27.1%	15.7%	1.4%	100.0%
無回答	21	14.3%	33.3%	28.6%	14.3%	9.5%	100.0%

➤ 性別・世代別

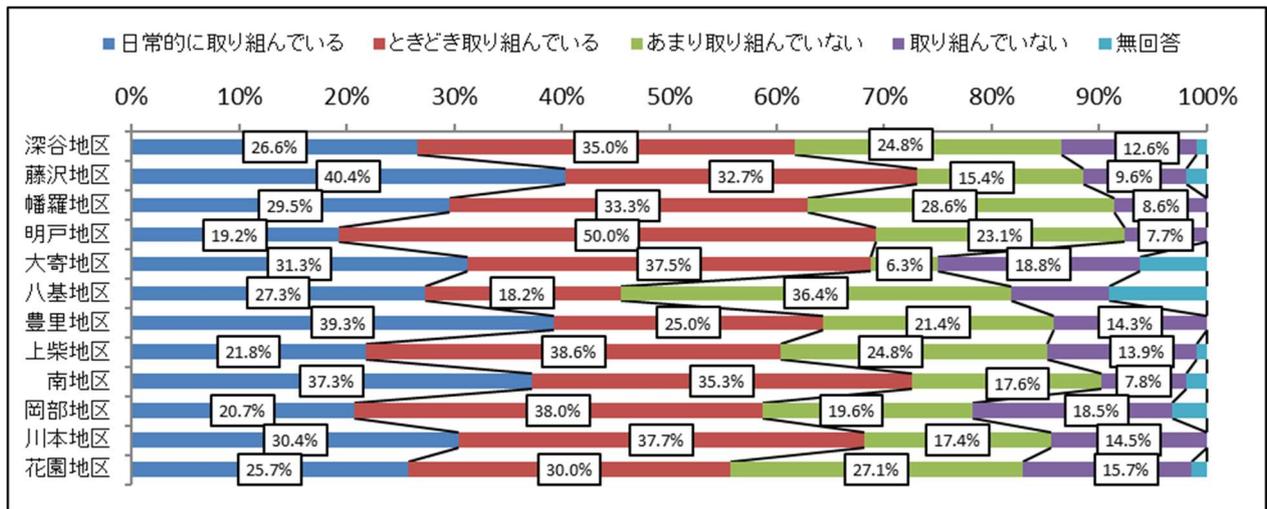


性別・世代別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合は男性が69.2%であるのに対して、女性は54.3%となっています。

また、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が少ない世代は、男女ともに30歳代(男性50.9%、女性54.9%)、40歳代(男性55.4%、女性50.0%)であることがわかります。一方で、最も多い世代は男女ともに60歳代以上(男性75.9%、女性73.7%)となっています。

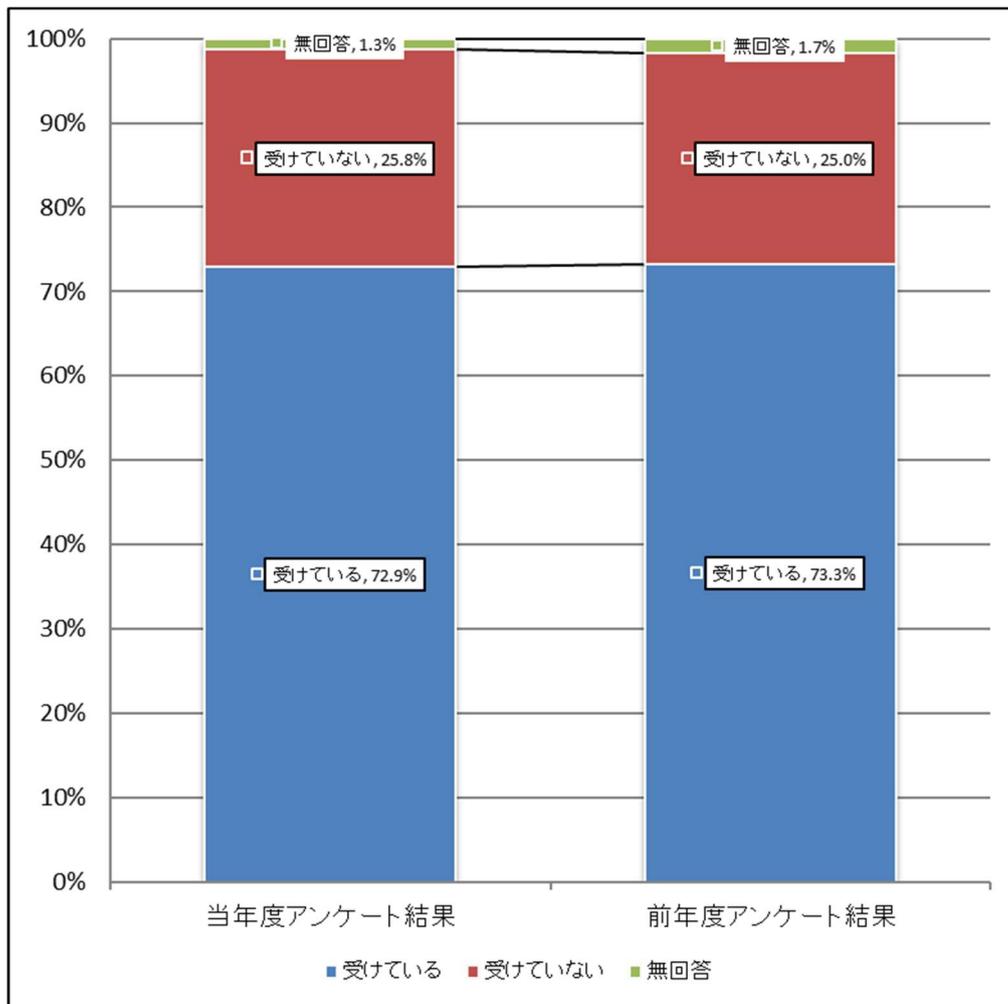
最も少ない世代の回答割合と最も多い世代の回答割合との差は、男性が25.0%、女性は23.7%であり、男女共に世代間での差が大きいことがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区(45.5%)であり、次いで花園地区(55.7%)となっています。最も多い地区は、藤沢地区(73.1%)であり、次いで南地区(72.5%)となっています。

**定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。**



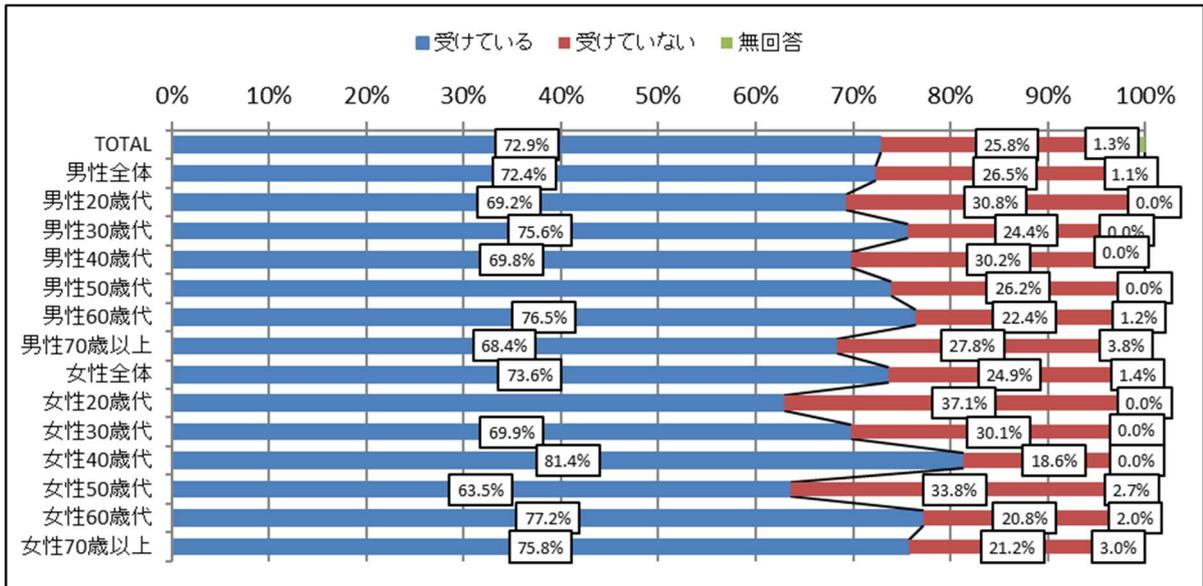
「受けている」と回答した人の割合は 72.9%、「受けていない」と回答した人の割合は 25.8%となっています。

市民の7割以上が、定期的に健康診断や人間ドック、がん検診を受けていることがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「受けている」と回答した人の割合は 73.3%であり、前年度アンケートと比較して、ほぼ変動はありませんでした。

母集団		受けている	受けていない	無回答	合計
TOTAL	856	72.9%	25.8%	1.3%	100.0%
男性全体	351	72.4%	26.5%	1.1%	100.0%
男性 20 歳代	26	69.2%	30.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	75.6%	24.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	69.8%	30.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	73.8%	26.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	76.5%	22.4%	1.2%	100.0%
男性 70 歳以上	79	68.4%	27.8%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	73.6%	24.9%	1.4%	100.0%
女性 20 歳代	35	62.9%	37.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	69.9%	30.1%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	81.4%	18.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	63.5%	33.8%	2.7%	100.0%
女性 60 歳代	101	77.2%	20.8%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	75.8%	21.2%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	71.5%	27.6%	0.9%	100.0%
藤沢地区	52	63.5%	34.6%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	76.2%	23.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	73.1%	26.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	81.3%	18.8%	0.0%	100.0%
八基地区	11	81.8%	9.1%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	67.9%	32.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	73.3%	25.7%	1.0%	100.0%
南地区	51	80.4%	17.6%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	70.7%	26.1%	3.3%	100.0%
川本地区	69	76.8%	23.2%	0.0%	100.0%
花園地区	70	77.1%	22.9%	0.0%	100.0%
無回答	21	52.4%	38.1%	9.5%	100.0%

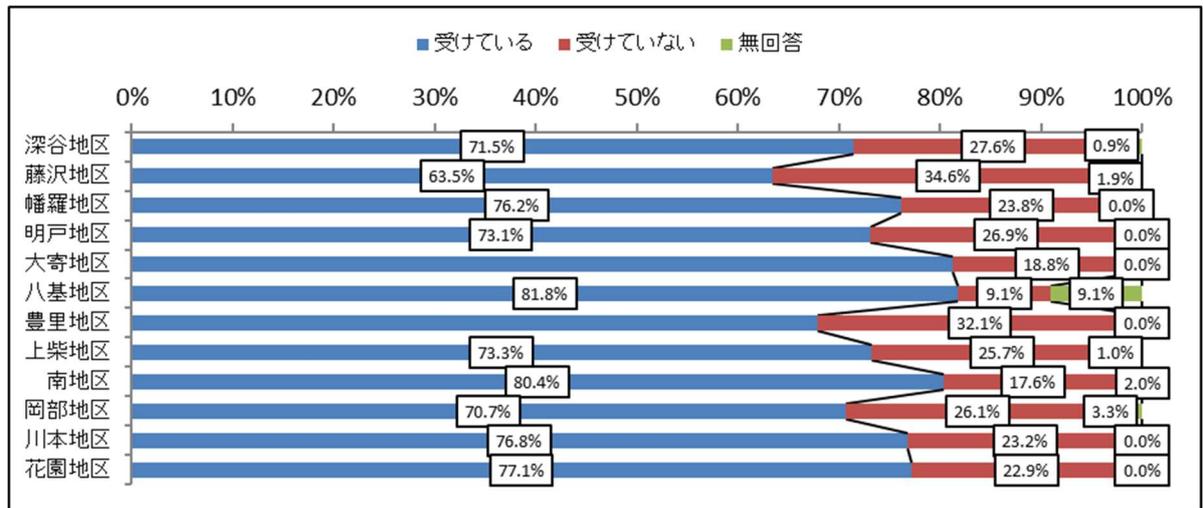
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「受けている」と回答した人の割合は男性が72.4%、女性は73.6%と7割以上の方が定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていることがうかがえます。

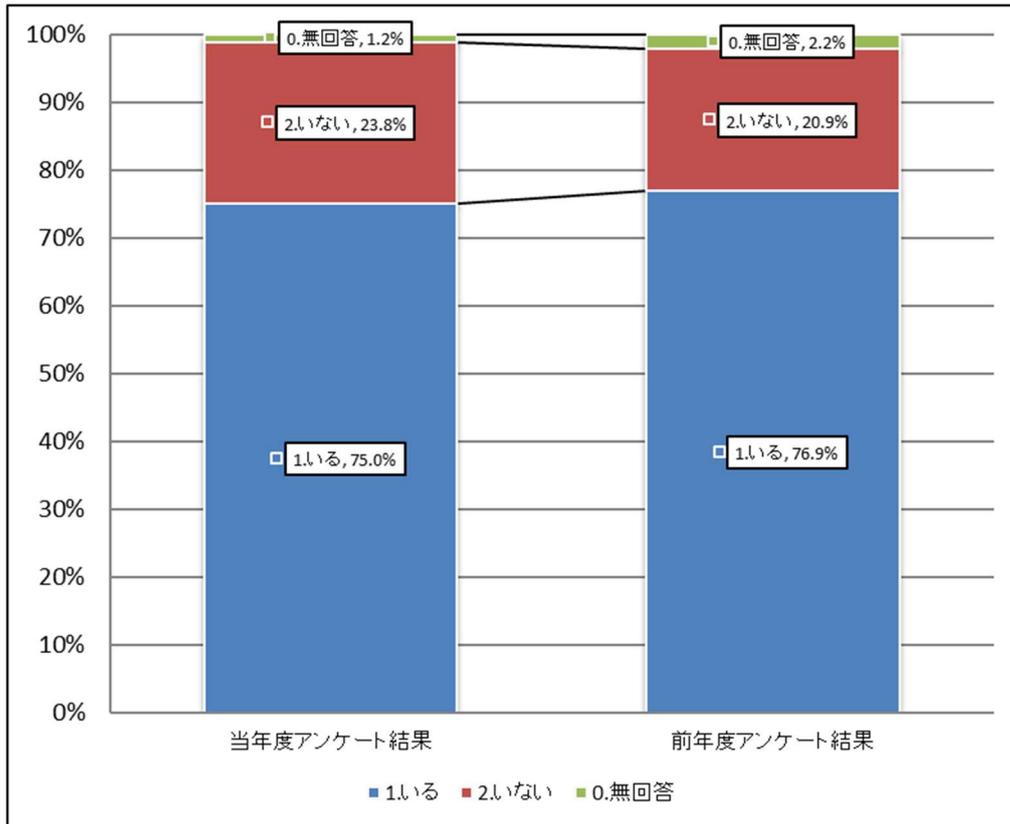
「受けている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は70歳代(68.4%)、女性は20歳代(62.9%)となっています。一方で、最も多い世代は、男性は60歳代(76.5%)、女性は40歳代(81.4%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「受けている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、藤沢地区(63.5%)であり、次いで豊里地区(67.9%)となっています。最も多い地区は、八基地区(81.8%)であり、次いで大寄地区(81.3%)となっています。

## かかりつけのお医者さんはいますか。

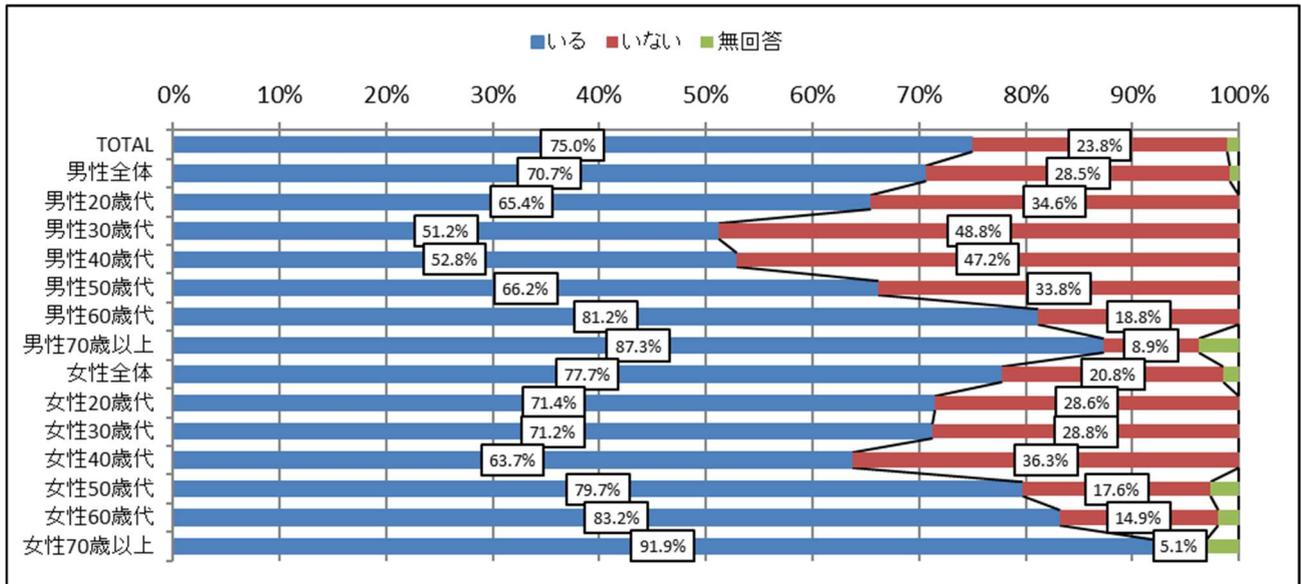


「いる」と回答した人の割合は75.0%、「いない」と回答した人の割合は23.8%であり、大多数の市民にかかりつけ医がいる一方、約5人に1人以上はかかりつけ医がないという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合が76.9%、「いない」と回答した人の割合が20.9%であり、「前年度アンケート」と比較して、かかりつけ医がいると回答した人の割合が1.9ポイント減少していることがうかがえます。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	856	75.0%	23.8%	1.2%	100.0%
男性全体	351	70.7%	28.5%	0.9%	100.0%
男性20歳代	26	65.4%	34.6%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	51.2%	48.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	52.8%	47.2%	0.0%	100.0%
男性50歳代	65	66.2%	33.8%	0.0%	100.0%
男性60歳代	85	81.2%	18.8%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	79	87.3%	8.9%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	77.7%	20.8%	1.4%	100.0%
女性20歳代	35	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	71.2%	28.8%	0.0%	100.0%
女性40歳代	102	63.7%	36.3%	0.0%	100.0%
女性50歳代	74	79.7%	17.6%	2.7%	100.0%
女性60歳代	101	83.2%	14.9%	2.0%	100.0%
女性70歳以上	99	91.9%	5.1%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	72.4%	27.6%	0.0%	100.0%
藤沢地区	52	86.5%	11.5%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	81.0%	19.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	57.7%	42.3%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	81.3%	18.8%	0.0%	100.0%
八基地区	11	63.6%	27.3%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	78.6%	21.4%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	71.3%	26.7%	2.0%	100.0%
南地区	51	70.6%	27.5%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	77.2%	19.6%	3.3%	100.0%
川本地区	69	75.4%	24.6%	0.0%	100.0%
花園地区	70	81.4%	18.6%	0.0%	100.0%
無回答	21	57.1%	33.3%	9.5%	100.0%

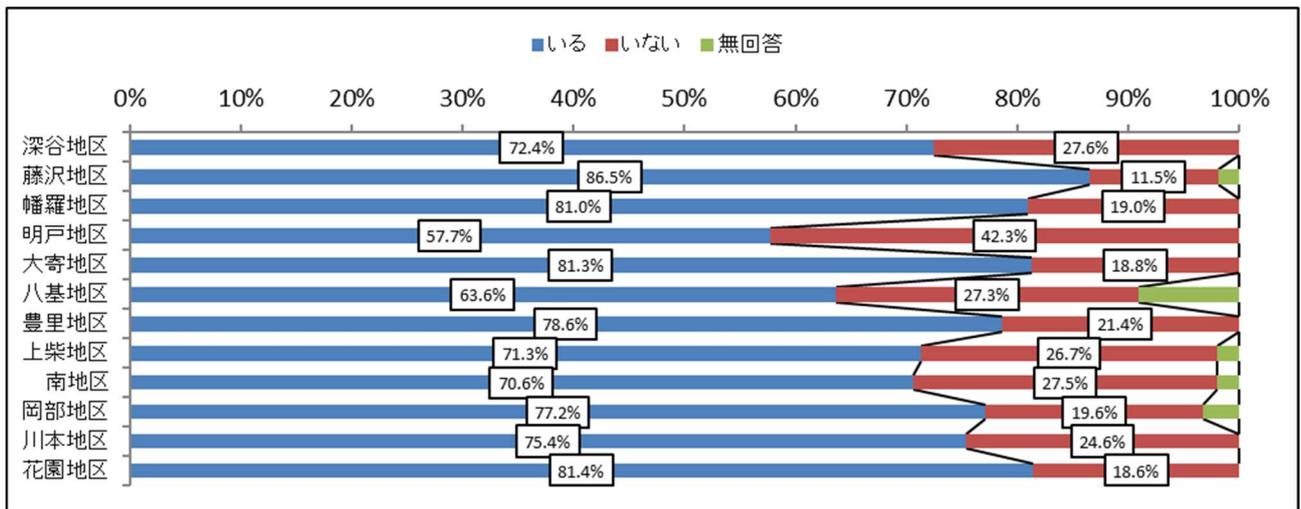
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は男性が70.7%であるのに対して、女性は77.7%と7.0ポイントの差がみられました。

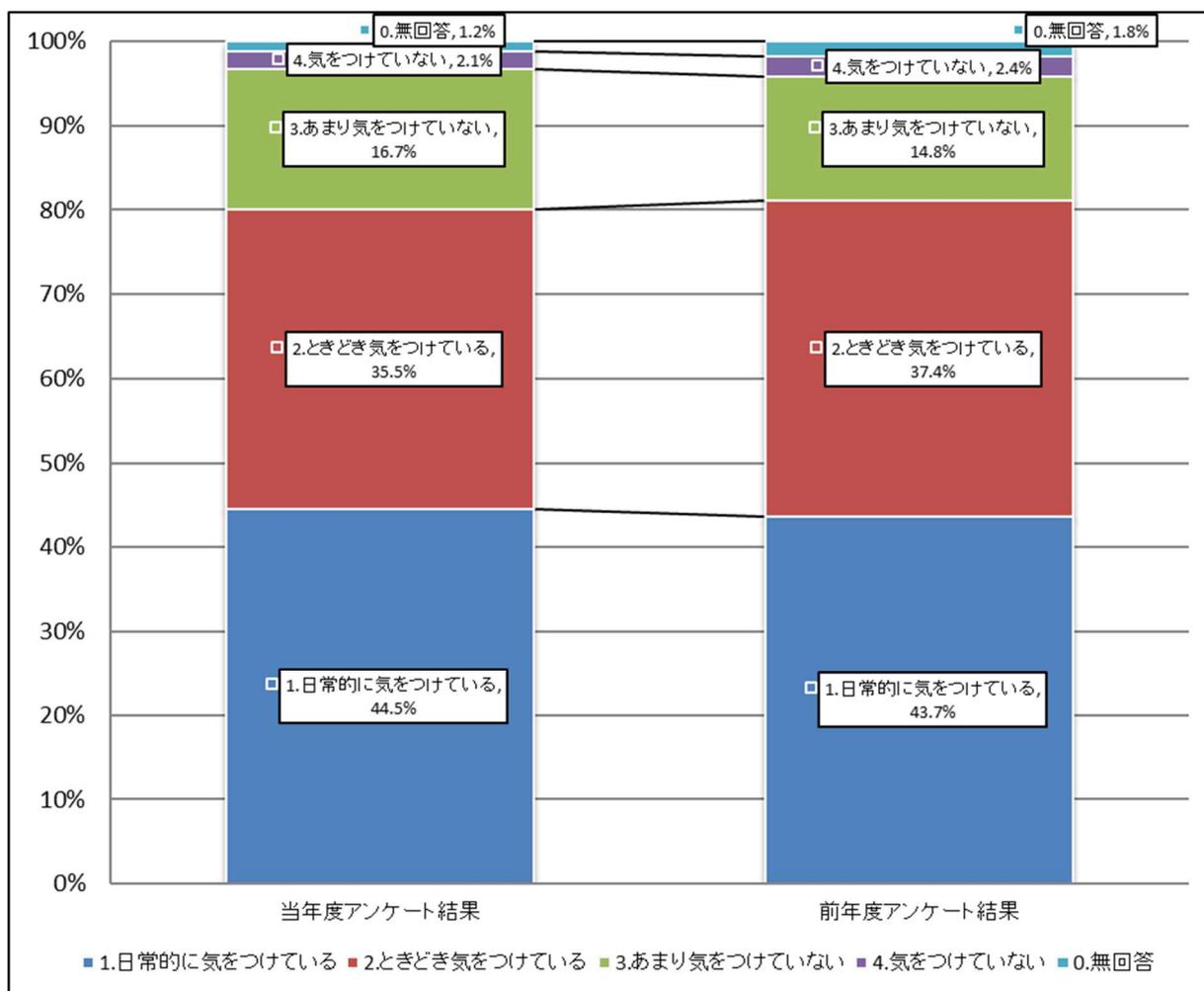
また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性30歳代(51.2%)、次いで男性40歳代(52.8%)、女性40歳代(63.7%)となっています。一方で、最も多い世代は、男女ともに70歳以上(男性87.3%、女性91.9%)、次いで男女ともに60歳以上(男性81.2%、女性83.2%)であり、60歳以上の8割以上の人にかかりつけ医がいることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、明戸地区(57.7%)であり、次いで八基地区(63.6%)となっています。最も多い地区は、藤沢地区(86.5%)であり、次いで花園地区(81.4%)となっています。

**健康的な食生活に気をつけていますか。**



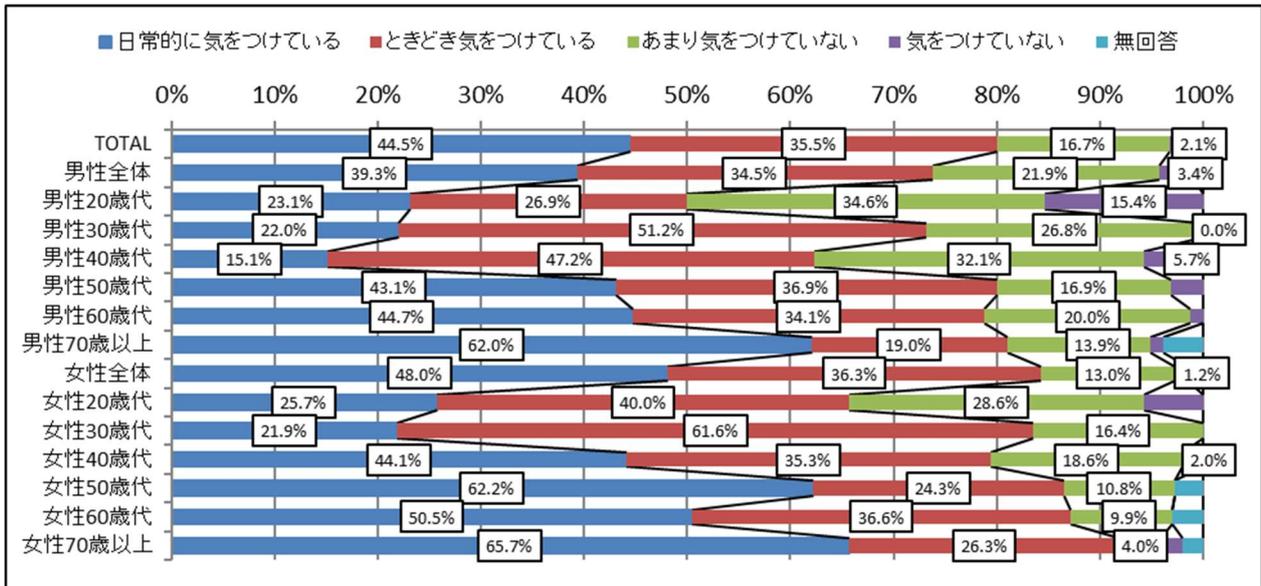
「日常的に気をつけている」と回答した人の割合が 44.5%と最も多く、次いで、「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は 35.5%、「あまり気をつけていない」と回答した人の割合は 16.7%、「気をつけていない」と回答した人の割合は 2.1%となっています。

「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は、80.0%であり、8割の市民が、健康的な食生活に気をつけていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果では、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は 81.1%であることから、健康的な食生活に気をつけている人の割合は、前年度アンケート時から大きく変動していないことがうかがえます。

母集団		日常的に気をつけている	ときどき気をつけている	あまり気をつけていない	気をつけていない	無回答	合計
TOTAL	856	44.5%	35.5%	16.7%	2.1%	1.2%	100.0%
男性全体	351	39.3%	34.5%	21.9%	3.4%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	26	23.1%	26.9%	34.6%	15.4%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	22.0%	51.2%	26.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	15.1%	47.2%	32.1%	5.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	43.1%	36.9%	16.9%	3.1%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	44.7%	34.1%	20.0%	1.2%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	79	62.0%	19.0%	13.9%	1.3%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	48.0%	36.3%	13.0%	1.2%	1.4%	100.0%
女性 20 歳代	35	25.7%	40.0%	28.6%	5.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	21.9%	61.6%	16.4%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	44.1%	35.3%	18.6%	2.0%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	62.2%	24.3%	10.8%	0.0%	2.7%	100.0%
女性 60 歳代	101	50.5%	36.6%	9.9%	0.0%	3.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	65.7%	26.3%	4.0%	2.0%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	45.3%	33.6%	18.2%	2.3%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	55.8%	28.8%	11.5%	1.9%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	38.1%	42.9%	18.1%	1.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	34.6%	46.2%	19.2%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	68.8%	25.0%	6.3%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	11	36.4%	27.3%	18.2%	9.1%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	50.0%	32.1%	10.7%	7.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	43.6%	37.6%	17.8%	0.0%	1.0%	100.0%
南地区	51	41.2%	39.2%	15.7%	2.0%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	40.2%	34.8%	18.5%	3.3%	3.3%	100.0%
川本地区	69	58.0%	26.1%	11.6%	4.3%	0.0%	100.0%
花園地区	70	38.6%	45.7%	14.3%	1.4%	0.0%	100.0%
無回答	21	38.1%	19.0%	33.3%	0.0%	9.5%	100.0%

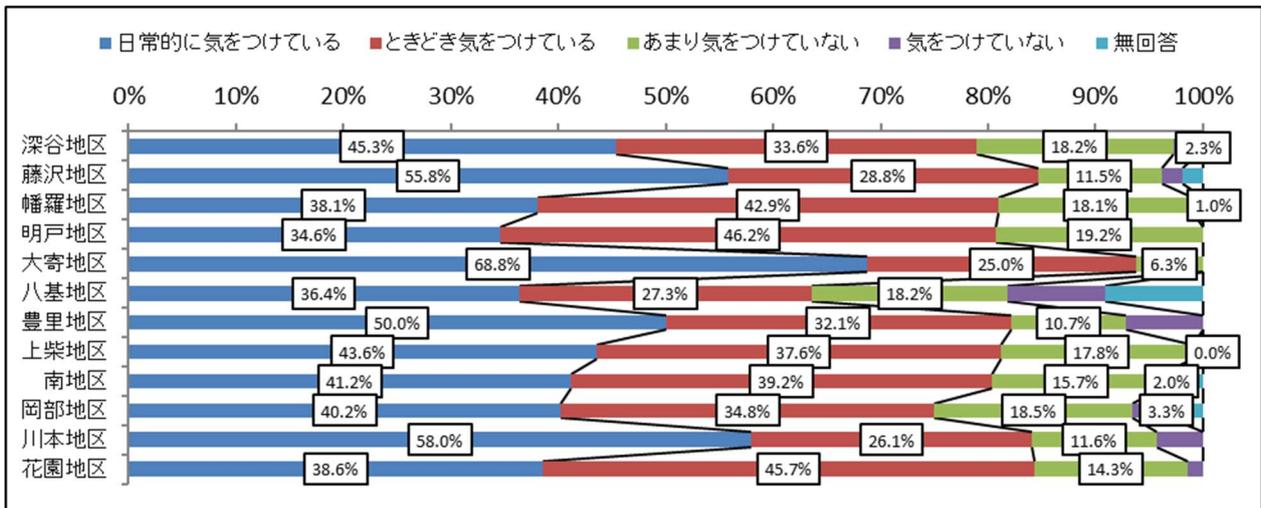
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合は男性が73.8%であるのに対して、女性は84.3%と10.5ポイントの差がみられます。

また、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合が最も少ない世代は男女ともに20歳代（男性50.0%、女性65.7%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに70歳以上（男性81.0%、女性91.9%）となっています。

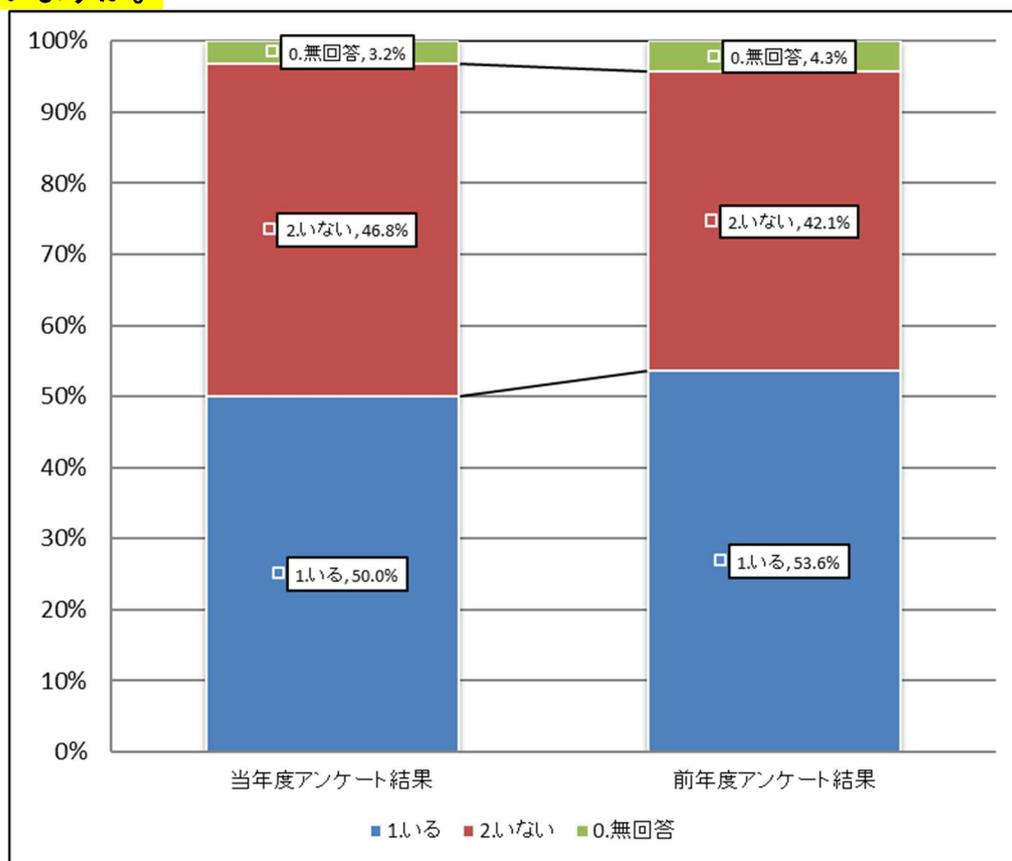
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区（63.6%）であり、次いで岡部地区（75.0%）となっています。最も多い地区は、大寄地区（93.8%）であり、次いで藤沢地区（84.6%）となっています。

### ③ 福祉について（2. 問8）

日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。

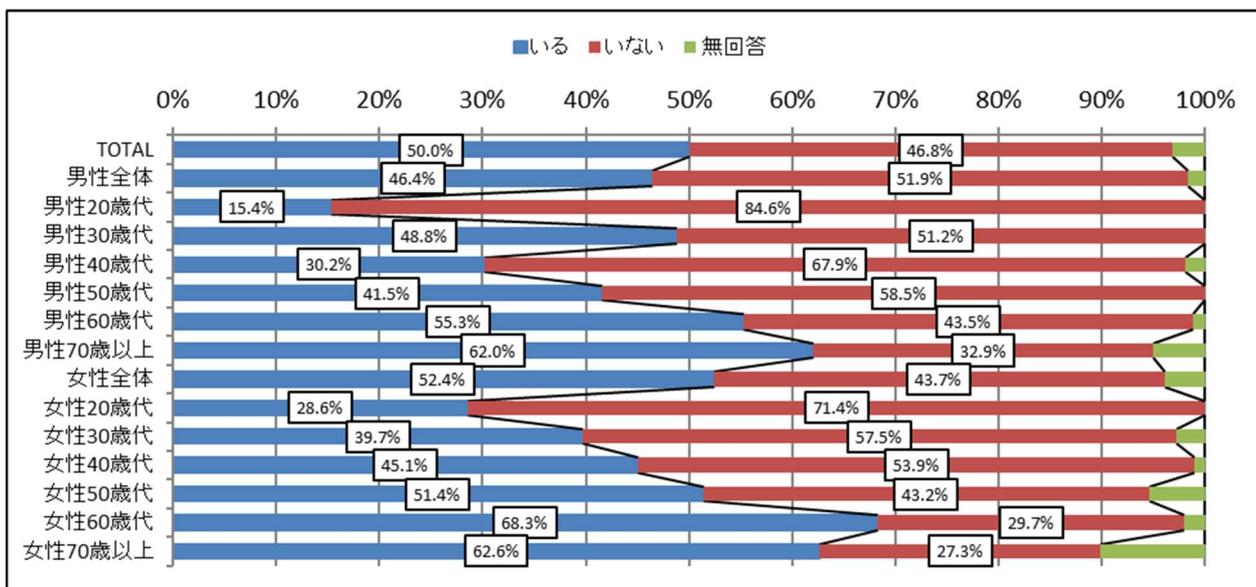


「いる」と回答した人の割合は50.0%、「いない」と回答した人の割合は46.8%となっており、日常生活に困ったことがあった時に、手助けしてくれる人がいないと回答した人が4割以上いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果では、「いる」と回答した人の割合は53.6%、「いない」と回答した人の割合が42.1%でした。「前年度アンケート」と比較して、手助けしてくれる人がいると回答した人は7.9ポイント増加していることがうかがえます。

母集団		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	856	50.0%	46.8%	3.2%	100.0%
男性全体	351	46.4%	51.9%	1.7%	100.0%
男性 20 歳代	26	15.4%	84.6%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	48.8%	51.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	30.2%	67.9%	1.9%	100.0%
男性 50 歳代	65	41.5%	58.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	55.3%	43.5%	1.2%	100.0%
男性 70 歳以上	79	62.0%	32.9%	5.1%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	52.4%	43.7%	3.9%	100.0%
女性 20 歳代	35	28.6%	71.4%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	39.7%	57.5%	2.7%	100.0%
女性 40 歳代	102	45.1%	53.9%	1.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	51.4%	43.2%	5.4%	100.0%
女性 60 歳代	101	68.3%	29.7%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	62.6%	27.3%	10.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	40.2%	57.9%	1.9%	100.0%
藤沢地区	52	63.5%	28.8%	7.7%	100.0%
幡羅地区	105	58.1%	41.0%	1.0%	100.0%
明戸地区	26	65.4%	34.6%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	93.8%	6.3%	0.0%	100.0%
八基地区	11	72.7%	18.2%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	53.6%	42.9%	3.6%	100.0%
上柴地区	101	41.6%	54.5%	4.0%	100.0%
南地区	51	37.3%	58.8%	3.9%	100.0%
岡部地区	92	46.7%	46.7%	6.5%	100.0%
川本地区	69	60.9%	39.1%	0.0%	100.0%
花園地区	70	52.9%	45.7%	1.4%	100.0%
無回答	21	47.6%	38.1%	14.3%	100.0%

➤ 性別・世代別

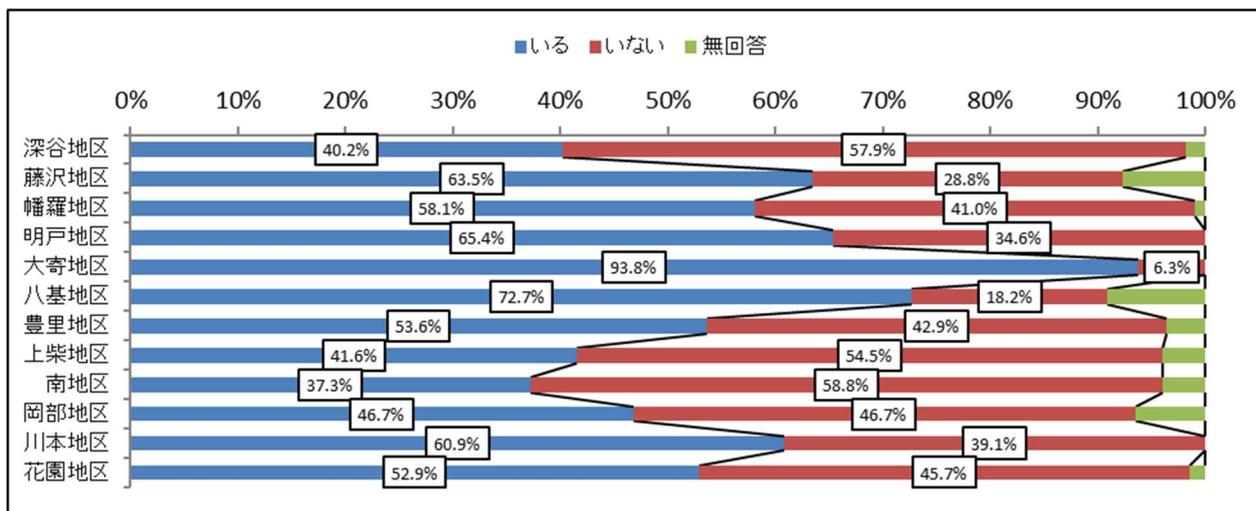


性別・世代別にみると、「いる」と回答した人の割合は男性が46.4%であるのに対して、女性は52.4%となっています。

また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに20歳代(男性15.4%、女性28.6%)となりました。一方で、最も割合の多い世代は、男性70歳以上(62.0%)、女性60歳(68.3%)となっています。

男女ともに60歳代以上から、手助けしてくれる人がいると回答する割合が増加傾向にあることがわかります。

➤ 地区別

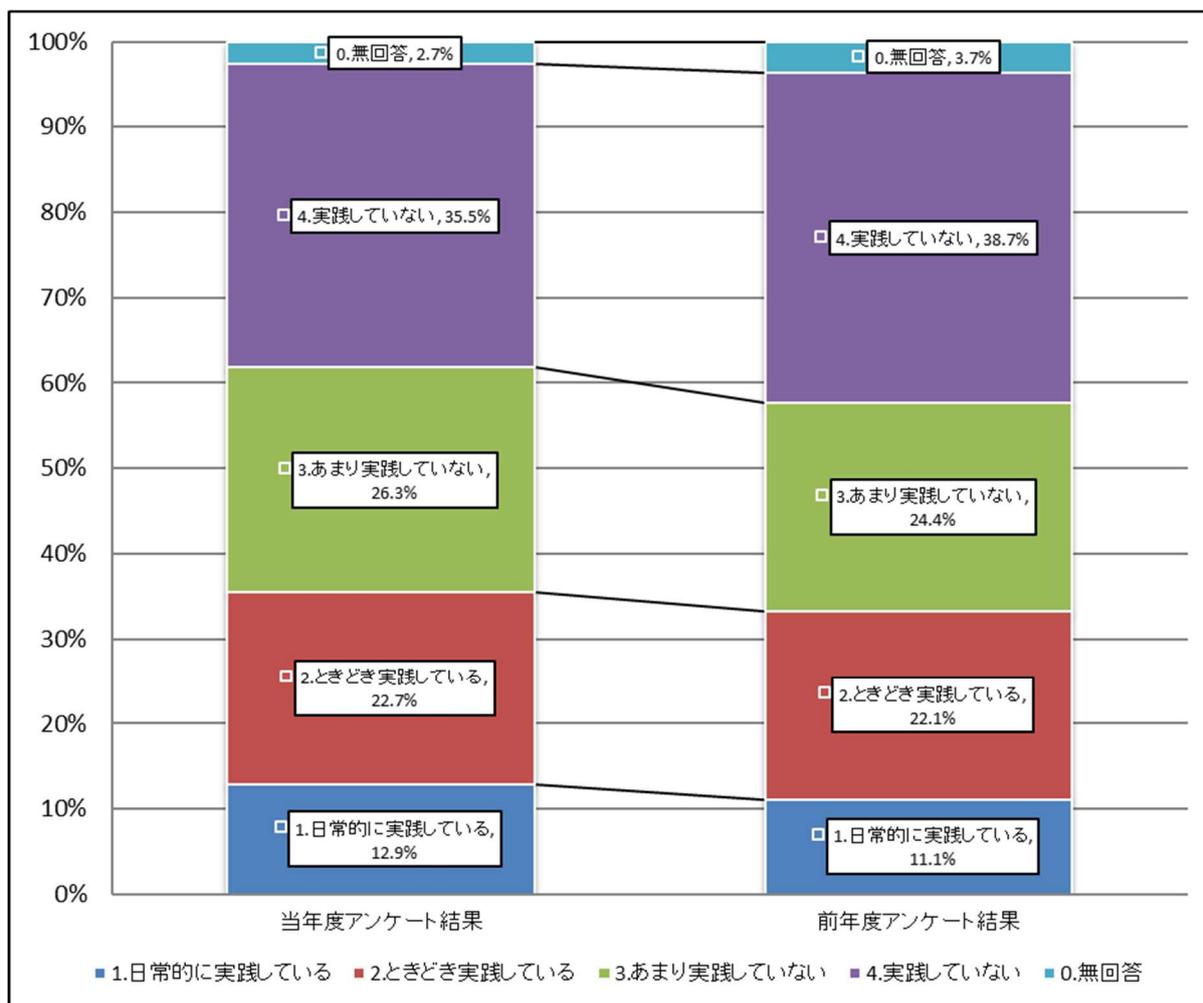


地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、南地区(37.3%)であり、次いで深谷地区(40.2%)となっています。最も多い地区は、大寄地区(93.8%)であり、次いで八基地区(72.7%)となっています。

### (3) 教育・文化について

#### ① 生涯学習の振興 (3. 問1)

生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。



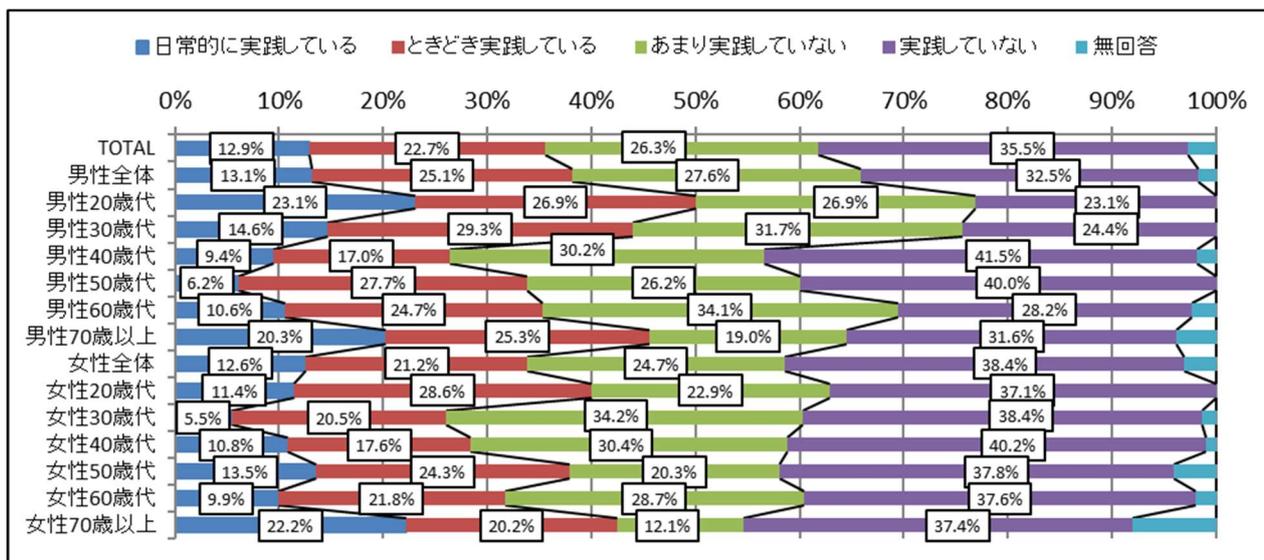
「実践していない」と回答した人の割合が 35.5%と最も多く、次いで「あまり実践していない」と回答した人の割合が 26.3%、「ときどき実践している」と回答した人の割合が 22.7%、「日常的に実践している」と回答した人の割合が最も少なく 12.9%となっています。

「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は、35.6%にとどまり、大多数の市民は生涯学習を実践していないということがうかがえます。

また、「前年度アンケート」では、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は 33.2%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		日常的に実践している	ときどき実践している	あまり実践していない	実践していない	無回答	合計
TOTAL	856	12.9%	22.7%	26.3%	35.5%	2.7%	100.0%
男性全体	351	13.1%	25.1%	27.6%	32.5%	1.7%	100.0%
男性 20 歳代	26	23.1%	26.9%	26.9%	23.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	14.6%	29.3%	31.7%	24.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	9.4%	17.0%	30.2%	41.5%	1.9%	100.0%
男性 50 歳代	65	6.2%	27.7%	26.2%	40.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	10.6%	24.7%	34.1%	28.2%	2.4%	100.0%
男性 70 歳以上	79	20.3%	25.3%	19.0%	31.6%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	12.6%	21.2%	24.7%	38.4%	3.1%	100.0%
女性 20 歳代	35	11.4%	28.6%	22.9%	37.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	5.5%	20.5%	34.2%	38.4%	1.4%	100.0%
女性 40 歳代	102	10.8%	17.6%	30.4%	40.2%	1.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	13.5%	24.3%	20.3%	37.8%	4.1%	100.0%
女性 60 歳代	101	9.9%	21.8%	28.7%	37.6%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	22.2%	20.2%	12.1%	37.4%	8.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	10.7%	25.2%	29.0%	33.6%	1.4%	100.0%
藤沢地区	52	21.2%	15.4%	26.9%	28.8%	7.7%	100.0%
幡羅地区	105	11.4%	24.8%	22.9%	40.0%	1.0%	100.0%
明戸地区	26	3.8%	26.9%	42.3%	26.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	18.8%	37.5%	18.8%	18.8%	6.3%	100.0%
八基地区	11	9.1%	27.3%	36.4%	18.2%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	10.7%	25.0%	21.4%	42.9%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	10.9%	23.8%	28.7%	33.7%	3.0%	100.0%
南地区	51	13.7%	25.5%	19.6%	39.2%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	15.2%	18.5%	18.5%	41.3%	6.5%	100.0%
川本地区	69	17.4%	15.9%	30.4%	36.2%	0.0%	100.0%
花園地区	70	14.3%	22.9%	22.9%	40.0%	0.0%	100.0%
無回答	21	9.5%	9.5%	38.1%	28.6%	14.3%	100.0%

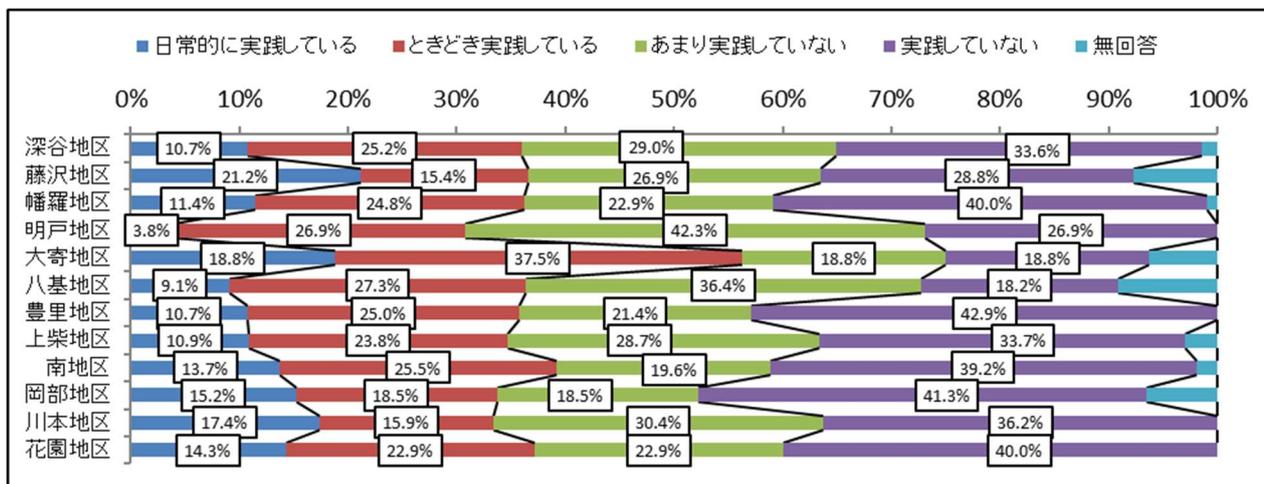
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合は男性が38.2%であるのに対して、女性は33.8%となっています。

また、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性40歳代(26.4%)、女性30歳代(26.0%)であり、一方で最も割合の多い世代は、男性が20歳代(50.0%)であるのに対して、女性は70歳以上(42.4%)となっています。

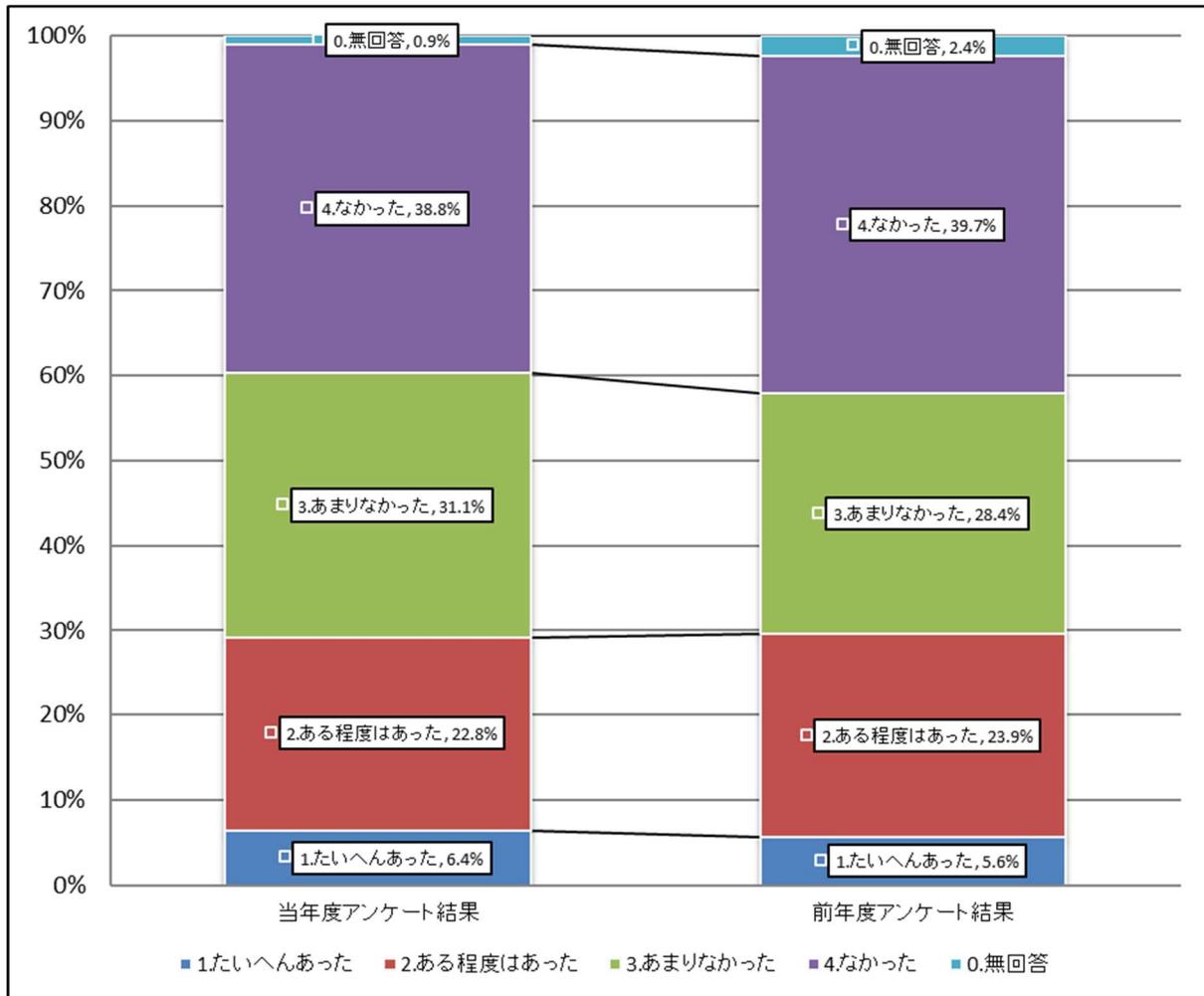
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区(30.8%)であり、次いで川本地区(33.3%)となっています。最も多いのは、大寄地区(56.3%)であり、次いで南地区(39.2%)となっています。

## ② 文化の振興（3. 問2）

この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。



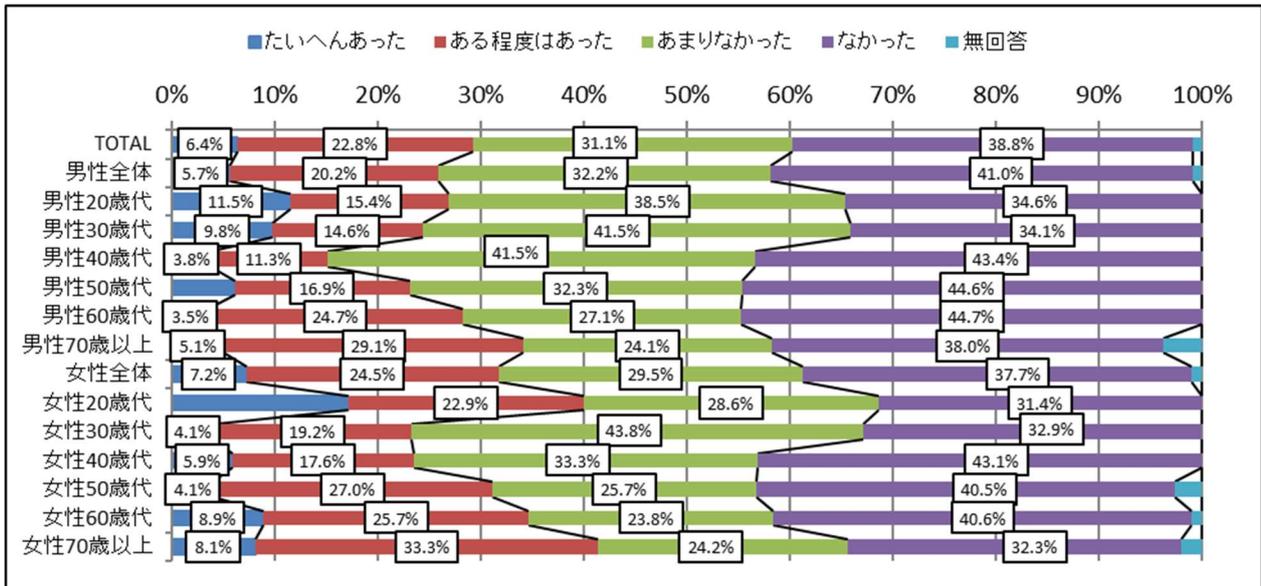
「なかった」と回答した人の割合が 38.8%と最も多く、次いで「あまりなかった」と回答した人の割合が 31.1%、「ある程度はあった」と回答した人の割合が 22.8%、「たいへんあった」と回答した人の割合が 6.4%となっています。

「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合は、29.2%であり、7割程度の市民が芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がなかったことがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合は 29.5%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動はなかったものの、「なかった」と回答した人の割合が増加した結果となっています。

母集団		たいへんあった	ある程度はあった	あまりなかった	なかった	無回答	合計
TOTAL	856	6.4%	22.8%	31.1%	38.8%	0.9%	100.0%
男性全体	351	5.7%	20.2%	32.2%	41.0%	0.9%	100.0%
男性20歳代	26	11.5%	15.4%	38.5%	34.6%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	9.8%	14.6%	41.5%	34.1%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	3.8%	11.3%	41.5%	43.4%	0.0%	100.0%
男性50歳代	65	6.2%	16.9%	32.3%	44.6%	0.0%	100.0%
男性60歳代	85	3.5%	24.7%	27.1%	44.7%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	79	5.1%	29.1%	24.1%	38.0%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	7.2%	24.5%	29.5%	37.7%	1.0%	100.0%
女性20歳代	35	17.1%	22.9%	28.6%	31.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	4.1%	19.2%	43.8%	32.9%	0.0%	100.0%
女性40歳代	102	5.9%	17.6%	33.3%	43.1%	0.0%	100.0%
女性50歳代	74	4.1%	27.0%	25.7%	40.5%	2.7%	100.0%
女性60歳代	101	8.9%	25.7%	23.8%	40.6%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	99	8.1%	33.3%	24.2%	32.3%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	5.6%	22.0%	31.8%	40.2%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	9.6%	21.2%	30.8%	36.5%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	9.5%	27.6%	30.5%	32.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	0.0%	30.8%	30.8%	38.5%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	12.5%	50.0%	6.3%	31.3%	0.0%	100.0%
八基地区	11	18.2%	18.2%	18.2%	36.4%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	7.1%	25.0%	17.9%	50.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	5.9%	17.8%	38.6%	36.6%	1.0%	100.0%
南地区	51	5.9%	23.5%	37.3%	31.4%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	2.2%	23.9%	23.9%	48.9%	1.1%	100.0%
川本地区	69	11.6%	20.3%	33.3%	34.8%	0.0%	100.0%
花園地区	70	2.9%	21.4%	28.6%	47.1%	0.0%	100.0%
無回答	21	4.8%	9.5%	52.4%	23.8%	9.5%	100.0%

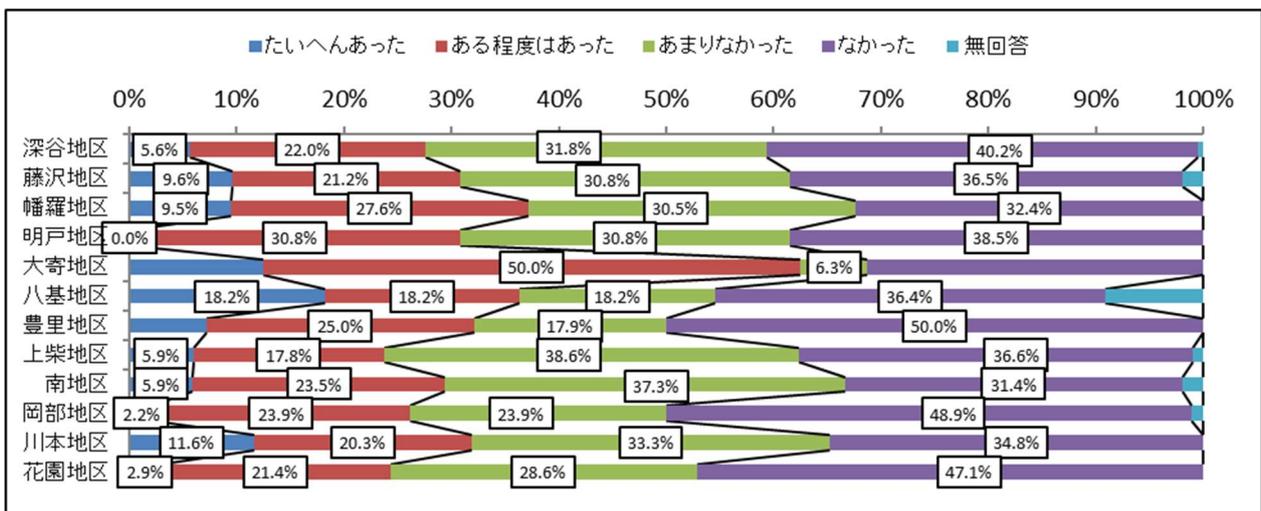
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合は男性が 25.9%であるのに対して、女性は 31.8%となっています。このことから、男女によって意識の差があることがわかります。

また、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性 40 歳代 (15.1%)、女性 30 歳代 (23.3%) であり、一方で最も割合の多い世代は、男性が 70 歳以上 (34.2%) であるのに対して、女性は 30 歳代 (23.3%) となっています。

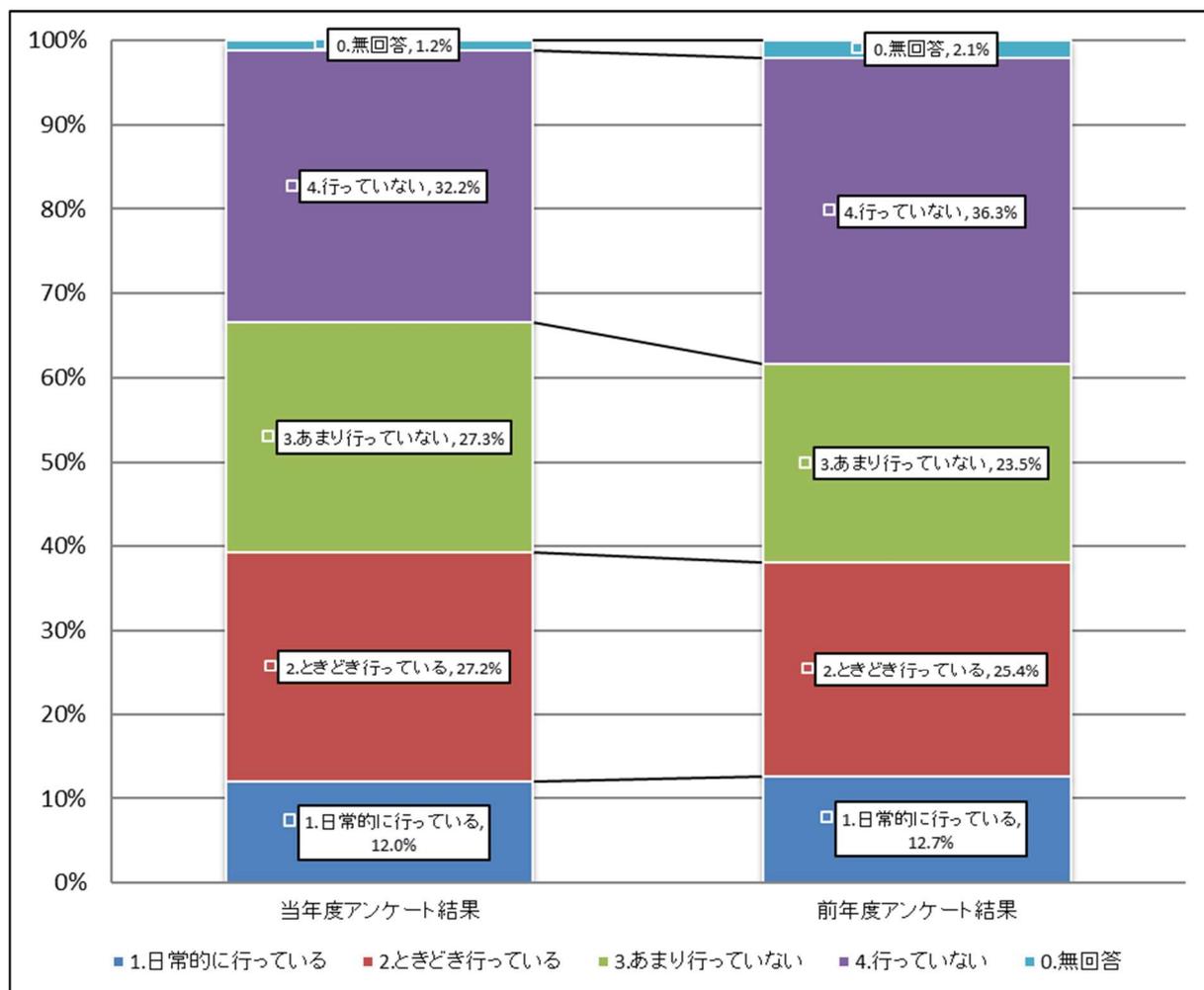
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合が最も少ないのは、上柴地区 (23.8%) であり、次いで花園地区 (24.3%) となっています。最も多いのは、大寄地区 (62.5%) であり、次いで幡羅地区 (37.1%) となっています。

### ③ スポーツの振興（3. 問3）

スポーツやレクリエーションをどの程度行っていますか。



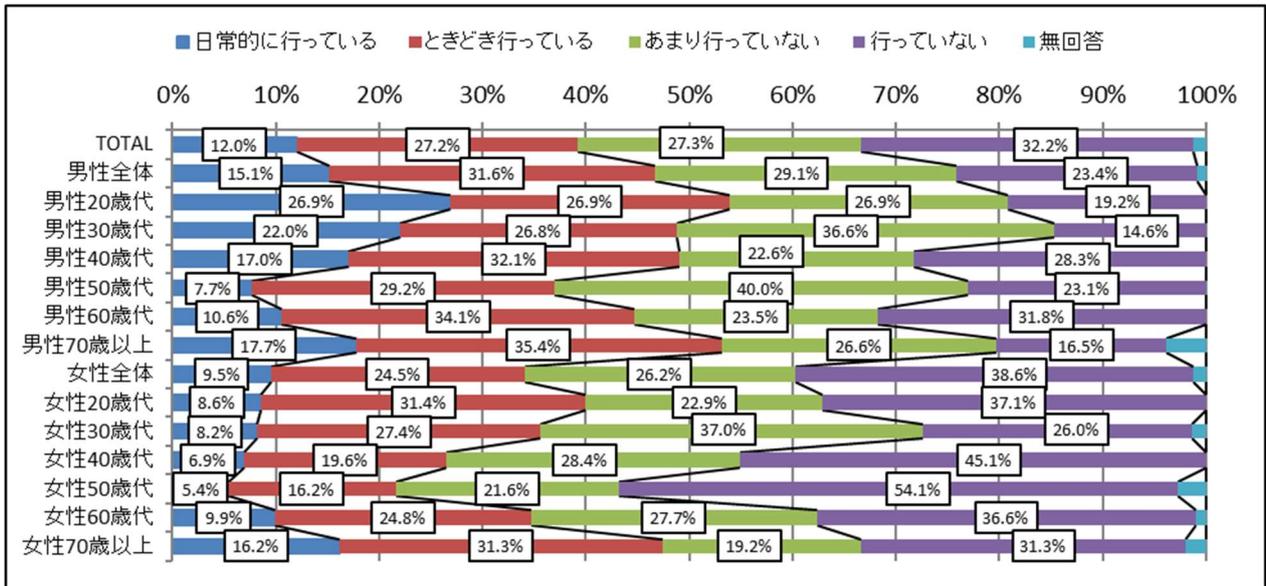
「行っていない」と回答した人の割合が 32.2%と最も多く、次いで、「あまり行っていない」と回答した人の割合は 27.3%、「ときどき行っている」と回答した人の割合は 27.2%、「日常的に行っている」と回答した人の割合は 12.0%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」とした人の割合は、39.2%であり、日頃からスポーツやレクリエーション活動を行っている人は半数に満たないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は 38.1%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	856	12.0%	27.2%	27.3%	32.2%	1.2%	100.0%
男性全体	351	15.1%	31.6%	29.1%	23.4%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	26	26.9%	26.9%	26.9%	19.2%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	22.0%	26.8%	36.6%	14.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	17.0%	32.1%	22.6%	28.3%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	7.7%	29.2%	40.0%	23.1%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	10.6%	34.1%	23.5%	31.8%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	79	17.7%	35.4%	26.6%	16.5%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	9.5%	24.5%	26.2%	38.6%	1.2%	100.0%
女性 20 歳代	35	8.6%	31.4%	22.9%	37.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	8.2%	27.4%	37.0%	26.0%	1.4%	100.0%
女性 40 歳代	102	6.9%	19.6%	28.4%	45.1%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	5.4%	16.2%	21.6%	54.1%	2.7%	100.0%
女性 60 歳代	101	9.9%	24.8%	27.7%	36.6%	1.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	16.2%	31.3%	19.2%	31.3%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	13.1%	25.2%	27.6%	33.2%	0.9%	100.0%
藤沢地区	52	11.5%	28.8%	26.9%	30.8%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	11.4%	27.6%	34.3%	26.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	15.4%	38.5%	30.8%	15.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	6.3%	25.0%	37.5%	31.3%	0.0%	100.0%
八基地区	11	9.1%	9.1%	45.5%	27.3%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	10.7%	32.1%	17.9%	39.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	8.9%	31.7%	27.7%	29.7%	2.0%	100.0%
南地区	51	17.6%	25.5%	27.5%	27.5%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	8.7%	22.8%	19.6%	47.8%	1.1%	100.0%
川本地区	69	13.0%	30.4%	29.0%	27.5%	0.0%	100.0%
花園地区	70	15.7%	31.4%	20.0%	32.9%	0.0%	100.0%
無回答	21	10.5%	10.5%	31.6%	36.8%	10.5%	100.0%

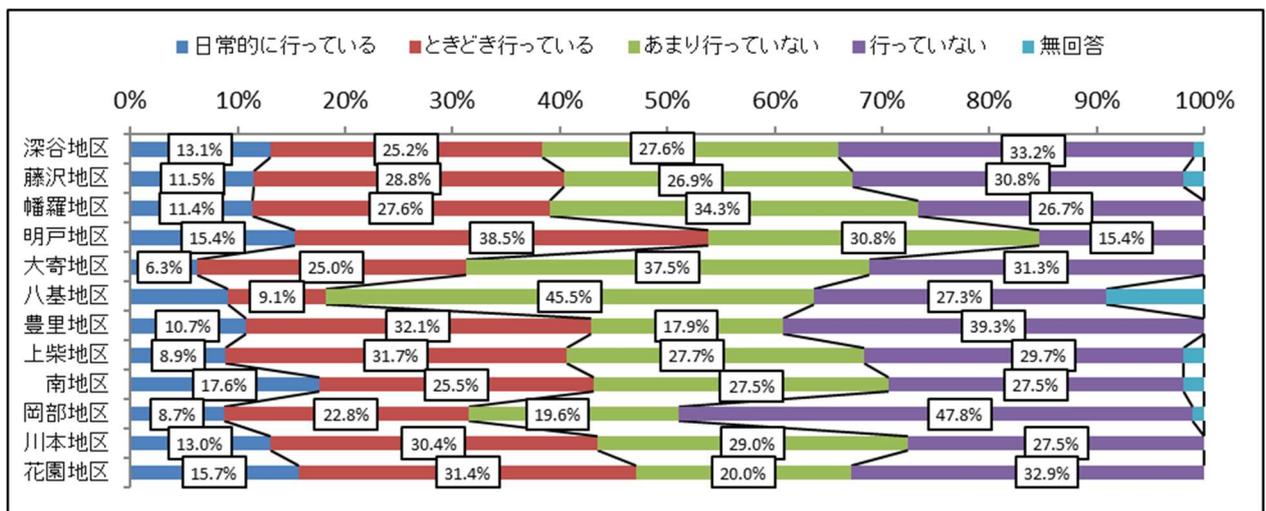
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は男性が46.7%であるのに対して、女性は34.0%となっています。男女間で12.7ポイントの差があることから、男性の方がスポーツやレクリエーションに対する意識が高いことがうかがえます。

また、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに50歳代（男性36.9%、女性21.6%）であり、一方で最も割合の多い世代は、男性20歳代（53.8%）、女性70歳以上（47.5%）となっています。

➤ 地区別

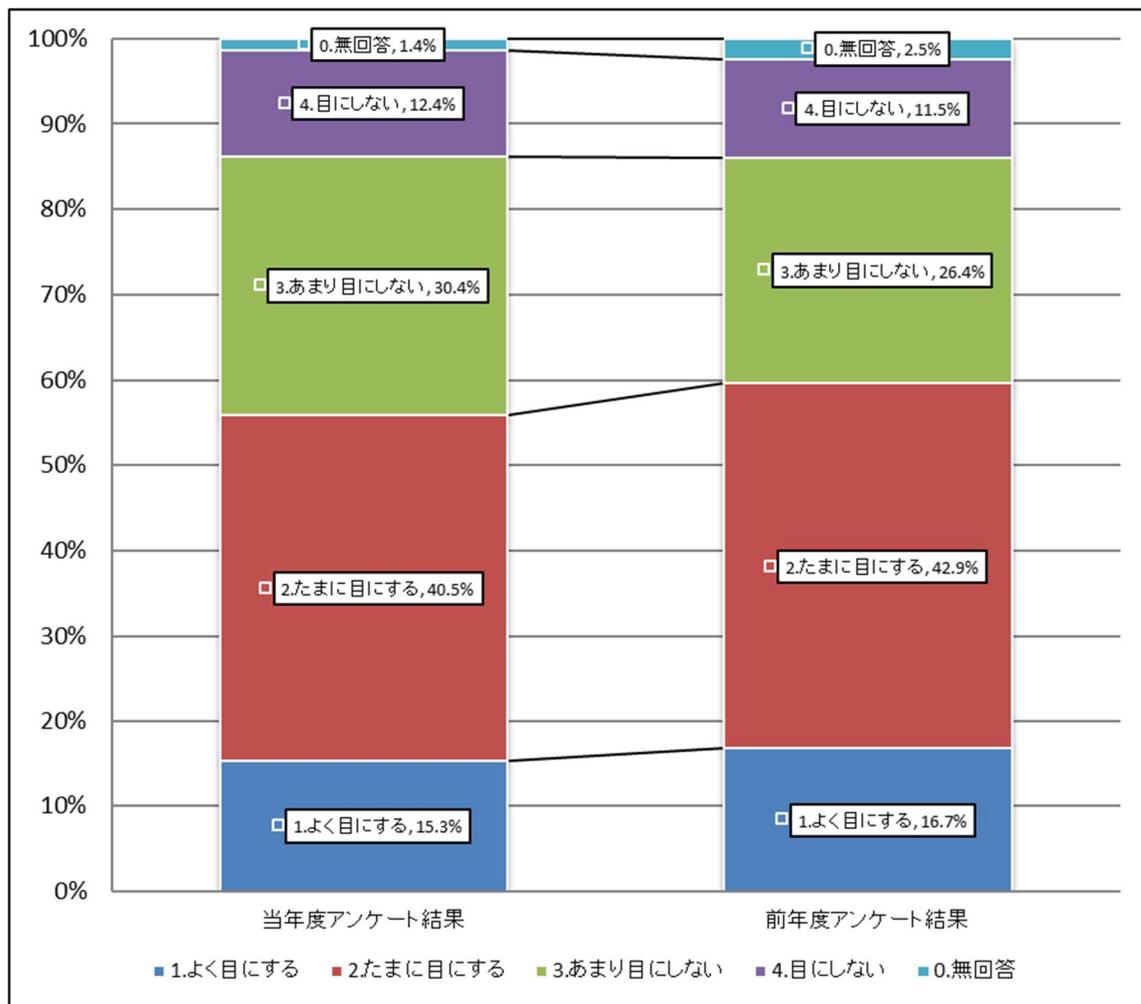


地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区（18.2%）であり、次いで大寄地区（31.3%）となっています。最も多い地区は、明戸地区（53.8%）であり、次いで花園地区（47.1%）となっています。

#### (4) 産業振興について

##### 全国に誇る農業の振興（4. 問1～2）

市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。



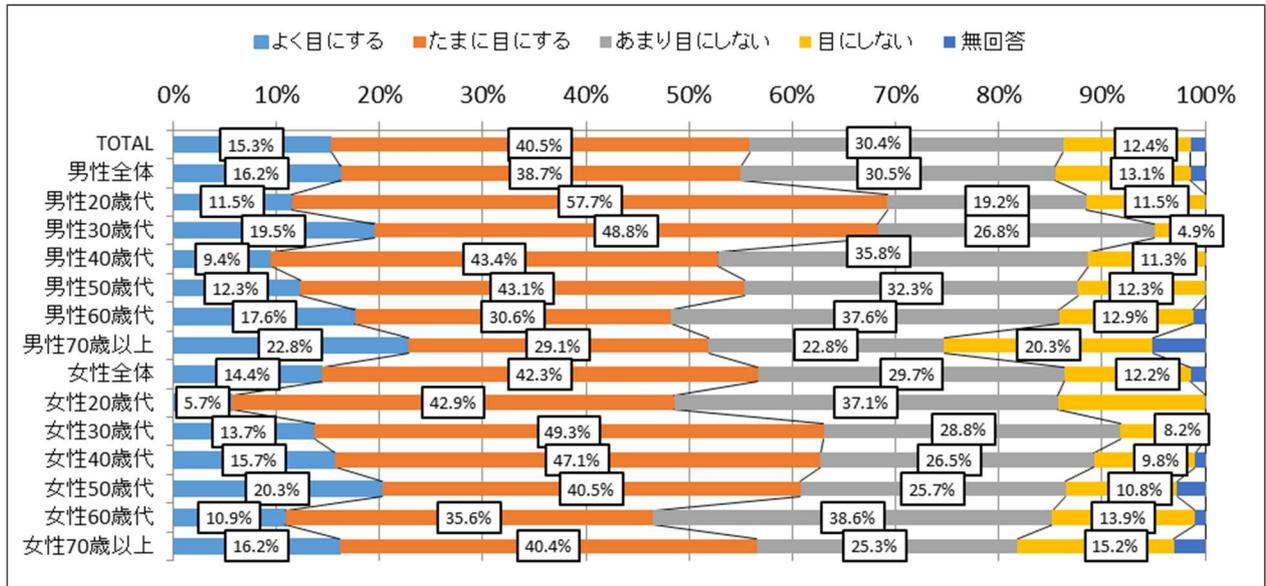
「たまに目にする」と回答した人の割合が 40.5%と最も多く、次いで「あまり目に見えない」と回答した人の割合が 30.4%、「よく目にする」と回答した人の割合が 15.3%、「目に見えない」と回答した人の割合は 12.4%となっています。

「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は 55.8%であり、市民の半数以上の市民が市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にしていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は 59.6%であり、前年度アンケートと比較して、減少していることがうかがえます。

母集団		よく目にする	たまに目にする	あまり目に見えない	目に見えない	無回答	合計
TOTAL	856	15.3%	40.5%	30.4%	12.4%	1.4%	100.0%
男性全体	351	16.2%	38.7%	30.5%	13.1%	1.4%	100.0%
男性20歳代	26	11.5%	57.7%	19.2%	11.5%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	19.5%	48.8%	26.8%	4.9%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	9.4%	43.4%	35.8%	11.3%	0.0%	100.0%
男性50歳代	65	12.3%	43.1%	32.3%	12.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	85	17.6%	30.6%	37.6%	12.9%	1.2%	100.0%
男性70歳以上	79	22.8%	29.1%	22.8%	20.3%	5.1%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	14.4%	42.3%	29.7%	12.2%	1.4%	100.0%
女性20歳代	35	5.7%	42.9%	37.1%	14.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	13.7%	49.3%	28.8%	8.2%	0.0%	100.0%
女性40歳代	102	15.7%	47.1%	26.5%	9.8%	1.0%	100.0%
女性50歳代	74	20.3%	40.5%	25.7%	10.8%	2.7%	100.0%
女性60歳代	101	10.9%	35.6%	38.6%	13.9%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	99	16.2%	40.4%	25.3%	15.2%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	17.8%	38.8%	30.4%	12.6%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	7.7%	44.2%	25.0%	21.2%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	10.5%	54.3%	23.8%	11.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	26.9%	19.2%	38.5%	15.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	12.5%	37.5%	31.3%	12.5%	6.3%	100.0%
八基地区	11	18.2%	18.2%	36.4%	18.2%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	25.0%	32.1%	28.6%	14.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	15.8%	39.6%	33.7%	8.9%	2.0%	100.0%
南地区	51	9.8%	45.1%	33.3%	9.8%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	15.2%	39.1%	31.5%	13.0%	1.1%	100.0%
川本地区	69	20.3%	36.2%	30.4%	11.6%	1.4%	100.0%
花園地区	70	14.3%	44.3%	30.0%	10.0%	1.4%	100.0%
無回答	21	4.8%	33.3%	38.1%	14.3%	9.5%	100.0%

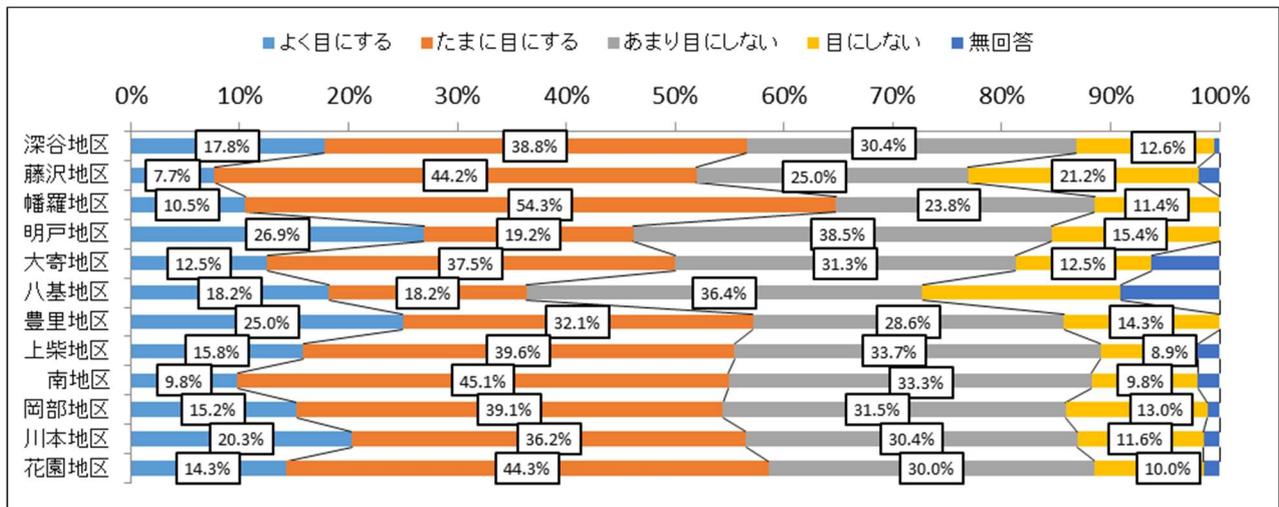
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合は男性が55.0%であるのに対して、女性は56.7%となっています。

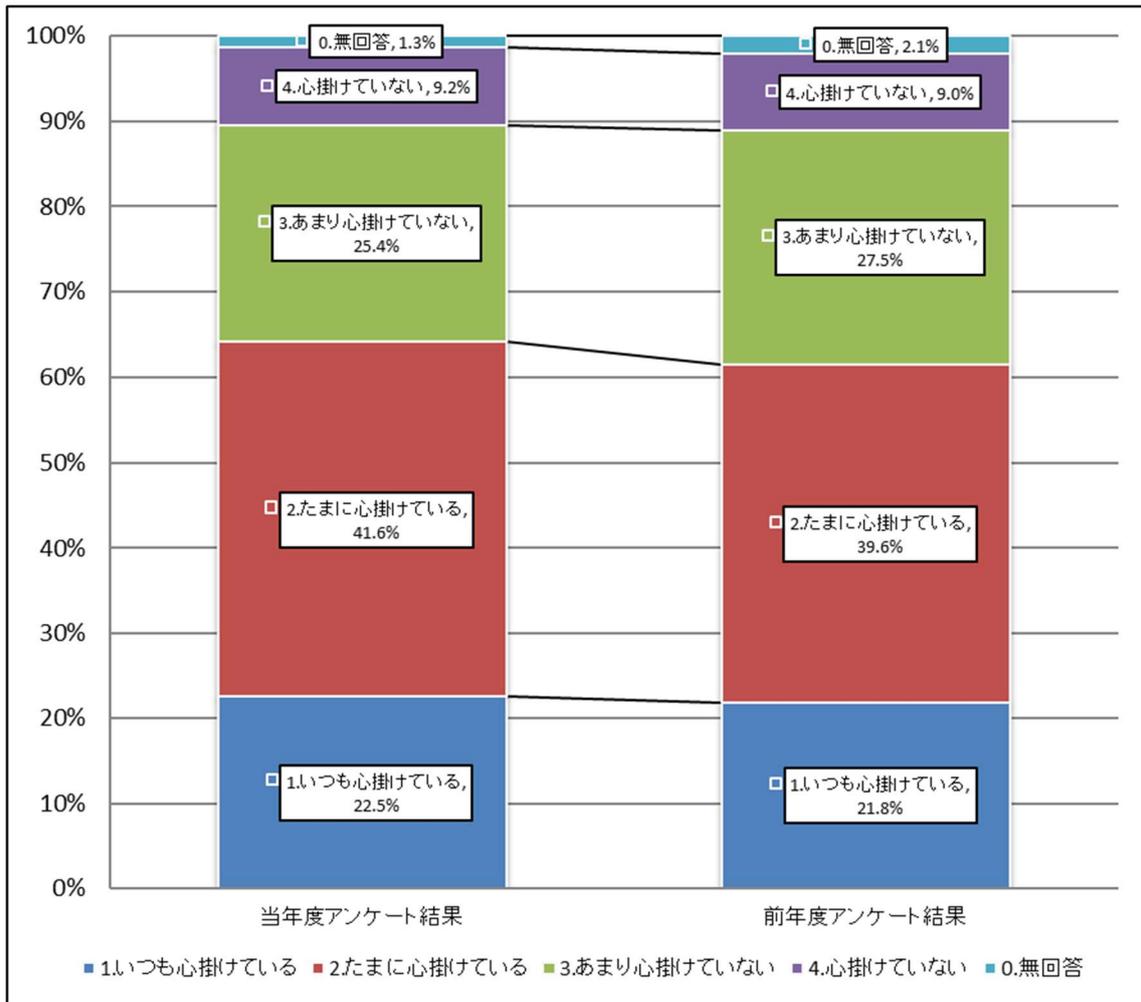
また、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに60歳代（男性48.2%、女性46.5%）であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代（69.2%）女性が30歳代（63.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区（36.4%）であり、次いで明戸地区（46.2%）となっています。最も多いのは幡羅地区（64.8%）であり、次いで花園地区（58.6%）となっています。

食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていますか。



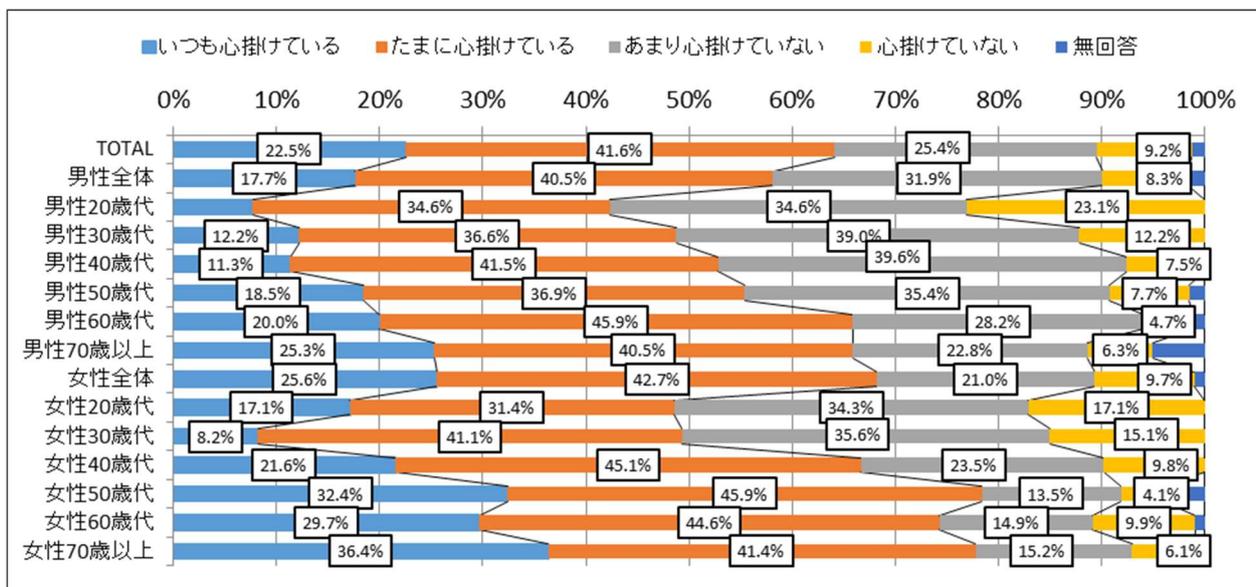
「たまに心掛けている」と回答した人の割合が 41.6%と最も多く、次いで「あまり心掛けていない」と回答した人の割合が 25.4%、「いつも心掛けている」と回答した人の割合が 22.5%、「心掛けていない」と回答した人の割合は最も少なく 9.2%となっています。

「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合は 64.1%であり、6 割以上の市民が食材等の購入時に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合は 61.4%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		いつも心掛けている	たまに心掛けている	あまり心掛けている	心掛けていない	無回答	合計
TOTAL	856	22.5%	41.6%	25.4%	9.2%	1.3%	100.0%
男性全体	351	17.7%	40.5%	31.9%	8.3%	1.7%	100.0%
男性 20 歳代	26	7.7%	34.6%	34.6%	23.1%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	12.2%	36.6%	39.0%	12.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	11.3%	41.5%	39.6%	7.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	18.5%	36.9%	35.4%	7.7%	1.5%	100.0%
男性 60 歳代	85	20.0%	45.9%	28.2%	4.7%	1.2%	100.0%
男性 70 歳以上	79	25.3%	40.5%	22.8%	6.3%	5.1%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	25.6%	42.7%	21.0%	9.7%	1.0%	100.0%
女性 20 歳代	35	17.1%	31.4%	34.3%	17.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	8.2%	41.1%	35.6%	15.1%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	21.6%	45.1%	23.5%	9.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	32.4%	45.9%	13.5%	4.1%	4.1%	100.0%
女性 60 歳代	101	29.7%	44.6%	14.9%	9.9%	1.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	36.4%	41.4%	15.2%	6.1%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	20.6%	44.4%	27.1%	7.5%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	23.1%	51.9%	7.7%	11.5%	5.8%	100.0%
幡羅地区	105	27.6%	47.6%	18.1%	6.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	15.4%	50.0%	34.6%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	50.0%	25.0%	12.5%	12.5%	0.0%	100.0%
八基地区	11	36.4%	9.1%	27.3%	18.2%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	28.6%	25.0%	35.7%	10.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	25.7%	33.7%	30.7%	8.9%	1.0%	100.0%
南地区	51	19.6%	52.9%	15.7%	9.8%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	18.5%	37.0%	31.5%	12.0%	1.1%	100.0%
川本地区	69	26.1%	40.6%	23.2%	8.7%	1.4%	100.0%
花園地区	70	14.3%	41.4%	32.9%	11.4%	0.0%	100.0%
無回答	21	14.3%	33.3%	23.8%	19.0%	9.5%	100.0%

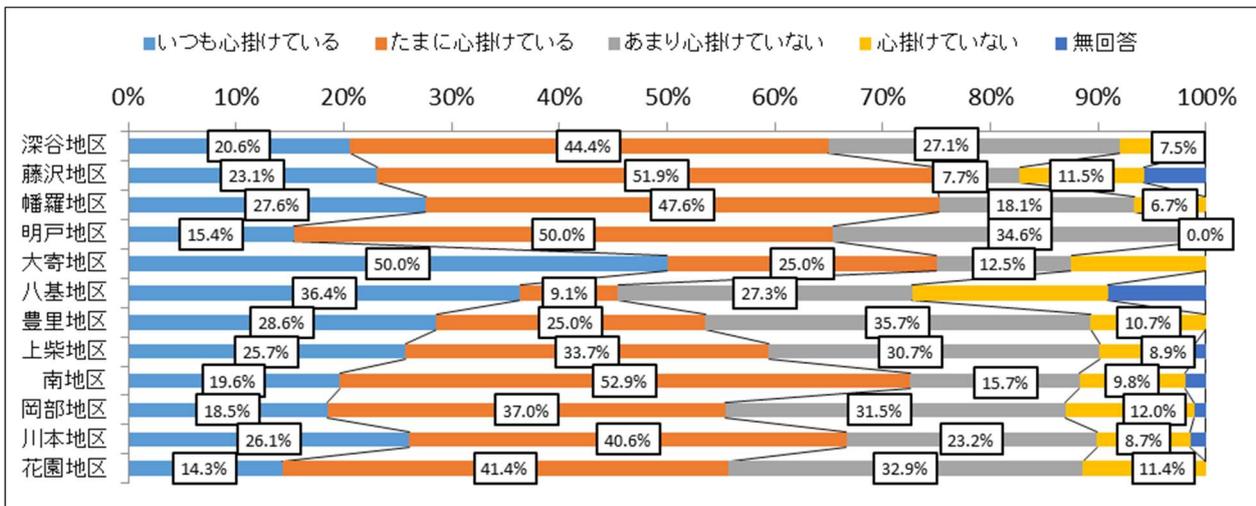
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合は男性が 58.1%であるのに対して、女性は 68.2%となっています。このことから、男性よりも女性の方が意識が高いことがうかがえます。

また、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに 20 歳代（男性 17.2%、女性 48.6%）であり、一方で最も多い世代は、男性が 60 歳代（65.9%）、女性が 50 歳代（78.4%）となっています。

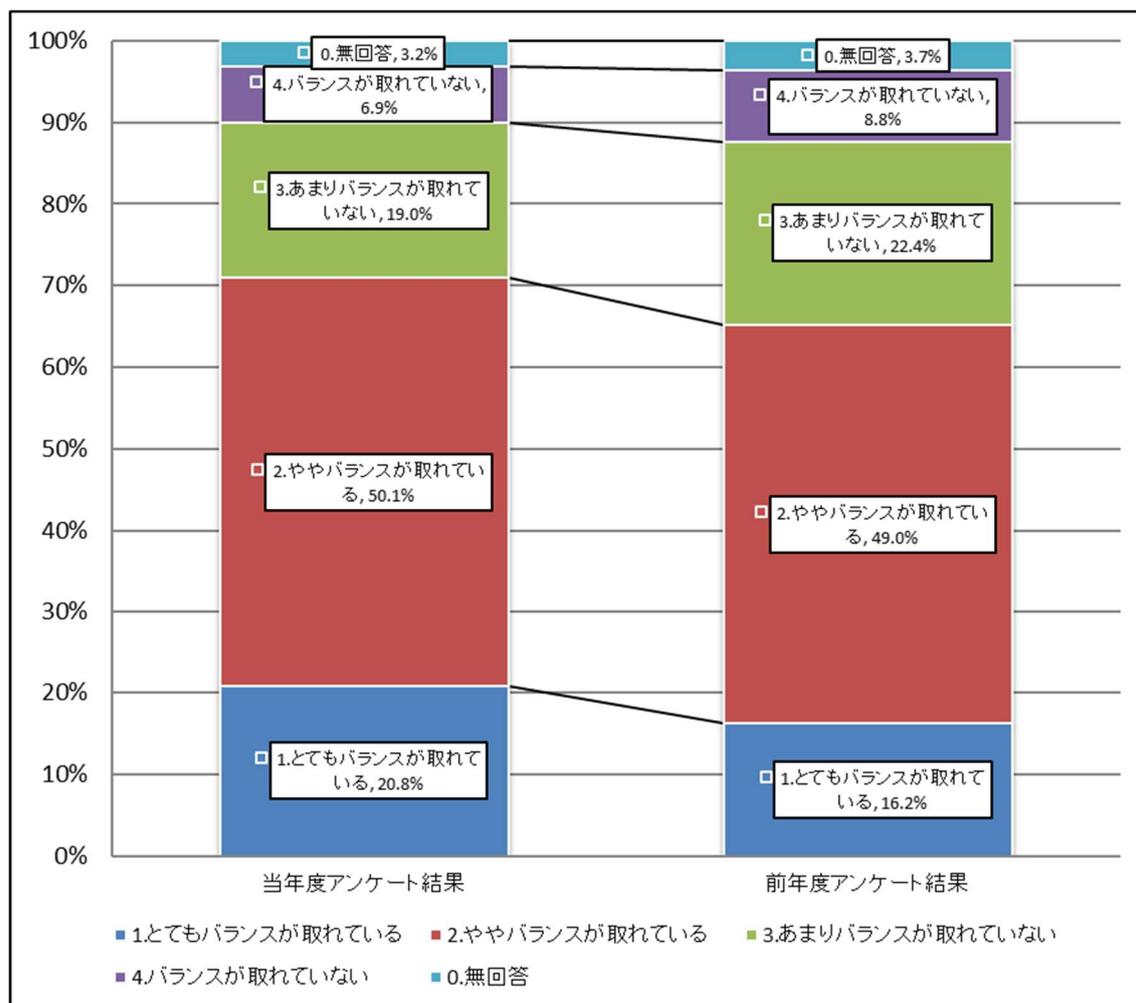
➤ 地区別



地区別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区（45.5%）であり、次いで豊里地区（53.6%）となっています。最も多いのは幡羅地区（75.2%）であり、次いで藤沢地区、大寄地区で（75.0%）となっています。

## ②雇用の創出・安定と勤労者への支援（3. 問3）

ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか）。



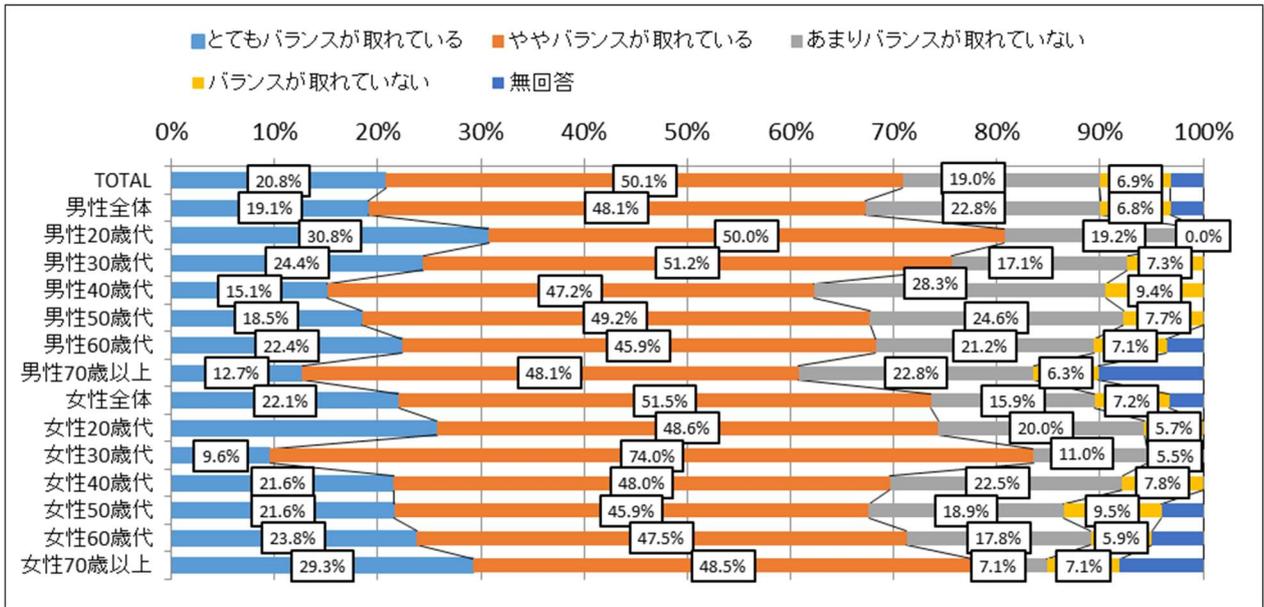
「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が 50.1%と最も多く、次いで「とてもバランスが取れている」と回答した人の割合が 20.8%、「あまりバランスが取れていない」と回答した人の割合が 19.0%、「バランスが取れていない」と回答した人の割合は最も少なく 6.9%となっています。

「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は 70.9%であり、市民の 7 割以上が、仕事と生活のバランスが取れていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は 65.2%であり、前年度アンケートと比較して、5.7 ポイント増えたことがうかがえます。

母集団		とてもバランスが 取れている	ややバランスが取れている	あまりバランスが 取れていない	バランスが取れていない	無回答	合計
TOTAL	856	20.8%	50.1%	19.0%	6.9%	3.2%	100.0%
男性全体	351	19.1%	48.1%	22.8%	6.8%	3.1%	100.0%
男性 20 歳代	26	30.8%	50.0%	19.2%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	24.4%	51.2%	17.1%	7.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	15.1%	47.2%	28.3%	9.4%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	18.5%	49.2%	24.6%	7.7%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	22.4%	45.9%	21.2%	7.1%	3.5%	100.0%
男性 70 歳以上	79	12.7%	48.1%	22.8%	6.3%	10.1%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	22.1%	51.5%	15.9%	7.2%	3.3%	100.0%
女性 20 歳代	35	25.7%	48.6%	20.0%	5.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	9.6%	74.0%	11.0%	5.5%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	21.6%	48.0%	22.5%	7.8%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	21.6%	45.9%	18.9%	9.5%	4.1%	100.0%
女性 60 歳代	101	23.8%	47.5%	17.8%	5.9%	5.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	29.3%	48.5%	7.1%	7.1%	8.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	19.2%	51.9%	20.1%	6.5%	2.3%	100.0%
藤沢地区	52	21.2%	55.8%	15.4%	5.8%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	16.2%	56.2%	18.1%	7.6%	1.9%	100.0%
明戸地区	26	26.9%	46.2%	19.2%	3.8%	3.8%	100.0%
大寄地区	16	18.8%	50.0%	25.0%	6.3%	0.0%	100.0%
八基地区	11	27.3%	36.4%	18.2%	0.0%	18.2%	100.0%
豊里地区	28	35.7%	32.1%	17.9%	14.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	19.8%	47.5%	20.8%	7.9%	4.0%	100.0%
南地区	51	29.4%	47.1%	19.6%	2.0%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	19.6%	43.5%	18.5%	13.0%	5.4%	100.0%
川本地区	69	21.7%	55.1%	14.5%	5.8%	2.9%	100.0%
花園地区	70	21.4%	55.7%	18.6%	2.9%	1.4%	100.0%
無回答	21	14.3%	38.1%	28.6%	4.8%	14.3%	100.0%

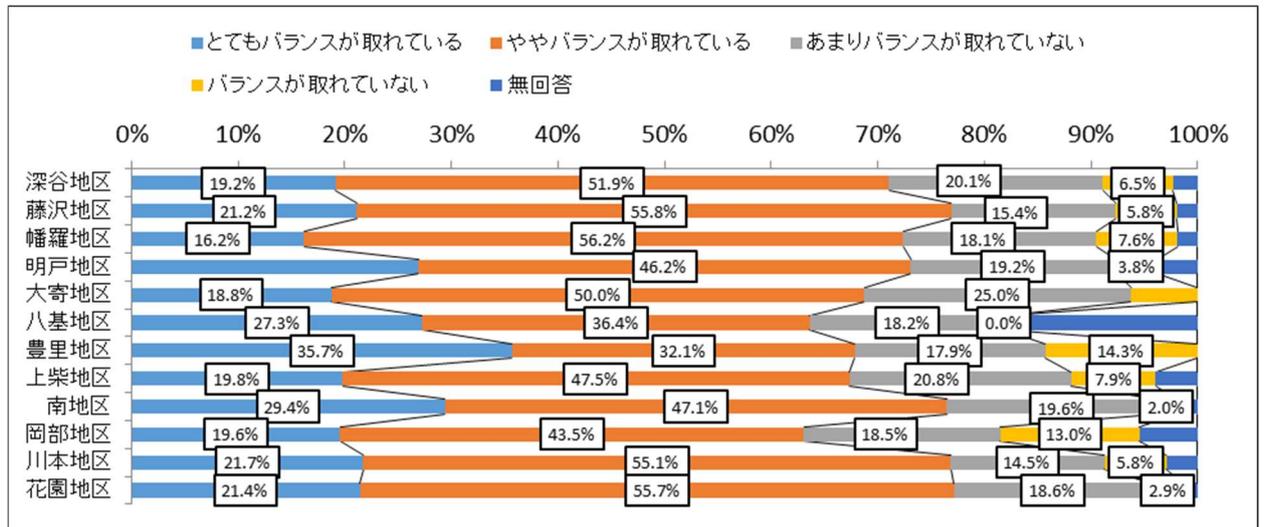
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合は男性が 67.2%であるのに対して、女性は 73.6%となっています。男女によって意識の差があることがうかがえます。

また、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 70 歳以上 (60.8%) であり、女性は 50 歳代 (67.6%) となっています。最も多い世代は、男性が 20 歳代 (80.8%) であり、女性は 30 歳代 (83.6%) となっています。

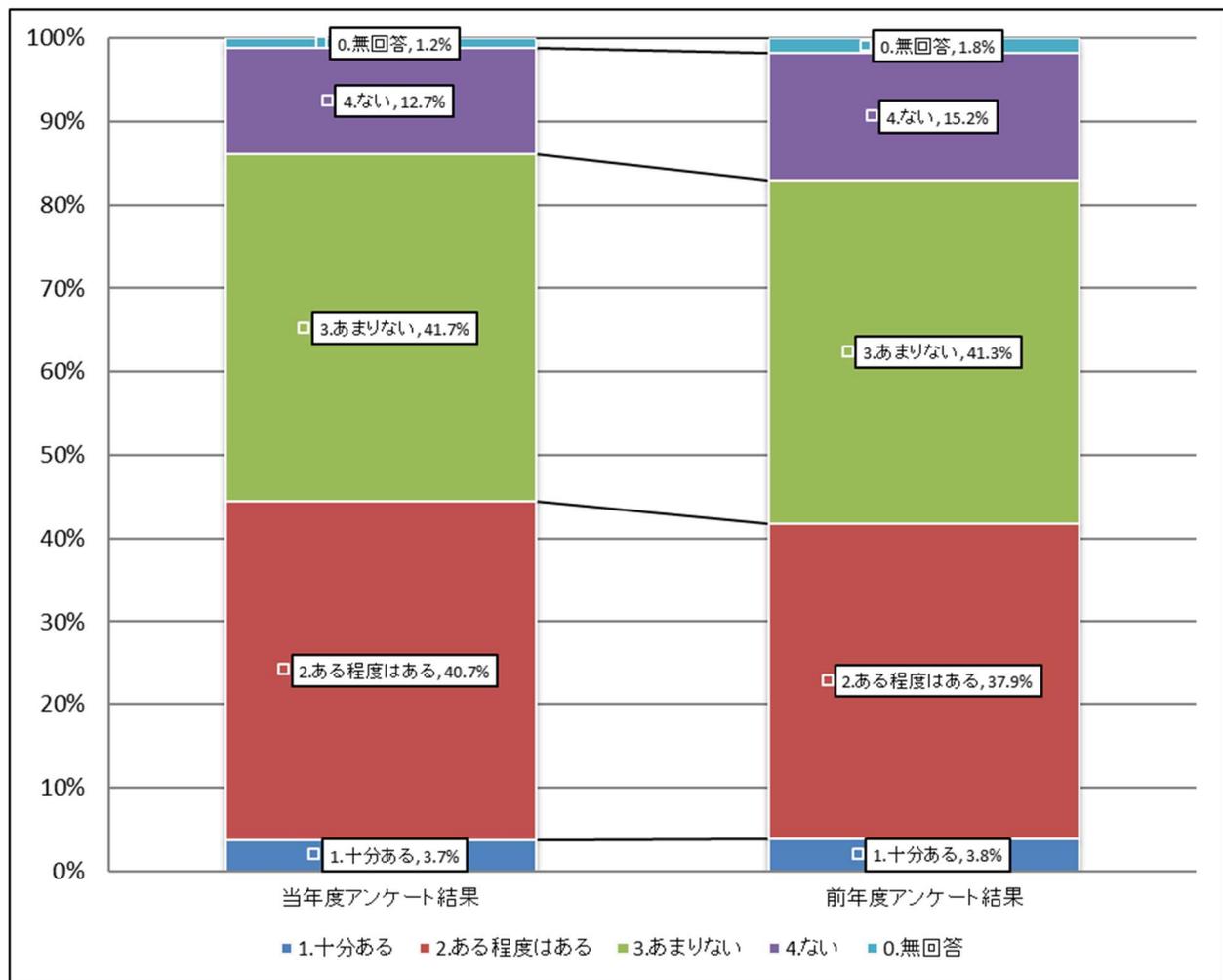
➤ 地区別



地区別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が最も少ないのは、岡部地区 (63.0%) であり、次いで八基地区 (63.6%) となっています。最も多いのは花園地区 (77.1%) であり、次いで藤沢地区 (76.9%) となっています。

(5) 暮らし・環境について  
 防災対策の推進 (5. 問1~2)

ご自宅に災害に対する備え(備蓄品など)はありますか。



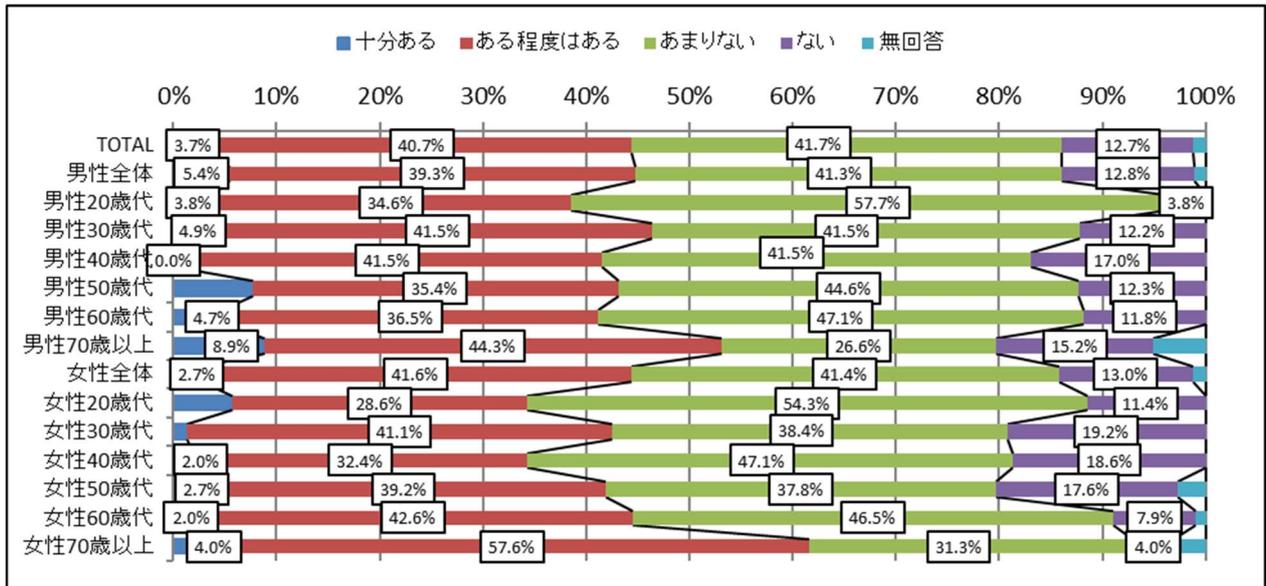
「あまりない」と回答した人の割合が 41.7%と最も多く、次いで「ある程度はある」と回答した人の割合が 40.7%、「ない」と回答した人の割合が 12.7%、「十分ある」と回答した人の割合が最も少なく 3.7%となっています。

「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 44.4%であり、市民の過半数は、災害時の備え(備蓄品など)が十分ではないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 41.7%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		十分ある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	856	3.7%	40.7%	41.7%	12.7%	1.2%	100.0%
男性全体	351	5.4%	39.3%	41.3%	12.8%	1.1%	100.0%
男性20歳代	26	3.8%	34.6%	57.7%	3.8%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	4.9%	41.5%	41.5%	12.2%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	0.0%	41.5%	41.5%	17.0%	0.0%	100.0%
男性50歳代	65	7.7%	35.4%	44.6%	12.3%	0.0%	100.0%
男性60歳代	85	4.7%	36.5%	47.1%	11.8%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	79	8.9%	44.3%	26.6%	15.2%	5.1%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	2.7%	41.6%	41.4%	13.0%	1.2%	100.0%
女性20歳代	35	5.7%	28.6%	54.3%	11.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	1.4%	41.1%	38.4%	19.2%	0.0%	100.0%
女性40歳代	102	2.0%	32.4%	47.1%	18.6%	0.0%	100.0%
女性50歳代	74	2.7%	39.2%	37.8%	17.6%	2.7%	100.0%
女性60歳代	101	2.0%	42.6%	46.5%	7.9%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	99	4.0%	57.6%	31.3%	4.0%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	3.7%	41.6%	43.9%	10.3%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	1.9%	51.9%	36.5%	7.7%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	5.7%	44.8%	33.3%	15.2%	1.0%	100.0%
明戸地区	26	0.0%	38.5%	38.5%	23.1%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	6.3%	31.3%	50.0%	12.5%	0.0%	100.0%
八基地区	11	9.1%	36.4%	45.5%	0.0%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	7.1%	25.0%	50.0%	17.9%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	2.0%	48.5%	40.6%	6.9%	2.0%	100.0%
南地区	51	3.9%	37.3%	45.1%	11.8%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	5.4%	37.0%	41.3%	15.2%	1.1%	100.0%
川本地区	69	4.3%	42.0%	40.6%	13.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	1.4%	32.9%	45.7%	20.0%	0.0%	100.0%
無回答	21	0.0%	23.8%	47.6%	19.0%	9.5%	100.0%

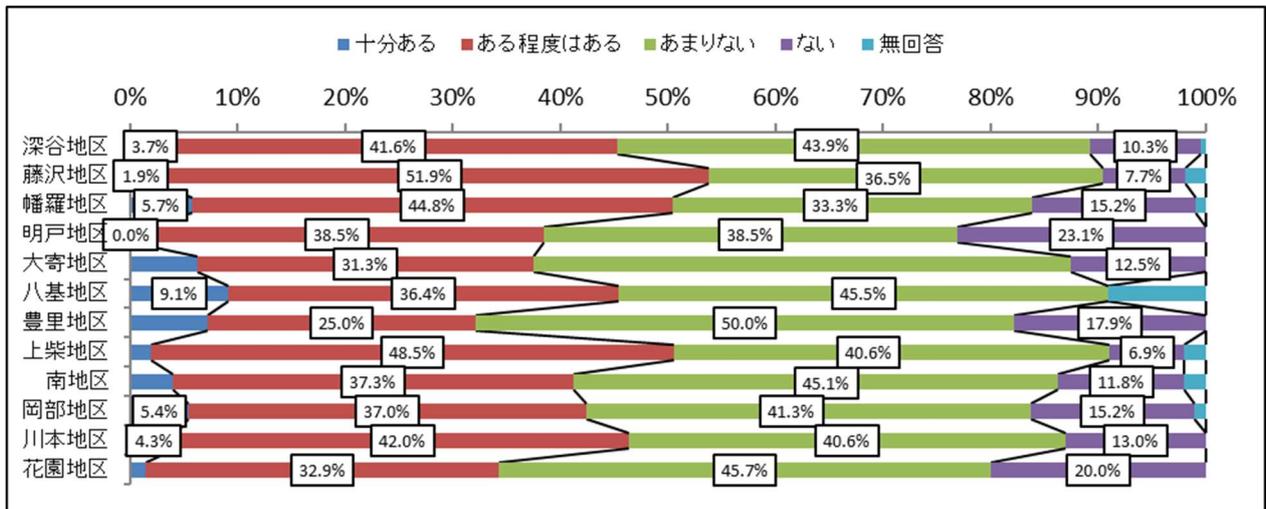
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は男性が44.7%であるのに対して、女性は44.3%となっています。

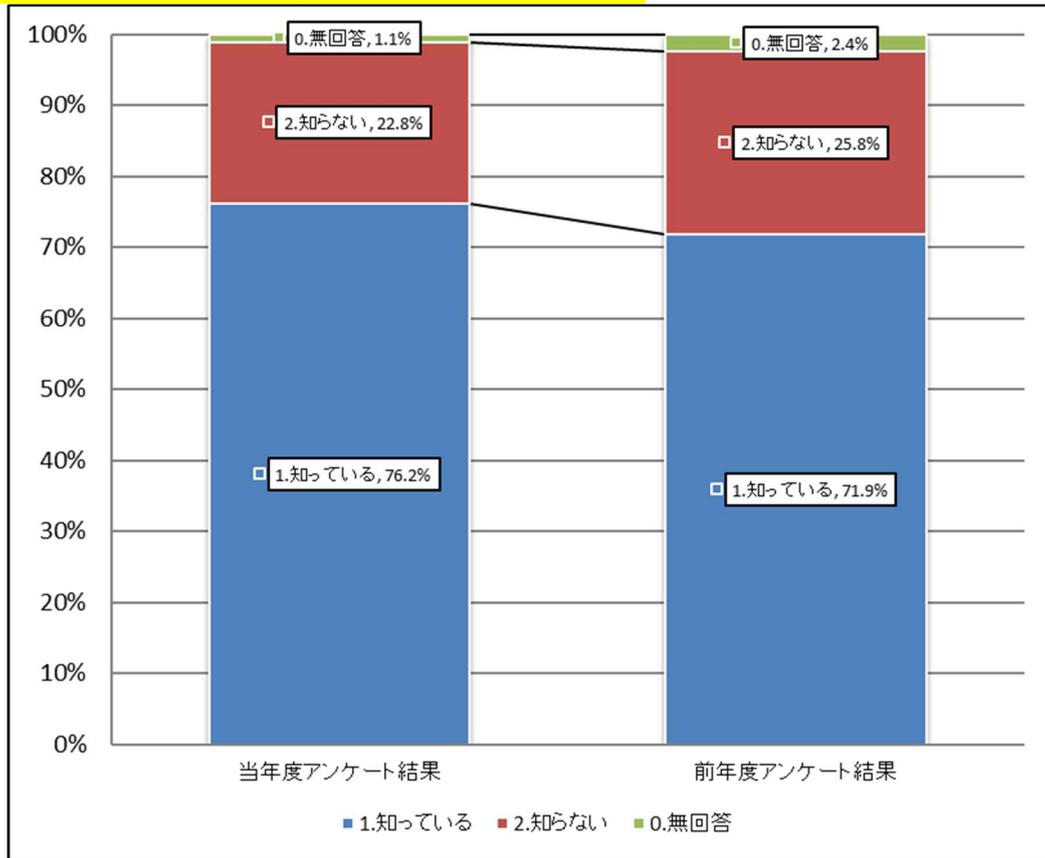
また、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が20歳代（38.5%）、女性が20歳代、40歳代（34.3%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに70歳以上（男性53.2%、女性61.6%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区（32.1%）であり、次いで花園地区（34.3%）となっています。最も多いのは、藤沢地区（53.8%）であり、次いで幡羅地区、上柴地区（50.5%）となっています。

## 地震発生時の避難所・避難場所を知っていますか。



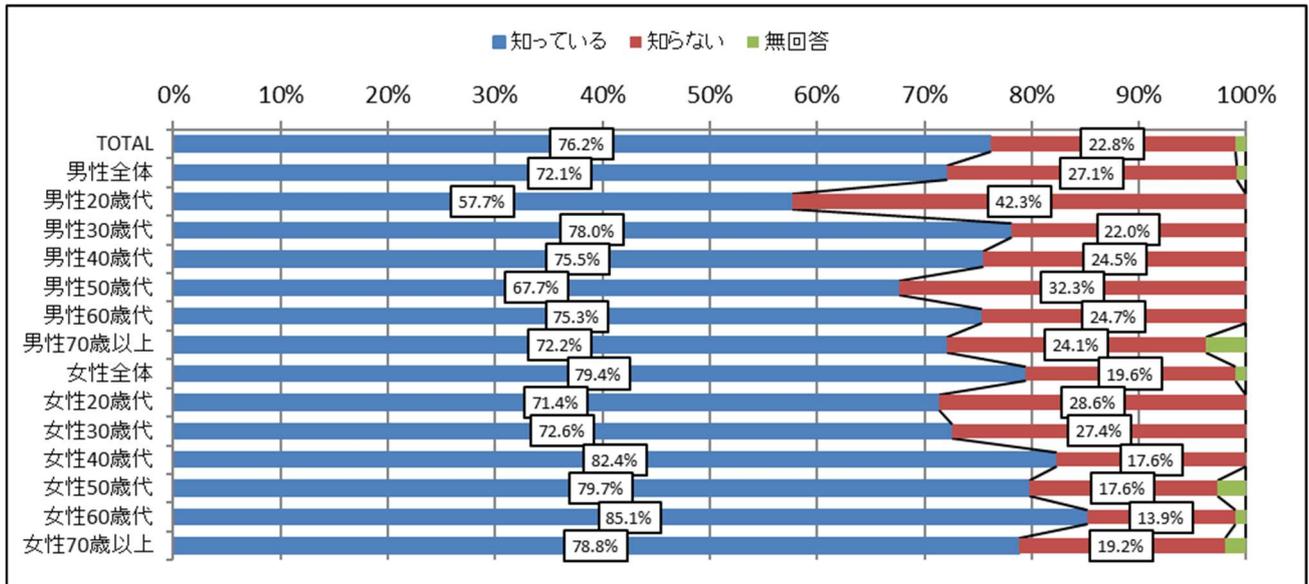
「知っている」と回答した人の割合は76.2%、「知らない」と回答した人の割合は22.8%となっています。

また、地震発生時の避難所・避難場所を知っているという人が大多数を占めているものの、まだ22.8%の人が知らない状況であることから、引き続き避難所・避難場所の周知徹底が求められます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は71.9%であり、前年度アンケートと比較して、増加したことがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	856	76.2%	22.8%	1.1%	100.0%
男性全体	351	72.1%	27.1%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	26	57.7%	42.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	78.0%	22.0%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	75.5%	24.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	67.7%	32.3%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	75.3%	24.7%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	79	72.2%	24.1%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	79.4%	19.6%	1.0%	100.0%
女性 20 歳代	35	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	72.6%	27.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	82.4%	17.6%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	79.7%	17.6%	2.7%	100.0%
女性 60 歳代	101	85.1%	13.9%	1.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	78.8%	19.2%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	71.5%	28.0%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	78.8%	19.2%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	84.6%	11.5%	3.8%	100.0%
大寄地区	16	93.8%	6.3%	0.0%	100.0%
八基地区	11	72.7%	18.2%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	82.1%	17.9%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	75.2%	23.8%	1.0%	100.0%
南地区	51	86.3%	11.8%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	77.2%	21.7%	1.1%	100.0%
川本地区	69	79.7%	20.3%	0.0%	100.0%
花園地区	70	65.7%	34.3%	0.0%	100.0%
無回答	21	66.7%	23.8%	9.5%	100.0%

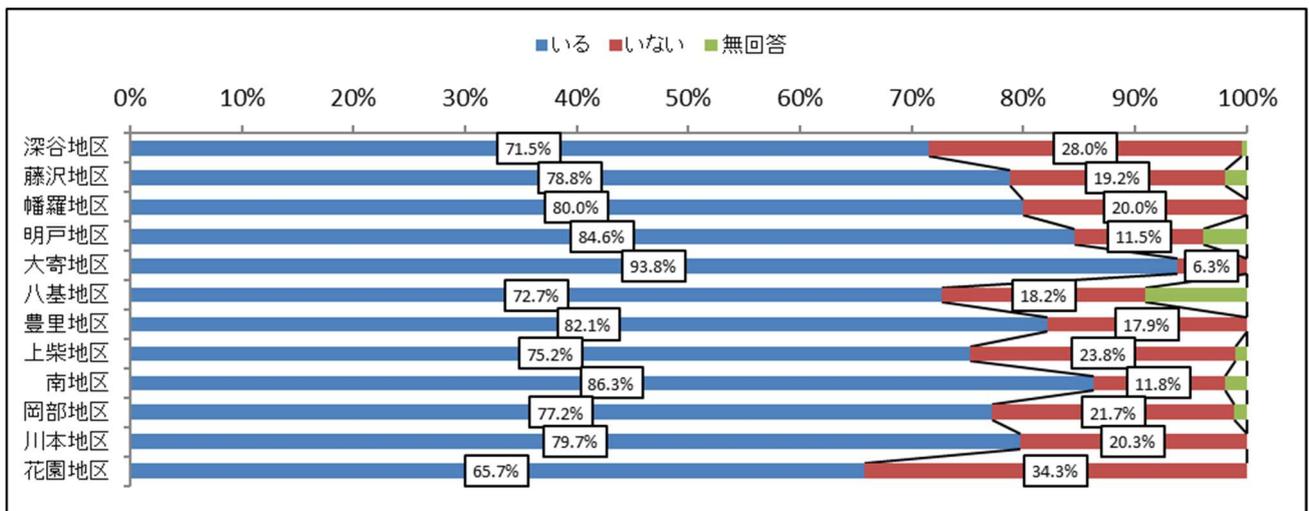
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は男性が72.1%であるのに対して、女性は79.4%となっています。

また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに20歳代（男性57.7%、女性71.4%）であり、一方で最も多い世代は、男性が30歳代（78.0%）、女性が60歳代（85.1%）となっています。

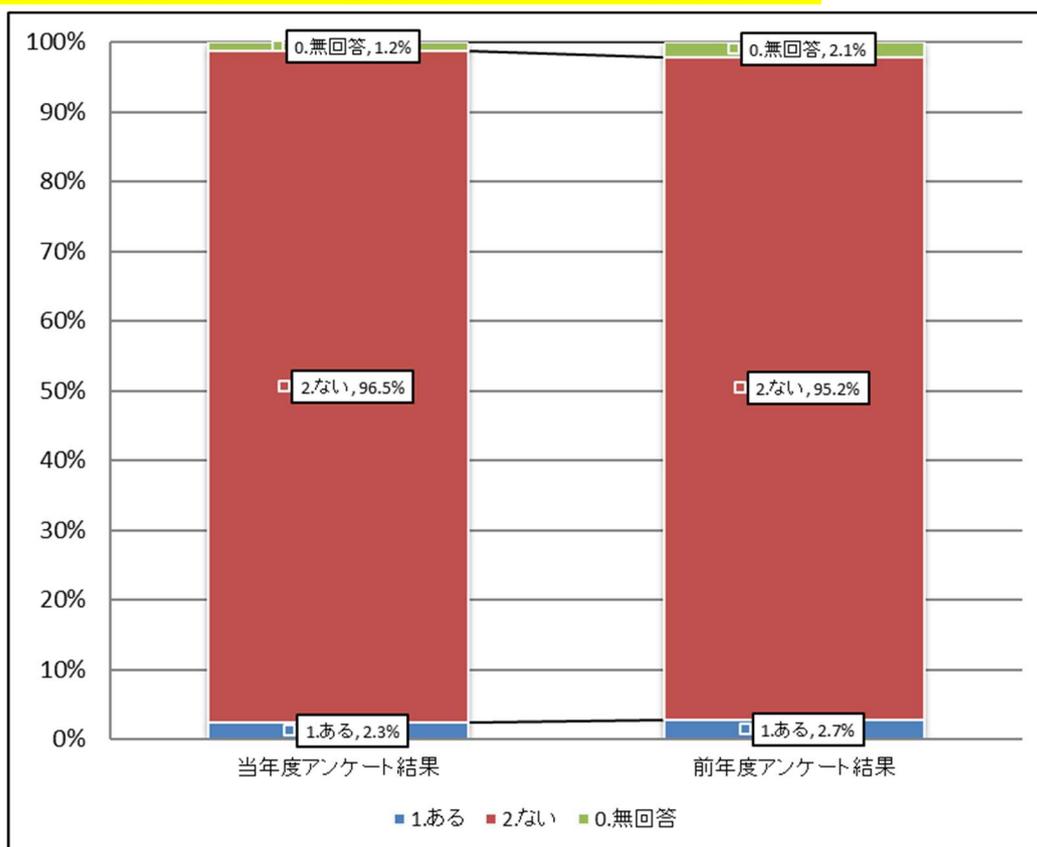
➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、花園地区（65.7%）であり、次いで深谷地区（71.5%）となっています。最も多いのは、大寄地区（93.8%）であり、次いで南地区（86.3%）となっています。

## ②くらしの安全対策の推進（5. 問3～4）

この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。

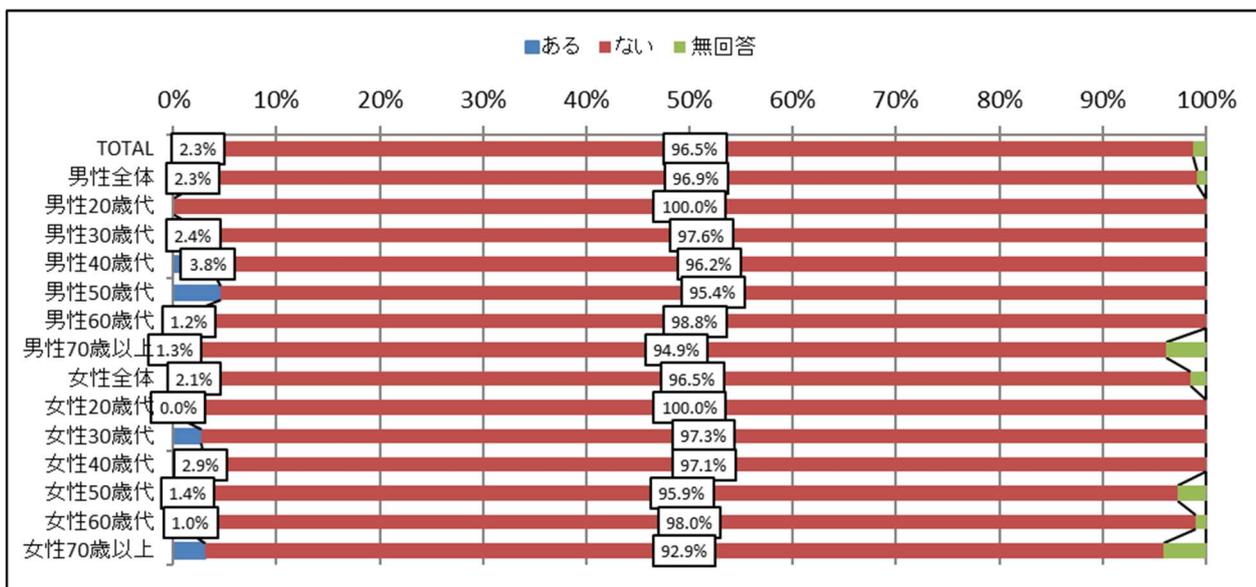


「ある」と回答した人の割合は 2.3%、「ない」と回答した人の割合は 96.5%となっており、この1年間で消費者トラブルに巻き込まれた人はほとんどいないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある」と回答した人の割合は 2.7%であり、前年度アンケートと比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	856	2.3%	96.5%	1.2%	100.0%
男性全体	351	2.3%	96.9%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	26	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	2.4%	97.6%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	3.8%	96.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	4.6%	95.4%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	1.2%	98.8%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	79	1.3%	94.9%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	2.1%	96.5%	1.4%	100.0%
女性 20 歳代	35	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	2.7%	97.3%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	2.9%	97.1%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	1.4%	95.9%	2.7%	100.0%
女性 60 歳代	101	1.0%	98.0%	1.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	3.0%	92.9%	4.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	2.8%	96.7%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	3.8%	92.3%	3.8%	100.0%
幡羅地区	105	2.9%	97.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
八基地区	11	0.0%	90.9%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	2.0%	96.0%	2.0%	100.0%
南地区	51	2.0%	96.1%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	3.3%	95.7%	1.1%	100.0%
川本地区	69	1.4%	98.6%	0.0%	100.0%
花園地区	70	1.4%	98.6%	0.0%	100.0%
無回答	21	4.8%	85.7%	9.5%	100.0%

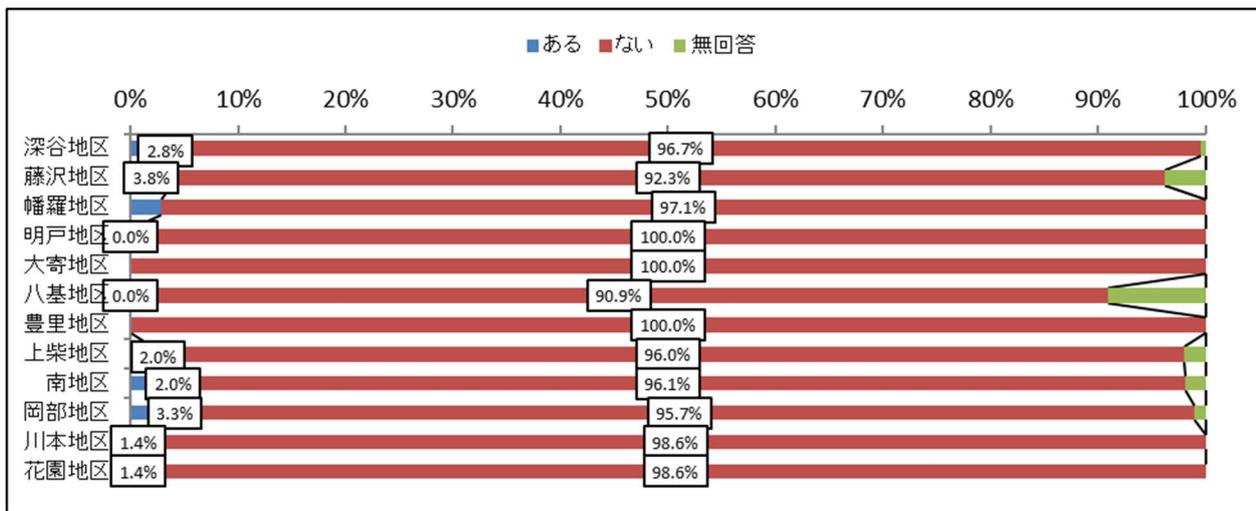
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は男性が 2.3%であるのに対して、女性は 2.1%となっています。

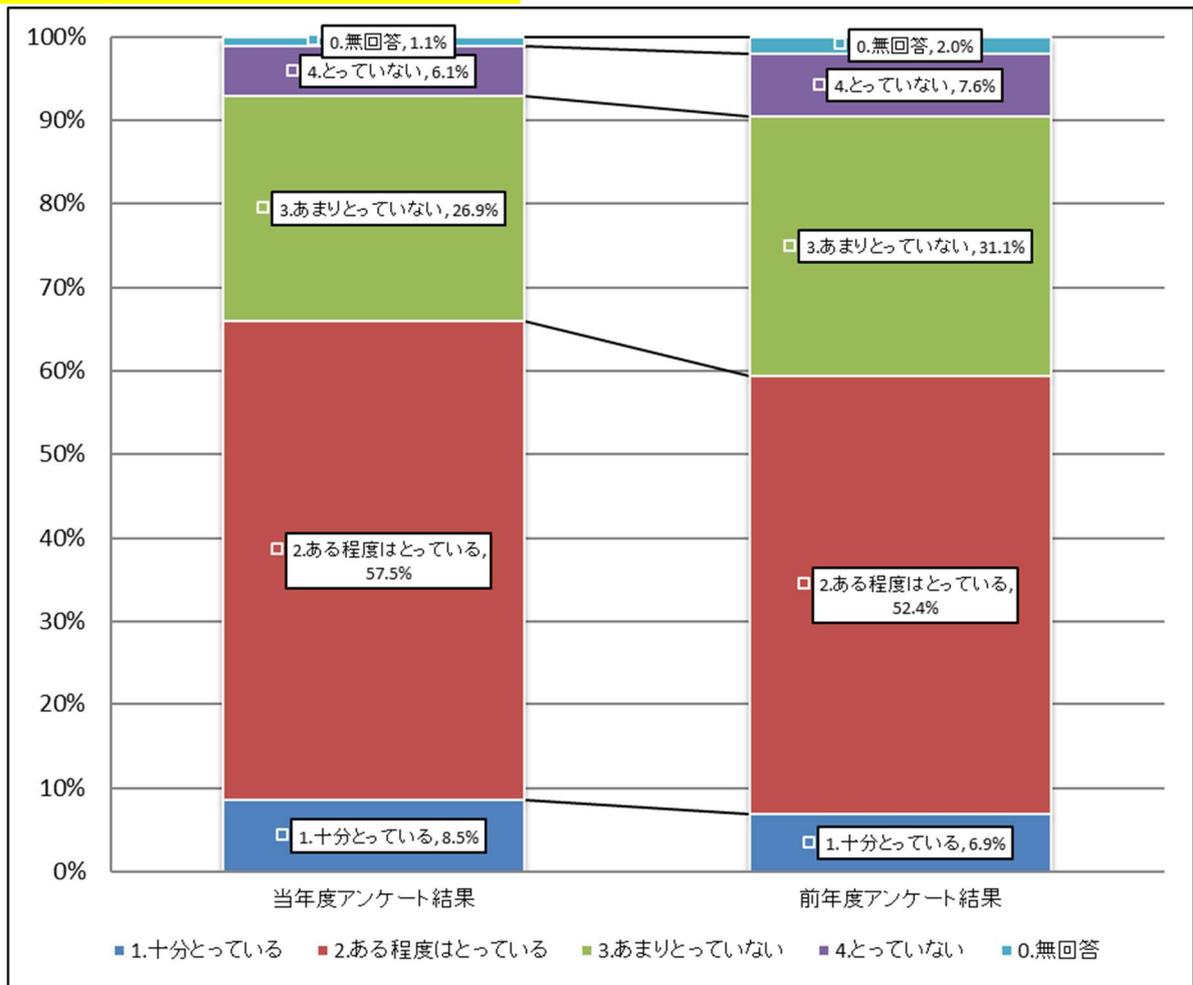
また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに 20 歳代（男性 0.0%、女性 0.0%）となっています。一方でこの割合が最も多い世代は、男性が 50 歳代（4.6%）であり、女性が 40 歳代（2.9%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区、大寄地区、八基地区、豊里地区（0.0%）の 4 地区であり、次いで川本地区、花園地区（1.1%）となっています。最も多いのは、藤沢地区（3.8%）であり、次いで岡部地区（3.3%）となっています。

**日ごろ、防犯対策をとっていますか。**

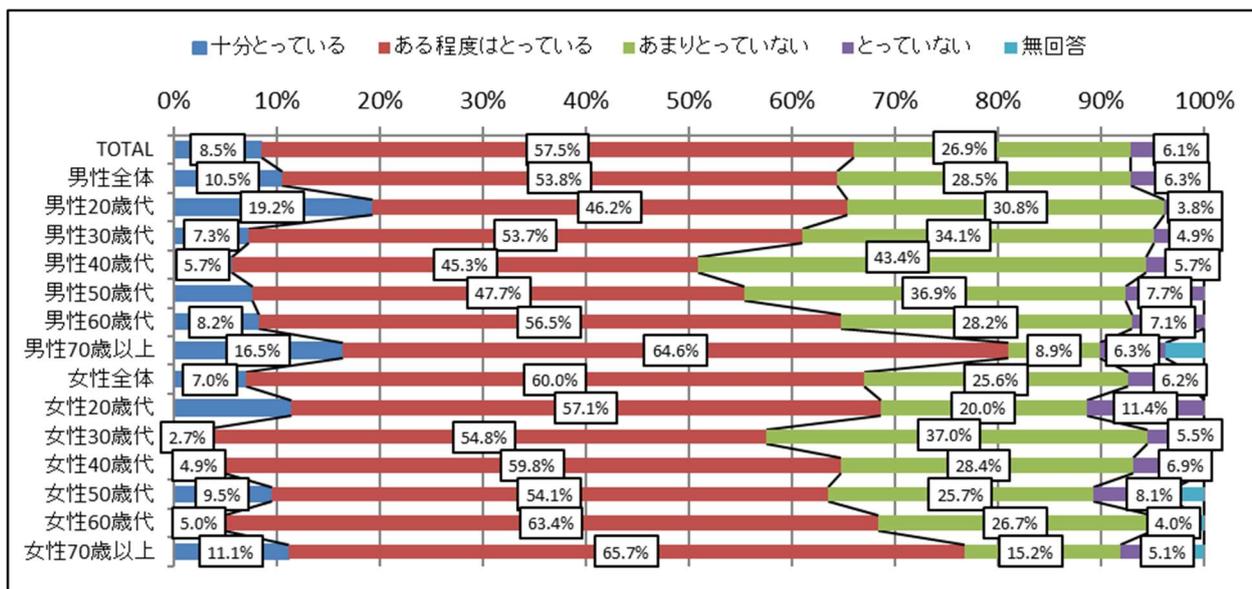


「ある程度はとっている」と回答した人の割合が 57.5%と最も多く、次いで「あまりとっていない」と回答した人の割合が 26.9%、「十分とっている」と回答した人の割合が 8.5%、「とっていない」と回答した人の割合が最も少なく 6.1%となっています。

「十分とっている」または「ある程度はとっている」と回答した人の割合は 66.0%であり、市民の約 6 割以上は、日ごろから防犯対策をとっていることがうかがえます。

母集団		十分とっている	ある程度はとっている	とっていないあまり	とっていない	無回答	合計
TOTAL	856	8.5%	57.5%	26.9%	6.1%	1.1%	100.0%
男性全体	351	10.5%	53.8%	28.5%	6.3%	0.9%	100.0%
男性20歳代	26	19.2%	46.2%	30.8%	3.8%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	7.3%	53.7%	34.1%	4.9%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	5.7%	45.3%	43.4%	5.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	65	7.7%	47.7%	36.9%	7.7%	0.0%	100.0%
男性60歳代	85	8.2%	56.5%	28.2%	7.1%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	79	16.5%	64.6%	8.9%	6.3%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	7.0%	60.0%	25.6%	6.2%	1.2%	100.0%
女性20歳代	35	11.4%	57.1%	20.0%	11.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	2.7%	54.8%	37.0%	5.5%	0.0%	100.0%
女性40歳代	102	4.9%	59.8%	28.4%	6.9%	0.0%	100.0%
女性50歳代	74	9.5%	54.1%	25.7%	8.1%	2.7%	100.0%
女性60歳代	101	5.0%	63.4%	26.7%	4.0%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	99	11.1%	65.7%	15.2%	5.1%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	7.9%	63.1%	21.5%	7.0%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	9.6%	59.6%	26.9%	1.9%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	10.5%	54.3%	28.6%	6.7%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	11.5%	50.0%	34.6%	3.8%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	0.0%	68.8%	31.3%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	11	18.2%	63.6%	9.1%	0.0%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	17.9%	53.6%	17.9%	10.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	6.9%	60.4%	27.7%	3.0%	2.0%	100.0%
南地区	51	11.8%	52.9%	31.4%	2.0%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	7.6%	50.0%	35.9%	5.4%	1.1%	100.0%
川本地区	69	7.2%	59.4%	23.2%	10.1%	0.0%	100.0%
花園地区	70	5.7%	54.3%	27.1%	12.9%	0.0%	100.0%
無回答	21	4.8%	47.6%	38.1%	0.0%	9.5%	100.0%

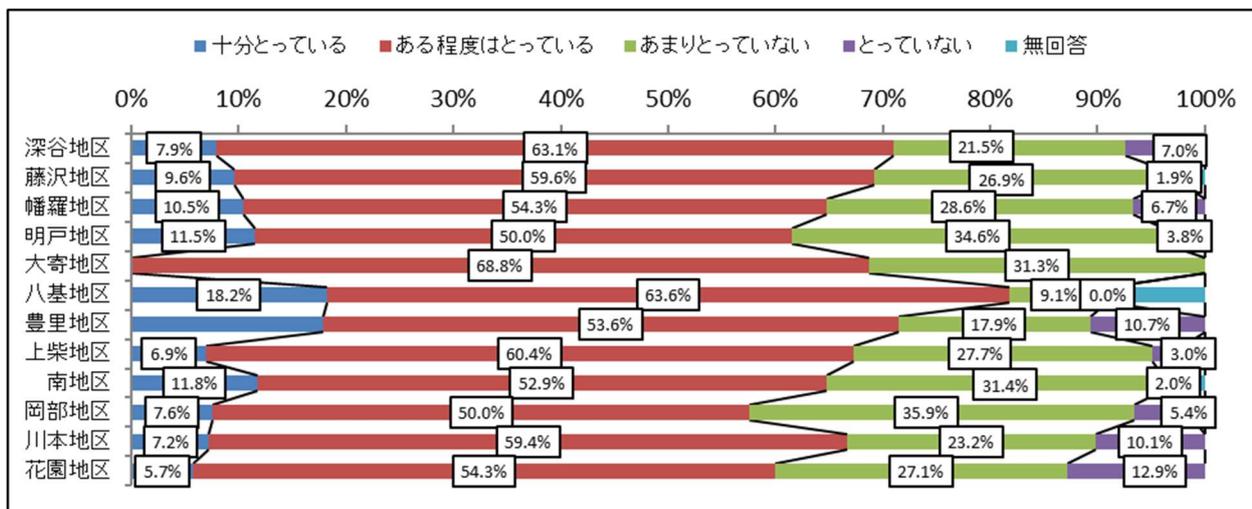
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「十分とっている」または「ある程度はとっている」と回答した人の割合は男性が64.4%であるのに対して、女性は67.0%となっています。

また、「十分とっている」または「ある程度はとっている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が40歳代(50.9%)、女性が30歳代(57.5%)であり、一方で最も多い世代は、男女ともに70歳以上(男性81.0%、女性76.8%)となっています。

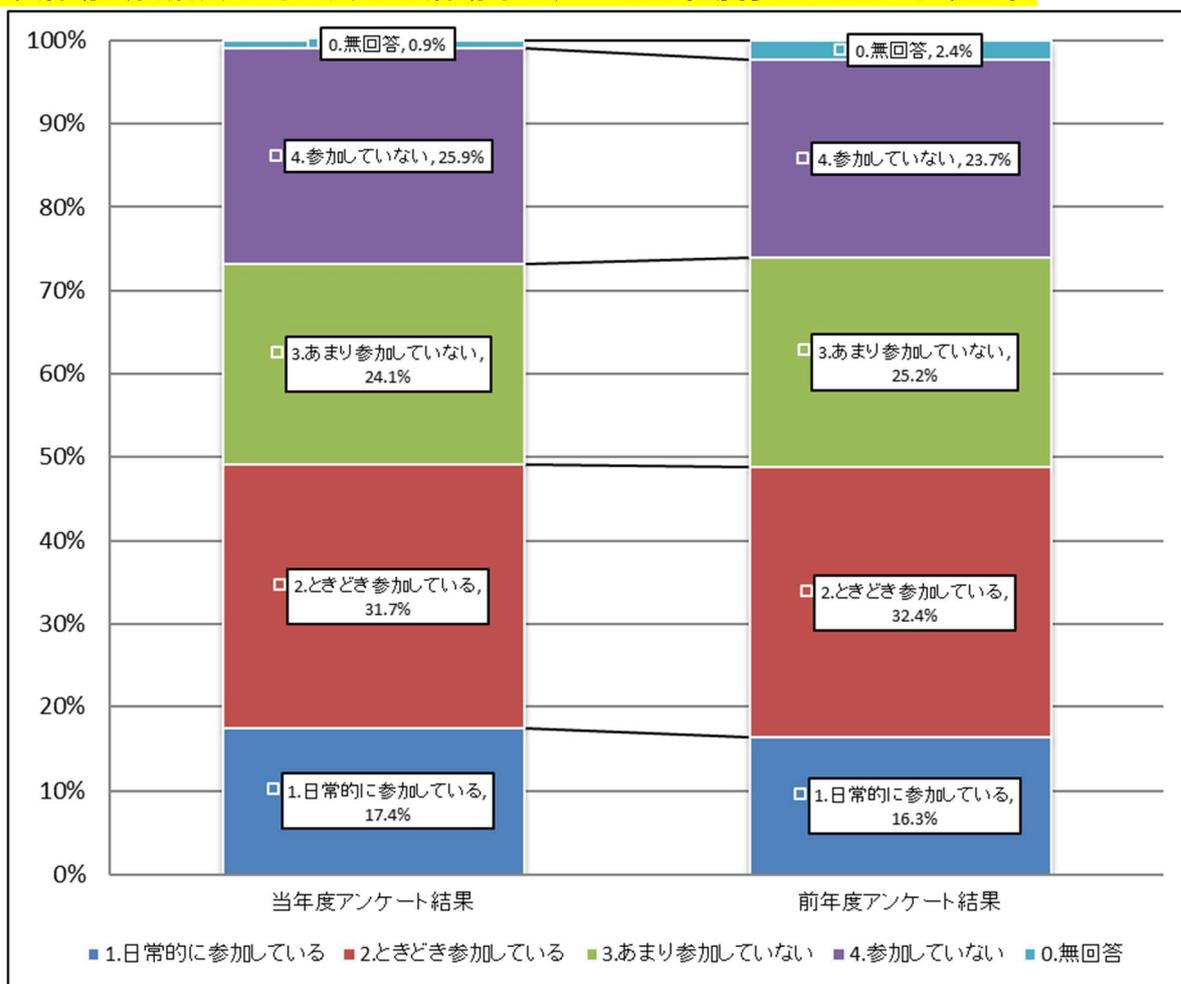
➤ 地区別



地区別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、岡部地区(57.6%)であり、次いで花園地区(60.0%)となっています。最も多いのは、八基地区(81.8%)であり、次いで深谷地区(71.0%)となっています。

### ③絆でつながるひとづくり（5. 問5）

地域活動（自治会や町内会での活動など）への程度参加していますか。



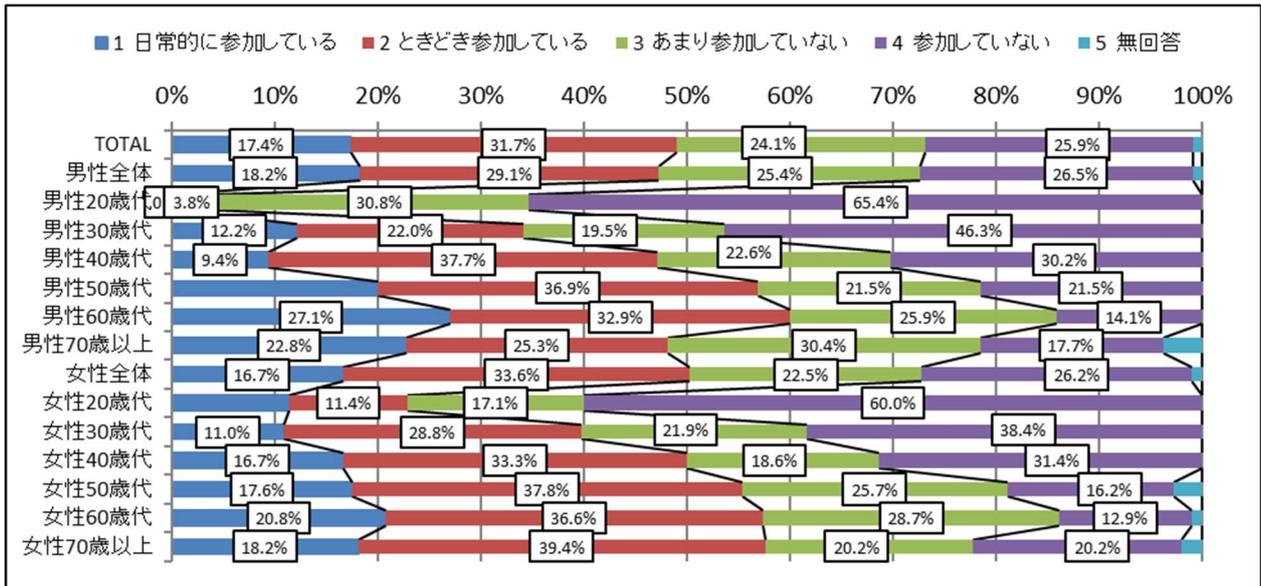
「ときどき参加している」と回答した人の割合が 31.7%と最も多く、次いで「参加していない」と回答した人の割合が 25.9%、「あまり参加していない」と回答した人の割合が 24.1%、「日常的に参加している」と回答した人の割合は最も少なく 17.4%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 49.1%であり、自治会や町内会での活動などの地域活動に参加している市民は半数に満たないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は 48.7%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		日常的に参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	参加していない	無回答	合計
TOTAL	856	17.4%	31.7%	24.1%	25.9%	0.9%	100.0%
男性全体	351	18.2%	29.1%	25.4%	26.5%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	26	0.0%	3.8%	30.8%	65.4%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	12.2%	22.0%	19.5%	46.3%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	9.4%	37.7%	22.6%	30.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	20.0%	36.9%	21.5%	21.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	27.1%	32.9%	25.9%	14.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	79	22.8%	25.3%	30.4%	17.7%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	16.7%	33.6%	22.5%	26.2%	1.0%	100.0%
女性 20 歳代	35	11.4%	11.4%	17.1%	60.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	11.0%	28.8%	21.9%	38.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	16.7%	33.3%	18.6%	31.4%	0.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	17.6%	37.8%	25.7%	16.2%	2.7%	100.0%
女性 60 歳代	101	20.8%	36.6%	28.7%	12.9%	1.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	18.2%	39.4%	20.2%	20.2%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	12.1%	23.4%	29.9%	34.6%	0.0%	100.0%
藤沢地区	52	21.2%	48.1%	17.3%	11.5%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	17.1%	30.5%	27.6%	24.8%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	34.6%	34.6%	19.2%	11.5%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	18.8%	50.0%	12.5%	18.8%	0.0%	100.0%
八基地区	11	45.5%	27.3%	0.0%	18.2%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	35.7%	25.0%	17.9%	21.4%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	11.9%	32.7%	24.8%	28.7%	2.0%	100.0%
南地区	51	9.8%	39.2%	29.4%	19.6%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	14.1%	32.6%	22.8%	29.3%	1.1%	100.0%
川本地区	69	30.4%	34.8%	18.8%	15.9%	0.0%	100.0%
花園地区	70	18.6%	37.1%	15.7%	28.6%	0.0%	100.0%
無回答	21	14.3%	19.0%	33.3%	23.8%	9.5%	100.0%

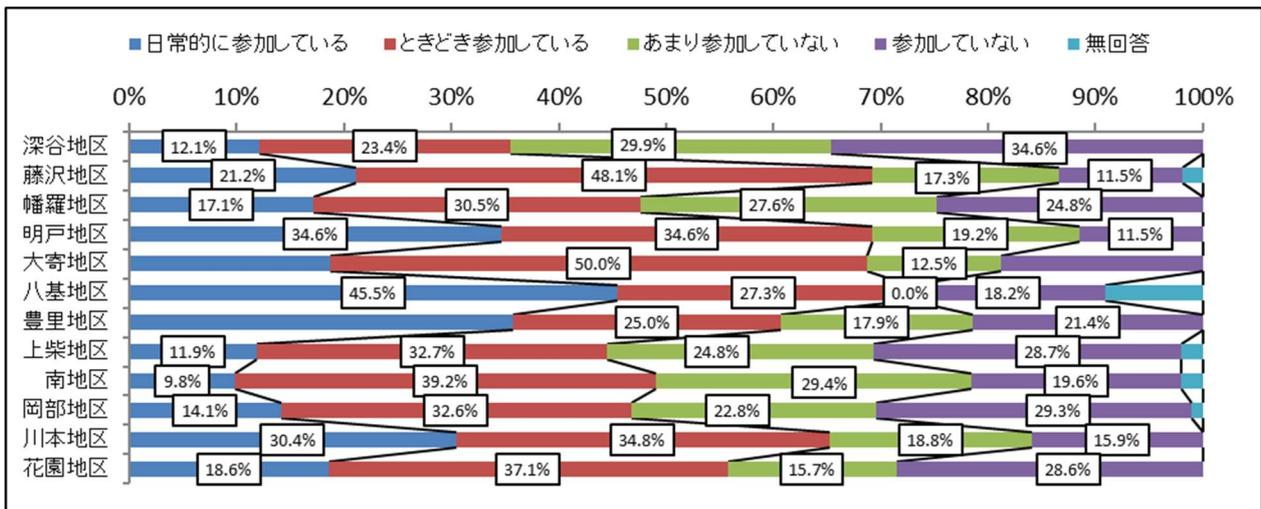
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合は男性が47.3%であるのに対して、女性は50.3%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに20歳代（男性3.8%、女性22.9%）であり、一方で最も多い世代は、男性が60歳代（60.0%）、女性が70歳以上（57.6%）となっています。

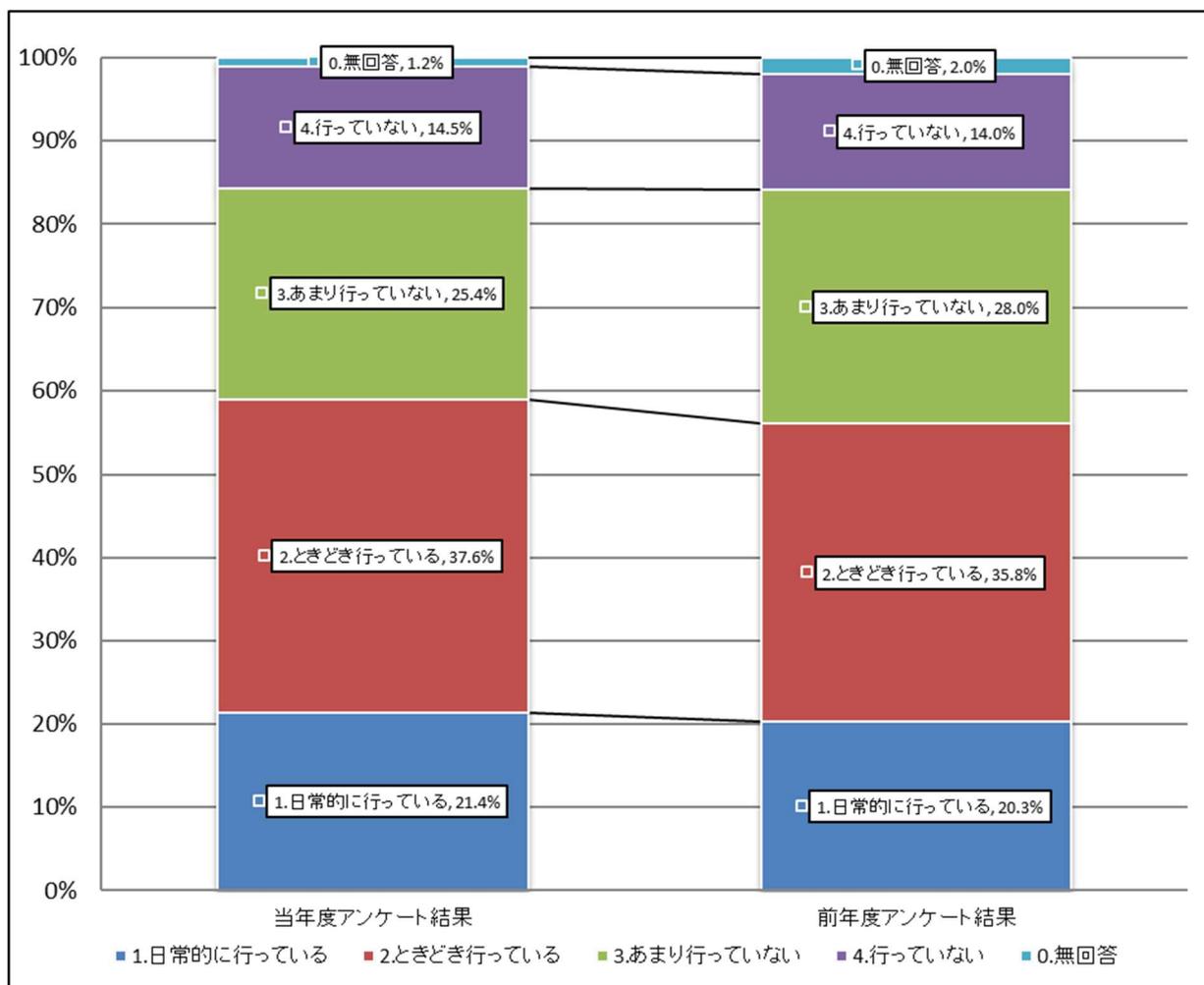
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少ないのは、深谷地区（35.5%）であり、次いで上柴地区（44.6%）となっています。最も多いのは、八基地区（72.7%）であり、次いで藤沢地区、明戸地区（69.2%）となっています。

④生活環境の保全と配慮（5. 問6～8）

環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っていますか。



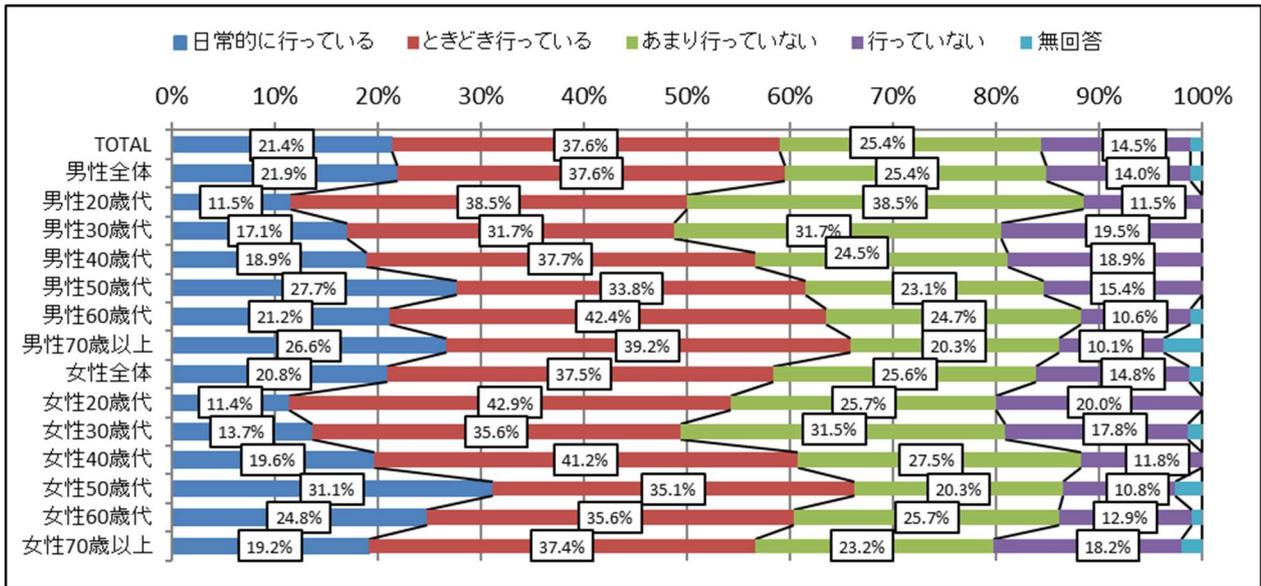
「ときどき行っている」と回答した人の割合が 37.6%と最も多く、次いで「あまり行っていない」と回答した人の割合が 25.4%、「日常的に行っている」と回答した人の割合は 21.4%と、「行っていない」と回答した人の割合が最も少なく 14.5%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は、59.0%であり、6割近くの方が、環境に配慮した取組を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は、56.1%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	856	21.4%	37.6%	25.4%	14.5%	1.2%	100.0%
男性全体	351	21.9%	37.6%	25.4%	14.0%	1.1%	100.0%
男性20歳代	26	11.5%	38.5%	38.5%	11.5%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	17.1%	31.7%	31.7%	19.5%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	18.9%	37.7%	24.5%	18.9%	0.0%	100.0%
男性50歳代	65	27.7%	33.8%	23.1%	15.4%	0.0%	100.0%
男性60歳代	85	21.2%	42.4%	24.7%	10.6%	1.2%	100.0%
男性70歳以上	79	26.6%	39.2%	20.3%	10.1%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	20.8%	37.5%	25.6%	14.8%	1.2%	100.0%
女性20歳代	35	11.4%	42.9%	25.7%	20.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	13.7%	35.6%	31.5%	17.8%	1.4%	100.0%
女性40歳代	102	19.6%	41.2%	27.5%	11.8%	0.0%	100.0%
女性50歳代	74	31.1%	35.1%	20.3%	10.8%	2.7%	100.0%
女性60歳代	101	24.8%	35.6%	25.7%	12.9%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	99	19.2%	37.4%	23.2%	18.2%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	19.6%	39.7%	22.0%	18.7%	0.0%	100.0%
藤沢地区	52	30.8%	30.8%	19.2%	17.3%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	25.7%	41.0%	20.0%	13.3%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	19.2%	46.2%	26.9%	7.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	43.8%	31.3%	18.8%	6.3%	0.0%	100.0%
八基地区	11	36.4%	18.2%	27.3%	9.1%	9.1%	100.0%
豊里地区	28	17.9%	46.4%	17.9%	17.9%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	14.9%	40.6%	29.7%	12.9%	2.0%	100.0%
南地区	51	25.5%	37.3%	31.4%	3.9%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	17.4%	31.5%	34.8%	14.1%	2.2%	100.0%
川本地区	69	24.6%	36.2%	29.0%	10.1%	0.0%	100.0%
花園地区	70	15.7%	35.7%	28.6%	18.6%	1.4%	100.0%
無回答	21	23.8%	33.3%	14.3%	19.0%	9.5%	100.0%

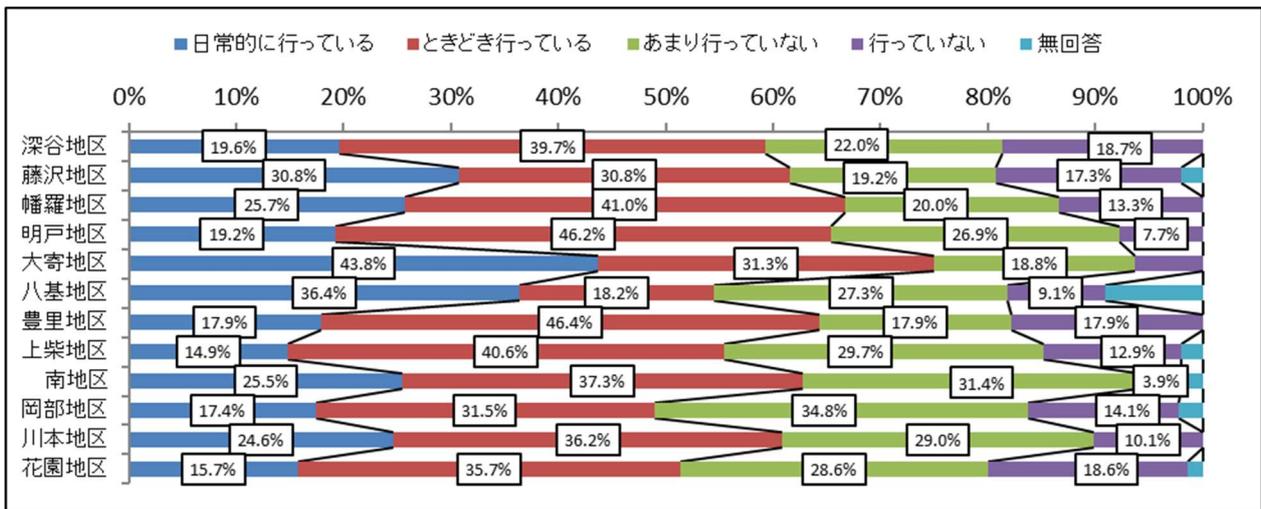
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合は男性が59.5%であるのに対して、女性は58.4%となっています。

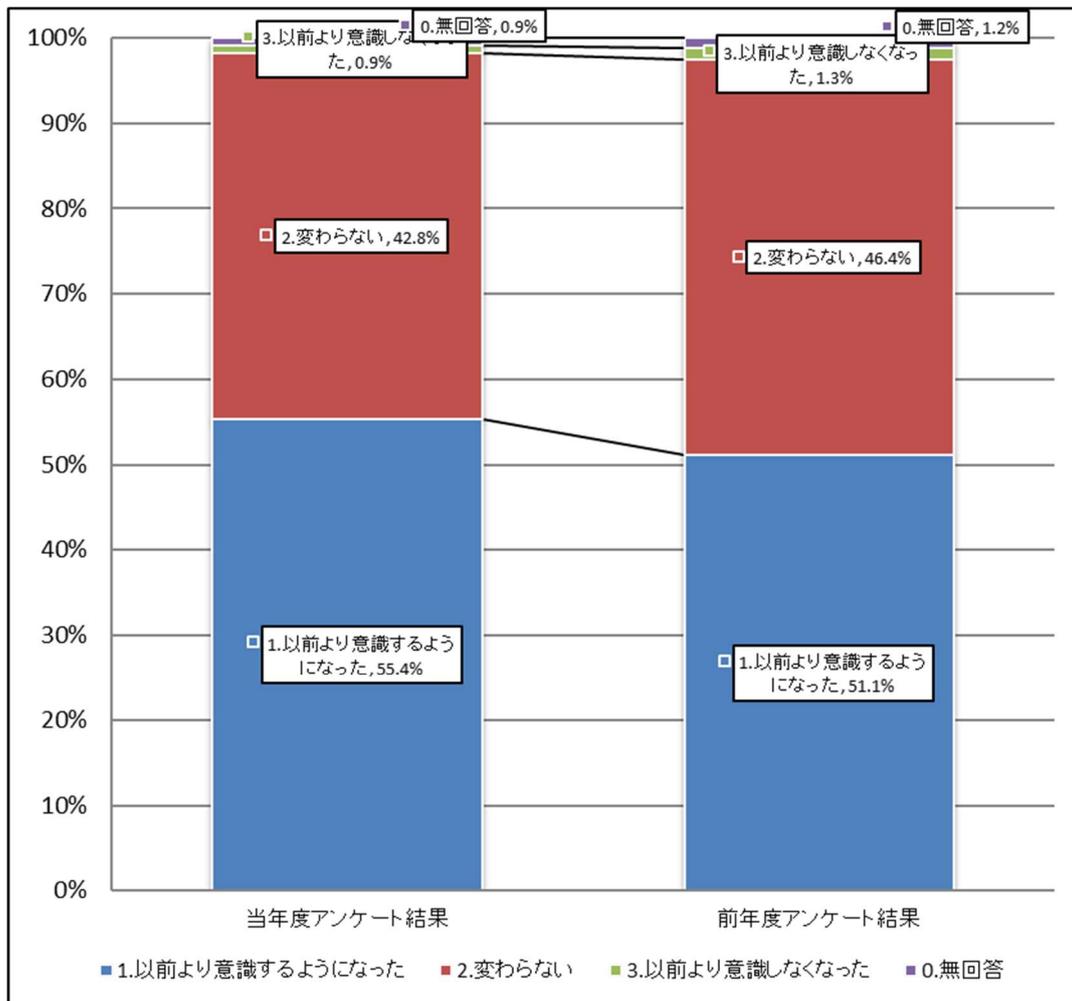
「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに30歳代（男性48.8%、女性49.3%）となっています。一方で、最も多い世代は、男性は70歳以上（65.8%）、女性は50歳代（66.2%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、岡部地区（48.9%）であり、次いで花園地区（51.4%）となっています。最も多い地区は、大寄地区（75.0%）であり、次いで幡羅地区（66.7%）となっています。

**環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになりましたか。**



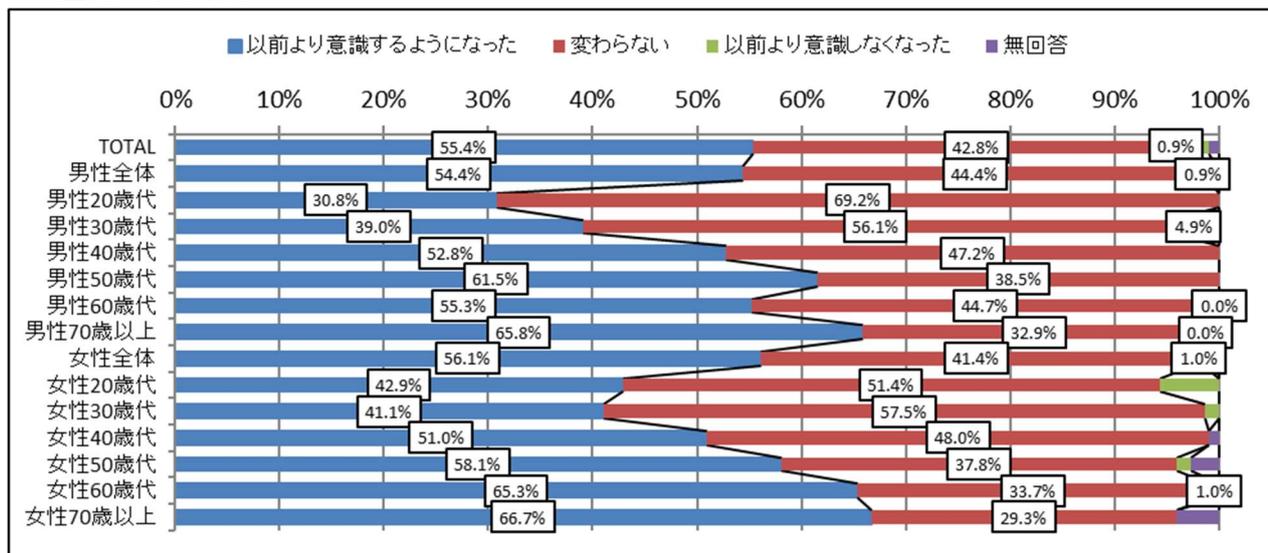
「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 55.4%と最も多く、次いで、「変わらない」と回答した人の割合が 42.8%となっています。

「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合は 0.9%とごくわずかであり、多くの市民が環境問題について、関心を持っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 51.1%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		意識するようになった 以前より	変わらない	意識しなくなった 以前より	無回答	合計
TOTAL	856	55.4%	42.8%	0.9%	0.9%	100.0%
男性全体	351	54.4%	44.4%	0.9%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	26	30.8%	69.2%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	39.0%	56.1%	4.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	52.8%	47.2%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	61.5%	38.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	55.3%	44.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	79	65.8%	32.9%	0.0%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	56.1%	41.4%	1.0%	1.4%	100.0%
女性 20 歳代	35	42.9%	51.4%	5.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	41.1%	57.5%	1.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	51.0%	48.0%	0.0%	1.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	58.1%	37.8%	1.4%	2.7%	100.0%
女性 60 歳代	101	65.3%	33.7%	1.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	66.7%	29.3%	0.0%	4.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	53.7%	44.4%	0.9%	0.9%	100.0%
藤沢地区	52	61.5%	36.5%	0.0%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	55.2%	42.9%	1.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	69.2%	26.9%	3.8%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	56.3%	43.8%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	11	72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	44.6%	52.5%	1.0%	2.0%	100.0%
南地区	51	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	55.4%	41.3%	0.0%	3.3%	100.0%
川本地区	69	65.2%	33.3%	1.4%	0.0%	100.0%
花園地区	70	60.0%	38.6%	1.4%	0.0%	100.0%
無回答	21	38.1%	61.9%	0.0%	0.0%	100.0%

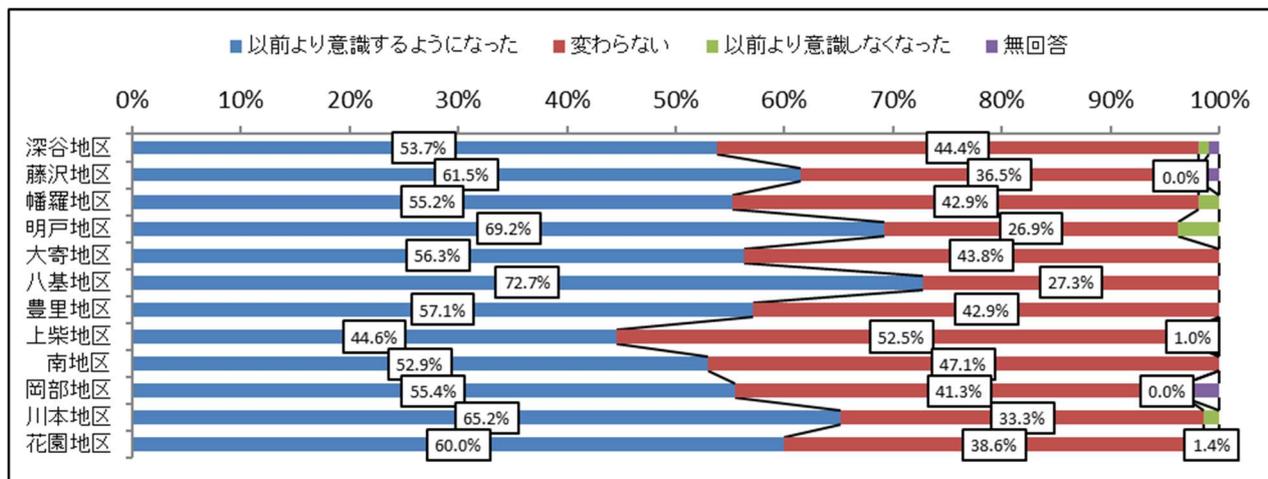
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は男性が54.4%であるのに対して、女性は56.1%となっています。

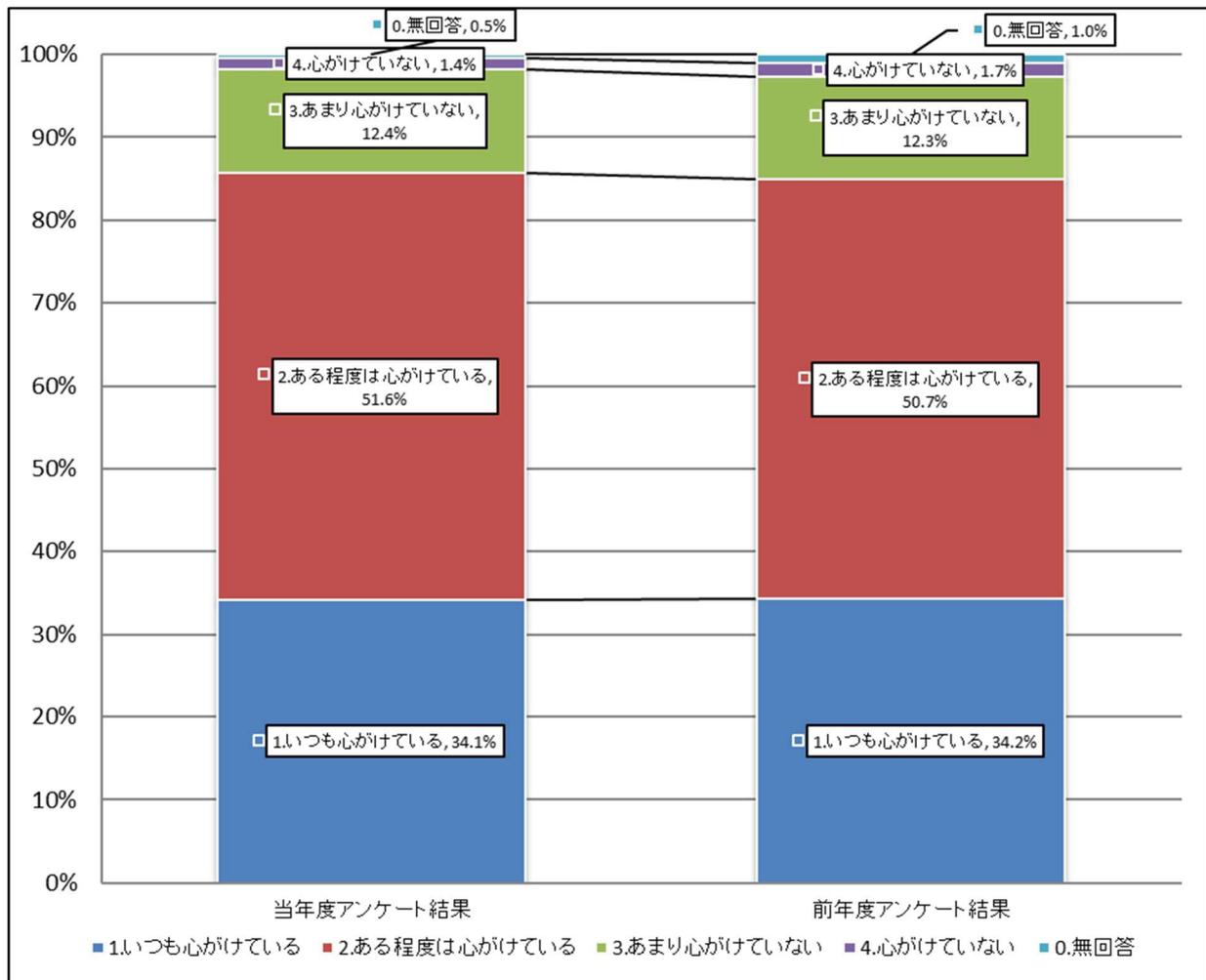
また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は20歳代(30.8%)、女性は30歳代(41.1%)となっています。一方で、最も多い世代は、男女ともに70歳代以上(男性65.8%、女性66.7%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない地区は、上柴地区(44.6%)であり、次いで深谷地区(53.7%)となっています。最も多い地区は、八基地区(72.7%)であり、次いで明戸地区(69.2%)となっています。

普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。



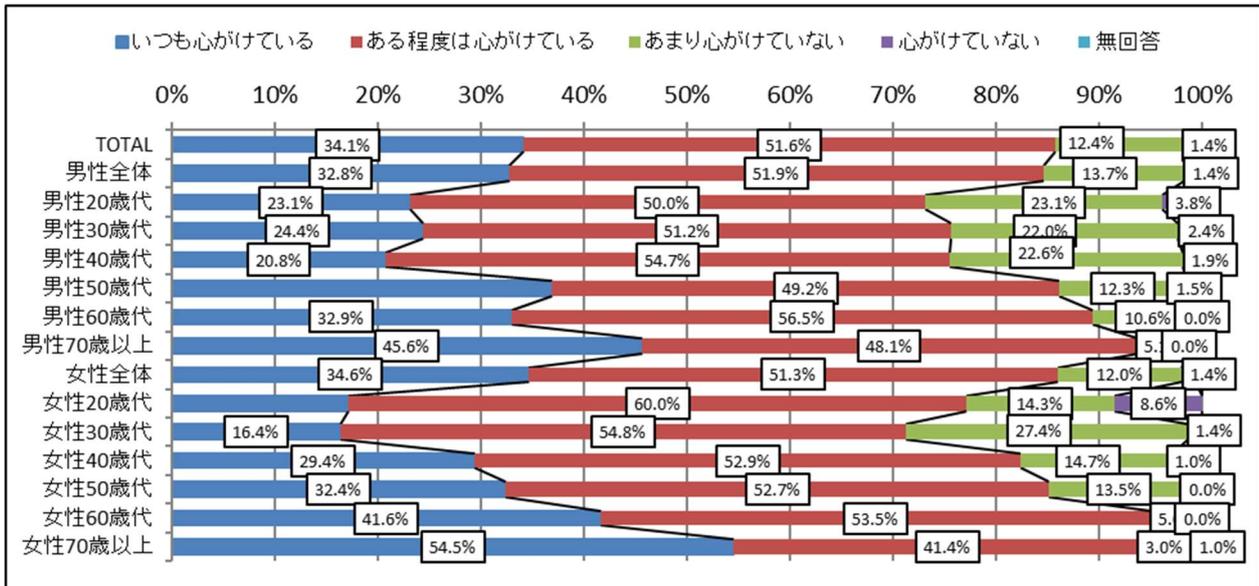
「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が 51.6%と最も多く、次いで、「いつも心がけている」と回答した人の割合が 34.1%、「あまり心がけていない」と回答した人の割合が 12.4%、「心がけていない」と回答した人の割合が最も少なく 1.4%となっています。

「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合は 85.7%であり、大多数の市民がごみの減量化やリサイクルを心がけていることがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合は 84.9%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		いつも心がけている	ある程度は心がけている	あまり心がけていない	心がけていない	無回答	合計
TOTAL	856	34.1%	51.6%	12.4%	1.4%	0.5%	100.0%
男性全体	351	32.8%	51.9%	13.7%	1.4%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	26	23.1%	50.0%	23.1%	3.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	24.4%	51.2%	22.0%	2.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	20.8%	54.7%	22.6%	1.9%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	36.9%	49.2%	12.3%	1.5%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	32.9%	56.5%	10.6%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	79	45.6%	48.1%	5.1%	0.0%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	34.6%	51.3%	12.0%	1.4%	0.6%	100.0%
女性 20 歳代	35	17.1%	60.0%	14.3%	8.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	16.4%	54.8%	27.4%	1.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	29.4%	52.9%	14.7%	1.0%	2.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	32.4%	52.7%	13.5%	0.0%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	101	41.6%	53.5%	5.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	54.5%	41.4%	3.0%	1.0%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	37.4%	48.1%	13.6%	0.9%	0.0%	100.0%
藤沢地区	52	40.4%	48.1%	9.6%	0.0%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	34.3%	51.4%	13.3%	1.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	38.5%	53.8%	7.7%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	50.0%	43.8%	6.3%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	11	54.5%	36.4%	9.1%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	39.3%	42.9%	17.9%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	25.7%	57.4%	14.9%	1.0%	1.0%	100.0%
南地区	51	29.4%	56.9%	9.8%	3.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	30.4%	53.3%	14.1%	0.0%	2.2%	100.0%
川本地区	69	40.6%	47.8%	10.1%	1.4%	0.0%	100.0%
花園地区	70	22.9%	61.4%	10.0%	5.7%	0.0%	100.0%
無回答	21	33.3%	52.4%	9.5%	4.8%	0.0%	100.0%

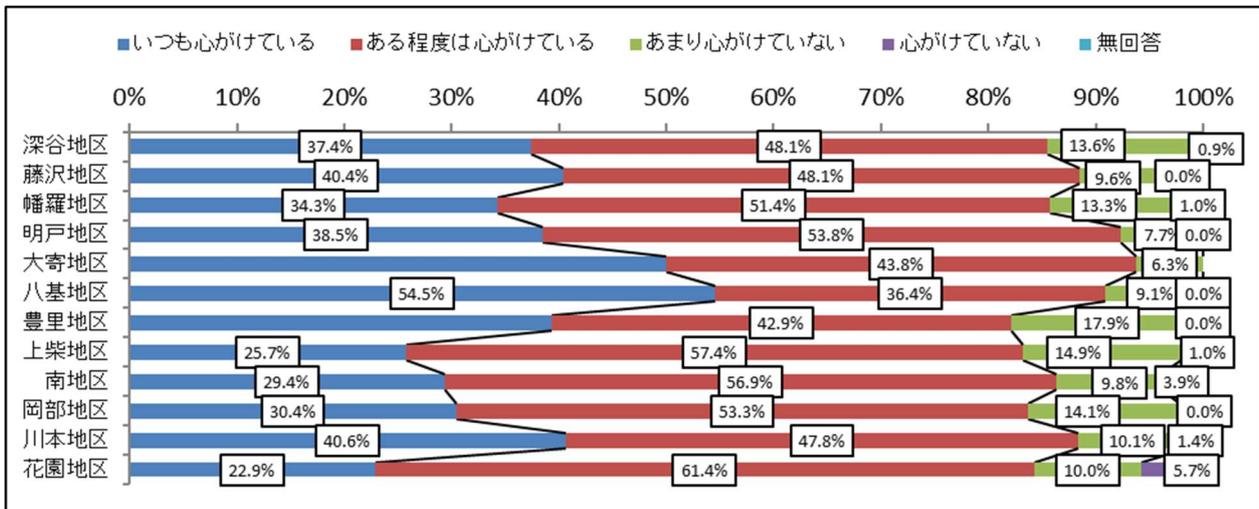
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合は男性が84.6%であるのに対して、女性は86.0%となっています。

また、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は20歳代(73.1%)、女性は30歳代(71.2%)となっています。一方で、最も多い世代は、男女ともに70歳以上(男性93.7%、女性96.0%)となっています。

➤ 地区別

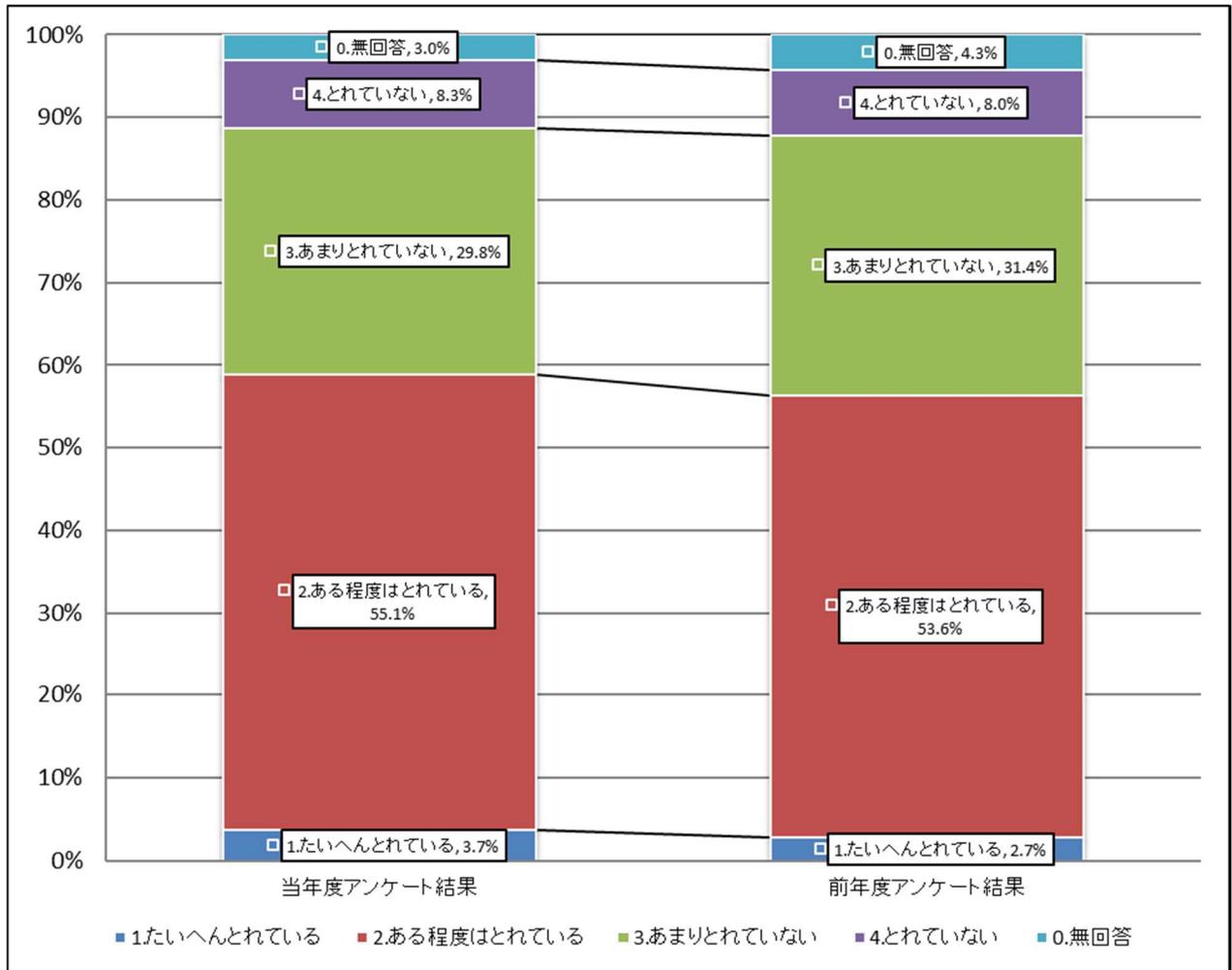


地区別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、豊里地区(82.1%)であり、次いで上柴地区(83.2%)となっています。最も多い地区は、大寄地区(93.8%)であり、次いで明戸地区(92.3%)となっています。

(6) 都市・生活基盤について

①快適な空間と景観づくり (6. 問1~4)

市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。



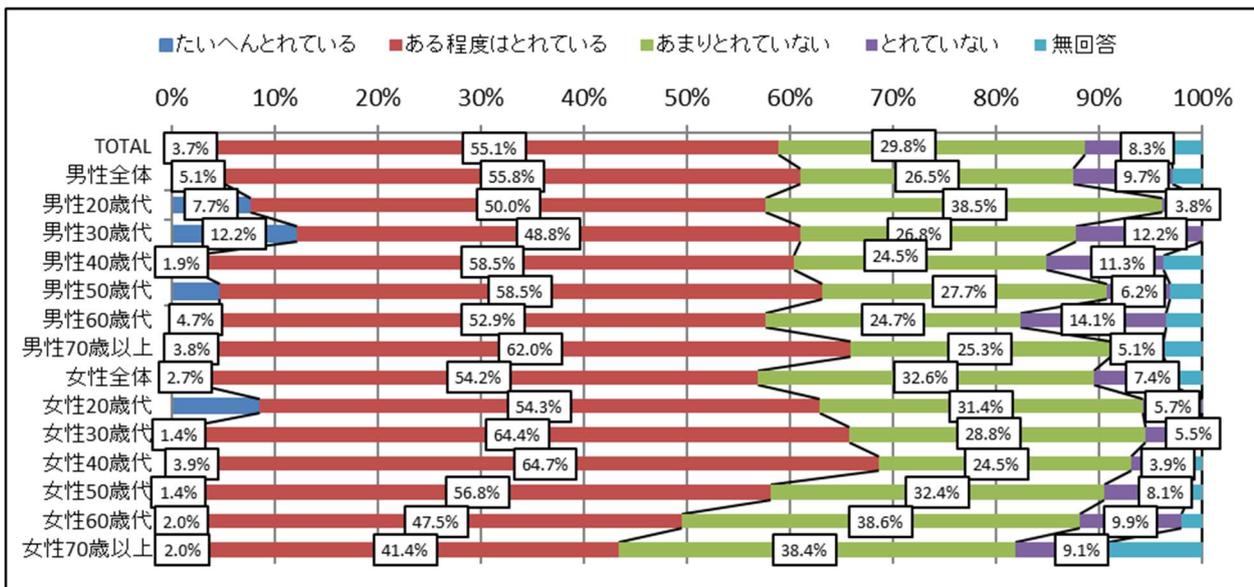
「ある程度はとれている」と回答した人の割合が 55.1%と最も多く、次いで「あまりとれていない」と回答した人の割合が 29.8%、「とれていない」と回答した人の割合が 8.3%、「たいへんとれている」と回答した人の割合が最も少なく 3.7%となっています。

「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合は 58.8%であり、6 割近くの人が、土地利用について調和がとれていると考えていることがうかがえます。

また、前年度アンケートの結果は、「ある程度はとれている」と回答した人の割合は 56.3%であり、前年度アンケートと比較して、増加したことがうかがえます。

母集団		たいへんとれている	ある程度はとれている	あまりとれていない	とれていない	無回答	合計
TOTAL	856	3.7%	55.1%	29.8%	8.3%	3.0%	100.0%
男性全体	351	5.1%	55.8%	26.5%	9.7%	2.8%	100.0%
男性20歳代	26	7.7%	50.0%	38.5%	3.8%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	12.2%	48.8%	26.8%	12.2%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	1.9%	58.5%	24.5%	11.3%	3.8%	100.0%
男性50歳代	65	4.6%	58.5%	27.7%	6.2%	3.1%	100.0%
男性60歳代	85	4.7%	52.9%	24.7%	14.1%	3.5%	100.0%
男性70歳以上	79	3.8%	62.0%	25.3%	5.1%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	2.7%	54.2%	32.6%	7.4%	3.1%	100.0%
女性20歳代	35	8.6%	54.3%	31.4%	5.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	1.4%	64.4%	28.8%	5.5%	0.0%	100.0%
女性40歳代	102	3.9%	64.7%	24.5%	3.9%	2.9%	100.0%
女性50歳代	74	1.4%	56.8%	32.4%	8.1%	1.4%	100.0%
女性60歳代	101	2.0%	47.5%	38.6%	9.9%	2.0%	100.0%
女性70歳以上	99	2.0%	41.4%	38.4%	9.1%	9.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	2.3%	57.0%	27.6%	10.3%	2.8%	100.0%
藤沢地区	52	0.0%	46.2%	36.5%	11.5%	5.8%	100.0%
幡羅地区	105	8.6%	58.1%	25.7%	5.7%	1.9%	100.0%
明戸地区	26	7.7%	42.3%	30.8%	15.4%	3.8%	100.0%
大寄地区	16	6.3%	50.0%	31.3%	0.0%	12.5%	100.0%
八基地区	11	0.0%	54.5%	27.3%	18.2%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	7.1%	32.1%	39.3%	21.4%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	1.0%	72.3%	20.8%	1.0%	5.0%	100.0%
南地区	51	3.9%	60.8%	31.4%	0.0%	3.9%	100.0%
岡部地区	92	4.3%	46.7%	38.0%	8.7%	2.2%	100.0%
川本地区	69	5.8%	49.3%	29.0%	14.5%	1.4%	100.0%
花園地区	70	0.0%	57.1%	37.1%	4.3%	1.4%	100.0%
無回答	21	9.5%	47.6%	23.8%	14.3%	4.8%	100.0%

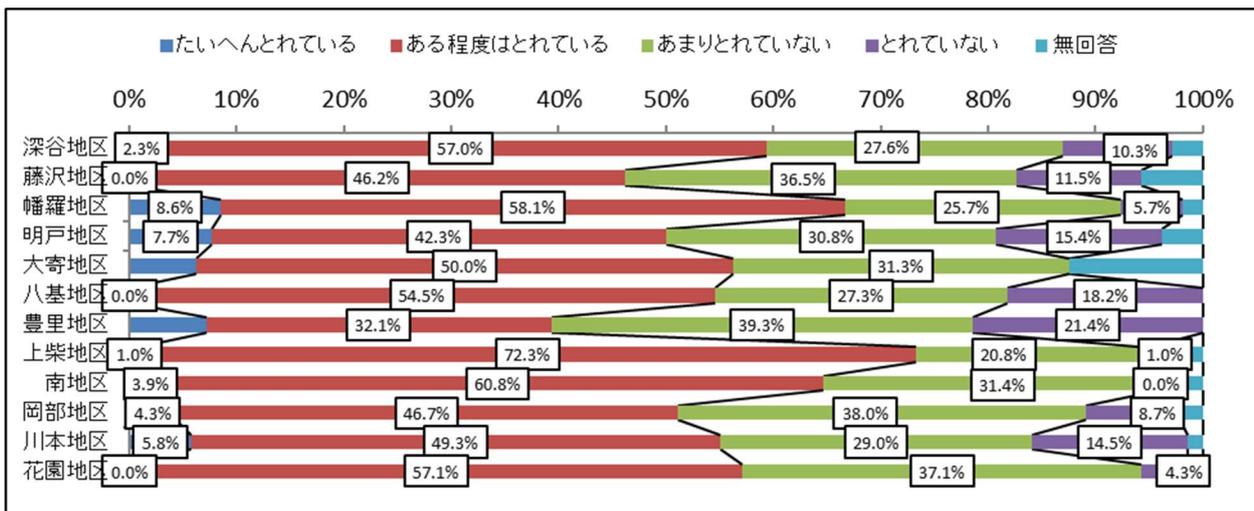
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合は男性が61.0%であるのに対して、女性は56.9%となっています。

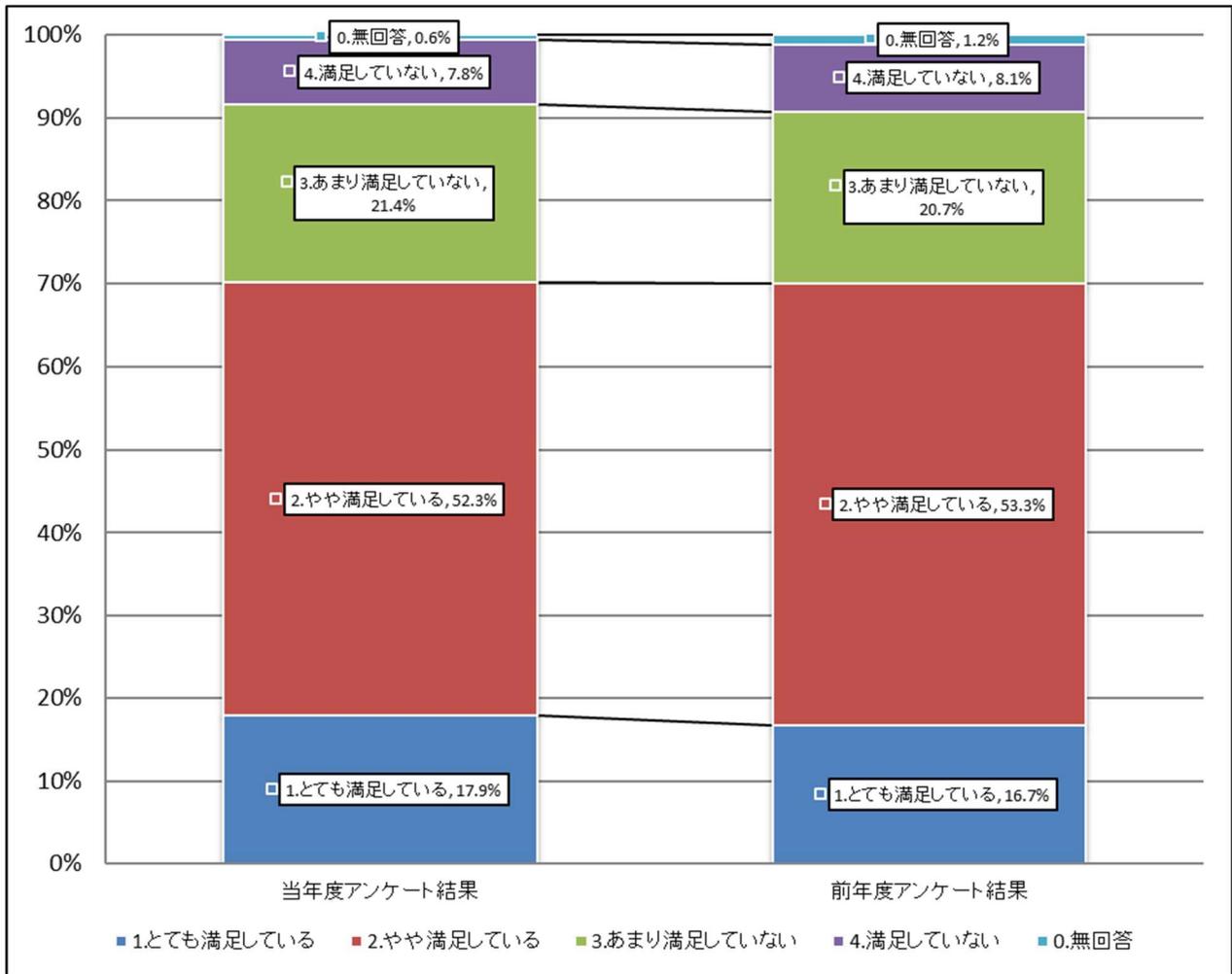
また、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は60歳代（57.6%）、女性は70歳以上（43.4%）であり、一方で最も多い世代は、男性が70歳以上（65.8%）、女性が40歳代（68.6%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区（39.3%）であり、次いで藤沢地区（46.2%）となっています。最も多いのは、上柴地区（73.3%）であり、次いで幡羅地区（66.7%）となっています。

**お住まい周辺の住環境に満足していますか。**



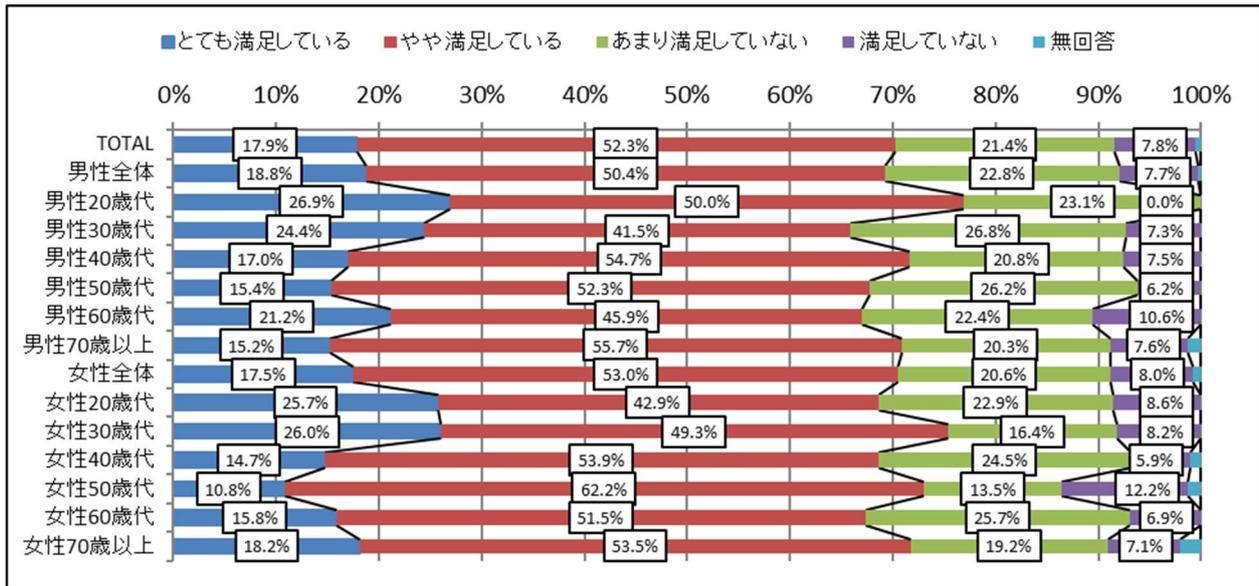
「やや満足している」と回答した人の割合が 52.3%と最も多く、次いで「あまり満足していない」と回答した人の割合が 21.4%、「とても満足している」と回答した人の割合が 17.9%、「満足していない」と回答した人の割合が最も少なく 7.8%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 70.2%であり、約 7 割の市民が、住まい周辺の住環境について満足していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は 70.0%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		とても満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答	合計
TOTAL	856	17.9%	52.3%	21.4%	7.8%	0.6%	100.0%
男性全体	351	18.8%	50.4%	22.8%	7.7%	0.3%	100.0%
男性20歳代	26	26.9%	50.0%	23.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	24.4%	41.5%	26.8%	7.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	17.0%	54.7%	20.8%	7.5%	0.0%	100.0%
男性50歳代	65	15.4%	52.3%	26.2%	6.2%	0.0%	100.0%
男性60歳代	85	21.2%	45.9%	22.4%	10.6%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	79	15.2%	55.7%	20.3%	7.6%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	17.5%	53.0%	20.6%	8.0%	0.8%	100.0%
女性20歳代	35	25.7%	42.9%	22.9%	8.6%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	26.0%	49.3%	16.4%	8.2%	0.0%	100.0%
女性40歳代	102	14.7%	53.9%	24.5%	5.9%	1.0%	100.0%
女性50歳代	74	10.8%	62.2%	13.5%	12.2%	1.4%	100.0%
女性60歳代	101	15.8%	51.5%	25.7%	6.9%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	99	18.2%	53.5%	19.2%	7.1%	2.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	20.1%	57.9%	15.4%	6.5%	0.0%	100.0%
藤沢地区	52	9.6%	50.0%	23.1%	15.4%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	20.0%	61.9%	16.2%	1.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	23.1%	26.9%	26.9%	19.2%	3.8%	100.0%
大寄地区	16	25.0%	43.8%	12.5%	18.8%	0.0%	100.0%
八基地区	11	9.1%	36.4%	54.5%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	10.7%	32.1%	35.7%	21.4%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	26.7%	60.4%	8.9%	2.0%	2.0%	100.0%
南地区	51	17.6%	58.8%	21.6%	2.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	9.8%	34.8%	40.2%	14.1%	1.1%	100.0%
川本地区	69	15.9%	43.5%	30.4%	10.1%	0.0%	100.0%
花園地区	70	15.7%	60.0%	18.6%	5.7%	0.0%	100.0%
無回答	21	14.3%	52.4%	23.8%	9.5%	0.0%	100.0%

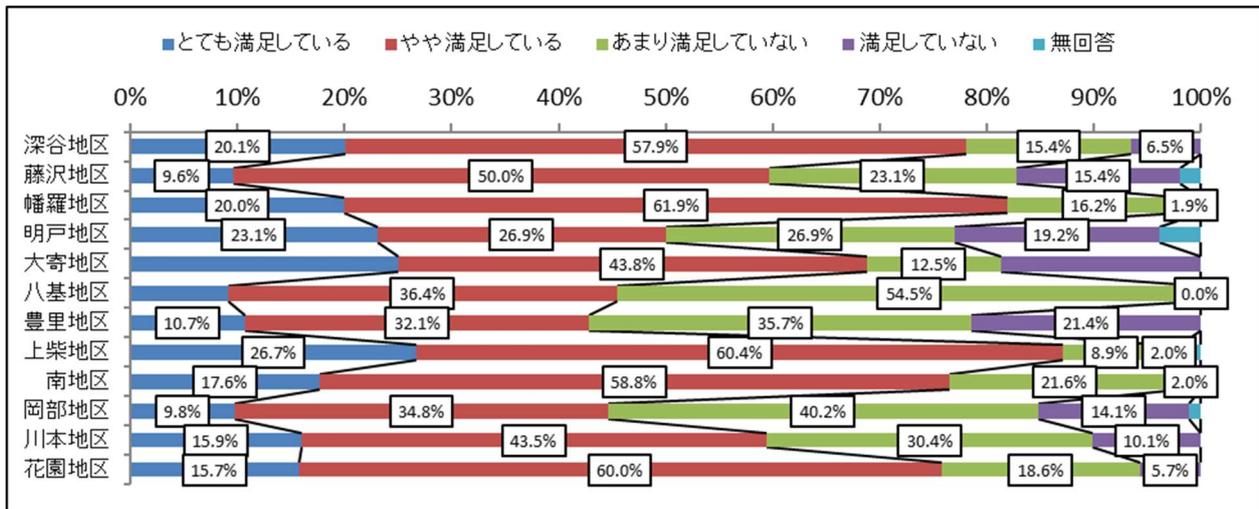
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合は男性が69.2%であるのに対して、女性は70.5%となっています。

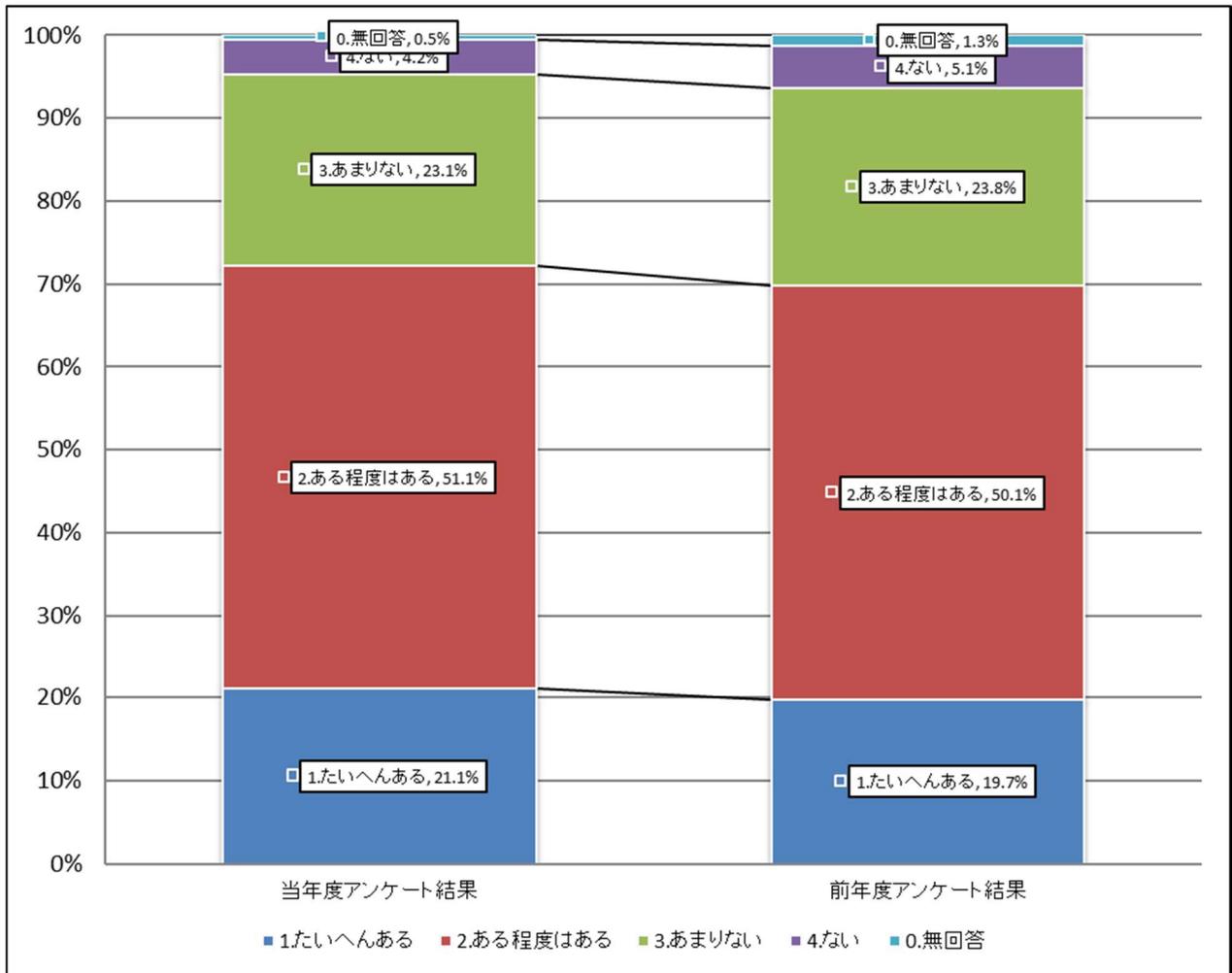
また、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は30歳代(65.9%)、女性は20歳代、40歳代(68.6%)であり、一方で最も多い世代は、男性が20歳代(76.9%)、女性が30歳代(75.3%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区(42.9%)であり、次いで八基地区(45.5%)となっています。最も多いのは、上柴地区(87.1%)であり、次いで幡羅地区(81.9%)となっています。

あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。



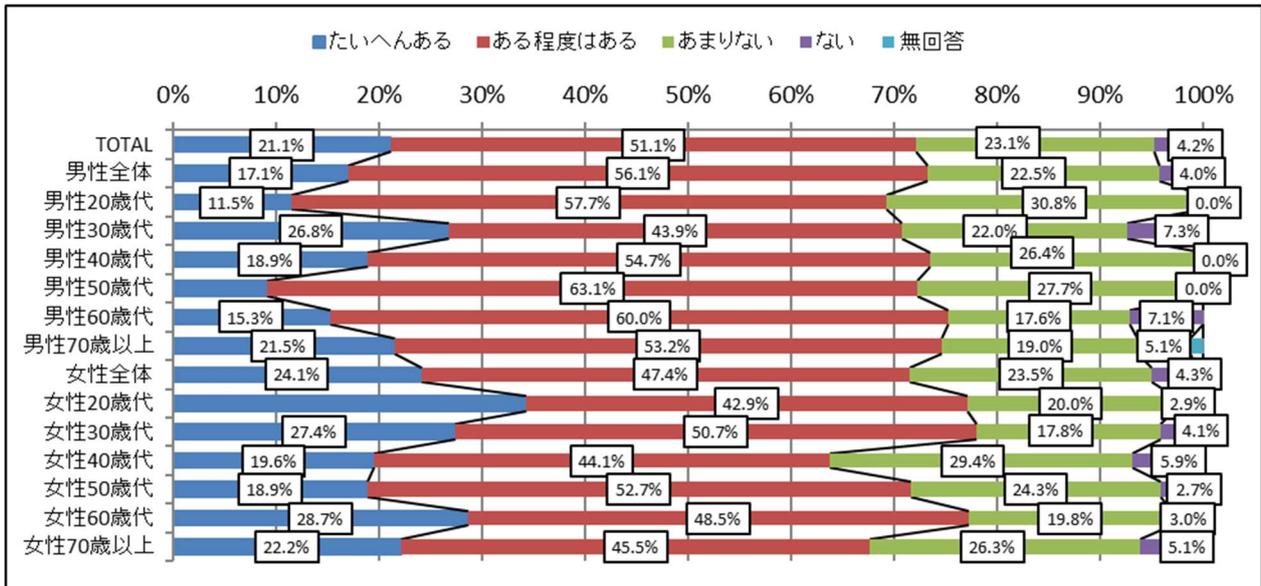
「ある程度はある」と回答した人の割合が 51.1%と最も多く、次いで「あまりない」と回答した人の割合が 23.1%、「たいへんある」と回答した人の割合が 21.1%、「ない」と回答した人の割合が最も少なく 4.2%となっています。

「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 72.2%であり、7 割以上の市民が、身近に自然に親しむことができる環境があると回答していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 69.8%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		たいへんある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	856	21.1%	51.1%	23.1%	4.2%	0.5%	100.0%
男性全体	351	17.1%	56.1%	22.5%	4.0%	0.3%	100.0%
男性20歳代	26	11.5%	57.7%	30.8%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	26.8%	43.9%	22.0%	7.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	18.9%	54.7%	26.4%	0.0%	0.0%	100.0%
男性50歳代	65	9.2%	63.1%	27.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性60歳代	85	15.3%	60.0%	17.6%	7.1%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	79	21.5%	53.2%	19.0%	5.1%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	24.1%	47.4%	23.5%	4.3%	0.6%	100.0%
女性20歳代	35	34.3%	42.9%	20.0%	2.9%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	27.4%	50.7%	17.8%	4.1%	0.0%	100.0%
女性40歳代	102	19.6%	44.1%	29.4%	5.9%	1.0%	100.0%
女性50歳代	74	18.9%	52.7%	24.3%	2.7%	1.4%	100.0%
女性60歳代	101	28.7%	48.5%	19.8%	3.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	99	22.2%	45.5%	26.3%	5.1%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	12.1%	57.9%	23.4%	6.1%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	36.5%	34.6%	26.9%	0.0%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	16.2%	52.4%	23.8%	7.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	30.8%	34.6%	26.9%	7.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	62.5%	31.3%	0.0%	6.3%	0.0%	100.0%
八基地区	11	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	35.7%	35.7%	21.4%	7.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	8.9%	54.5%	30.7%	5.0%	1.0%	100.0%
南地区	51	23.5%	62.7%	13.7%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	21.7%	43.5%	29.3%	4.3%	1.1%	100.0%
川本地区	69	39.1%	43.5%	17.4%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	21.4%	60.0%	18.6%	0.0%	0.0%	100.0%
無回答	21	14.3%	52.4%	28.6%	4.8%	0.0%	100.0%

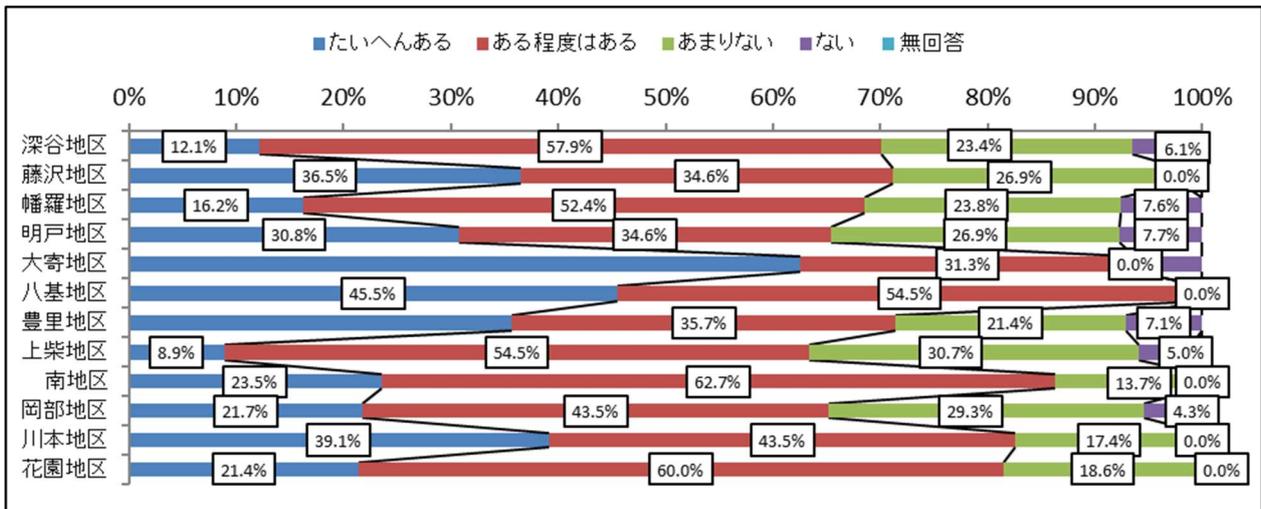
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は男性が73.2%であるのに対して、女性は71.5%となっています。

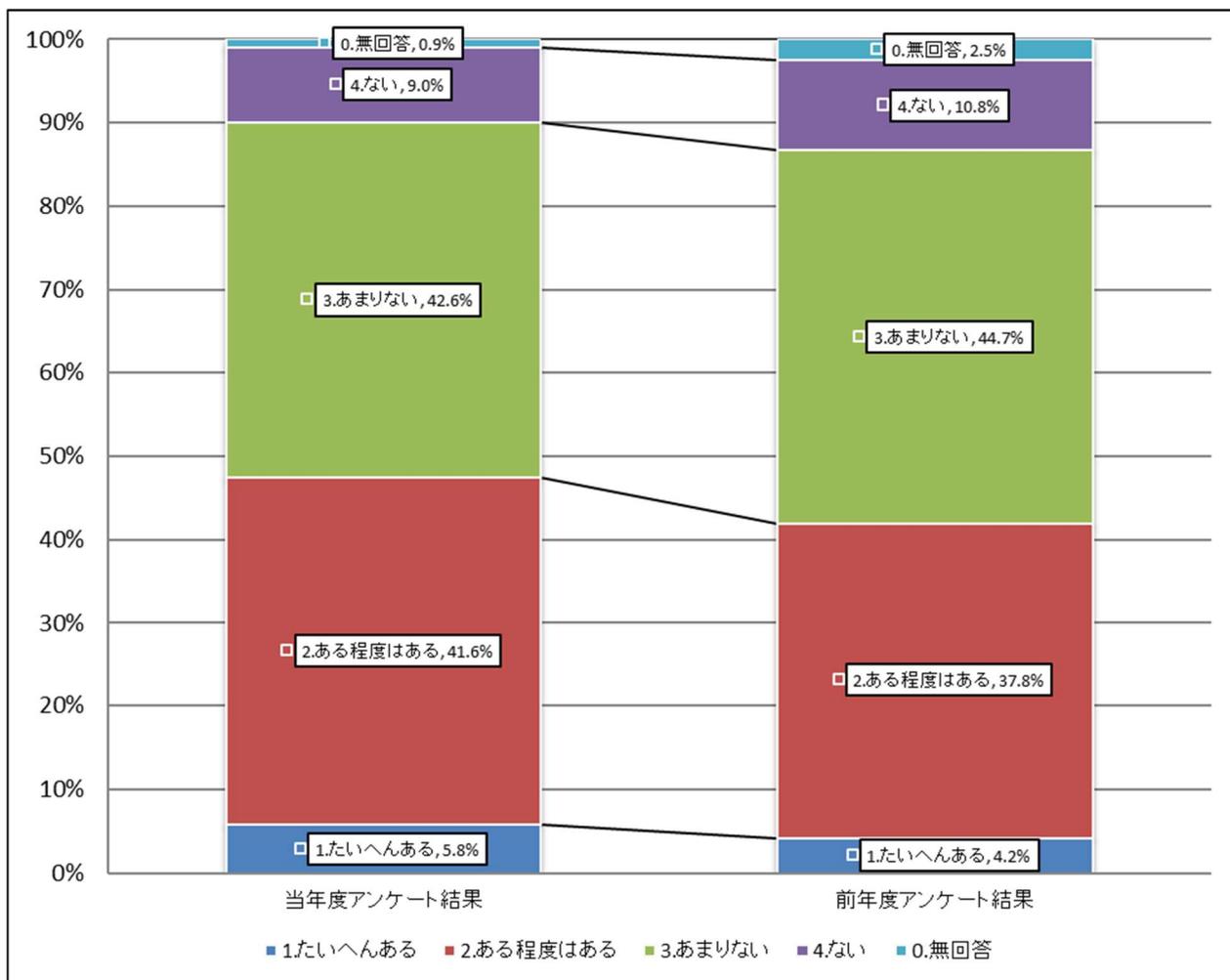
また、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は20歳代（69.2%）女性は40歳代（63.7%）であり、一方で最も多い世代は、男性が60歳代（75.3%）、女性が30歳代（78.1%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、上柴地区（63.4%）であり、次いで岡部地区（65.2%）となっています。最も多いのは、八基地区（100.0%）であり、次いで大寄地区（93.8%）となっています。

市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。



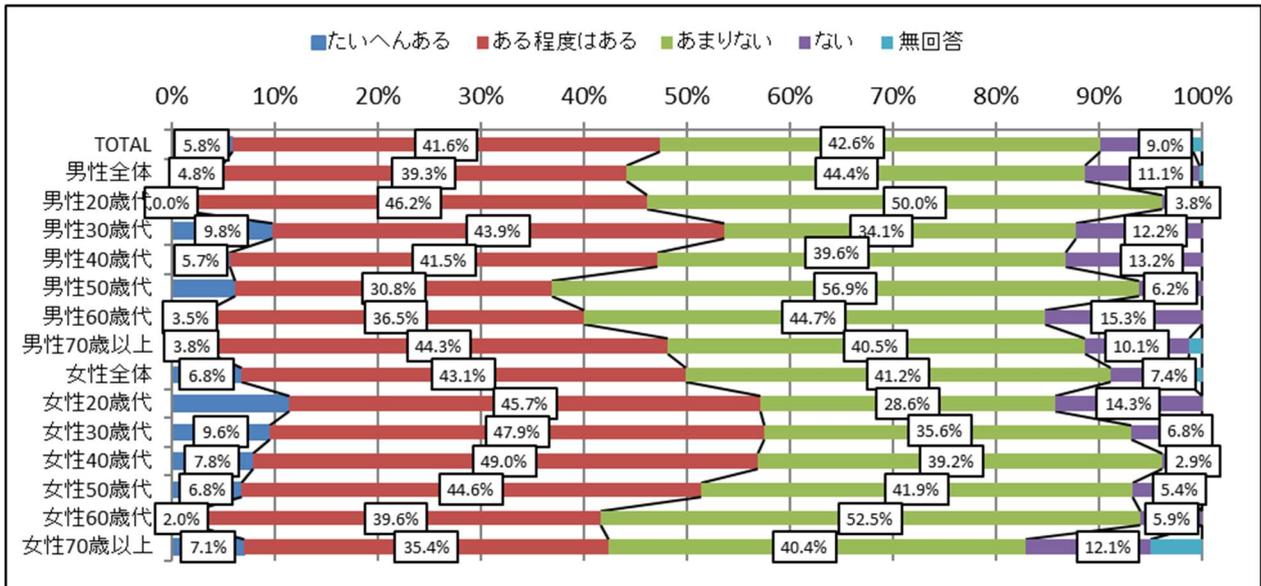
「あまりない」と回答した人の割合が 42.6%と最も多く、次いで「ある程度はある」と回答した人の割合が 41.6%、「ない」と回答した人の割合が 9.0%、「たいへんある」と回答した人の割合が最も少なく 5.8%となっています。

「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 47.4%であり、市内に魅力的なまち並みや景観があると答えた市民は、半数にも満たないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は 42.0%であり、前年度アンケートと比較して、大きく増加した結果となっています。

母集団		たいへんある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	856	5.8%	41.6%	42.6%	9.0%	0.9%	100.0%
男性全体	351	4.8%	39.3%	44.4%	11.1%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	26	0.0%	46.2%	50.0%	3.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	9.8%	43.9%	34.1%	12.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	5.7%	41.5%	39.6%	13.2%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	6.2%	30.8%	56.9%	6.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	3.5%	36.5%	44.7%	15.3%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	79	3.8%	44.3%	40.5%	10.1%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	6.8%	43.1%	41.2%	7.4%	1.4%	100.0%
女性 20 歳代	35	11.4%	45.7%	28.6%	14.3%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	9.6%	47.9%	35.6%	6.8%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	7.8%	49.0%	39.2%	2.9%	1.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	6.8%	44.6%	41.9%	5.4%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	101	2.0%	39.6%	52.5%	5.9%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	7.1%	35.4%	40.4%	12.1%	5.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	6.1%	41.1%	40.7%	11.7%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	11.5%	32.7%	48.1%	3.8%	3.8%	100.0%
幡羅地区	105	6.7%	45.7%	39.0%	7.6%	1.0%	100.0%
明戸地区	26	3.8%	38.5%	50.0%	3.8%	3.8%	100.0%
大寄地区	16	12.5%	43.8%	37.5%	0.0%	6.3%	100.0%
八基地区	11	0.0%	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	7.1%	32.1%	42.9%	17.9%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	2.0%	50.5%	45.5%	1.0%	1.0%	100.0%
南地区	51	3.9%	54.9%	33.3%	7.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	5.4%	27.2%	48.9%	17.4%	1.1%	100.0%
川本地区	69	7.2%	39.1%	44.9%	8.7%	0.0%	100.0%
花園地区	70	7.1%	41.4%	41.4%	10.0%	0.0%	100.0%
無回答	21	0.0%	47.6%	42.9%	9.5%	0.0%	100.0%

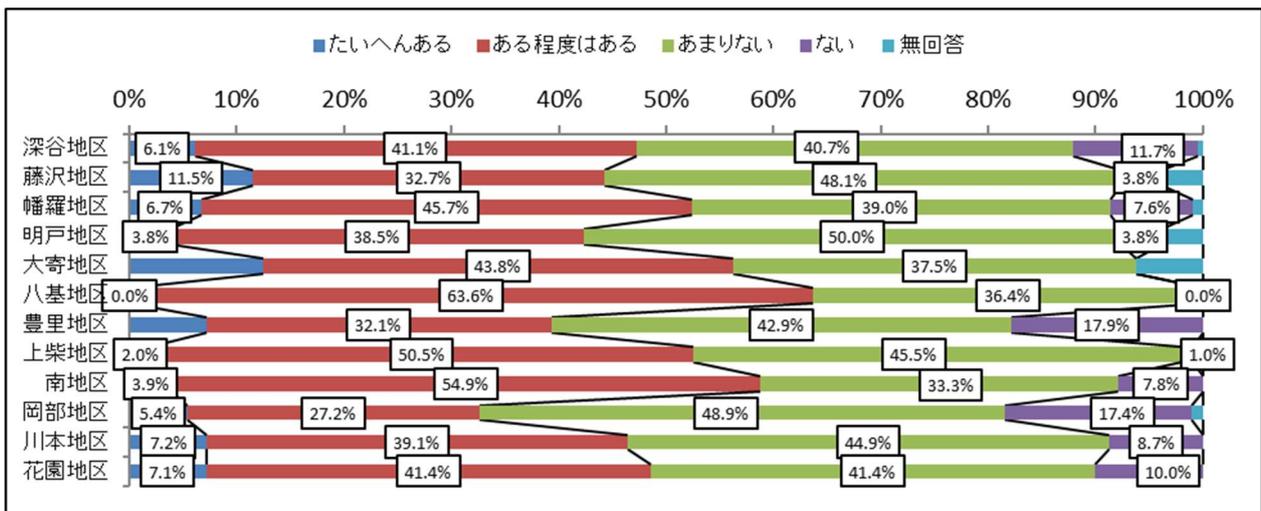
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合は男性が44.2%であるのに対して、女性は49.9%となっています。

また、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が50歳代（36.9%）、女性が60歳代（41.6%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに30歳代（男性53.7%、女性57.5%）となっています。

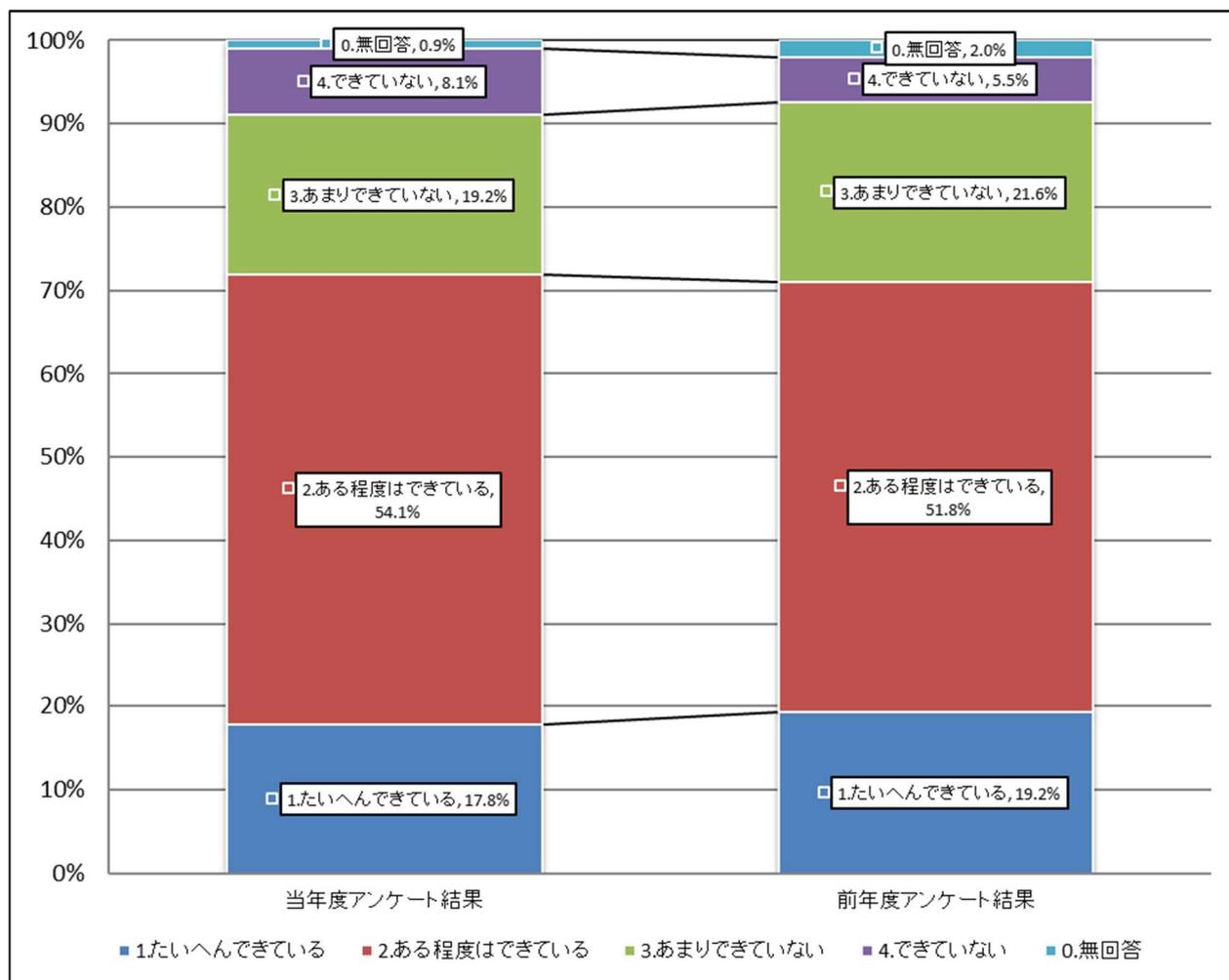
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合が最も少ないのは、岡部地区（32.6%）であり、次いで豊里地区（39.3%）となっています。最も多いのは、八基地区（63.6%）であり、次いで南地区（58.8%）となっています。

## ②良好で快適な都市環境の形成（6. 問5～7）

水害に対して安心した生活を送ることができていますか。



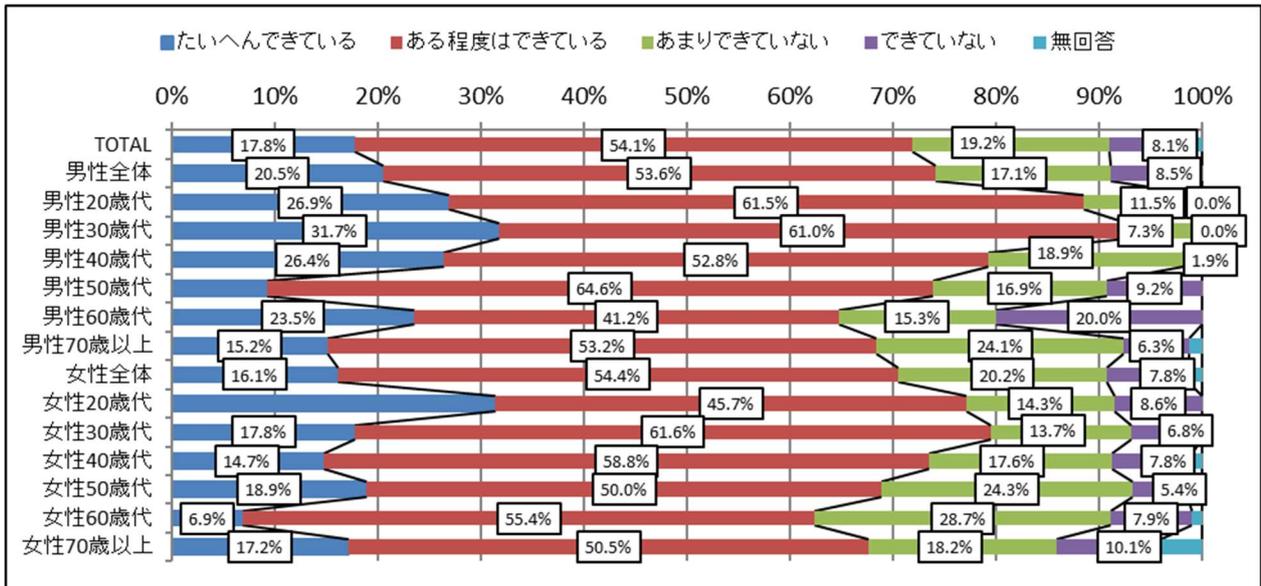
「ある程度はできている」と回答した人の割合が 54.1%と最も多く、次いで「あまりできていない」と回答した人の割合が 19.2%、「たいへんできている」と回答した人の割合が 17.8%、「できていない」と回答した人の割合が最も少なく 8.1%となっています。

「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合は 71.9%であり、7割以上の市民が、水害に対して安心した生活ができていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合は 71.0%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		たいへんできている	ある程度はできている	あまりできていない	できていない	無回答	合計
TOTAL	856	17.8%	54.1%	19.2%	8.1%	0.9%	100.0%
男性全体	351	20.5%	53.6%	17.1%	8.5%	0.3%	100.0%
男性20歳代	26	26.9%	61.5%	11.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	31.7%	61.0%	7.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	26.4%	52.8%	18.9%	1.9%	0.0%	100.0%
男性50歳代	65	9.2%	64.6%	16.9%	9.2%	0.0%	100.0%
男性60歳代	85	23.5%	41.2%	15.3%	20.0%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	79	15.2%	53.2%	24.1%	6.3%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	16.1%	54.4%	20.2%	7.8%	1.4%	100.0%
女性20歳代	35	31.4%	45.7%	14.3%	8.6%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	17.8%	61.6%	13.7%	6.8%	0.0%	100.0%
女性40歳代	102	14.7%	58.8%	17.6%	7.8%	1.0%	100.0%
女性50歳代	74	18.9%	50.0%	24.3%	5.4%	1.4%	100.0%
女性60歳代	101	6.9%	55.4%	28.7%	7.9%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	99	17.2%	50.5%	18.2%	10.1%	4.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	13.6%	56.1%	15.4%	14.5%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	32.7%	48.1%	7.7%	9.6%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	23.8%	57.1%	16.2%	1.0%	1.9%	100.0%
明戸地区	26	7.7%	53.8%	30.8%	3.8%	3.8%	100.0%
大寄地区	16	18.8%	37.5%	31.3%	12.5%	0.0%	100.0%
八基地区	11	0.0%	18.2%	45.5%	36.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	7.1%	21.4%	42.9%	28.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	22.8%	62.4%	12.9%	0.0%	2.0%	100.0%
南地区	51	27.5%	52.9%	15.7%	3.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	18.5%	51.1%	21.7%	7.6%	1.1%	100.0%
川本地区	69	11.6%	50.7%	31.9%	5.8%	0.0%	100.0%
花園地区	70	12.9%	68.6%	14.3%	4.3%	0.0%	100.0%
無回答	21	14.3%	47.6%	33.3%	4.8%	0.0%	100.0%

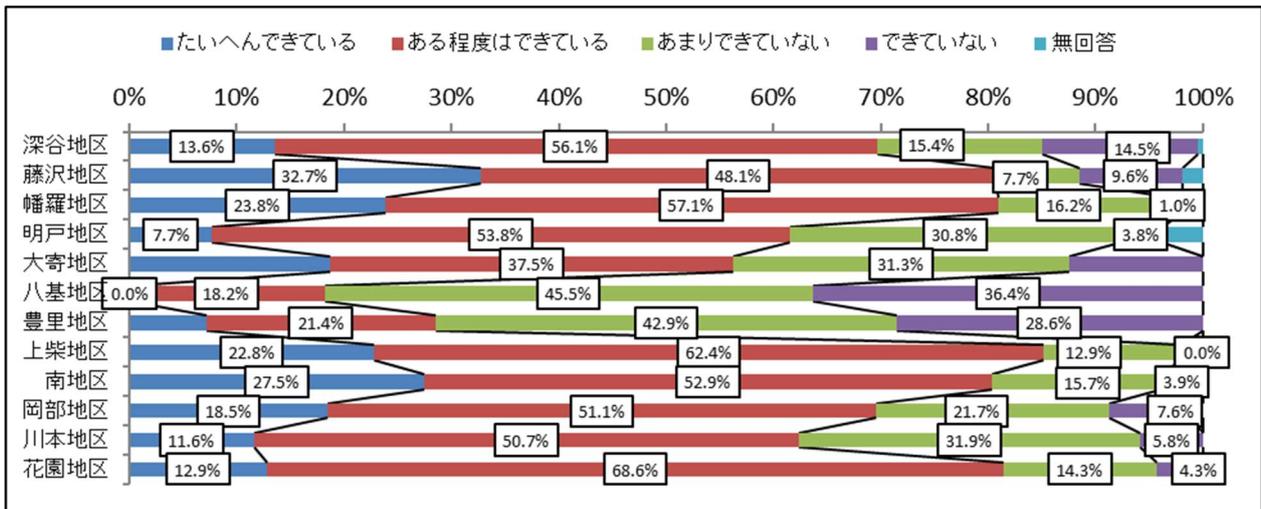
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合は男性が74.1%であるのに対して、女性は70.5%となっています。

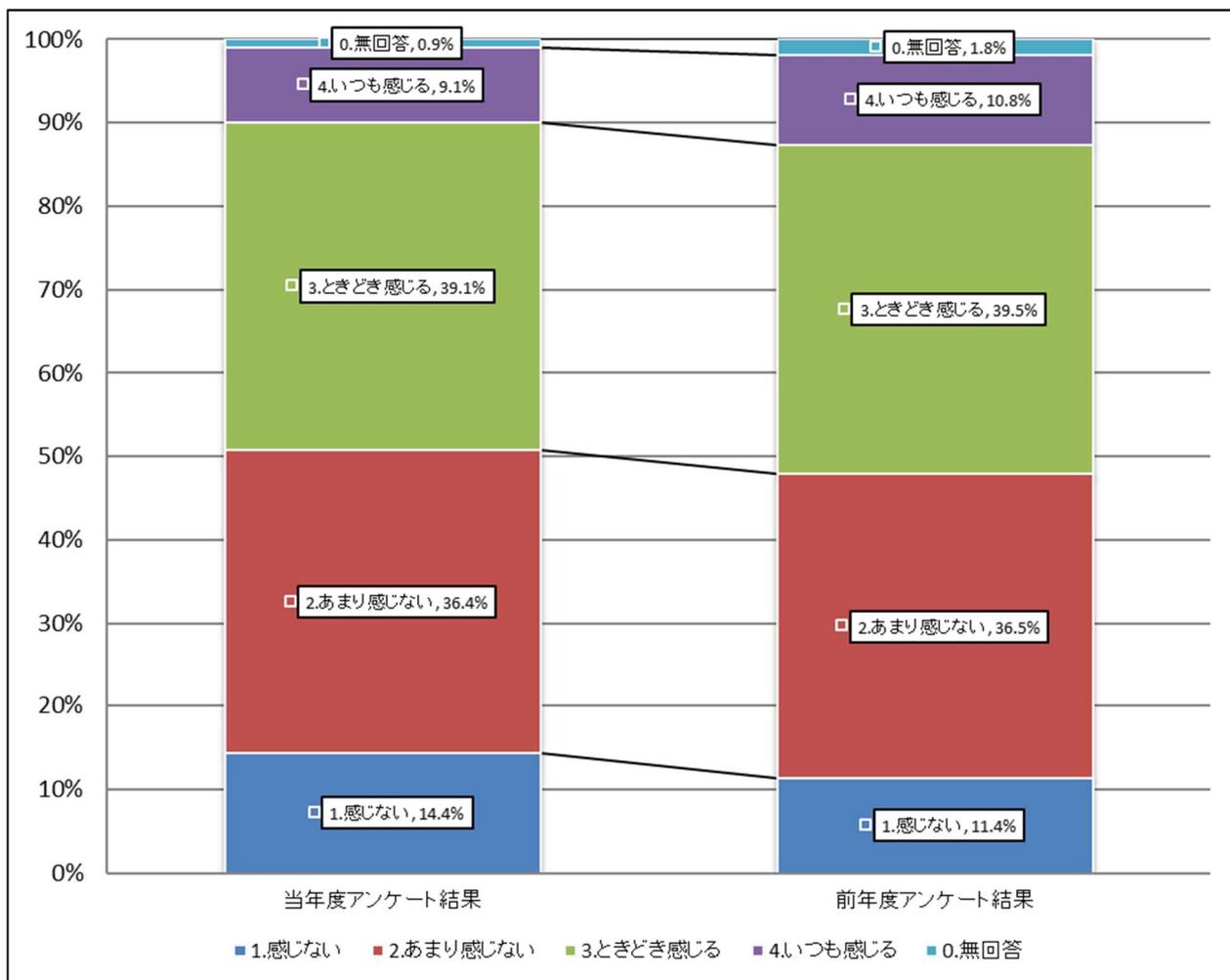
また、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに60歳代（男性64.7%、女性62.4%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに30歳代（男性92.7%、女性79.5%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区（18.2%）であり、次いで豊里地区（28.6%）となっています。最も多いのは、上柴地区（85.1%）であり、次いで花園地区（81.4%）となっています。

市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。

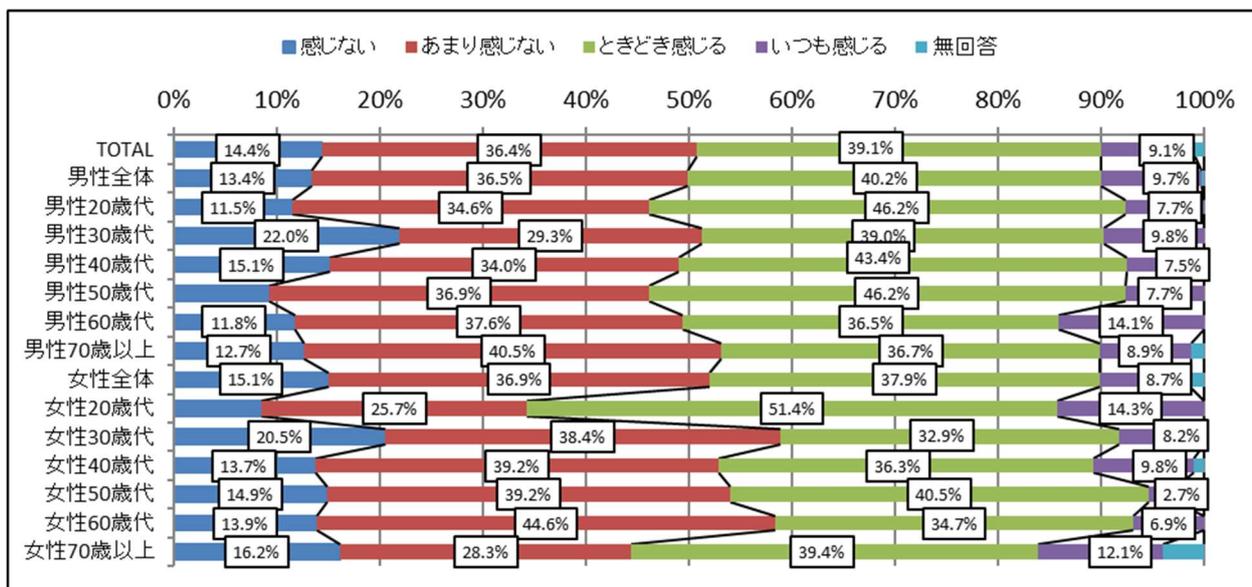


「ときどき感じる」と回答した人の割合が39.1%と最も多く、次いで「あまり感じない」と回答した人の割合が36.4%、「感じない」と回答した人の割合が14.4%、「いつも感じる」と回答した人の割合が最も少なく9.1%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は50.8%にとどまり、半数以上の市民が、市内の道路を利用する際に不便を感じていることがうかがえますが、「前年度アンケート」の結果、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は47.9%であり、前年度アンケートと比較して、不便を感じていないという回答は増加した結果となっています。

母集団		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	856	14.4%	36.4%	39.1%	9.1%	0.9%	100.0%
男性全体	351	13.4%	36.5%	40.2%	9.7%	0.3%	100.0%
男性20歳代	26	11.5%	34.6%	46.2%	7.7%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	22.0%	29.3%	39.0%	9.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	15.1%	34.0%	43.4%	7.5%	0.0%	100.0%
男性50歳代	65	9.2%	36.9%	46.2%	7.7%	0.0%	100.0%
男性60歳代	85	11.8%	37.6%	36.5%	14.1%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	79	12.7%	40.5%	36.7%	8.9%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	15.1%	36.9%	37.9%	8.7%	1.4%	100.0%
女性20歳代	35	8.6%	25.7%	51.4%	14.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	20.5%	38.4%	32.9%	8.2%	0.0%	100.0%
女性40歳代	102	13.7%	39.2%	36.3%	9.8%	1.0%	100.0%
女性50歳代	74	14.9%	39.2%	40.5%	2.7%	2.7%	100.0%
女性60歳代	101	13.9%	44.6%	34.7%	6.9%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	99	16.2%	28.3%	39.4%	12.1%	4.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	14.5%	32.2%	43.0%	9.8%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	9.6%	50.0%	30.8%	7.7%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	23.8%	33.3%	37.1%	4.8%	1.0%	100.0%
明戸地区	26	3.8%	38.5%	42.3%	11.5%	3.8%	100.0%
大寄地区	16	25.0%	31.3%	37.5%	6.3%	0.0%	100.0%
八基地区	11	9.1%	45.5%	27.3%	18.2%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	17.9%	28.6%	42.9%	10.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	12.9%	41.6%	37.6%	5.9%	2.0%	100.0%
南地区	51	9.8%	47.1%	31.4%	11.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	10.9%	35.9%	41.3%	9.8%	2.2%	100.0%
川本地区	69	15.9%	39.1%	34.8%	10.1%	0.0%	100.0%
花園地区	70	11.4%	31.4%	45.7%	11.4%	0.0%	100.0%
無回答	21	19.0%	28.6%	38.1%	14.3%	0.0%	100.0%

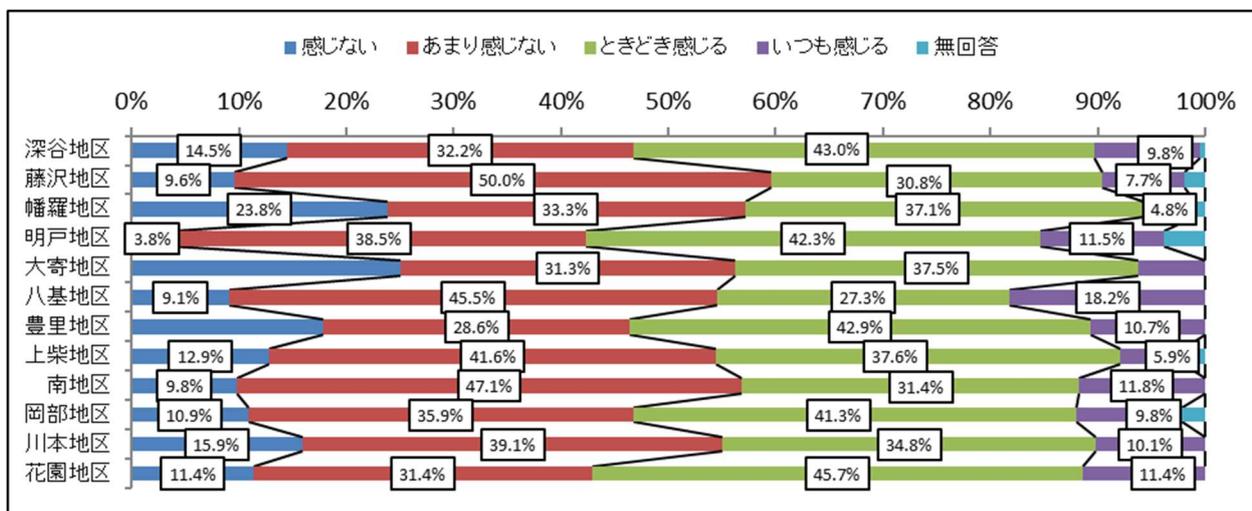
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は男性が49.9%であるのに対して、女性は52.0%となっています。

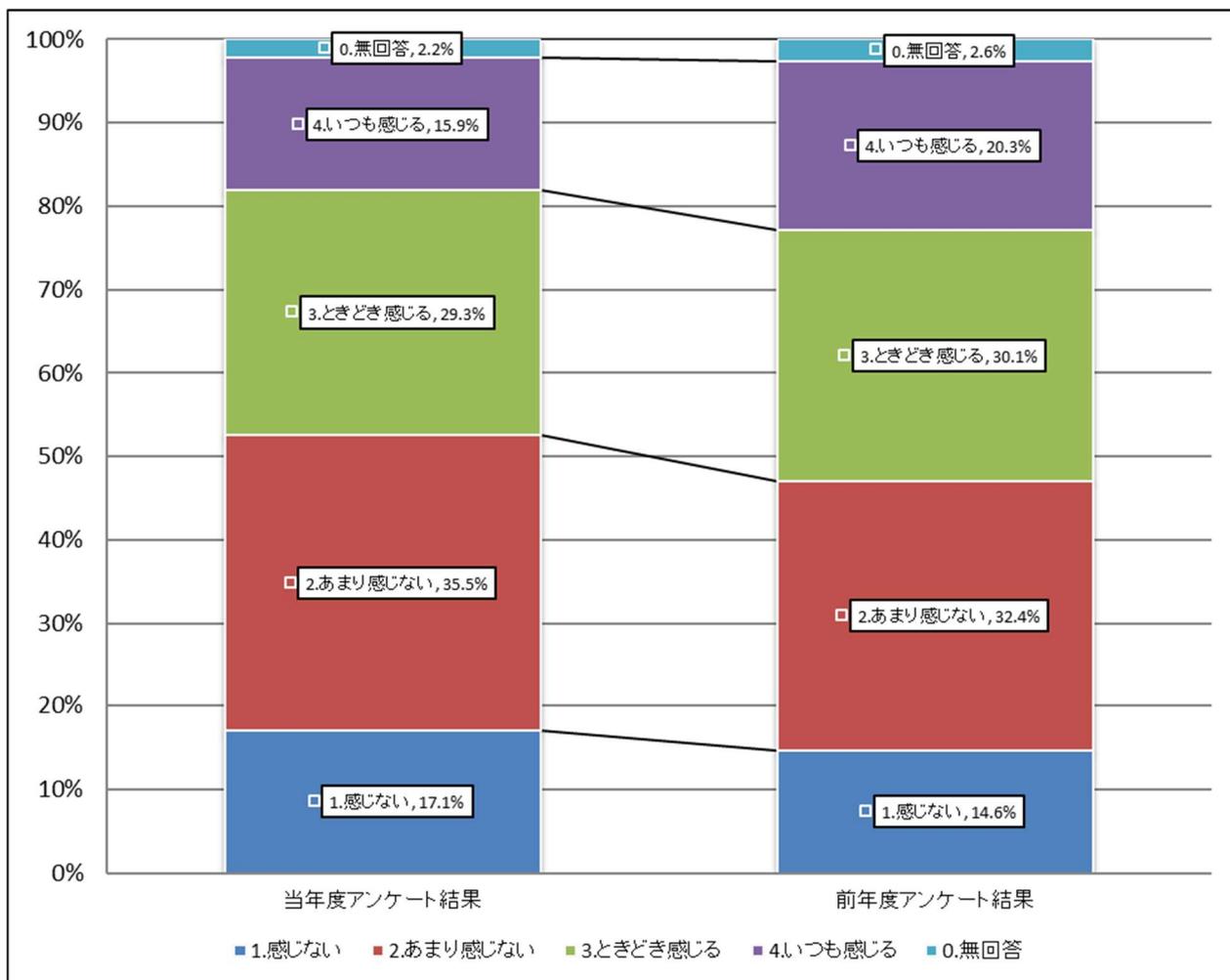
また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が20歳代、50歳代（46.2%）、女性が20歳代（34.3%）であり、一方で最も多い世代は、男性が70歳以上（53.2%）、女性が30歳代（58.9%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（42.3%）であり、次いで花園地区（42.9%）となっています。最も多いのは、藤沢地区（59.6%）であり、次いで南地区（56.9%）となっています。

市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。

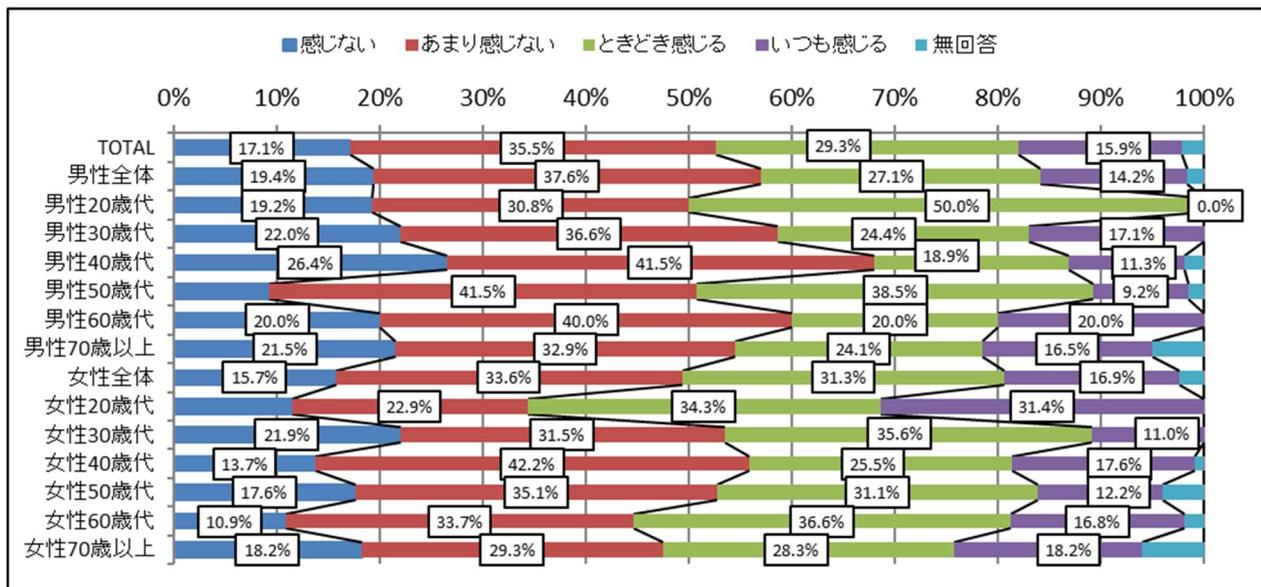


「あまり感じない」と回答した人の割合が 35.5%と最も多く、次いで「ときどき感じる」と回答した人の割合が 29.3%、「感じない」と回答した人の割合が 17.1%、「いつも感じる」と回答した人の割合が最も少なく 15.9%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は 52.6%となっており、半数以上の市民が、市内の公共交通機関の利便性に不便を感じていることがうかがえますが、「前年度アンケート」の結果は、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は 47.0%であり、前年度アンケートと比較して、増加した結果となっています。

母集団		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	856	17.1%	35.5%	29.3%	15.9%	2.2%	100.0%
男性全体	351	19.4%	37.6%	27.1%	14.2%	1.7%	100.0%
男性20歳代	26	19.2%	30.8%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	22.0%	36.6%	24.4%	17.1%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	26.4%	41.5%	18.9%	11.3%	1.9%	100.0%
男性50歳代	65	9.2%	41.5%	38.5%	9.2%	1.5%	100.0%
男性60歳代	85	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	79	21.5%	32.9%	24.1%	16.5%	5.1%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	15.7%	33.6%	31.3%	16.9%	2.5%	100.0%
女性20歳代	35	11.4%	22.9%	34.3%	31.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	21.9%	31.5%	35.6%	11.0%	0.0%	100.0%
女性40歳代	102	13.7%	42.2%	25.5%	17.6%	1.0%	100.0%
女性50歳代	74	17.6%	35.1%	31.1%	12.2%	4.1%	100.0%
女性60歳代	101	10.9%	33.7%	36.6%	16.8%	2.0%	100.0%
女性70歳以上	99	18.2%	29.3%	28.3%	18.2%	6.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	21.0%	40.7%	26.2%	9.8%	2.3%	100.0%
藤沢地区	52	19.2%	34.6%	30.8%	13.5%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	20.0%	30.5%	32.4%	16.2%	1.0%	100.0%
明戸地区	26	19.2%	30.8%	23.1%	19.2%	7.7%	100.0%
大寄地区	16	25.0%	37.5%	12.5%	18.8%	6.3%	100.0%
八基地区	11	9.1%	18.2%	36.4%	36.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	14.3%	32.1%	14.3%	39.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	14.9%	40.6%	36.6%	5.9%	2.0%	100.0%
南地区	51	13.7%	41.2%	27.5%	15.7%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	13.0%	32.6%	29.3%	21.7%	3.3%	100.0%
川本地区	69	11.6%	39.1%	24.6%	21.7%	2.9%	100.0%
花園地区	70	17.1%	22.9%	37.1%	21.4%	1.4%	100.0%
無回答	21	9.5%	33.3%	38.1%	19.0%	0.0%	100.0%

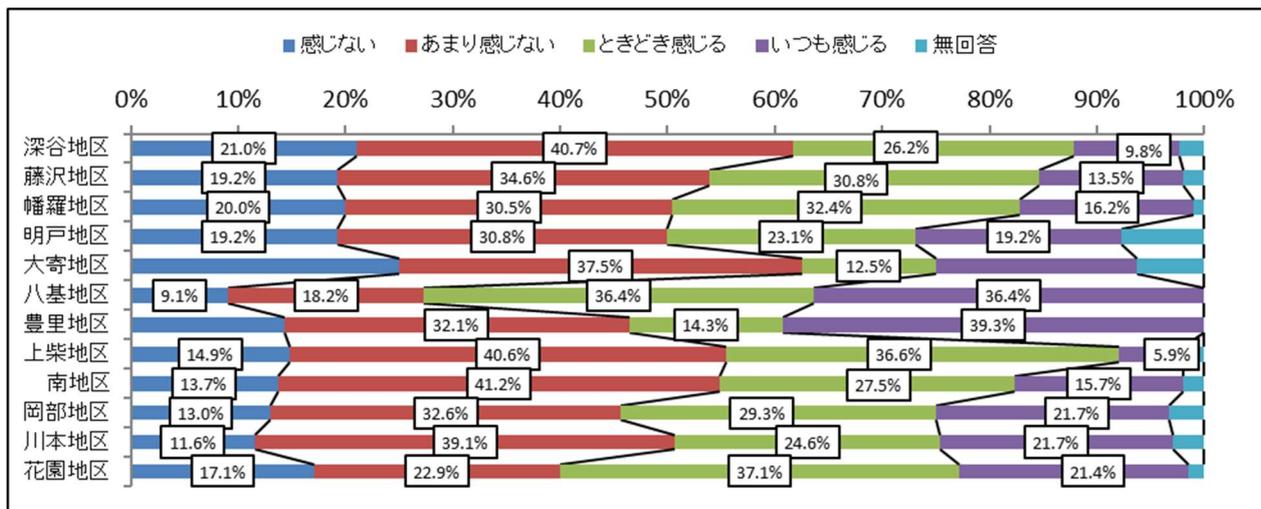
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は男性が57.0%であるのに対して、女性は49.3%となっています。

また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに20歳代（男性50.0%、女性34.3%）であり、一方で最も多い世代は、男女ともに40歳代（男性67.9%、女性55.9%）となっています。

## ➤ 地区別

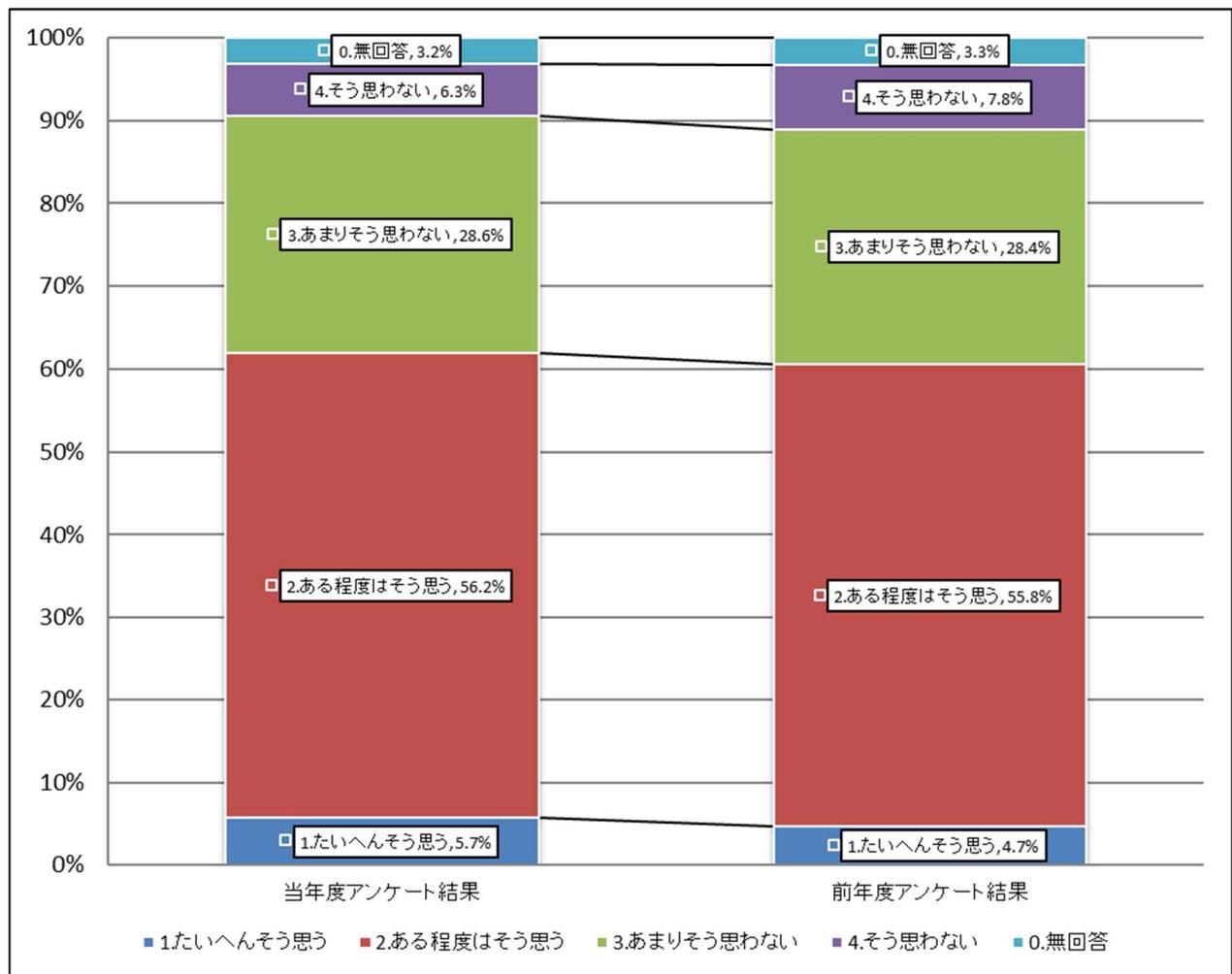


地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区（27.3%）であり、次いで花園地区（40.0%）となっています。最も多いのは、大寄地区（62.5%）であり、次いで深谷地区（61.7%）となっています。

(7) 協働・行政経営について

①人権を尊重する社会づくり (7. 問1～4)

深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。



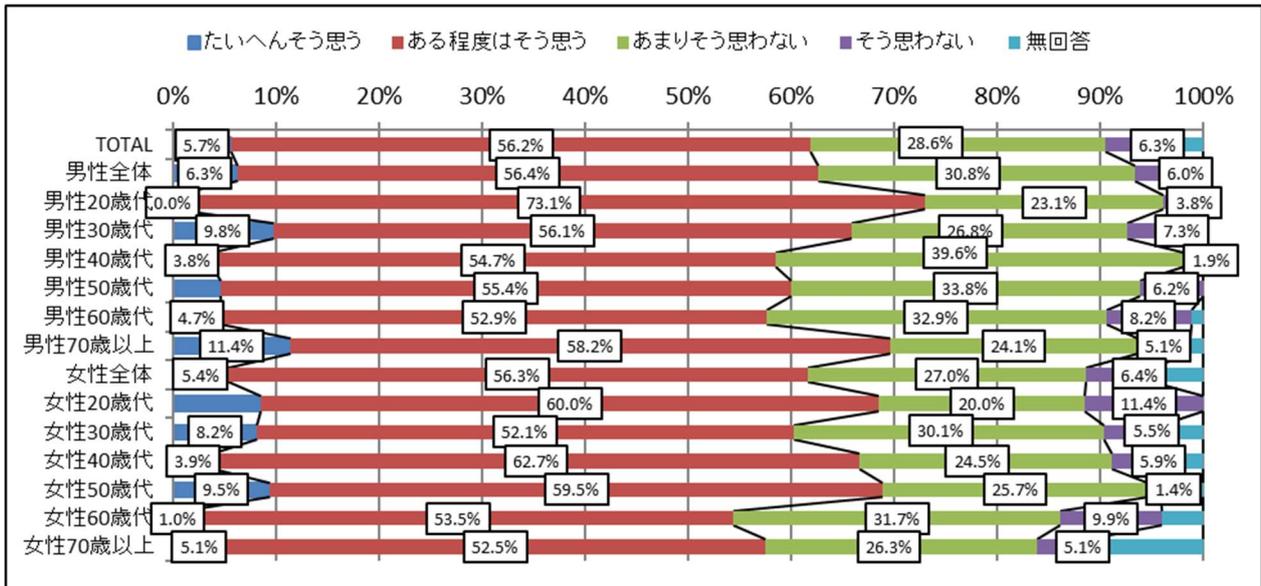
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 56.2%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 28.6%、「そう思わない」と回答した人の割合が 6.3%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 5.7%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 61.9%であり、約 6 割の市民が、深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 60.5%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	856	5.7%	56.2%	28.6%	6.3%	3.2%	100.0%
男性全体	351	6.3%	56.4%	30.8%	6.0%	0.6%	100.0%
男性20歳代	26	0.0%	73.1%	23.1%	3.8%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	9.8%	56.1%	26.8%	7.3%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	3.8%	54.7%	39.6%	1.9%	0.0%	100.0%
男性50歳代	65	4.6%	55.4%	33.8%	6.2%	0.0%	100.0%
男性60歳代	85	4.7%	52.9%	32.9%	8.2%	1.2%	100.0%
男性70歳以上	79	11.4%	58.2%	24.1%	5.1%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	5.4%	56.3%	27.0%	6.4%	4.9%	100.0%
女性20歳代	35	8.6%	60.0%	20.0%	11.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	8.2%	52.1%	30.1%	5.5%	4.1%	100.0%
女性40歳代	102	3.9%	62.7%	24.5%	5.9%	2.9%	100.0%
女性50歳代	74	9.5%	59.5%	25.7%	1.4%	4.1%	100.0%
女性60歳代	101	1.0%	53.5%	31.7%	9.9%	4.0%	100.0%
女性70歳以上	99	5.1%	52.5%	26.3%	5.1%	11.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	7.0%	58.4%	27.1%	5.6%	1.9%	100.0%
藤沢地区	52	5.8%	61.5%	19.2%	9.6%	3.8%	100.0%
幡羅地区	105	7.6%	58.1%	30.5%	1.9%	1.9%	100.0%
明戸地区	26	7.7%	53.8%	26.9%	11.5%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	6.3%	68.8%	6.3%	6.3%	12.5%	100.0%
八基地区	11	0.0%	54.5%	36.4%	9.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	7.1%	46.4%	39.3%	7.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	3.0%	61.4%	25.7%	4.0%	5.9%	100.0%
南地区	51	7.8%	60.8%	25.5%	3.9%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	3.3%	46.7%	32.6%	14.1%	3.3%	100.0%
川本地区	69	7.2%	50.7%	34.8%	4.3%	2.9%	100.0%
花園地区	70	4.3%	54.3%	32.9%	4.3%	4.3%	100.0%
無回答	21	0.0%	47.6%	28.6%	14.3%	9.5%	100.0%

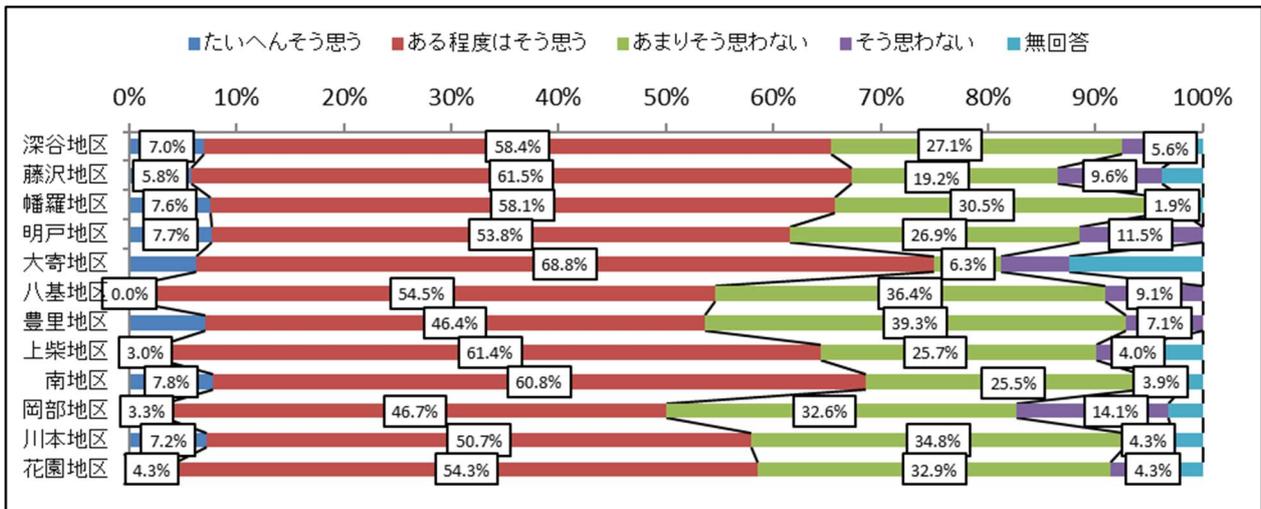
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が62.7%であるのに対して、女性は61.6%となっています。

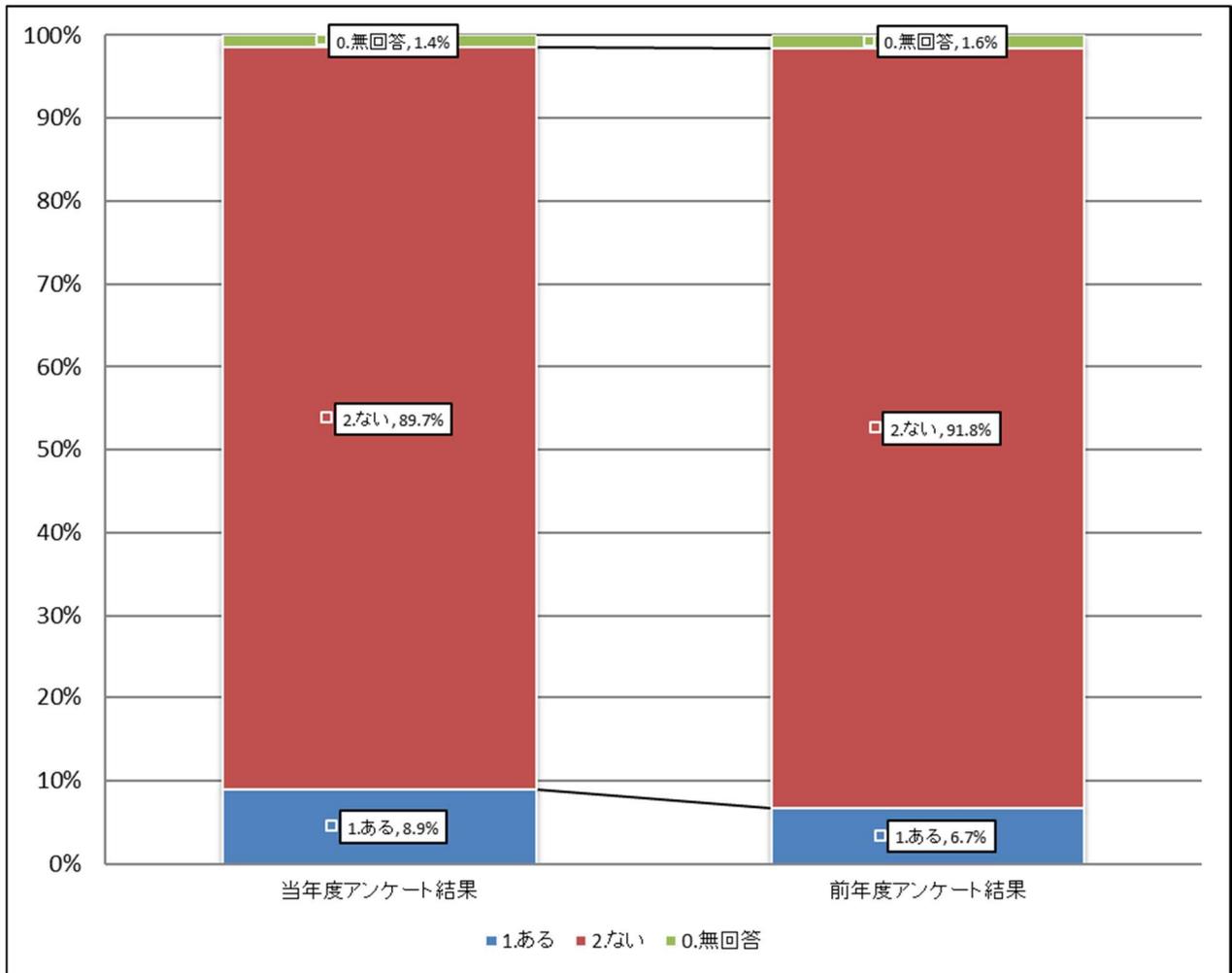
また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに60歳代（男性57.6%、女性54.5%）であり、一方で、最も多い世代は、男性が20歳代（男性73.1%）、女性が50歳代（68.9%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ないのは、岡部地区（50.0%）であり、次いで豊里地区（53.6%）となっています。最も多いのは大寄地区（75.0%）であり、次いで南地区（68.6%）となっています。

この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。



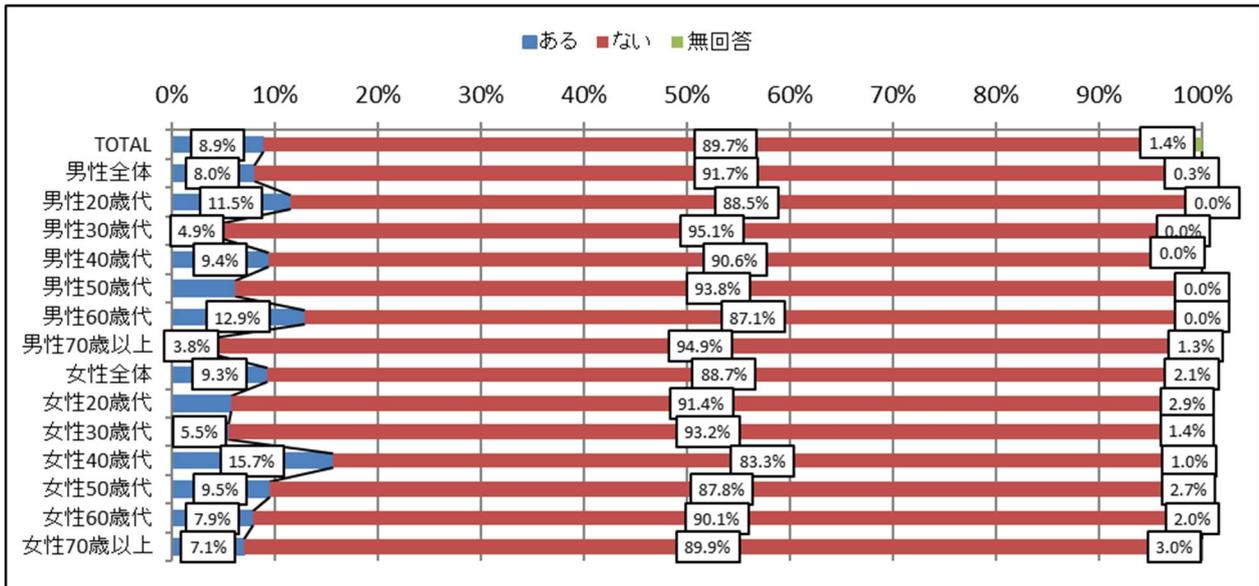
「ある」と回答した人の割合が8.9%、「ない」と回答した人の割合が89.7%となっています。

ほとんどの市民が、この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはなかったと回答していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ない」と回答した人の割合は91.8%であり、前年度アンケートと比較して、この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはなかったとの回答が微減したことがうかがえます。

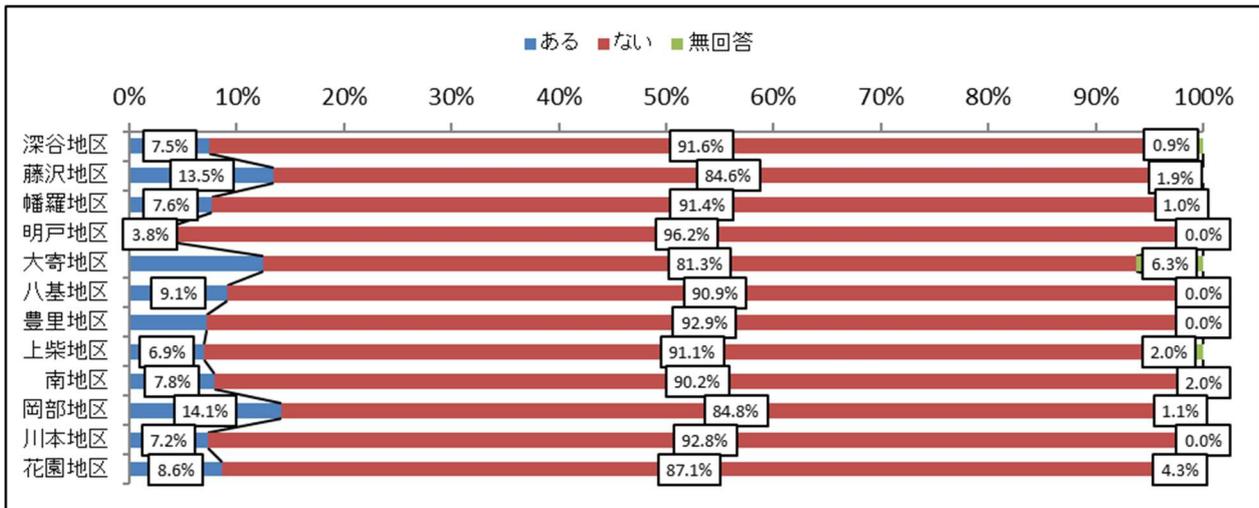
母集団		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	856	8.9%	89.7%	1.4%	100.0%
男性全体	351	8.0%	91.7%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	26	11.5%	88.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	4.9%	95.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	9.4%	90.6%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	6.2%	93.8%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	12.9%	87.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	79	3.8%	94.9%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	9.3%	88.7%	2.1%	100.0%
女性 20 歳代	35	5.7%	91.4%	2.9%	100.0%
女性 30 歳代	73	5.5%	93.2%	1.4%	100.0%
女性 40 歳代	102	15.7%	83.3%	1.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	9.5%	87.8%	2.7%	100.0%
女性 60 歳代	101	7.9%	90.1%	2.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	7.1%	89.9%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	7.5%	91.6%	0.9%	100.0%
藤沢地区	52	13.5%	84.6%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	7.6%	91.4%	1.0%	100.0%
明戸地区	26	3.8%	96.2%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	12.5%	81.3%	6.3%	100.0%
八基地区	11	9.1%	90.9%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	7.1%	92.9%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	6.9%	91.1%	2.0%	100.0%
南地区	51	7.8%	90.2%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	14.1%	84.8%	1.1%	100.0%
川本地区	69	7.2%	92.8%	0.0%	100.0%
花園地区	70	8.6%	87.1%	4.3%	100.0%
無回答	21	19.0%	81.0%	0.0%	100.0%

➤ 性別・世代別



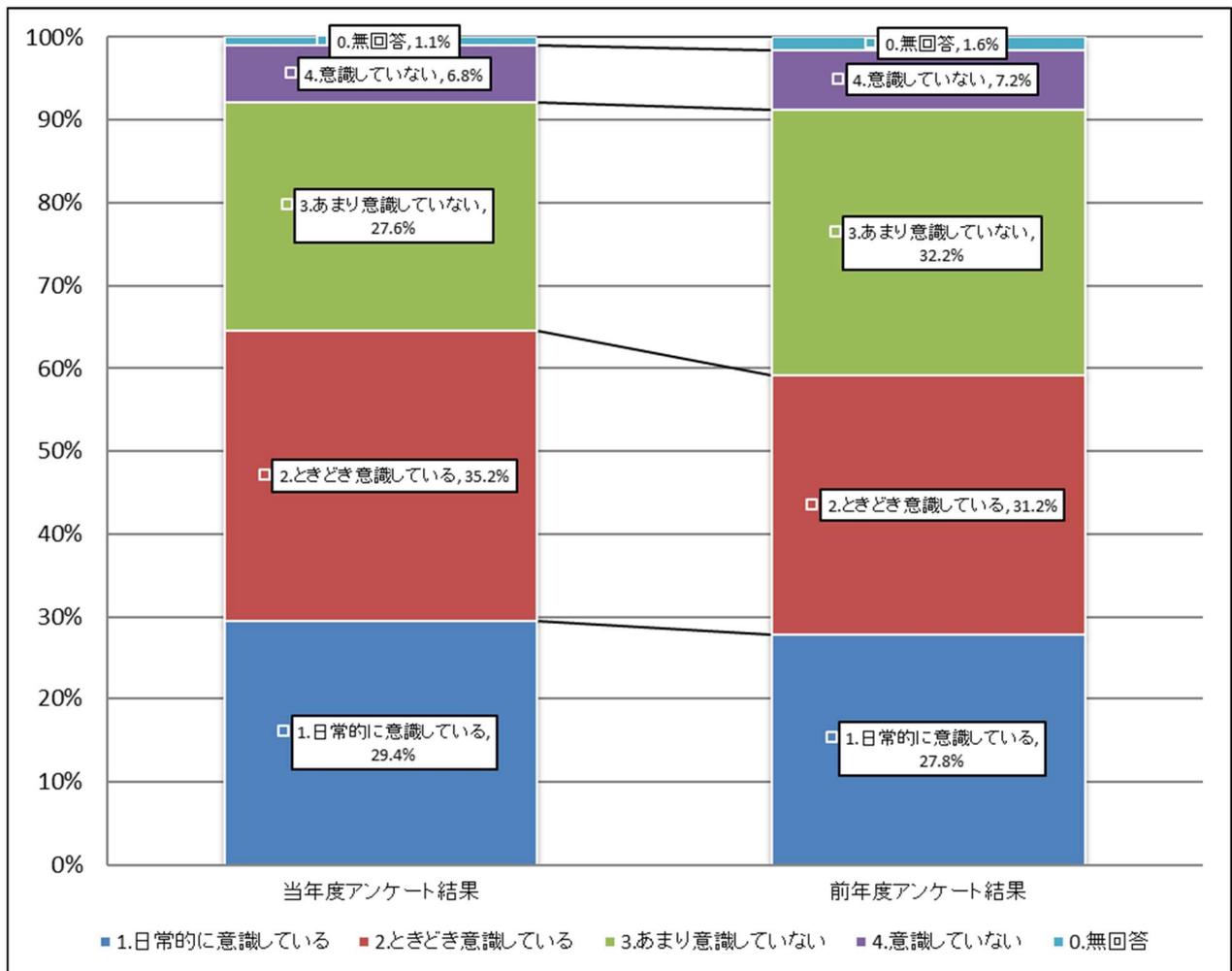
性別・世代別にみると、「ある」と回答した人の割合は男性が 8.0%であるのに対して、女性は 9.3%となっています。このことから、男女差はほとんどないことがうかがえます。また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が 70 歳以上 (3.8%)、女性は 30 歳代 (5.5%) であり、一方で、最も多い世代は、男性が 60 歳代 (12.9%) であり、女性は 40 歳代 (15.7%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区 (3.8%) であり、次いで上柴地区 (6.9%) となっています。最も多いのは岡部地区 (14.1%) であり、次いで藤沢地区 (13.5%) となっています。地域によってポイントに差があることがうかがえます。

## お互いの人権について意識をして生活をしていますか。



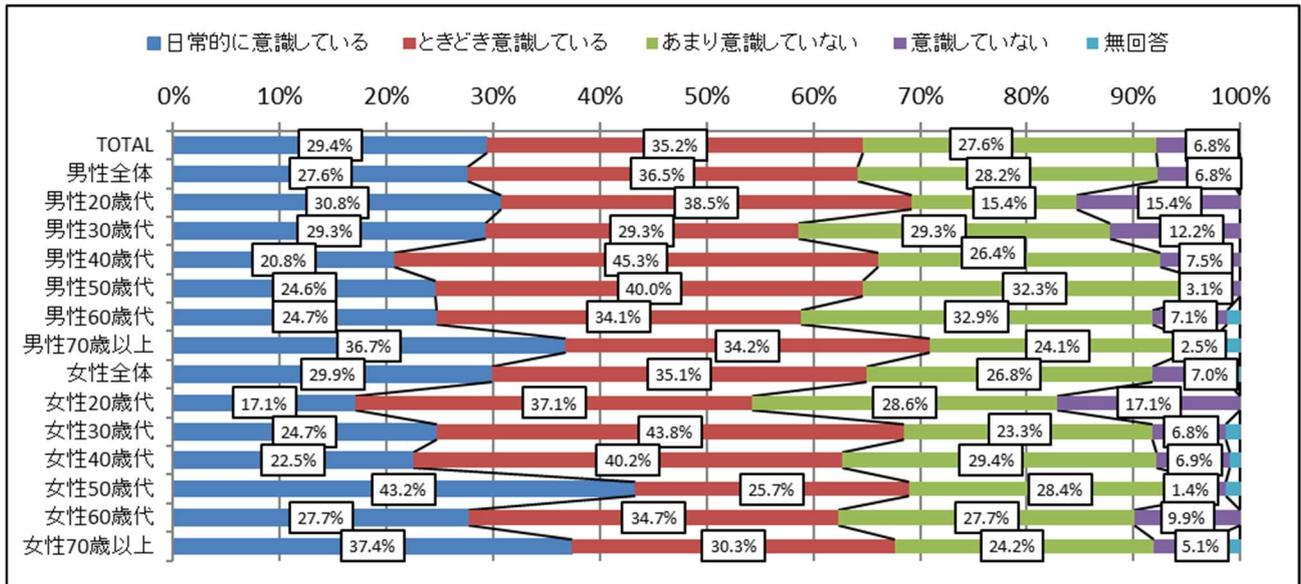
「ときどき意識している」と回答した人の割合が 35.2%と最も多く、次いで「日常的に意識している」と回答した人の割合が 29.4%、「あまり意識していない」と回答した人の割合が 27.6%、「意識していない」と回答した人の割合が最も少なく 6.8%となっています。

「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は 64.6%であり、市民の 6 割以上が日頃からお互いの人権について尊重しながら生活していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は 59.0%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		日常的に意識している	ときどき意識している	あまり意識していない	意識していない	無回答	合計
TOTAL	856	29.4%	35.2%	27.6%	6.8%	1.1%	100.0%
男性全体	351	27.6%	36.5%	28.2%	6.8%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	26	30.8%	38.5%	15.4%	15.4%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	29.3%	29.3%	29.3%	12.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	20.8%	45.3%	26.4%	7.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	24.6%	40.0%	32.3%	3.1%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	24.7%	34.1%	32.9%	7.1%	1.2%	100.0%
男性 70 歳以上	79	36.7%	34.2%	24.1%	2.5%	2.5%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	29.9%	35.1%	26.8%	7.0%	1.2%	100.0%
女性 20 歳代	35	17.1%	37.1%	28.6%	17.1%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	24.7%	43.8%	23.3%	6.8%	1.4%	100.0%
女性 40 歳代	102	22.5%	40.2%	29.4%	6.9%	1.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	43.2%	25.7%	28.4%	1.4%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	101	27.7%	34.7%	27.7%	9.9%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	37.4%	30.3%	24.2%	5.1%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	27.1%	36.0%	26.6%	8.9%	1.4%	100.0%
藤沢地区	52	32.7%	42.3%	21.2%	1.9%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	30.5%	41.0%	21.0%	7.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	38.5%	38.5%	7.7%	15.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	43.8%	31.3%	18.8%	0.0%	6.3%	100.0%
八基地区	11	9.1%	45.5%	45.5%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	10.7%	35.7%	42.9%	10.7%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	27.7%	30.7%	36.6%	4.0%	1.0%	100.0%
南地区	51	27.5%	37.3%	27.5%	7.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	33.7%	26.1%	32.6%	6.5%	1.1%	100.0%
川本地区	69	37.7%	33.3%	26.1%	2.9%	0.0%	100.0%
花園地区	70	30.0%	35.7%	25.7%	7.1%	1.4%	100.0%
無回答	21	19.0%	33.3%	33.3%	9.5%	4.8%	100.0%

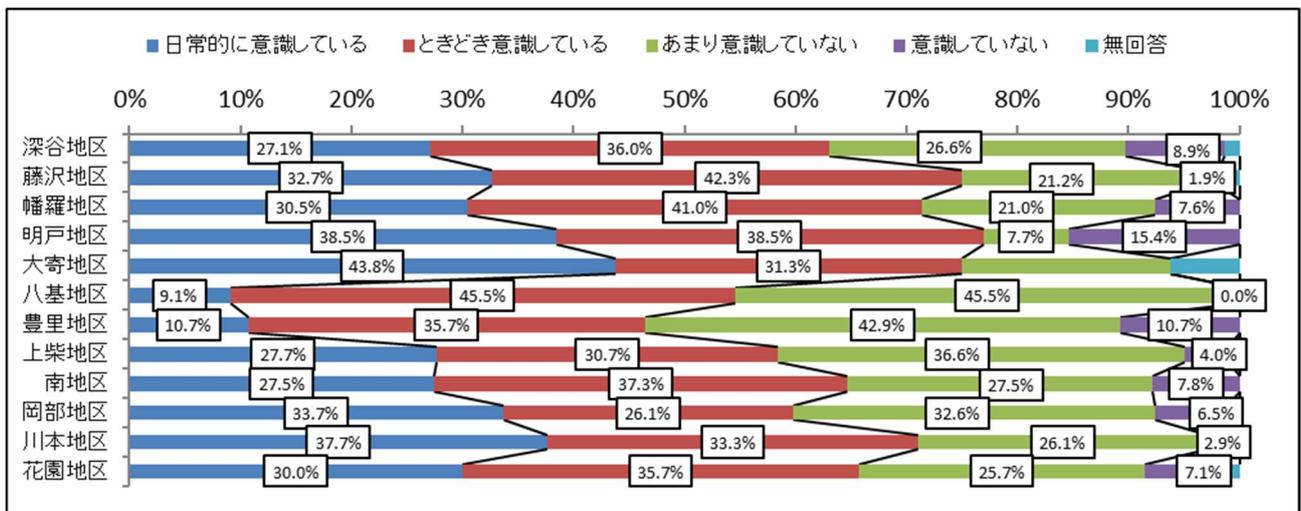
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合は男性が64.1%であるのに対して、女性は64.9%となっています。

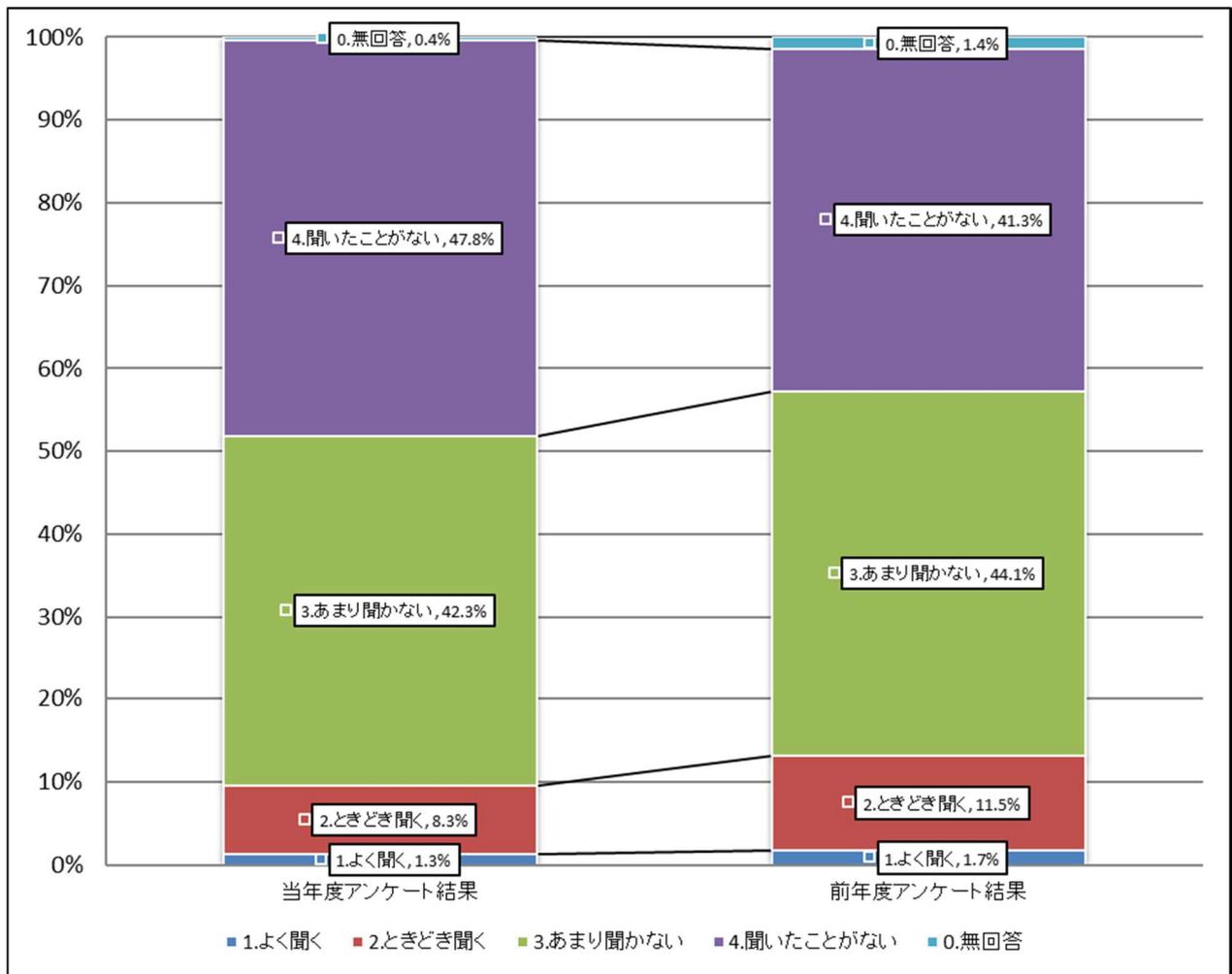
また、「日常的に意識する」または「ときどき意識している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代（58.5%）、女性が20歳代（54.3%）であり、一方で、最も多い世代は、男性が70歳以上（70.9%）、女性が50歳代（68.9%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区（46.4%）であり、次いで八基地区（54.5%）となっています。最も多いのは明戸地区（76.9%）であり、次に藤沢地区、大寄地区（75.0%）となっています。

市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。



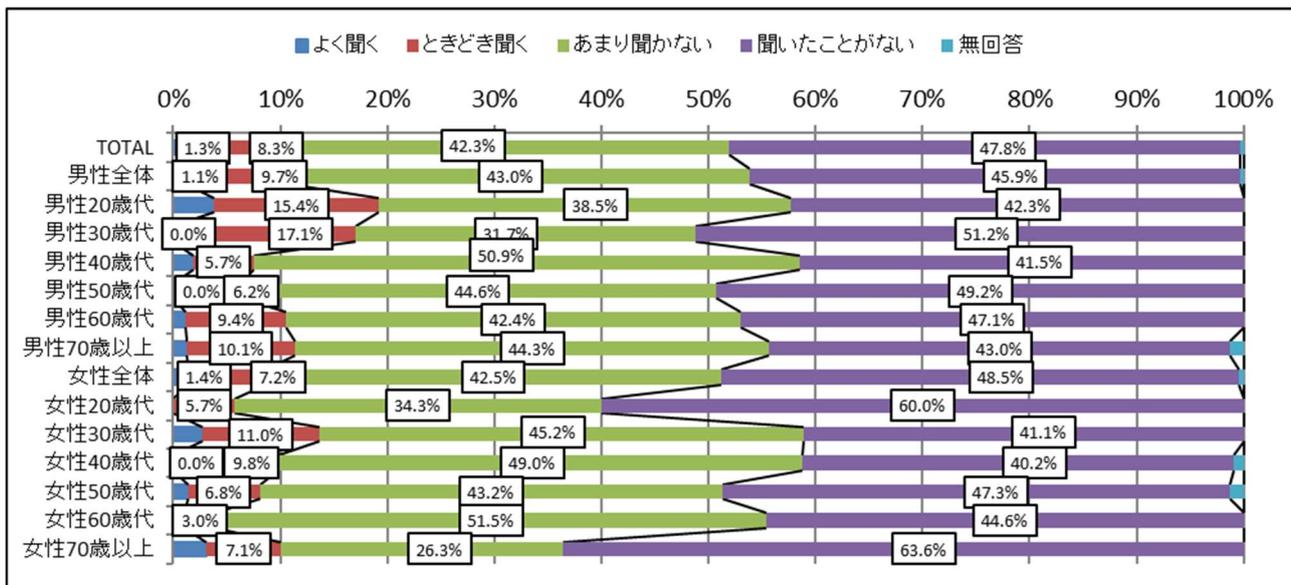
「聞いたことがない」と回答した人の割合が 47.8%と最も多く、次いで「あまり聞かない」と回答した人の割合が 42.3%、「ときどき聞く」と回答した人の割合が 8.3%、「よく聞く」と回答した人の割合が最も少なく 1.3%となっています。

「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は 9.6%であり、深谷市内における外国人とのトラブルはごくわずかであることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は 13.2%であり、前年度アンケートと比較して、減少していることがうかがえます。

母集団		よく聞く	ときどき聞く	あまり聞かない	聞いたことがない	無回答	合計
TOTAL	856	1.3%	8.3%	42.3%	47.8%	0.4%	100.0%
男性全体	351	1.1%	9.7%	43.0%	45.9%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	26	3.8%	15.4%	38.5%	42.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	0.0%	17.1%	31.7%	51.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	1.9%	5.7%	50.9%	41.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	0.0%	6.2%	44.6%	49.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	1.2%	9.4%	42.4%	47.1%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	79	1.3%	10.1%	44.3%	43.0%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	1.4%	7.2%	42.5%	48.5%	0.4%	100.0%
女性 20 歳代	35	0.0%	5.7%	34.3%	60.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	2.7%	11.0%	45.2%	41.1%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	0.0%	9.8%	49.0%	40.2%	1.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	1.4%	6.8%	43.2%	47.3%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	101	1.0%	3.0%	51.5%	44.6%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	3.0%	7.1%	26.3%	63.6%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	1.4%	8.4%	39.3%	50.9%	0.0%	100.0%
藤沢地区	52	0.0%	3.8%	48.1%	46.2%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	0.0%	6.7%	45.7%	47.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	0.0%	0.0%	42.3%	57.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	0.0%	12.5%	37.5%	50.0%	0.0%	100.0%
八基地区	11	0.0%	18.2%	45.5%	36.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	7.1%	10.7%	42.9%	39.3%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	2.0%	6.9%	51.5%	38.6%	1.0%	100.0%
南地区	51	0.0%	11.8%	31.4%	56.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	2.2%	10.9%	38.0%	47.8%	1.1%	100.0%
川本地区	69	1.4%	7.2%	53.6%	37.7%	0.0%	100.0%
花園地区	70	1.4%	8.6%	34.3%	55.7%	0.0%	100.0%
無回答	21	0.0%	14.3%	33.3%	52.4%	0.0%	100.0%

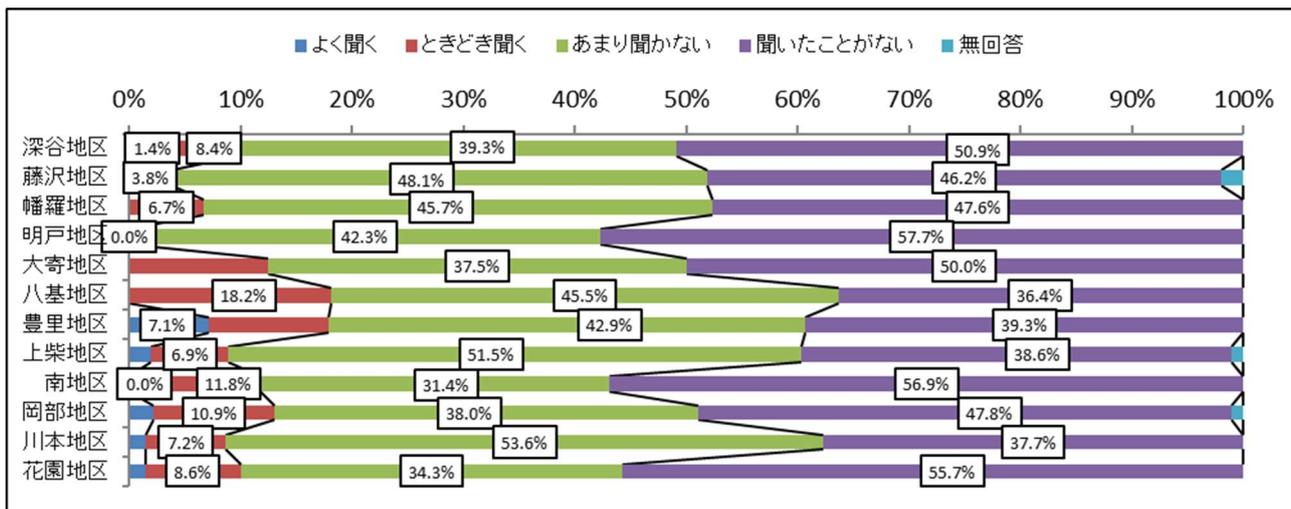
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合は男性が10.8%であるのに対して、女性は8.7%となっています。

また、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性は50歳代(6.2%)であり、女性は60歳代(4.0%)であり、一方で、最も多い世代は、男性は20歳代(19.2%)であり、女性は30歳代(13.7%)となっています。

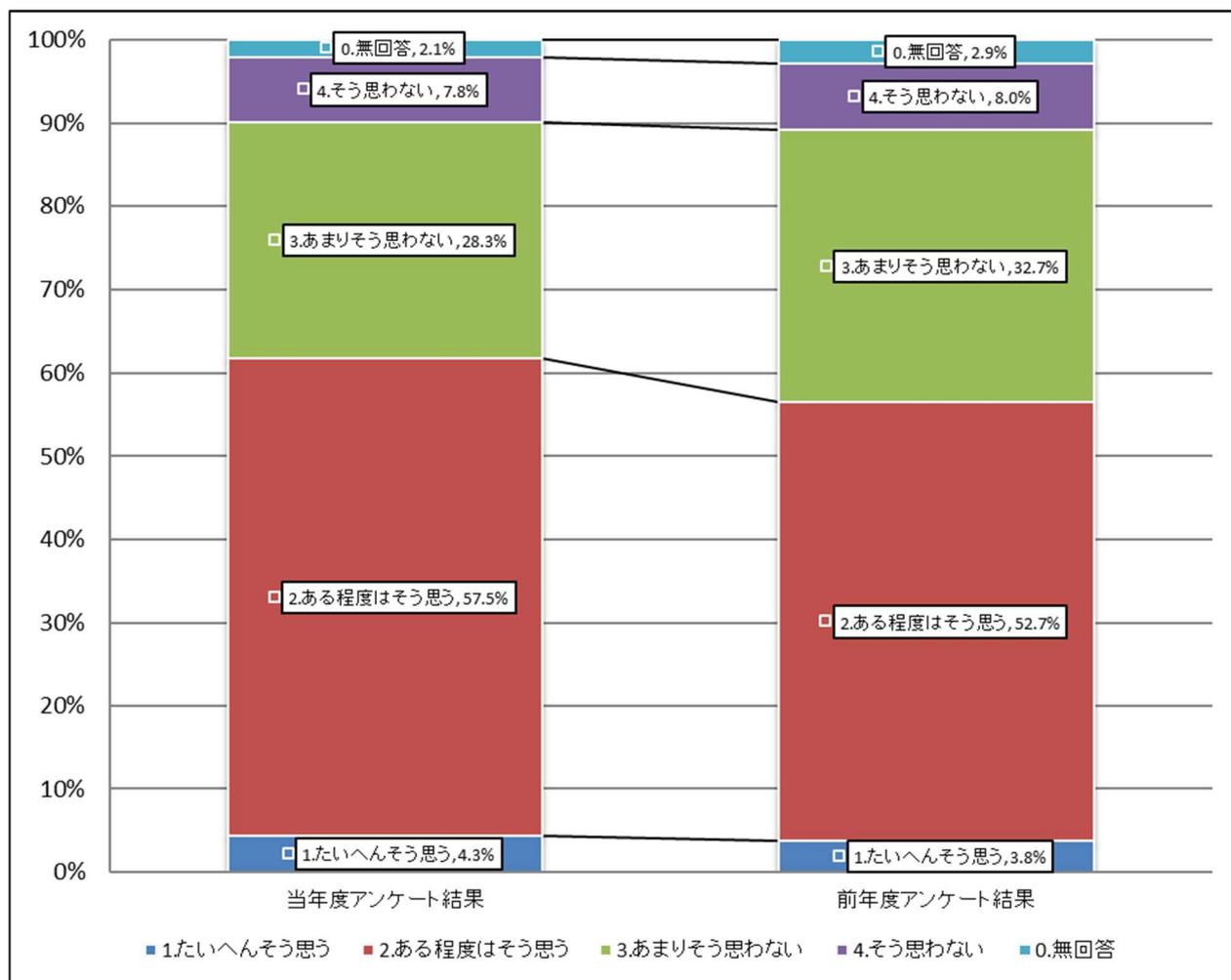
➤ 地区別



地区別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区(0.0%)であり、次いで藤沢地区(3.8%)となっています。最も多いのは八基地区(18.2%)であり、次いで豊里地区(17.9%)となっています。

②男女がともに輝く社会づくり（7. 問5～6）

性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思いますか。

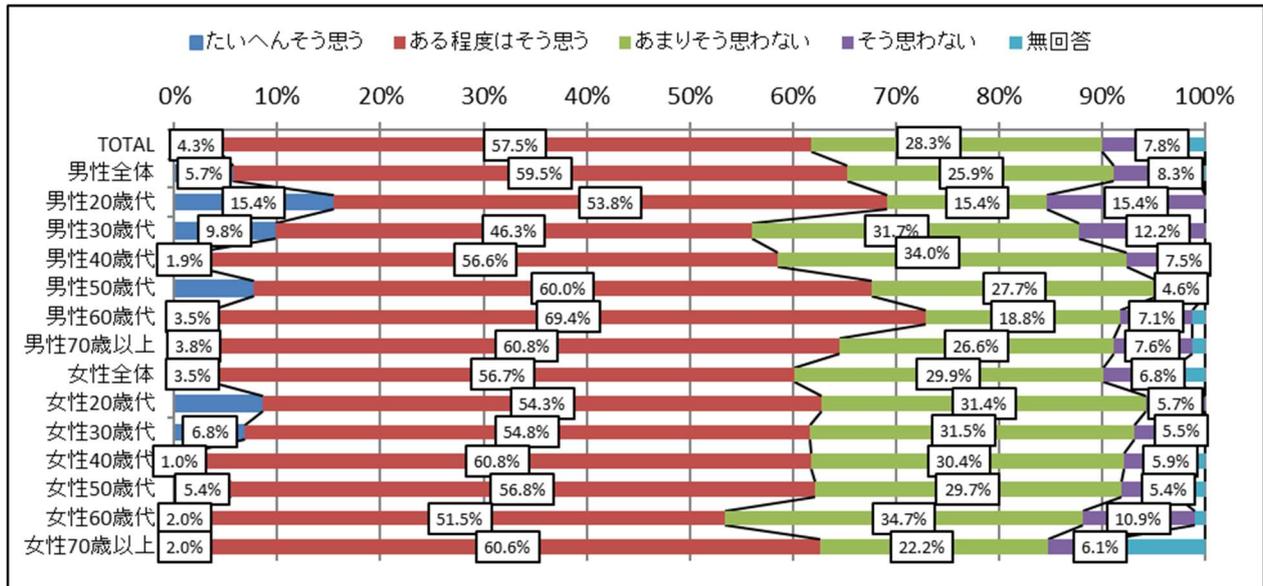


「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 57.5%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 28.3%、「そう思わない」と回答した人の割合が 7.8%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 4.3%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 61.8%であり、性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると感じている市民が 6 割以上を占めることがうかがえますが、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 56.5%であり、前年度アンケートと比較して、性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると感じているとの回答の増加がうかがえます。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	856	4.3%	57.5%	28.3%	7.8%	2.1%	100.0%
男性全体	351	5.7%	59.5%	25.9%	8.3%	0.6%	100.0%
男性 20 歳代	26	15.4%	53.8%	15.4%	15.4%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	9.8%	46.3%	31.7%	12.2%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	1.9%	56.6%	34.0%	7.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	7.7%	60.0%	27.7%	4.6%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	3.5%	69.4%	18.8%	7.1%	1.2%	100.0%
男性 70 歳以上	79	3.8%	60.8%	26.6%	7.6%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	3.5%	56.7%	29.9%	6.8%	3.1%	100.0%
女性 20 歳代	35	8.6%	54.3%	31.4%	5.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	6.8%	54.8%	31.5%	5.5%	1.4%	100.0%
女性 40 歳代	102	1.0%	60.8%	30.4%	5.9%	2.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	5.4%	56.8%	29.7%	5.4%	2.7%	100.0%
女性 60 歳代	101	2.0%	51.5%	34.7%	10.9%	1.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	2.0%	60.6%	22.2%	6.1%	9.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	5.1%	57.5%	26.6%	7.5%	3.3%	100.0%
藤沢地区	52	1.9%	61.5%	21.2%	11.5%	3.8%	100.0%
幡羅地区	105	2.9%	59.0%	28.6%	8.6%	1.0%	100.0%
明戸地区	26	3.8%	53.8%	30.8%	3.8%	7.7%	100.0%
大寄地区	16	6.3%	50.0%	37.5%	0.0%	6.3%	100.0%
八基地区	11	0.0%	45.5%	45.5%	9.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	7.1%	42.9%	28.6%	21.4%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	7.9%	58.4%	26.7%	5.0%	2.0%	100.0%
南地区	51	3.9%	62.7%	17.6%	15.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	2.2%	48.9%	38.0%	8.7%	2.2%	100.0%
川本地区	69	5.8%	60.9%	27.5%	4.3%	1.4%	100.0%
花園地区	70	2.9%	67.1%	28.6%	1.4%	0.0%	100.0%
無回答	21	0.0%	52.4%	33.3%	14.3%	0.0%	100.0%

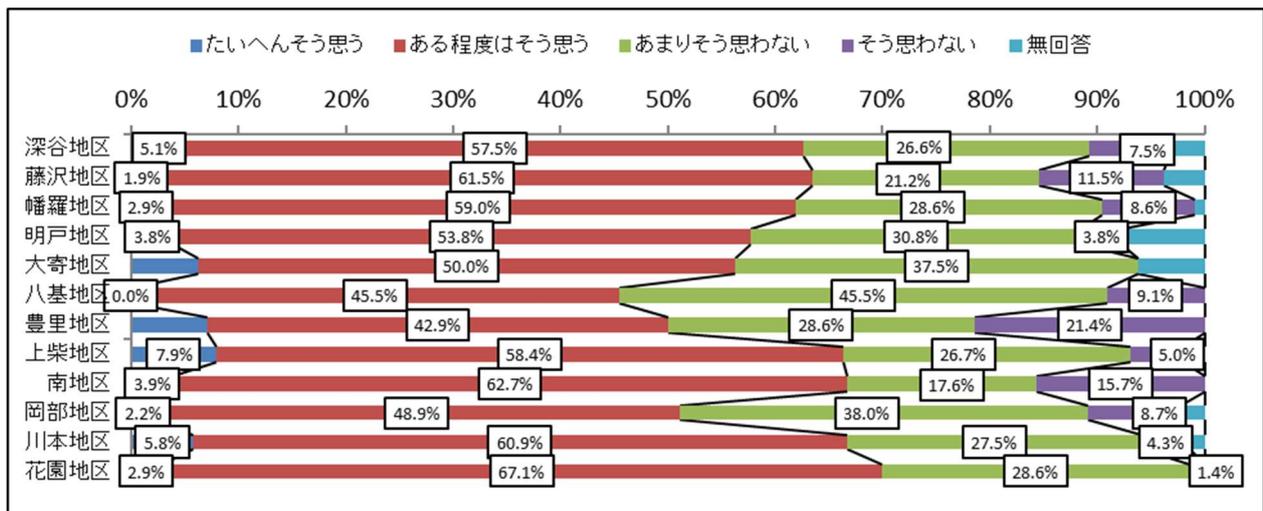
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が65.2%であるのに対して、女性は60.2%となっています。

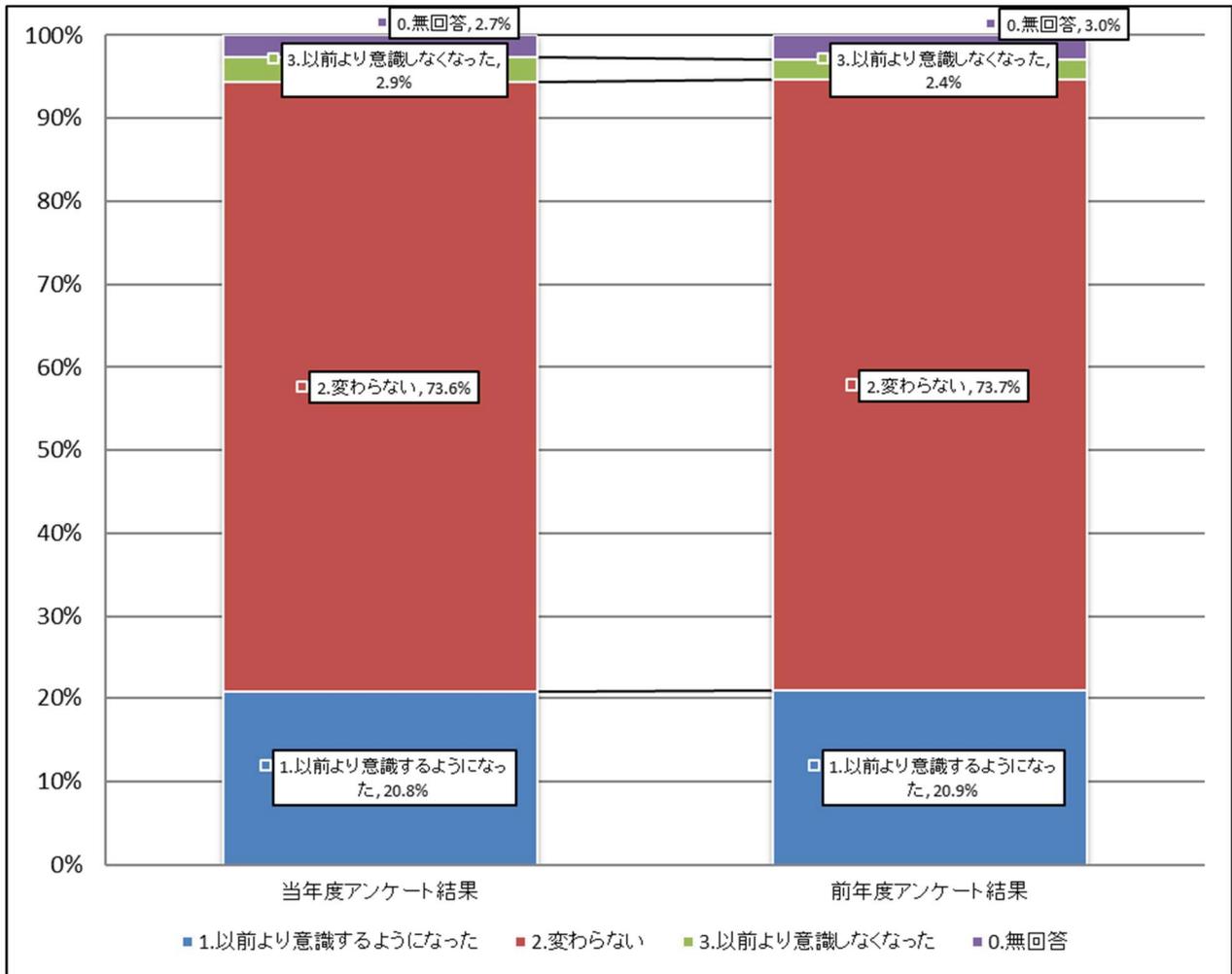
また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(56.1%)、女性は60歳代(53.5%)であり、一方で、最も多い世代は、男性が60歳代(72.9%)であり、女性は20歳代(62.9%)となっています。

## ➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区(45.5%)であり、次いで豊里地区(50.0%)となっています。最も多いのは花園地区(70.0%)であり、次いで南地区、川本地区(66.7%)となっています。

**男女共同参画の意識は以前と比べて変化していますか。**

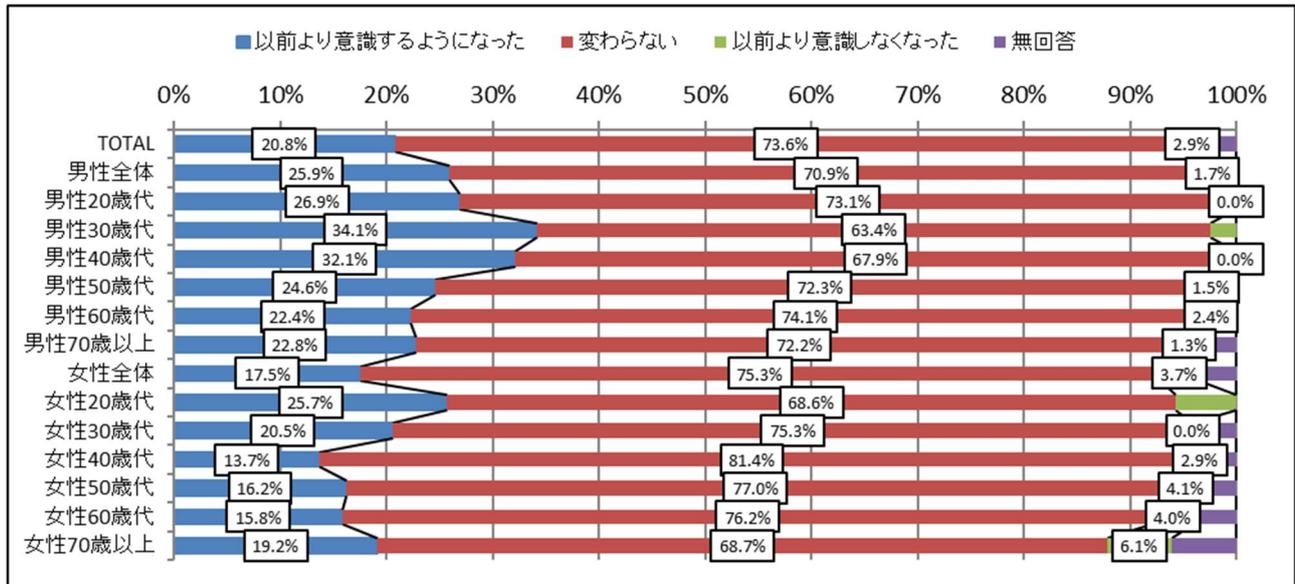


「変わらない」と回答した人の割合が 73.6%と最も多く、次いで「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 20.8%、「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合が 2.9%となっており、男女共同参画に対する意識は、以前から変わっていないと感じる市民が大多数を占めていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は 20.9%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変化はありませんでした。

母集団		以前より意識するようになった	変わらない	以前より意識しなくなった	無回答	合計
TOTAL	856	20.8%	73.6%	2.9%	2.7%	100.0%
男性全体	351	25.9%	70.9%	1.7%	1.4%	100.0%
男性 20 歳代	26	26.9%	73.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	34.1%	63.4%	2.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	32.1%	67.9%	0.0%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	24.6%	72.3%	1.5%	1.5%	100.0%
男性 60 歳代	85	22.4%	74.1%	2.4%	1.2%	100.0%
男性 70 歳以上	79	22.8%	72.2%	1.3%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	17.5%	75.3%	3.7%	3.5%	100.0%
女性 20 歳代	35	25.7%	68.6%	5.7%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	20.5%	75.3%	0.0%	4.1%	100.0%
女性 40 歳代	102	13.7%	81.4%	2.9%	2.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	16.2%	77.0%	4.1%	2.7%	100.0%
女性 60 歳代	101	15.8%	76.2%	4.0%	4.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	19.2%	68.7%	6.1%	6.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	20.1%	75.2%	2.3%	2.3%	100.0%
藤沢地区	52	13.5%	78.8%	5.8%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	28.6%	63.8%	3.8%	3.8%	100.0%
明戸地区	26	30.8%	61.5%	3.8%	3.8%	100.0%
大寄地区	16	6.3%	81.3%	0.0%	12.5%	100.0%
八基地区	11	0.0%	90.9%	9.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	21.4%	71.4%	7.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	24.8%	71.3%	0.0%	4.0%	100.0%
南地区	51	23.5%	74.5%	0.0%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	15.2%	76.1%	5.4%	3.3%	100.0%
川本地区	69	23.2%	76.8%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	20.0%	74.3%	4.3%	1.4%	100.0%
無回答	21	9.5%	81.0%	4.8%	4.8%	100.0%

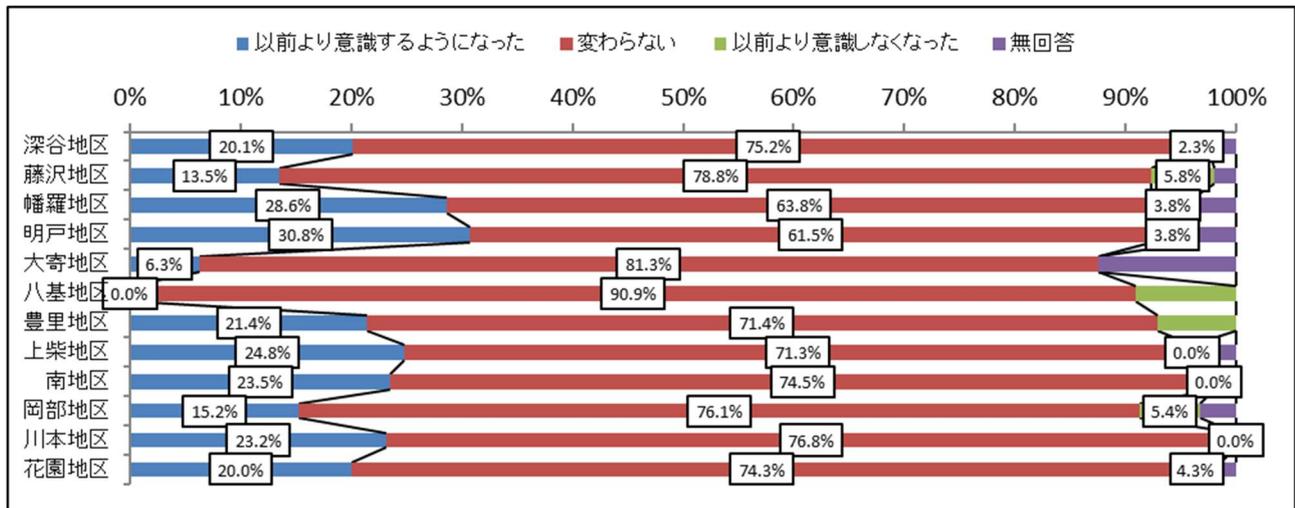
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は男性が25.9%であるのに対して、女性は17.5%となっています。このことから、男女によって差があることがうかがえます。

また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が60歳代(22.4%)、女性が40歳代(13.7%)となっています。一方で、最も多い世代は、男性が30歳代(34.1%)、女性が20歳代(25.7%)となっています。

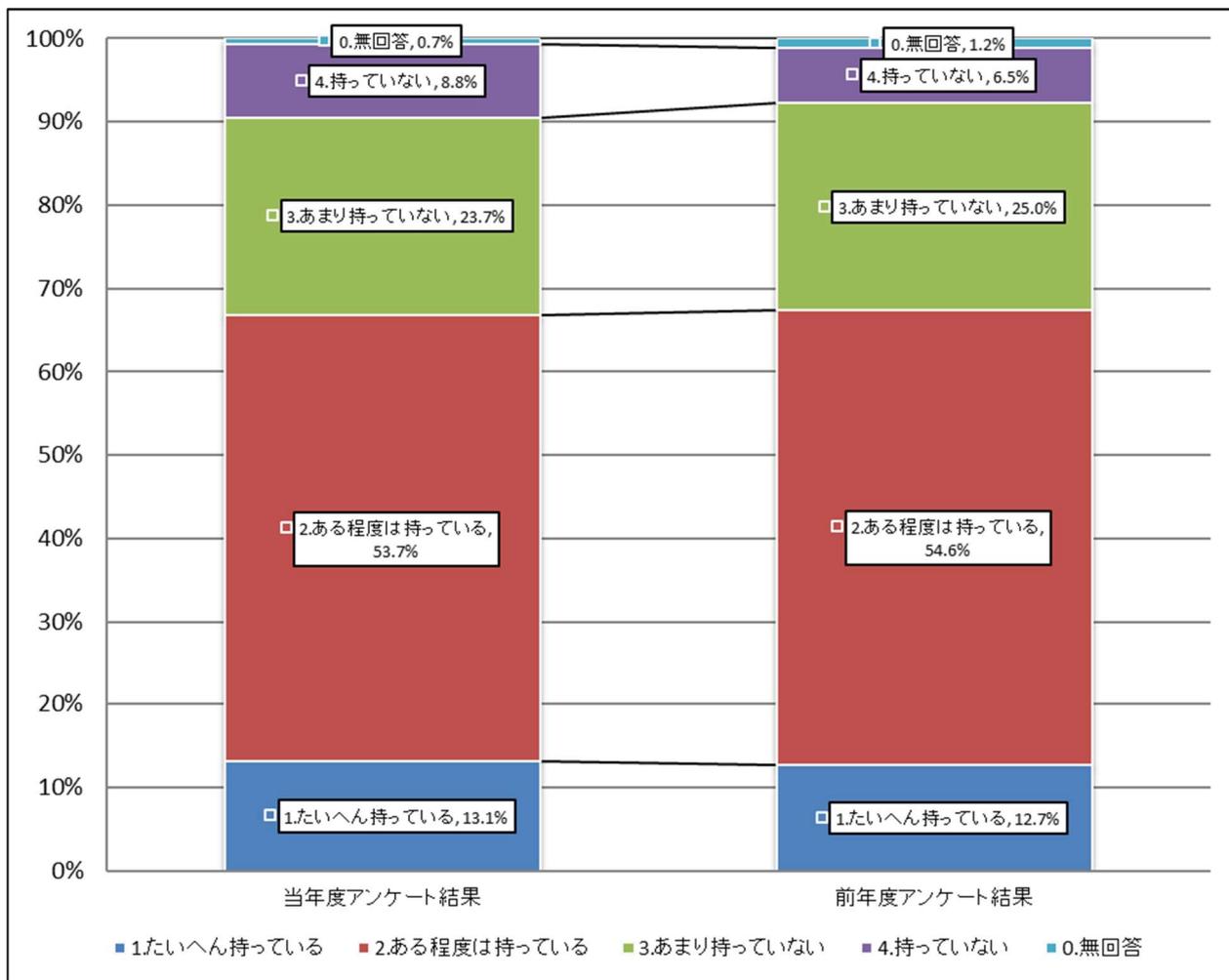
➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ないのは、八基地区(0.0%)であり、次いで大寄地区(6.3%)となっています。最も多いのは明戸地区(30.8%)であり、次いで幡羅地区(28.6%)となっています。

④ 市民と行政との協働のまちづくり（7. 問7～9）

市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心をお持ちですか。



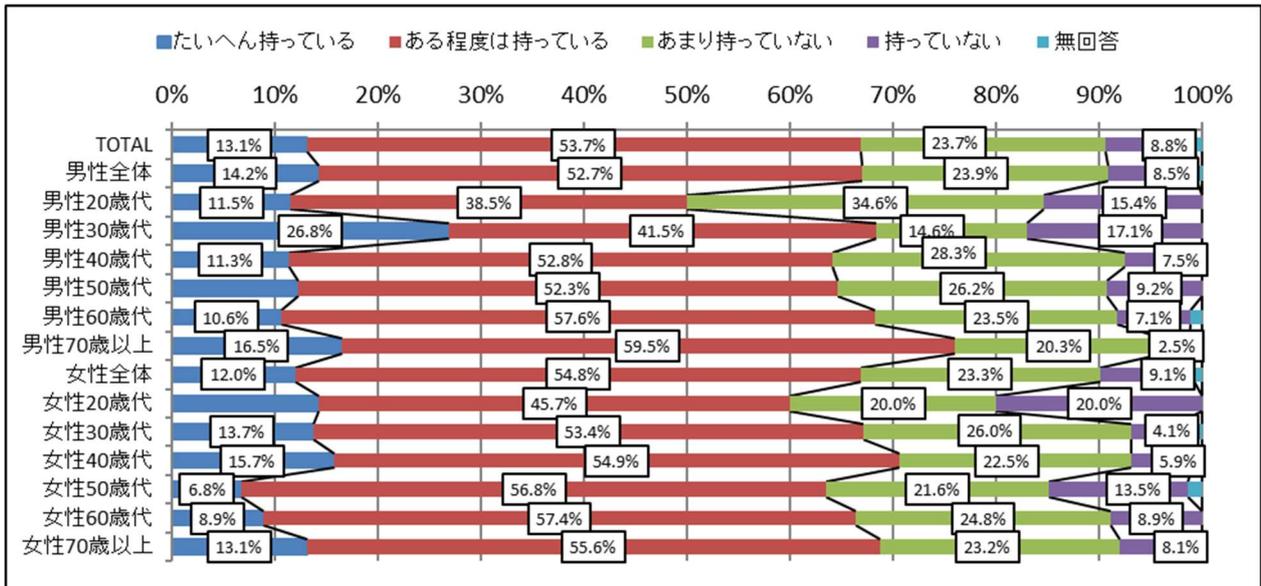
「ある程度は持っている」と回答した人の割合が 53.7%と最も多く、次いで「あまり持っていない」と回答した人の割合が 23.7%、「たいへん持っている」と回答した人の割合が 13.1%、「持っていない」と回答した人の割合が最も少なく 8.8%となっています。

「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合は 66.8%であり、6割以上の市民は、市や財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心を持っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある程度は持っている」と回答した人の割合は 67.3%であり、前年度アンケートと比較して、微減していることがうかがえます。

母集団		たいへん持っている	ある程度は持っている	あまり持っていない	持っていない	無回答	合計
TOTAL	856	13.1%	53.7%	23.7%	8.8%	0.7%	100.0%
男性全体	351	14.2%	52.7%	23.9%	8.5%	0.6%	100.0%
男性 20 歳代	26	11.5%	38.5%	34.6%	15.4%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	26.8%	41.5%	14.6%	17.1%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	11.3%	52.8%	28.3%	7.5%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	12.3%	52.3%	26.2%	9.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	10.6%	57.6%	23.5%	7.1%	1.2%	100.0%
男性 70 歳以上	79	16.5%	59.5%	20.3%	2.5%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	12.0%	54.8%	23.3%	9.1%	0.8%	100.0%
女性 20 歳代	35	14.3%	45.7%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	13.7%	53.4%	26.0%	4.1%	2.7%	100.0%
女性 40 歳代	102	15.7%	54.9%	22.5%	5.9%	1.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	6.8%	56.8%	21.6%	13.5%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	101	8.9%	57.4%	24.8%	8.9%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	13.1%	55.6%	23.2%	8.1%	0.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	13.1%	54.7%	24.3%	7.5%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	5.8%	61.5%	23.1%	7.7%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	17.1%	55.2%	20.0%	7.6%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	23.1%	50.0%	19.2%	7.7%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	6.3%	43.8%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	11	27.3%	72.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	14.3%	50.0%	10.7%	25.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	16.8%	51.5%	25.7%	4.0%	2.0%	100.0%
南地区	51	2.0%	68.6%	23.5%	5.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	12.0%	42.4%	25.0%	19.6%	1.1%	100.0%
川本地区	69	13.0%	62.3%	20.3%	4.3%	0.0%	100.0%
花園地区	70	14.3%	47.1%	25.7%	11.4%	1.4%	100.0%
無回答	21	4.8%	42.9%	42.9%	9.5%	0.0%	100.0%

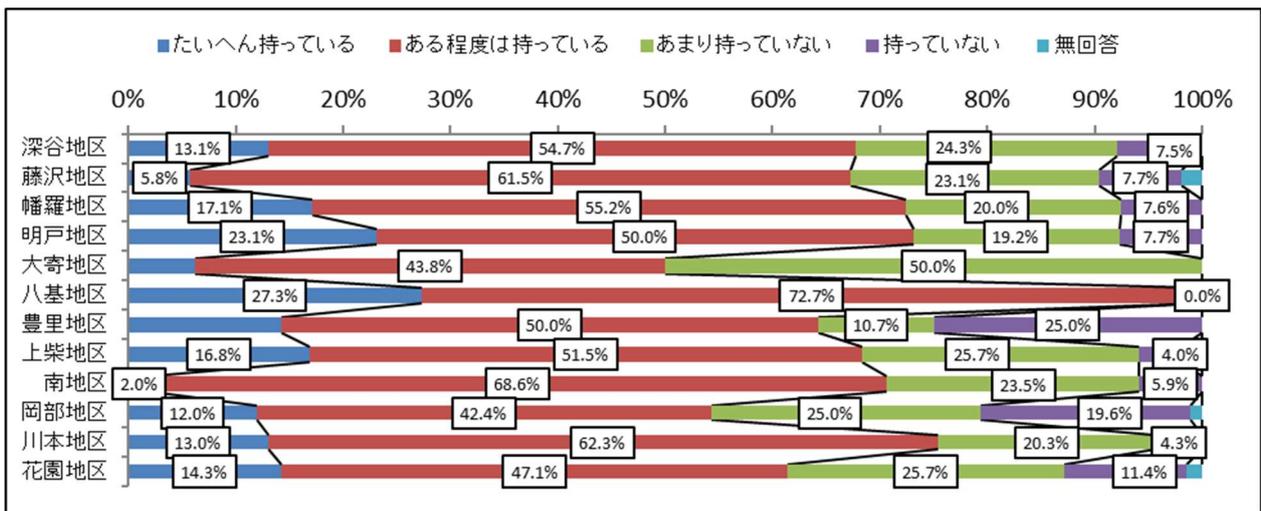
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合は男性が67.0%であるのに対して、女性は66.8%となっています。

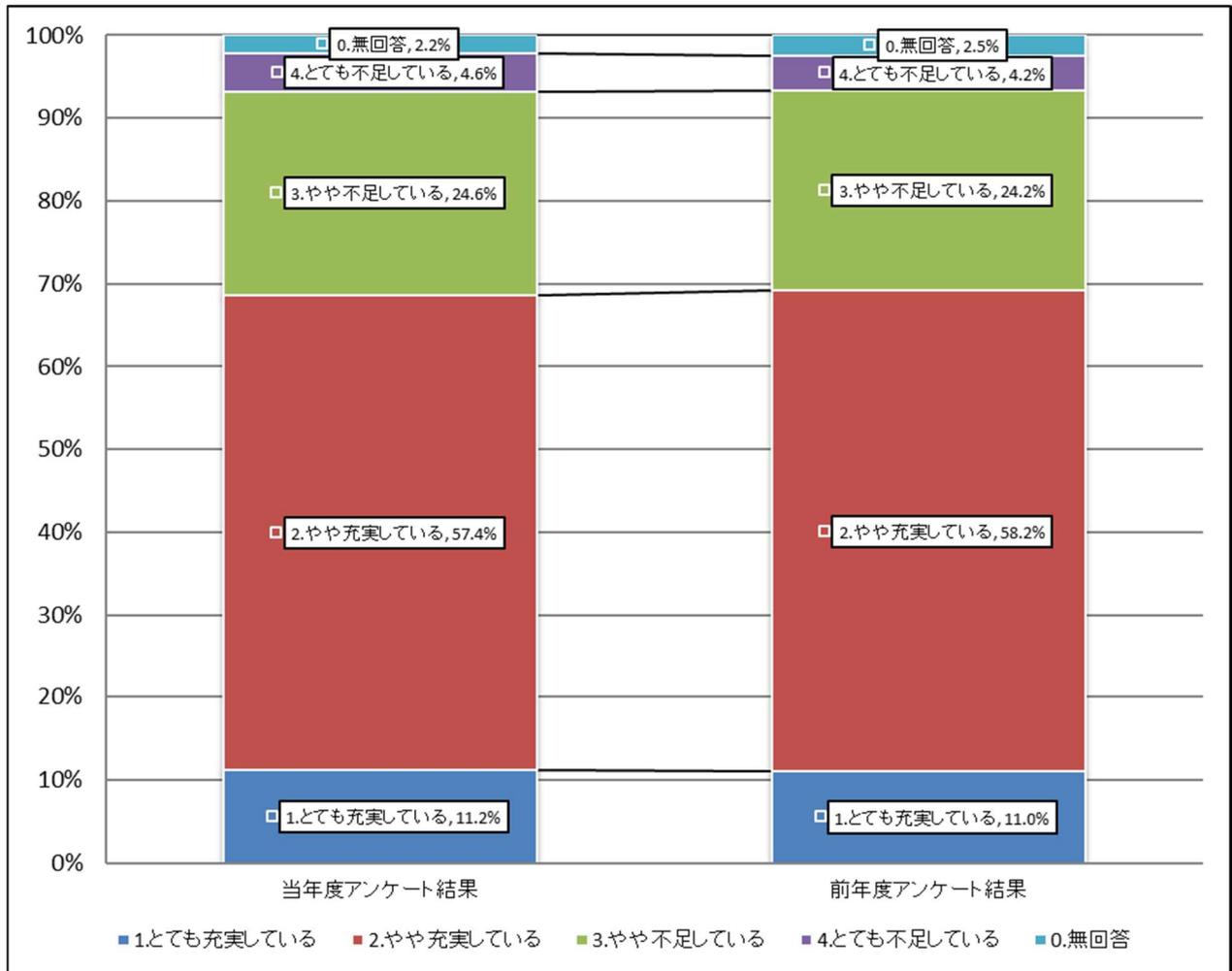
また、「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに20歳代（男性50.0%、女性60.0%）であり、一方で、最も多い世代は、男性が70歳以上（75.9%）であり、女性は40歳代（70.6%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへん持っている」または「ある程度は持っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、大寄地区（50.0%）であり、次いで岡部地区（54.3%）となっています。最も多いのは八基地区（100.0%）であり、次いで川本地区（75.4%）となっています。

市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していますか。



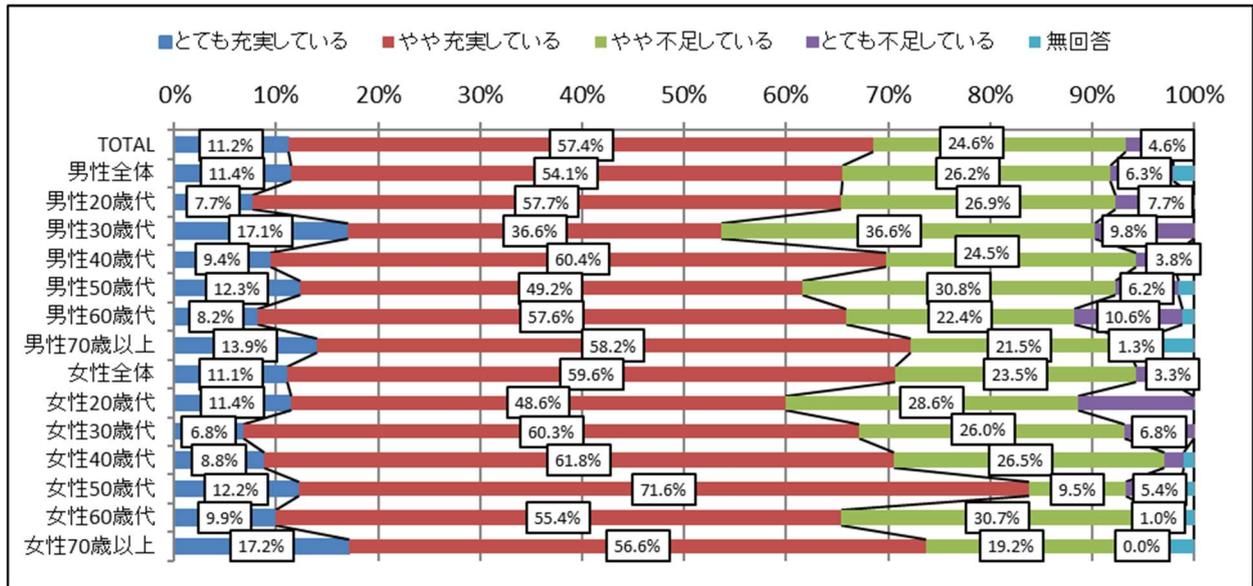
「やや充実している」と回答した人の割合が 57.4%と最も多く、次いで「やや不足している」と回答した人の割合が 24.6%、「とても充実している」と回答した人の割合が 11.2%、「とても不足している」と回答した人の割合が最も少なく 4.6%となっています。

「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は 68.6%であり、市から得られる情報および公表手段は充実していると感じている市民が約 7 割を占めることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は 69.2%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		とても充実している	やや充実している	やや不足している	とても不足している	無回答	合計
TOTAL	856	11.2%	57.4%	24.6%	4.6%	2.2%	100.0%
男性全体	351	11.4%	54.1%	26.2%	6.3%	2.0%	100.0%
男性20歳代	26	7.7%	57.7%	26.9%	7.7%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	17.1%	36.6%	36.6%	9.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	9.4%	60.4%	24.5%	3.8%	1.9%	100.0%
男性50歳代	65	12.3%	49.2%	30.8%	6.2%	1.5%	100.0%
男性60歳代	85	8.2%	57.6%	22.4%	10.6%	1.2%	100.0%
男性70歳以上	79	13.9%	58.2%	21.5%	1.3%	5.1%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	11.1%	59.6%	23.5%	3.3%	2.5%	100.0%
女性20歳代	35	11.4%	48.6%	28.6%	11.4%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	6.8%	60.3%	26.0%	6.8%	0.0%	100.0%
女性40歳代	102	8.8%	61.8%	26.5%	2.0%	1.0%	100.0%
女性50歳代	74	12.2%	71.6%	9.5%	5.4%	1.4%	100.0%
女性60歳代	101	9.9%	55.4%	30.7%	1.0%	3.0%	100.0%
女性70歳以上	99	17.2%	56.6%	19.2%	0.0%	7.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	9.8%	52.3%	29.4%	6.1%	2.3%	100.0%
藤沢地区	52	15.4%	57.7%	17.3%	7.7%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	13.3%	61.9%	21.0%	2.9%	1.0%	100.0%
明戸地区	26	11.5%	69.2%	19.2%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	18.8%	56.3%	18.8%	0.0%	6.3%	100.0%
八基地区	11	0.0%	81.8%	18.2%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	10.7%	46.4%	28.6%	10.7%	3.6%	100.0%
上柴地区	101	8.9%	57.4%	27.7%	2.0%	4.0%	100.0%
南地区	51	13.7%	56.9%	15.7%	11.8%	2.0%	100.0%
岡部地区	92	7.6%	58.7%	28.3%	3.3%	2.2%	100.0%
川本地区	69	13.0%	59.4%	18.8%	4.3%	4.3%	100.0%
花園地区	70	14.3%	58.6%	25.7%	1.4%	0.0%	100.0%
無回答	21	9.5%	57.1%	28.6%	4.8%	0.0%	100.0%

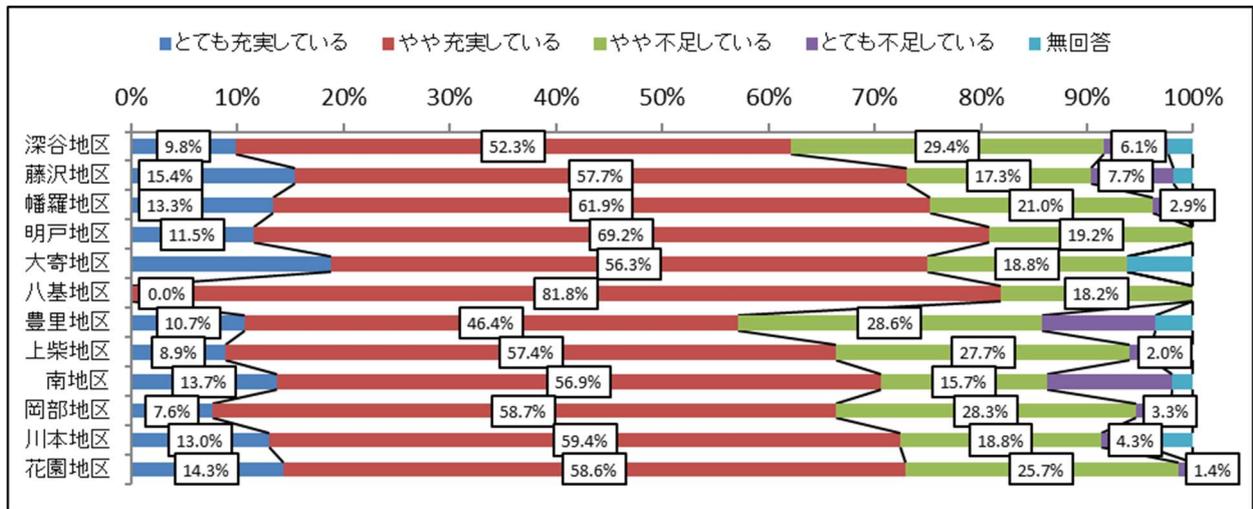
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合は男性が65.5%であるのに対して、女性は70.7%となっています。

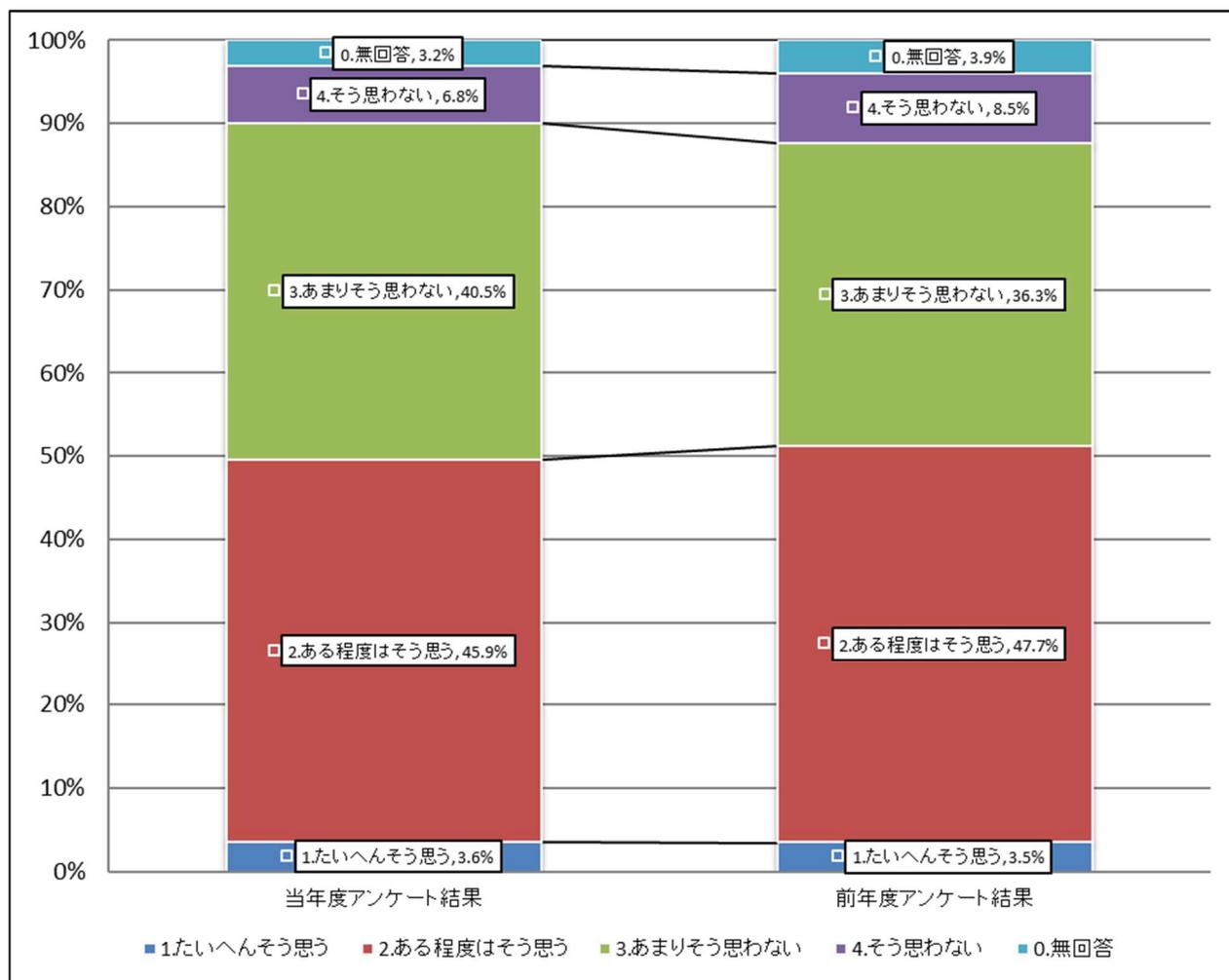
また、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(53.7%)、女性は20歳代(60.0%)であり、一方で、最も多い世代は、男性が70歳以上(72.2%)であり、女性は50歳代(83.8%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても充実している」または「やや充実している」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区(57.1%)であり、次いで深谷地区(62.1%)となっています。最も多いのは八基地区(81.8%)であり、次いで明戸地区(80.8%)となっています。

市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思いますか。



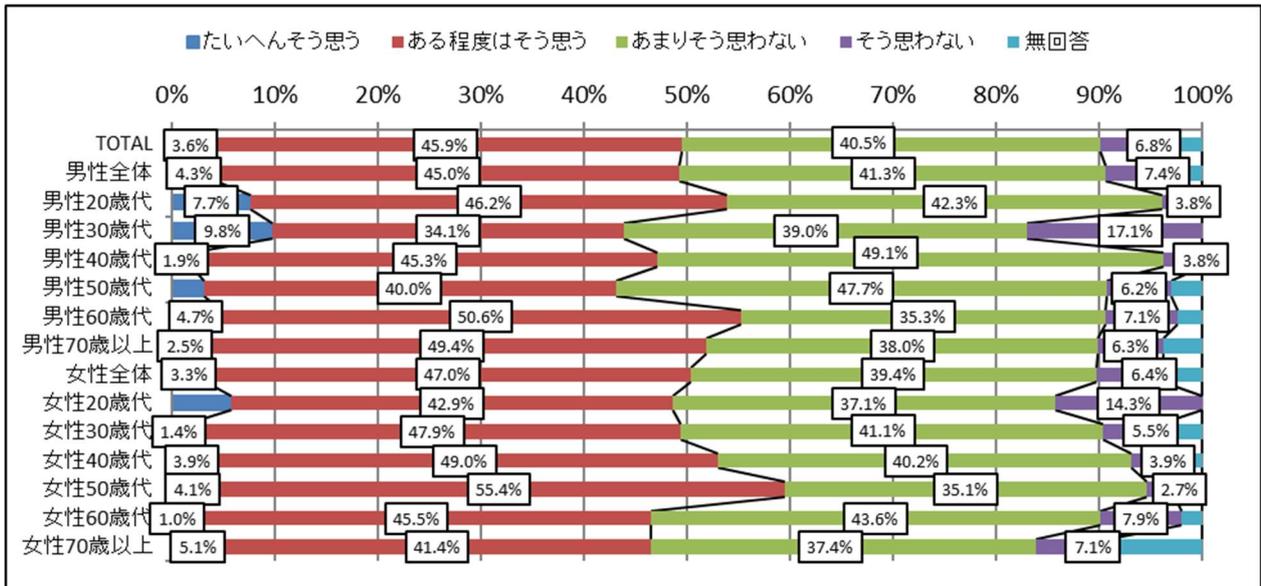
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 45.9%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 40.5%、「そう思わない」と回答した人の割合が 6.8%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 3.6%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 49.5%であり、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決することができていると感じている市民が約半数を占めることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は 51.2%であり、前年度アンケートと比較して、減少したことがうかがえます。

母集団		たいへんそう思う	ある程度はそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
TOTAL	856	3.6%	45.9%	40.5%	6.8%	3.2%	100.0%
男性全体	351	4.3%	45.0%	41.3%	7.4%	2.0%	100.0%
男性20歳代	26	7.7%	46.2%	42.3%	3.8%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	9.8%	34.1%	39.0%	17.1%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	1.9%	45.3%	49.1%	3.8%	0.0%	100.0%
男性50歳代	65	3.1%	40.0%	47.7%	6.2%	3.1%	100.0%
男性60歳代	85	4.7%	50.6%	35.3%	7.1%	2.4%	100.0%
男性70歳以上	79	2.5%	49.4%	38.0%	6.3%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	3.3%	47.0%	39.4%	6.4%	3.9%	100.0%
女性20歳代	35	5.7%	42.9%	37.1%	14.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	1.4%	47.9%	41.1%	5.5%	4.1%	100.0%
女性40歳代	102	3.9%	49.0%	40.2%	3.9%	2.9%	100.0%
女性50歳代	74	4.1%	55.4%	35.1%	2.7%	2.7%	100.0%
女性60歳代	101	1.0%	45.5%	43.6%	7.9%	2.0%	100.0%
女性70歳以上	99	5.1%	41.4%	37.4%	7.1%	9.1%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	4.2%	43.9%	39.7%	10.3%	1.9%	100.0%
藤沢地区	52	3.8%	44.2%	38.5%	7.7%	5.8%	100.0%
幡羅地区	105	4.8%	47.6%	42.9%	2.9%	1.9%	100.0%
明戸地区	26	0.0%	42.3%	42.3%	11.5%	3.8%	100.0%
大寄地区	16	6.3%	62.5%	18.8%	0.0%	12.5%	100.0%
八基地区	11	0.0%	45.5%	54.5%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	7.1%	42.9%	42.9%	7.1%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	0.0%	47.5%	42.6%	4.0%	5.9%	100.0%
南地区	51	2.0%	54.9%	37.3%	5.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	4.3%	35.9%	50.0%	7.6%	2.2%	100.0%
川本地区	69	7.2%	47.8%	39.1%	4.3%	1.4%	100.0%
花園地区	70	1.4%	58.6%	30.0%	5.7%	4.3%	100.0%
無回答	21	4.8%	23.8%	42.9%	14.3%	14.3%	100.0%

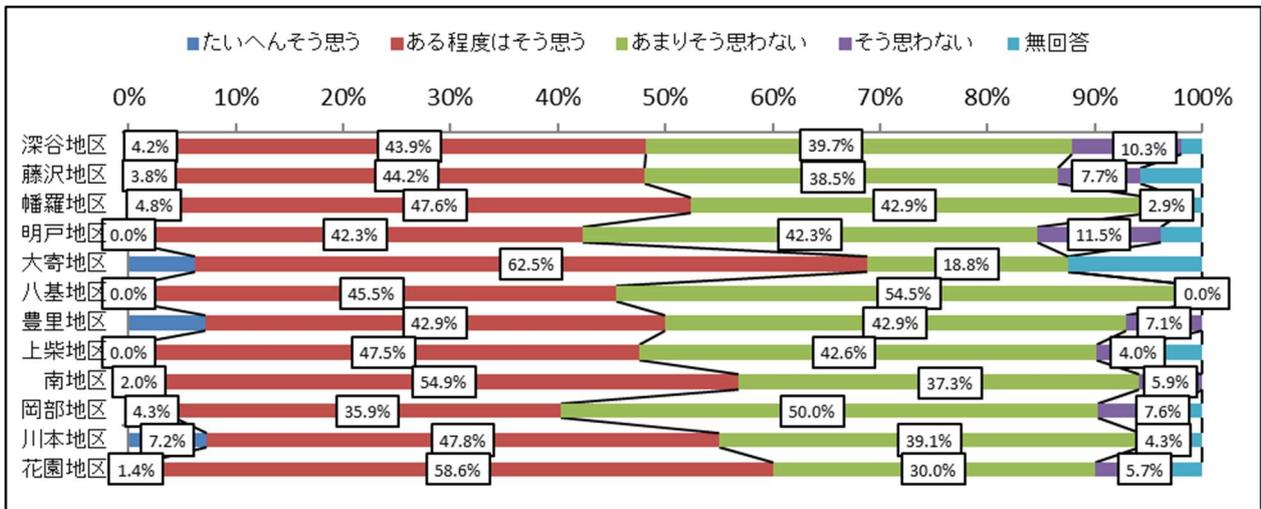
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合は男性が49.3%であるのに対して、女性は50.3%となっています。

また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が50歳代（43.1%）、女性は60歳代、70歳以上（46.5%）であり、一方で、最も多い世代は、男性が60歳代（55.3%）、女性が50歳代（59.5%）となっています。

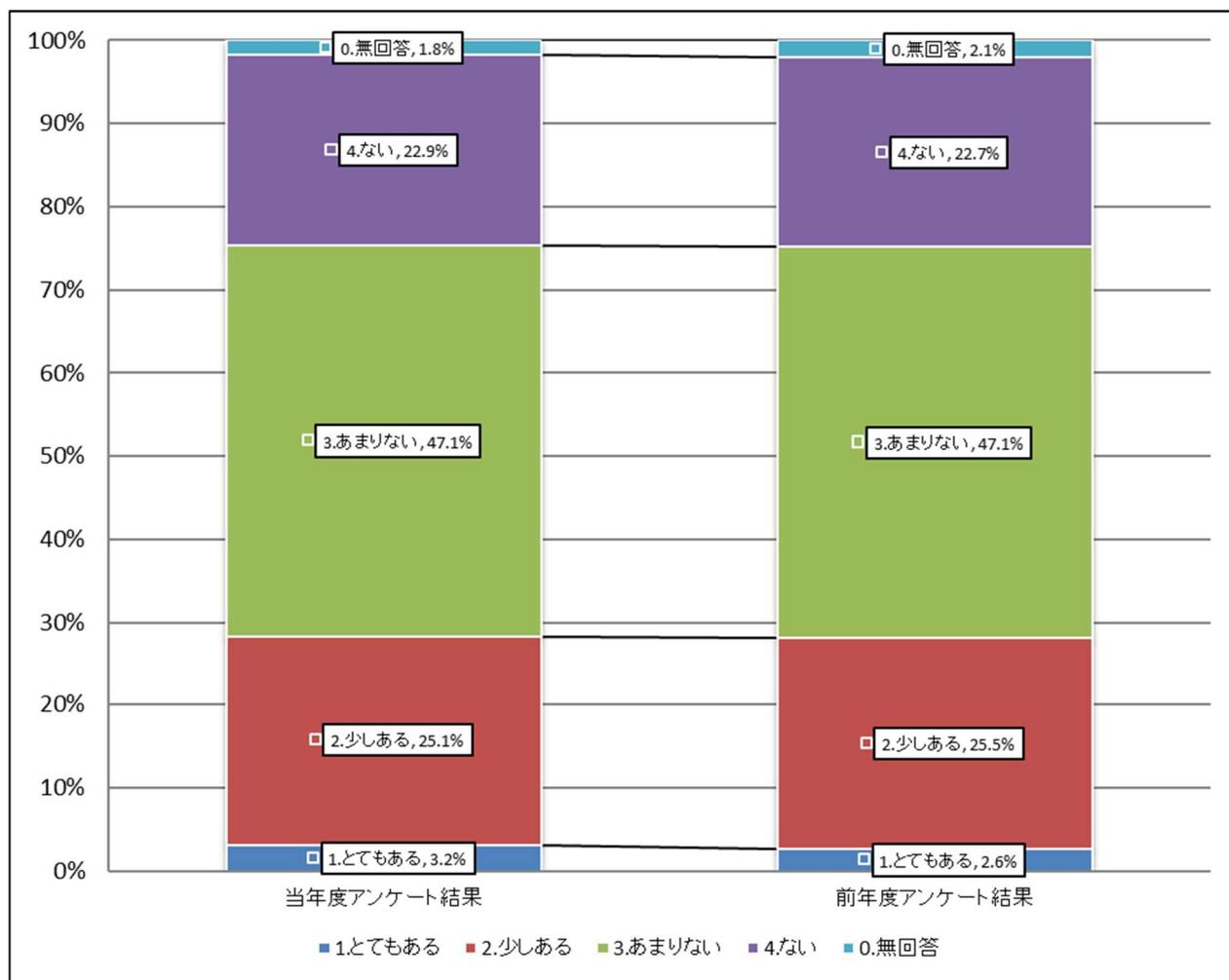
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が最も少ないのは、岡部地区（40.2%）であり、次いで明戸地区（42.3%）となっています。最も多いのは大寄地区（68.8%）であり、次いで花園地区（60.0%）となっています。

④絆でつながるひとづくり（7. 問10～13）

市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動はありますか。



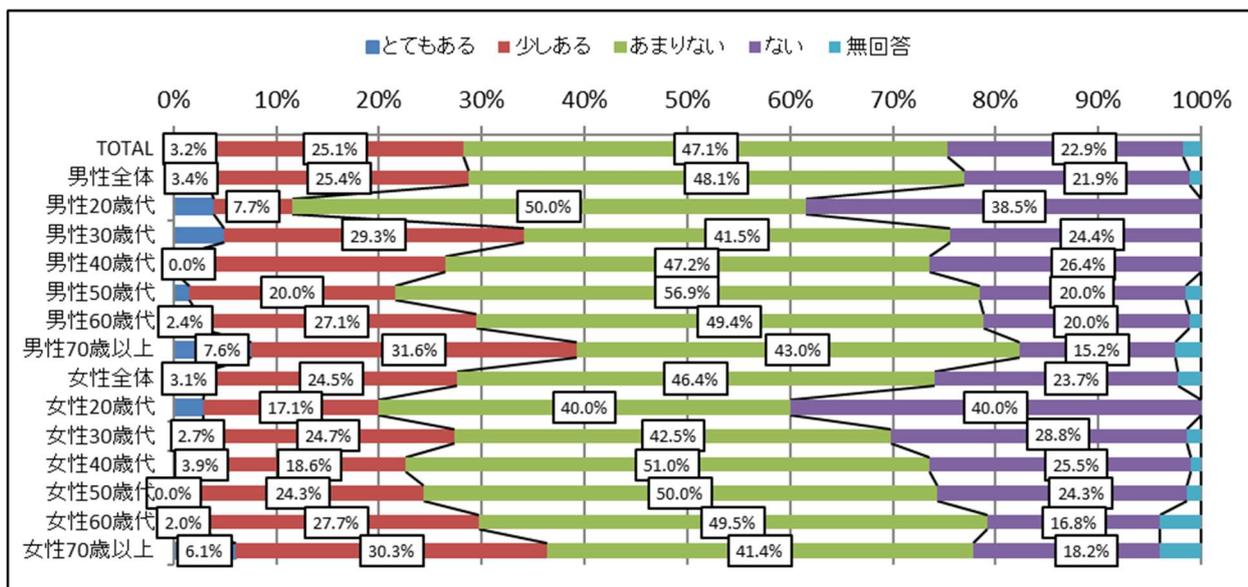
「あまりない」と回答した人の割合が 47.1%と最も多く、次いで「少しある」と回答した人の割合が 25.1%、「ない」と回答した人の割合が 22.9%、「とてもある」と回答した人の割合は最も少なく 3.2%となっています。

「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は 28.3%であり、市民の多くは NPO 団体での活動やボランティア活動に対して興味をもっていないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は 28.1%であり、前年度アンケートと比較して、大きな変動がないことがうかがえます。

母集団		とてもある	少しある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	856	3.2%	25.1%	47.1%	22.9%	1.8%	100.0%
男性全体	351	3.4%	25.4%	48.1%	21.9%	1.1%	100.0%
男性 20 歳代	26	3.8%	7.7%	50.0%	38.5%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	4.9%	29.3%	41.5%	24.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	0.0%	26.4%	47.2%	26.4%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	1.5%	20.0%	56.9%	20.0%	1.5%	100.0%
男性 60 歳代	85	2.4%	27.1%	49.4%	20.0%	1.2%	100.0%
男性 70 歳以上	79	7.6%	31.6%	43.0%	15.2%	2.5%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	3.1%	24.5%	46.4%	23.7%	2.3%	100.0%
女性 20 歳代	35	2.9%	17.1%	40.0%	40.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	2.7%	24.7%	42.5%	28.8%	1.4%	100.0%
女性 40 歳代	102	3.9%	18.6%	51.0%	25.5%	1.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	0.0%	24.3%	50.0%	24.3%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	101	2.0%	27.7%	49.5%	16.8%	4.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	6.1%	30.3%	41.4%	18.2%	4.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	3.3%	25.2%	42.1%	28.0%	1.4%	100.0%
藤沢地区	52	3.8%	23.1%	44.2%	23.1%	5.8%	100.0%
幡羅地区	105	4.8%	30.5%	42.9%	21.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	3.8%	23.1%	50.0%	15.4%	7.7%	100.0%
大寄地区	16	0.0%	50.0%	31.3%	12.5%	6.3%	100.0%
八基地区	11	0.0%	27.3%	63.6%	9.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	7.1%	14.3%	50.0%	28.6%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	5.0%	25.7%	47.5%	19.8%	2.0%	100.0%
南地区	51	0.0%	27.5%	47.1%	25.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	2.2%	18.5%	55.4%	21.7%	2.2%	100.0%
川本地区	69	2.9%	26.1%	55.1%	14.5%	1.4%	100.0%
花園地区	70	1.4%	22.9%	52.9%	21.4%	1.4%	100.0%
無回答	21	0.0%	23.8%	38.1%	38.1%	0.0%	100.0%

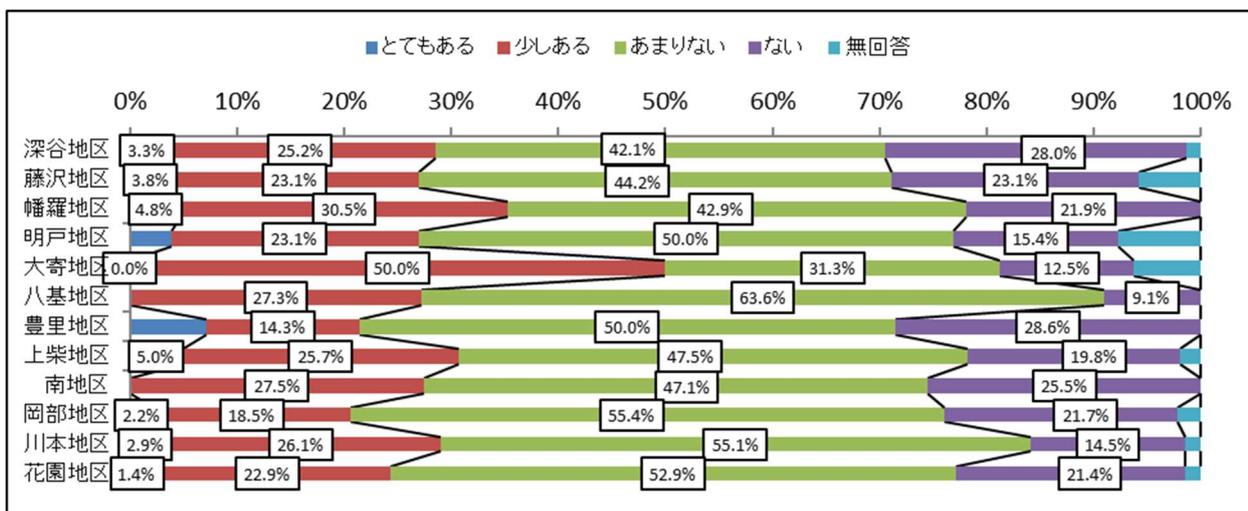
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合は男性が28.8%であるのに対して、女性は27.6%となっています。

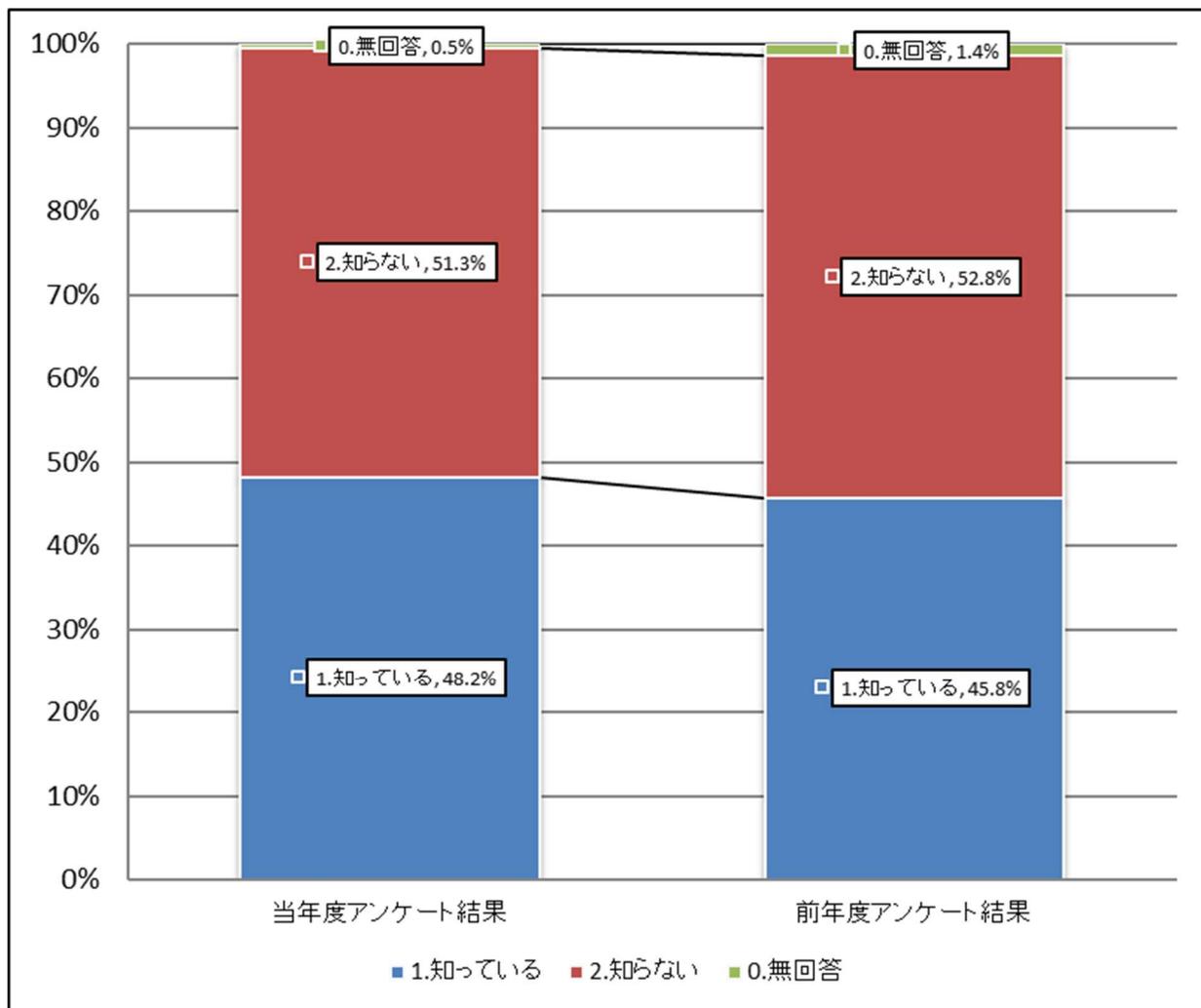
「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が50歳代(21.5%)、女性が20歳代(20.0%)となっています。最も多い世代は、男女ともに70歳以上(男性39.2%、女性36.4%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とてもある」または「少しある」と回答した人の割合が最も少ないのは、岡部地区(20.7%)であり、次いで豊里地区(21.4%)となっています。最も多いのは大寄地区(50.0%)であり、次いで幡羅地区(35.2%)となっています。

## 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていますか。

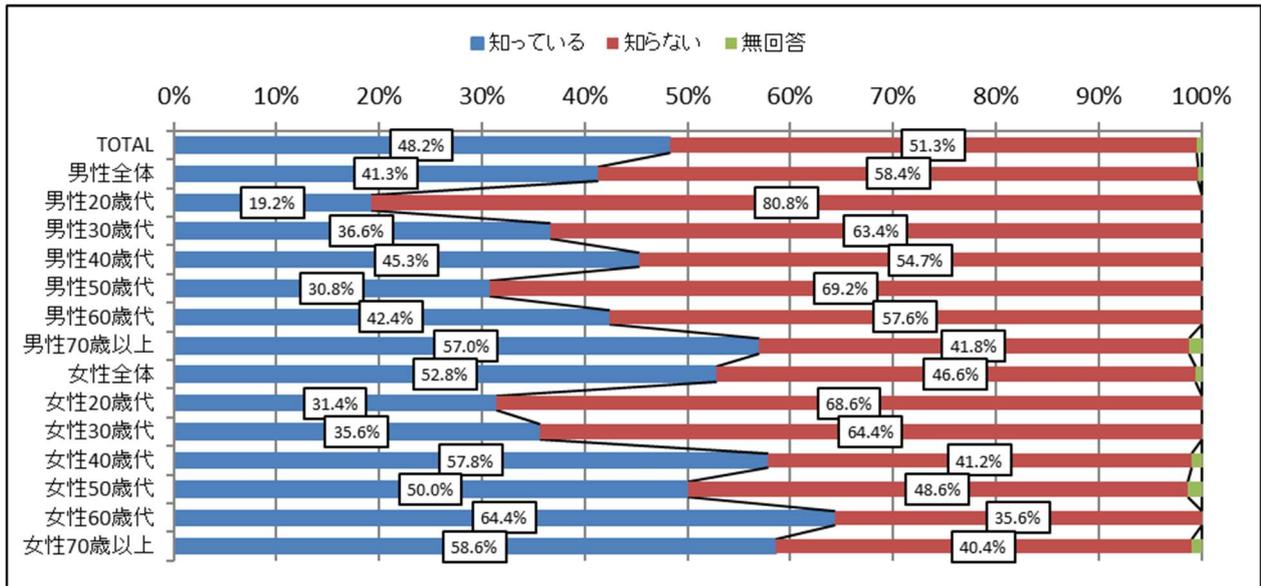


「知らない」と回答した人の割合は51.3%、「知っている」と回答した人の割合は48.2%であり、過半数の人が市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知らないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は45.8%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	856	48.2%	51.3%	0.5%	100.0%
男性全体	351	41.3%	58.4%	0.3%	100.0%
男性 20 歳代	26	19.2%	80.8%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	36.6%	63.4%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	45.3%	54.7%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	30.8%	69.2%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	42.4%	57.6%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	79	57.0%	41.8%	1.3%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	52.8%	46.6%	0.6%	100.0%
女性 20 歳代	35	31.4%	68.6%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	35.6%	64.4%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	57.8%	41.2%	1.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	50.0%	48.6%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	101	64.4%	35.6%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	58.6%	40.4%	1.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	47.7%	52.3%	0.0%	100.0%
藤沢地区	52	51.9%	46.2%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	48.6%	51.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	34.6%	61.5%	3.8%	100.0%
大寄地区	16	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
八基地区	11	72.7%	27.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	47.5%	51.5%	1.0%	100.0%
南地区	51	60.8%	39.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	46.7%	52.2%	1.1%	100.0%
川本地区	69	42.0%	58.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	44.3%	55.7%	0.0%	100.0%
無回答	21	38.1%	61.9%	0.0%	100.0%

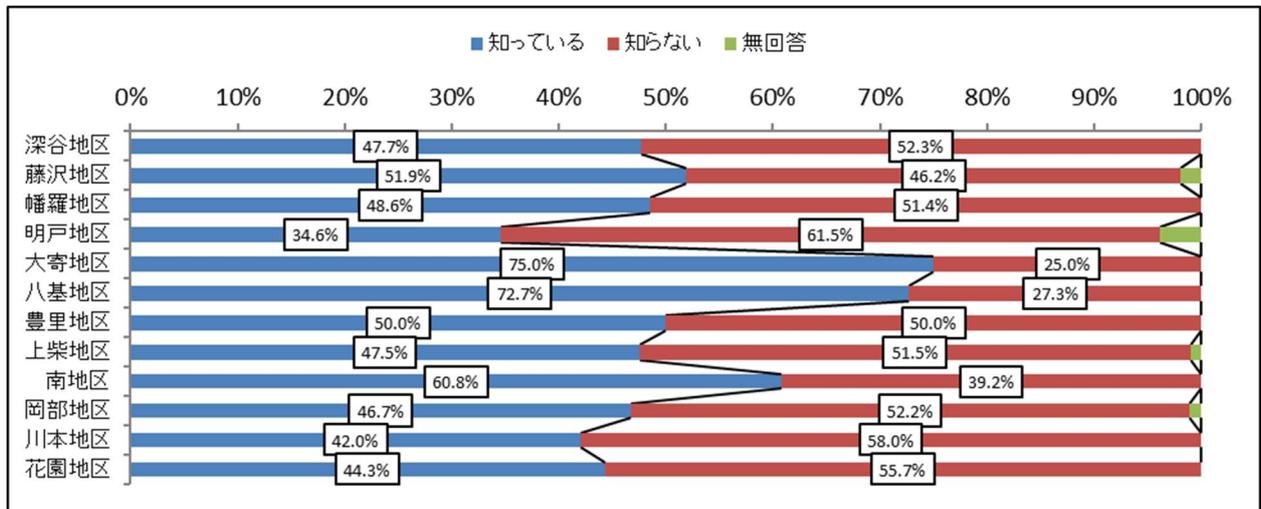
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は、男性が41.3%であるのに対して、女性は52.8%となっています。男女によって、差があることがうかがえます。

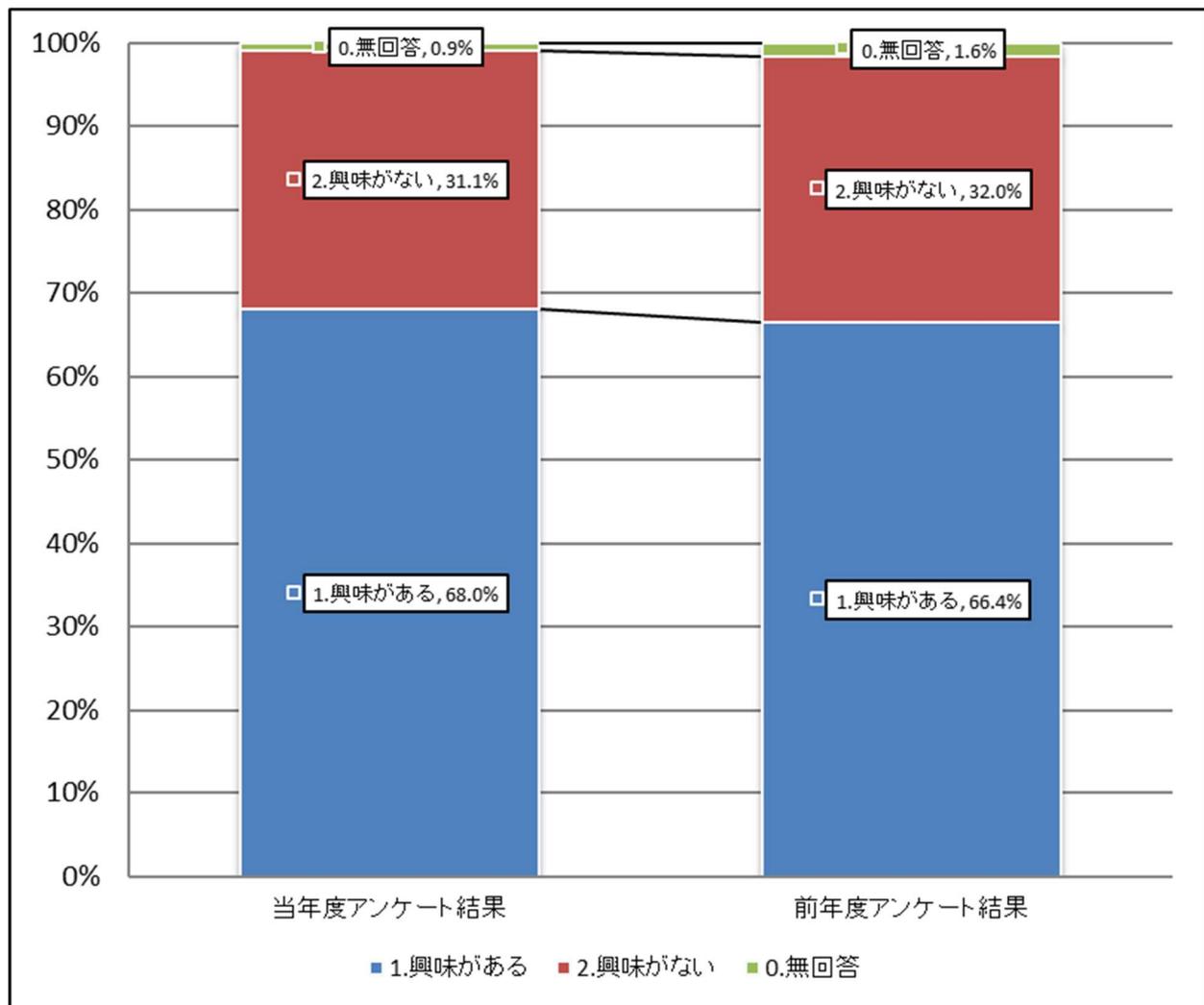
また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男女ともに20歳代（男性19.2%、女性31.4%）であり、一方で最も多い世代は、男性が70歳以上（57.0%）、女性60歳代（64.4%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ないのは、明戸地区（34.6%）であり、次いで川本地区（42.0%）となっています。最も多いのは大寄地区（75.0%）であり、次いで八基地区（72.7%）となっています。

## 花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。

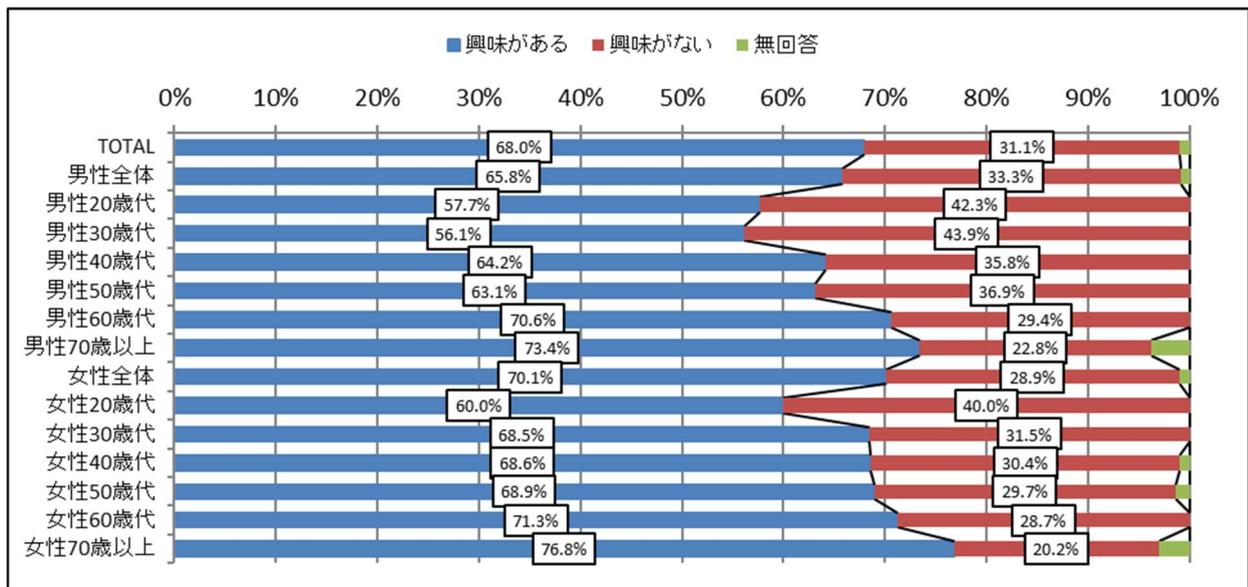


「興味がある」と回答した人の割合は68.0%、「興味がない」と回答した人の割合は31.1%であり、市民の7割近くが花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「興味がある」と回答した人の割合は66.4%であり、前年度アンケートと比較して、増加していることがうかがえます。

母集団		興味がある	興味がない	無回答	合計
TOTAL	856	68.0%	31.1%	0.9%	100.0%
男性全体	351	65.8%	33.3%	0.9%	100.0%
男性 20 歳代	26	57.7%	42.3%	0.0%	100.0%
男性 30 歳代	41	56.1%	43.9%	0.0%	100.0%
男性 40 歳代	53	64.2%	35.8%	0.0%	100.0%
男性 50 歳代	65	63.1%	36.9%	0.0%	100.0%
男性 60 歳代	85	70.6%	29.4%	0.0%	100.0%
男性 70 歳以上	79	73.4%	22.8%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	70.1%	28.9%	1.0%	100.0%
女性 20 歳代	35	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%
女性 30 歳代	73	68.5%	31.5%	0.0%	100.0%
女性 40 歳代	102	68.6%	30.4%	1.0%	100.0%
女性 50 歳代	74	68.9%	29.7%	1.4%	100.0%
女性 60 歳代	101	71.3%	28.7%	0.0%	100.0%
女性 70 歳以上	99	76.8%	20.2%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	69.2%	30.4%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	63.5%	34.6%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	77.1%	22.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	69.2%	30.8%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	68.8%	25.0%	6.3%	100.0%
八基地区	11	81.8%	18.2%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	57.1%	42.9%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	70.3%	27.7%	2.0%	100.0%
南地区	51	72.5%	27.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	62.0%	37.0%	1.1%	100.0%
川本地区	69	62.3%	36.2%	1.4%	100.0%
花園地区	70	72.9%	27.1%	0.0%	100.0%
無回答	21	33.3%	61.9%	4.8%	100.0%

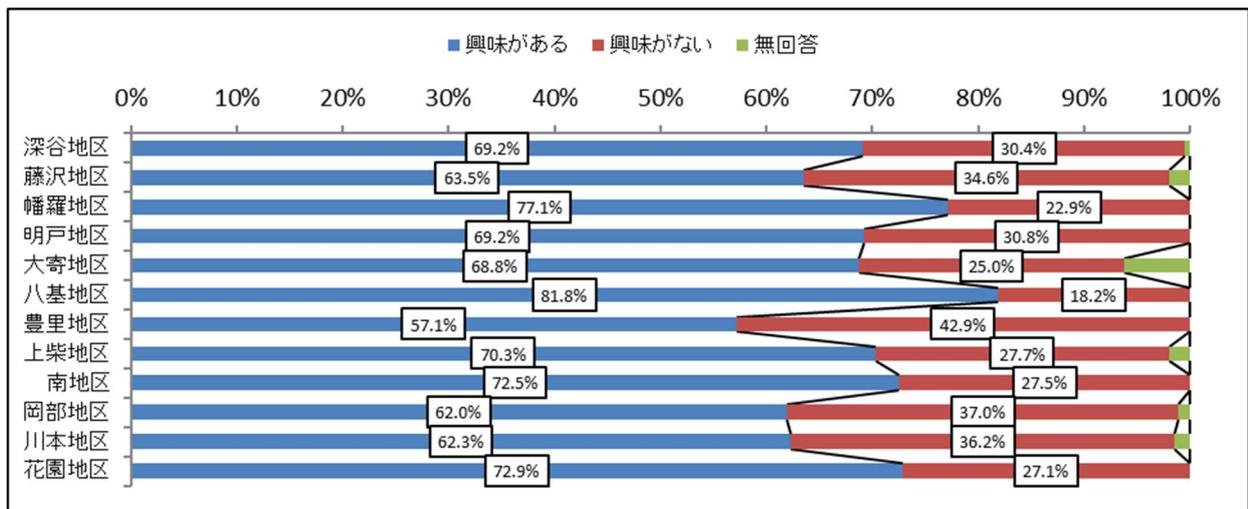
## ➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「興味がある」と回答した人の割合は男性が65.8%であるのに対して、女性は70.1%となっています。

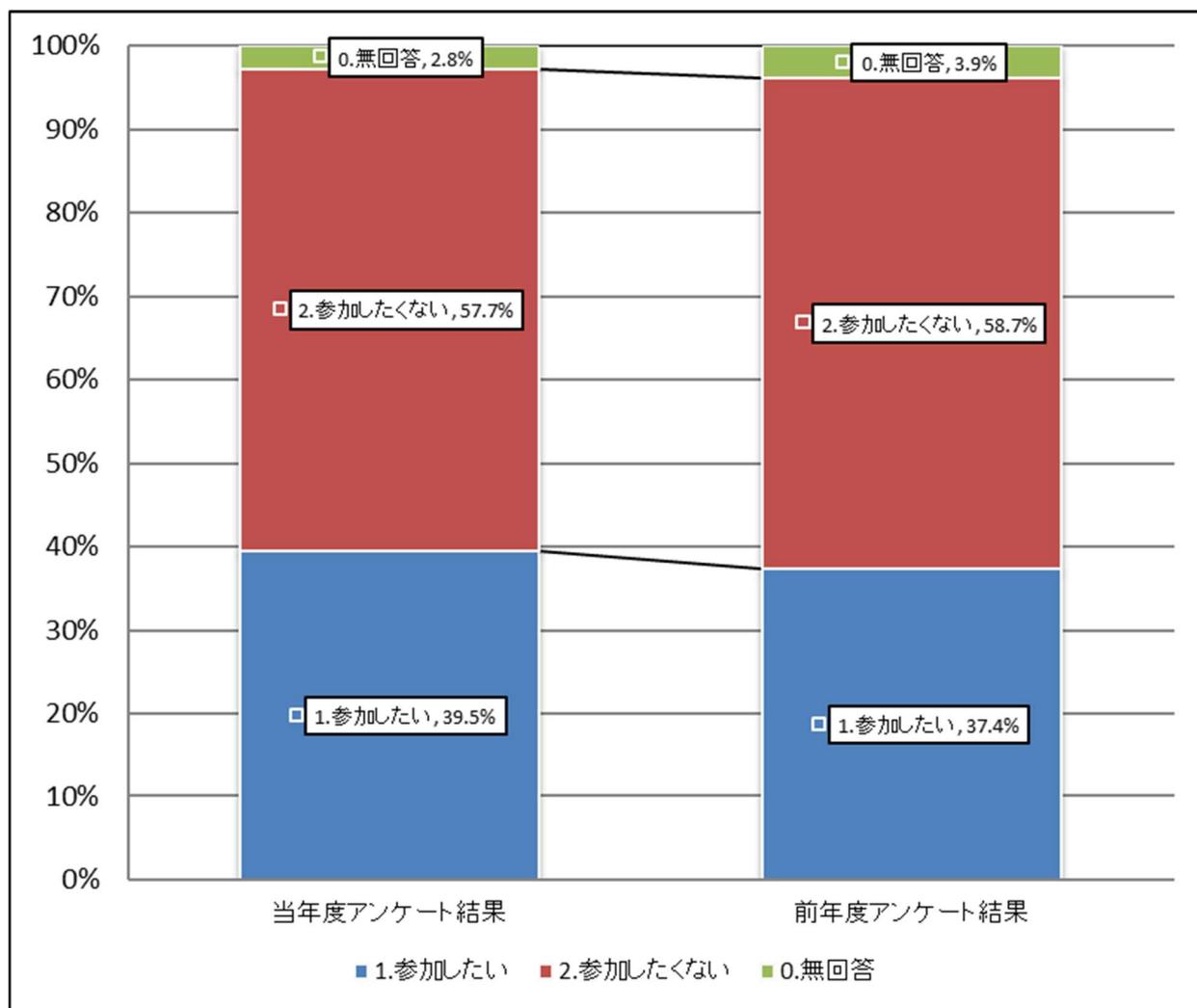
また、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が30歳代(56.1%)、女性が20歳代(60.0%)となっています。最も多い世代は、男女ともに70歳以上(男性73.4%、女性76.8%)となっています。

## ➤ 地区別



地区別にみると、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区(57.1%)であり、次いで岡部地区(62.0%)となっています。最も多いのは幡羅地区(77.1%)であり、次いで花園地区(72.9%)となっています。

花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいですか。



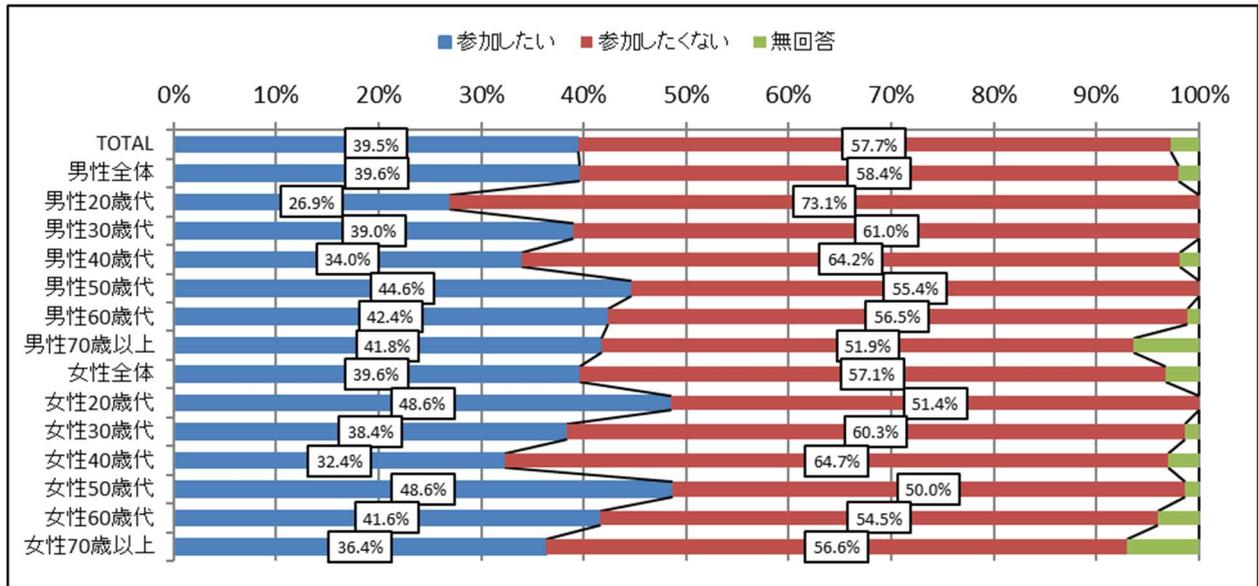
「参加したくない」と回答した人の割合は57.7%であり、「参加したい」と回答した人の割合は39.5%となっています。

前問の「花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。」に対して、「興味がある」と回答した人は全体の68.0%を占めるものの、実際に活動に参加したいと思うまでには至っていない市民が多数いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「参加したい」と回答した人の割合は37.4%であり、前年度アンケートと比較して、微増していることがうかがえます。

母集団		参加したい	参加したくない	無回答	合計
TOTAL	856	68.0%	31.1%	0.9%	100.0%
男性全体	351	65.8%	33.3%	0.9%	100.0%
男性20歳代	26	57.7%	42.3%	0.0%	100.0%
男性30歳代	41	56.1%	43.9%	0.0%	100.0%
男性40歳代	53	64.2%	35.8%	0.0%	100.0%
男性50歳代	65	63.1%	36.9%	0.0%	100.0%
男性60歳代	85	70.6%	29.4%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	79	73.4%	22.8%	3.8%	100.0%
男性年齢不詳	2	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性全体	485	70.1%	28.9%	1.0%	100.0%
女性20歳代	35	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	73	68.5%	31.5%	0.0%	100.0%
女性40歳代	102	68.6%	30.4%	1.0%	100.0%
女性50歳代	74	68.9%	29.7%	1.4%	100.0%
女性60歳代	101	71.3%	28.7%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	99	76.8%	20.2%	3.0%	100.0%
女性年齢不詳	1	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
深谷地区	214	69.2%	30.4%	0.5%	100.0%
藤沢地区	52	63.5%	34.6%	1.9%	100.0%
幡羅地区	105	77.1%	22.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	26	69.2%	30.8%	0.0%	100.0%
大寄地区	16	68.8%	25.0%	6.3%	100.0%
八基地区	11	81.8%	18.2%	0.0%	100.0%
豊里地区	28	57.1%	42.9%	0.0%	100.0%
上柴地区	101	70.3%	27.7%	2.0%	100.0%
南地区	51	72.5%	27.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	92	62.0%	37.0%	1.1%	100.0%
川本地区	69	62.3%	36.2%	1.4%	100.0%
花園地区	70	72.9%	27.1%	0.0%	100.0%
無回答	21	33.3%	61.9%	4.8%	100.0%

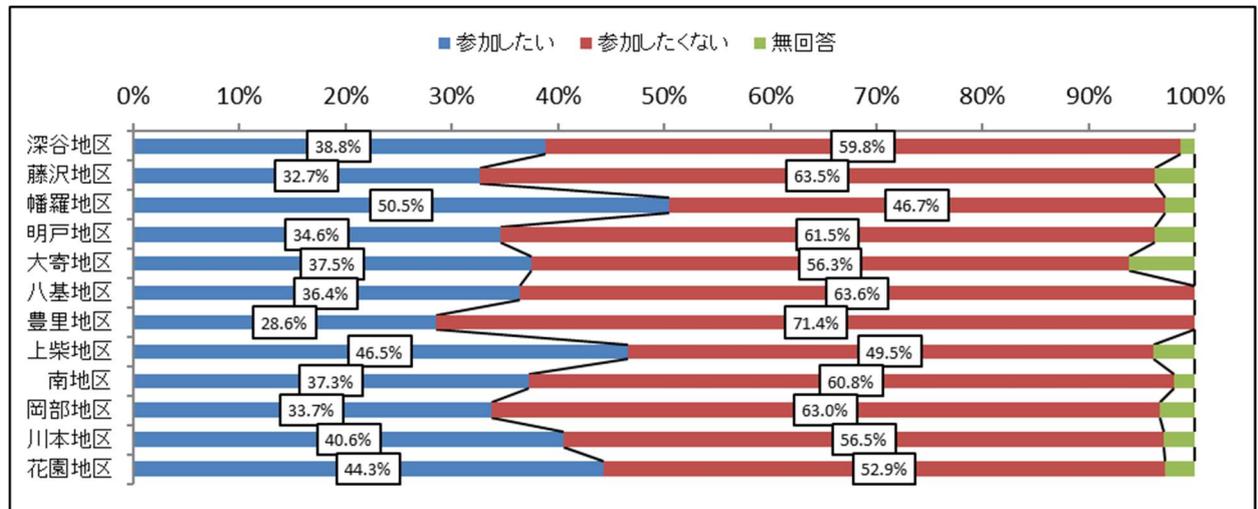
➤ 性別・世代別



性別・世代別にみると、「参加したい」と回答した人の割合は男性が39.6%であるのに対して、女性は39.6%となっています。

また、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ない世代は、男性が20歳代(26.9%)であり、女性は40歳代(32.4%)となっています。最も多い世代は、男性が50歳代(44.6%)、女性が20歳代、50歳代(48.6%)となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ないのは、豊里地区(28.6%)であり、次いで藤沢地区(32.7%)となっています。最も多いのは幡羅地区(50.5%)であり、次いで上柴地区(46.5%)となっています。

### 3. 深谷市の施策について

深谷市が行っている施策を重要度と満足度を軸とし、i) 重要度・満足度ともに高い施策、ii) 重要度が高く、満足度が低い施策、iii) 重要度が低く、満足度が高い施策、iv) 重要度・満足度ともに低い施策の4つに分類し、施策の優先順位付けのための分析を実施しました。

なお、重要度・満足度の得点の算出方法につきましては、P. 2の1. アンケート調査の実施方法に記載されている注意書きをご参照ください。

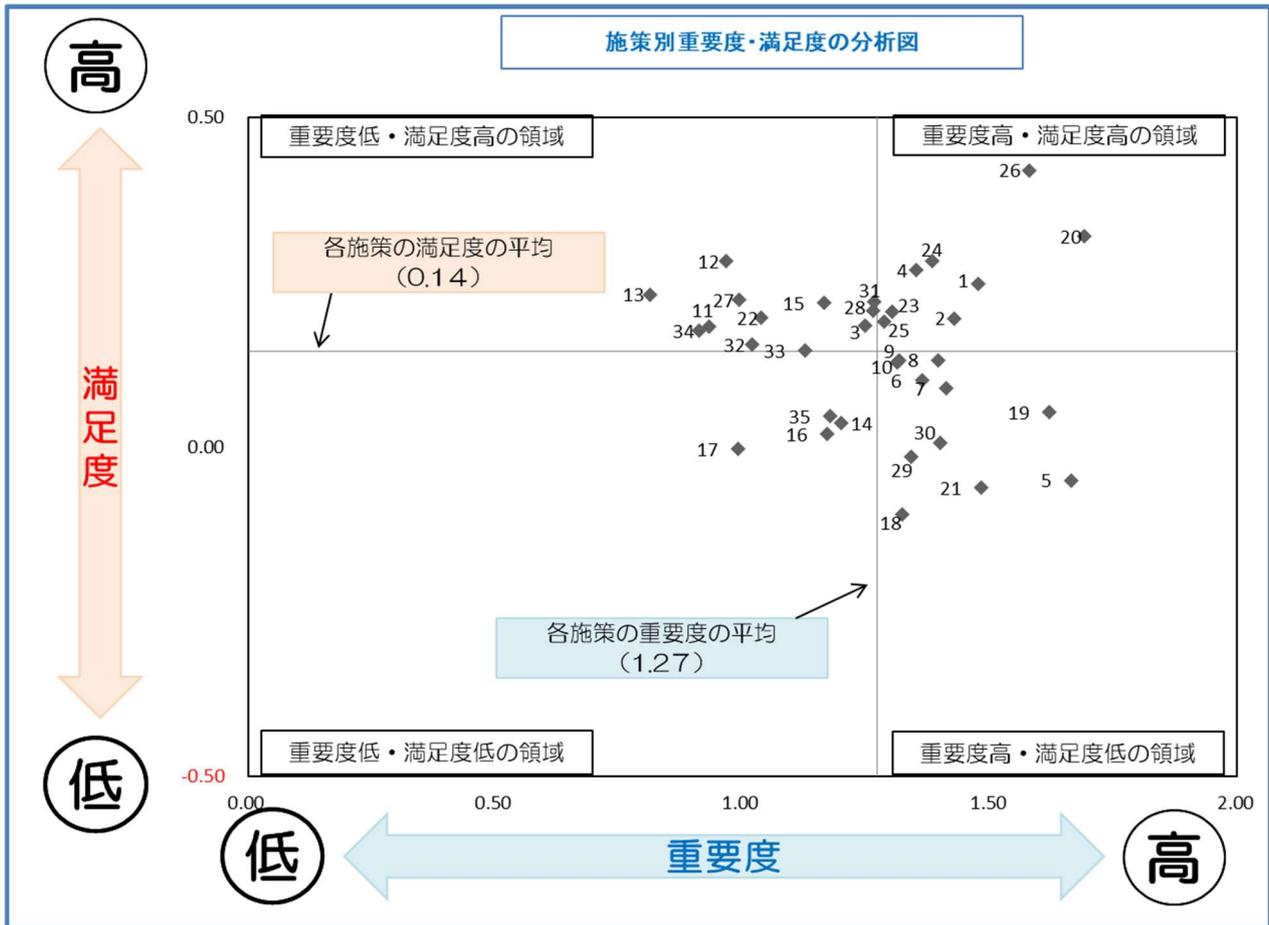
#### (1) 深谷市全体

##### ① 施策別重要度・満足度一覧

施策		重要度	満足度
1.子育て・保健・福祉	1 子育て支援の充実	1.48	0.25
	2 保育サービスの充実	1.43	0.20
	3 青少年の健全育成の推進	1.25	0.18
	4 健康づくりの推進	1.35	0.27
	5 地域医療体制の充実	1.66	(0.05)
	6 地域福祉の推進	1.36	0.10
	7 高齢者福祉の推進	1.41	0.09
	8 障害者福祉の推進	1.40	0.13
2.教育・文化	9 「生きる力」を育む学校教育の推進	1.32	0.13
	10 家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	1.31	0.13
	11 生涯学習の推進	0.93	0.18
	12 郷土の歴史・文化の継承と活用	0.97	0.28
	13 スポーツ・レクリエーションの推進	0.81	0.23
3.産業振興	14 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	1.20	0.04
	15 農畜産物の販売流通体制の充実	1.16	0.22
	16 商工業の振興	1.17	0.02
	17 観光資源の整備と活用	0.99	(0.00)
	18 就労環境の整備	1.32	(0.10)
4.暮らし・環境	19 災害に強い防災体制の推進	1.62	0.05
	20 消防・救急体制の充実	1.69	0.32
	21 防犯・空き家対策の推進	1.48	(0.06)
	22 地域コミュニティの推進	1.04	0.20
	23 自然・生活環境の保全	1.30	0.21
	24 環境衛生の推進	1.38	0.28
5.都市・生活基礎	25 良好な市街地・住環境形成の推進	1.29	0.19
	26 水の安定供給と下水処理の適正化	1.58	0.42
	27 自然・文化を生かした景観形成	0.99	0.22
	28 治水対策の推進	1.26	0.21
	29 道路・交通環境整備の推進	1.34	(0.02)
	30 公共交通の維持確保と交通安全の推進	1.40	0.01
6.協働・行政経営	31 人権・個性が尊重される社会の実現	1.27	0.22
	32 男女共同参画の実現	1.02	0.16
	33 情報発信・共有の推進	1.13	0.15
	34 市民との協働・交流の推進	0.91	0.18
	35 行財政運営の推進	1.18	0.05
平均値		1.27	0.14

重要度の平均値は1.27となっており、深谷市の実施している施策について、全体的にみて、重要度が高いと認識している市民が多いことがうかがえます。一方で、満足度の平均値は0.14と重要度の平均値に比べて低く、行政サービスと市民の期待との間にギャップがあることがうかがえます。

② 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	20	消防・救急体制の充実
15	農畜産物の販売流通体制の充実	23	自然・生活環境の保全
22	地域コミュニティの推進	24	環境衛生の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	25	良好な市街地・住環境形成の推進
28	治水対策の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
31	人権・個性が尊重される社会の実現		
32	男女共同参画の実現		
33	情報発信・共有の推進		
34	市民との協働・交流の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
35	行財政運営の推進	8	障害者福祉の推進
		9	「生きる力」を育む学校教育の推進
		10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
		18	就労環境の整備
		19	災害に強い防災体制の推進
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を<重要度高・満足度高>、<重要度高・満足度低>、<重要度低・満足度高>、<重要度低・満足度低>の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

#### <重要度高・満足度高>

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度も高い領域には「子育て支援の充実」、「保育サービスの充実」、「健康づくりの推進」、「消防・救急体制の充実」、「自然・生活環境の保全」、「環境衛生の推進」、「良好な市街地・住環境形成の推進」、「水の安定供給と下水処理の適正化」の8施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として優先して位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

#### <重要度高・満足度低>

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度が低い領域には、「地域医療体制の充実」、「地域福祉の推進」、「高齢者福祉の推進」、「障害者福祉の推進」、「「生きる力」を育む学校教育の推進」、「家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」、「就労環境の整備」、「災害に強い防災体制の推進」、「防犯・空き家対策の推進」、「道路・交通環境整備の推進」、「公共交通の維持確保と交通安全の推進」の11施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

#### <重要度低・満足度高>

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度が高い領域には、「青少年の健全育成の推進」、「生涯学習の推進」、「郷土の歴史・文化の継承と活用」、「スポーツ・レクリエーションの推進」、「農畜産物の販売流通体制の充実」、「地域コミュニティの推進」、「自然・文化を生かした景観形成」、「治水対策の推進」、「人権・個性が尊重される社会の実現」、「男女共同参画の実現」、「情報発信・共有の推進」、「市民との協働・交流の推進」の12施策が該当します。

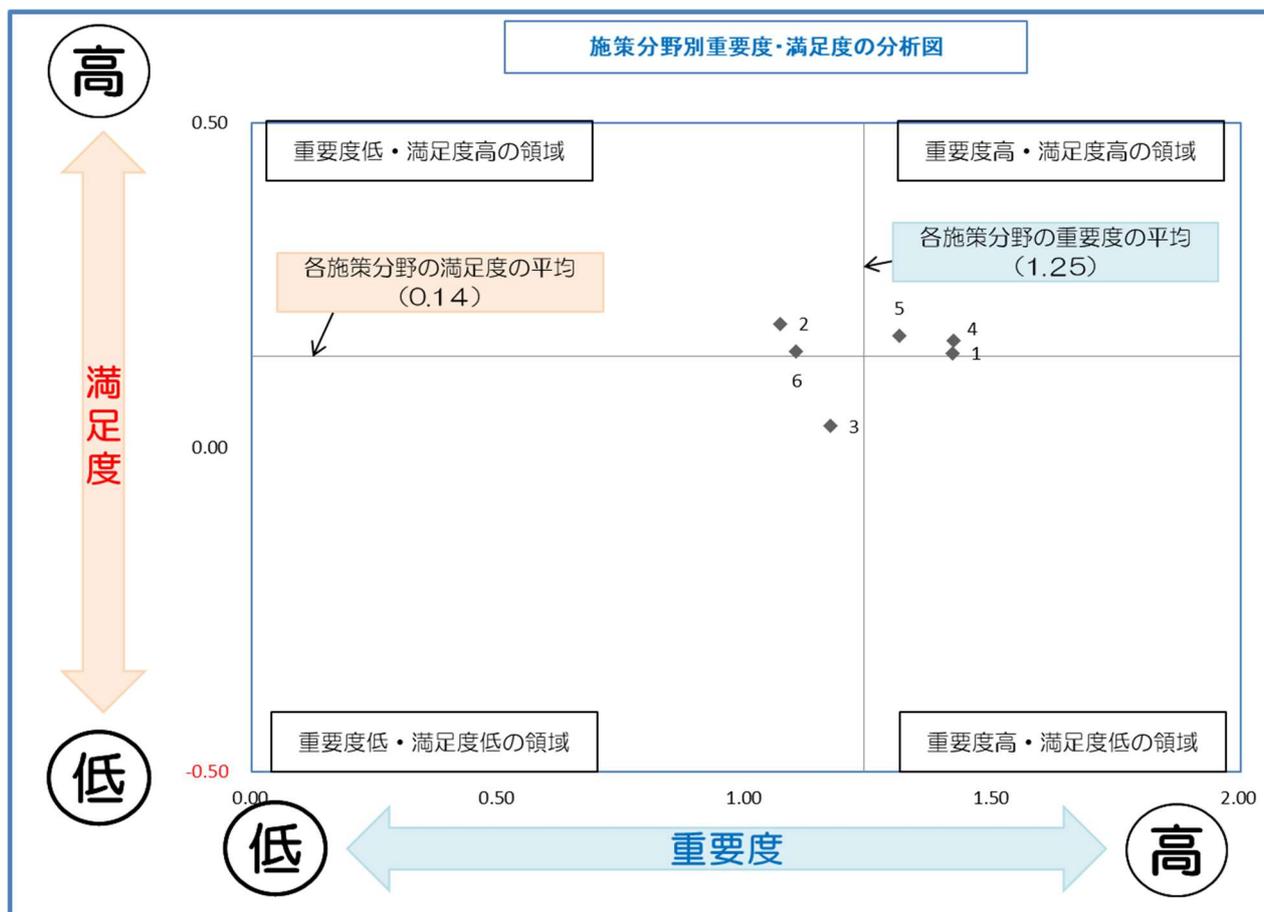
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないかどうか確認する必要があります。

#### <重要度低・満足度低>

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度も低い領域には、「農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「商工業の振興」、「観光資源の整備と活用」、「行財政運営の推進」の4施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

### ③ 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
6	協働・行政経営	4	暮らし・環境
		5	都市・生活基礎
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
3	産業振興		

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

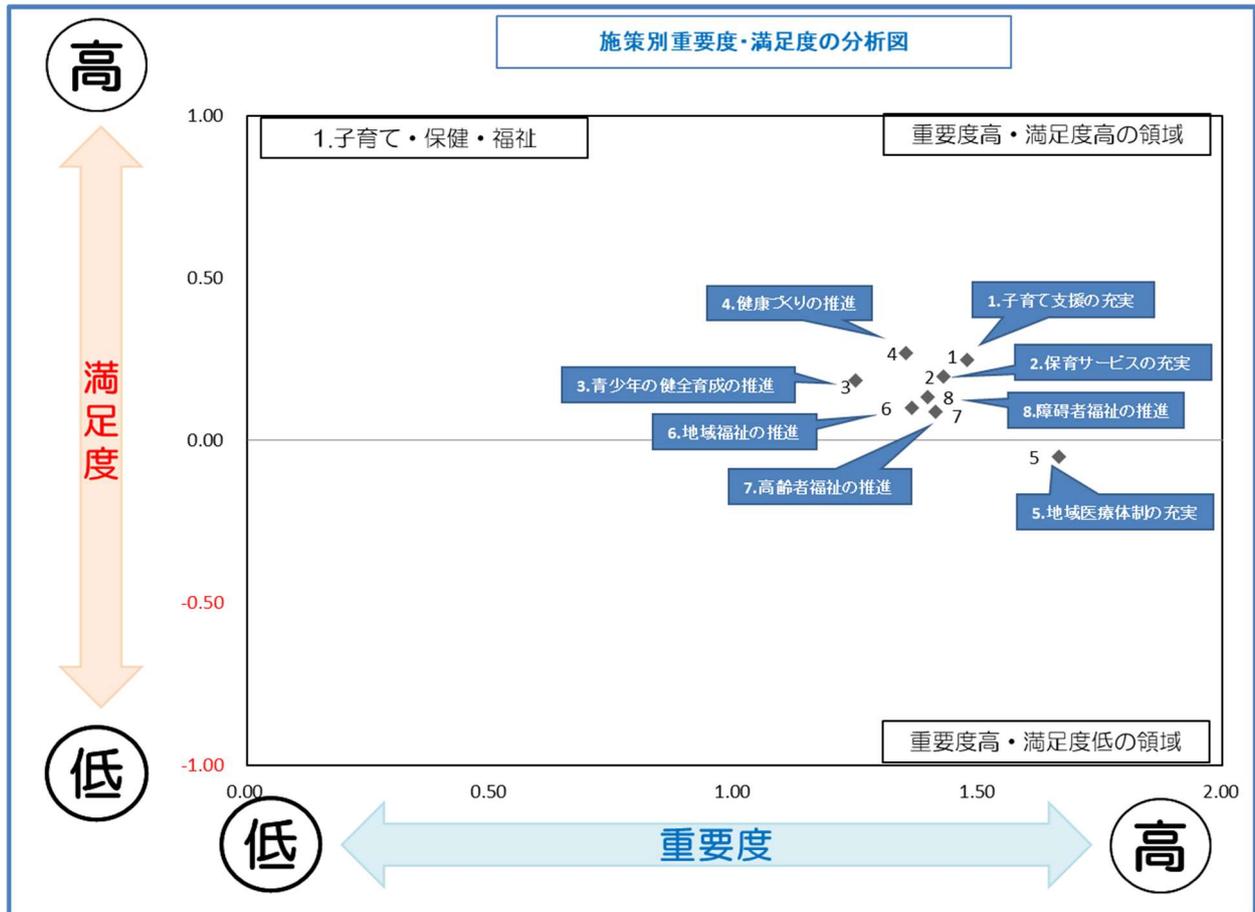
＜重要度高・満足度高＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が高い施策分野であり、「子育て・保健・福祉」、「暮らし・環境」、「都市・生活基礎」の3分野が該当します。

＜重要度高・満足度低＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は高いものの、満足度が低い施策分野であり、本調査での該当はありませんでした。

＜重要度低・満足度高＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度は高いものの、満足度が低い施策分野であり、「教育・文化」、「協働・行政経営」の2分野が該当します。

＜重要度低・満足度低＞に分類される施策分野は、全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が低い施策分野であり、「産業振興」の1分野が該当します。

< 1. 子育て・保健・福祉 >

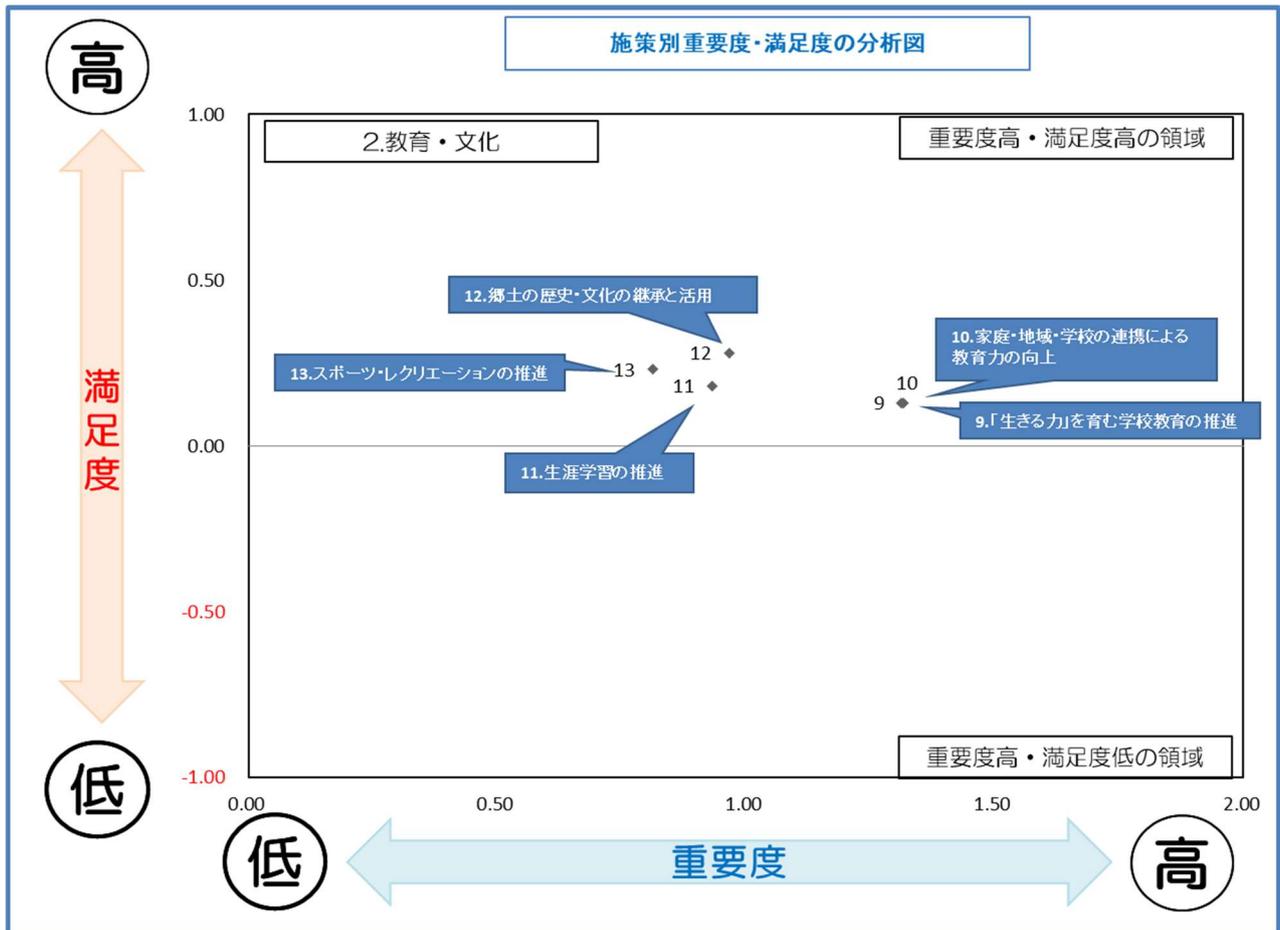


子育て・保健・福祉分野に係る施策は8施策あり、7つの施策が重要度高・満足度高に分類されています。

子育て・保健・福祉分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「5. 地域医療体制の充実」、最も低かった施策は「3. 青少年の健全育成の推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「4. 健康づくりの推進」、最も低かった施策は「5. 地域医療体制の充実」となりました。

「5. 地域医療体制の充実」は重要度が高い施策であるものの、満足度が低いことがうかがえます。

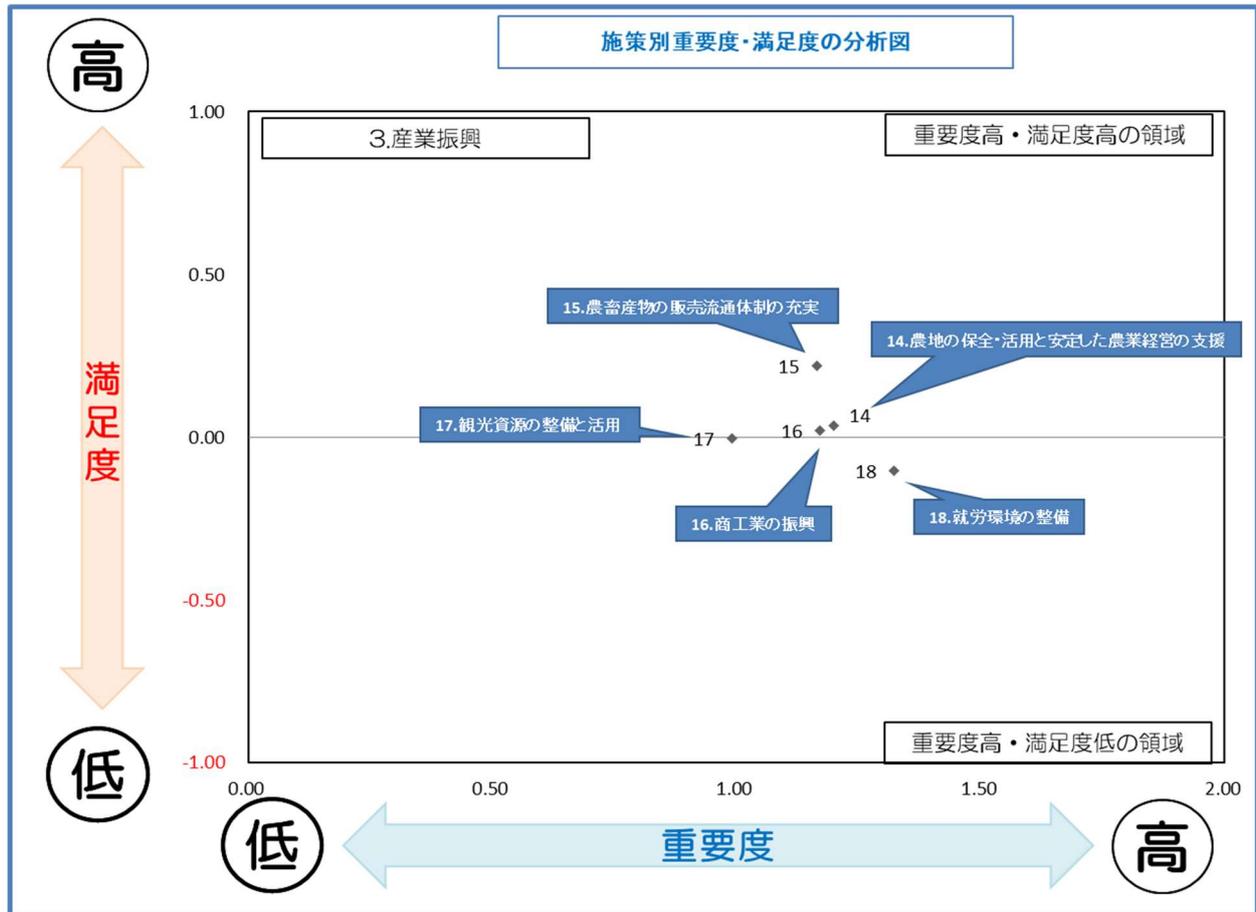
## < 2. 教育・文化 >



教育・文化分野に係る施策は5施策あり、全ての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

教育・文化分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「10. 家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」、最も低かった施策は「13. スポーツ・レクリエーションの推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「12. 郷土の歴史・文化の継承と活用」、最も低かった施策は「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」と「10. 家庭・地域・学校の連携による教育力の向上」となりました。

### < 3. 産業振興 >

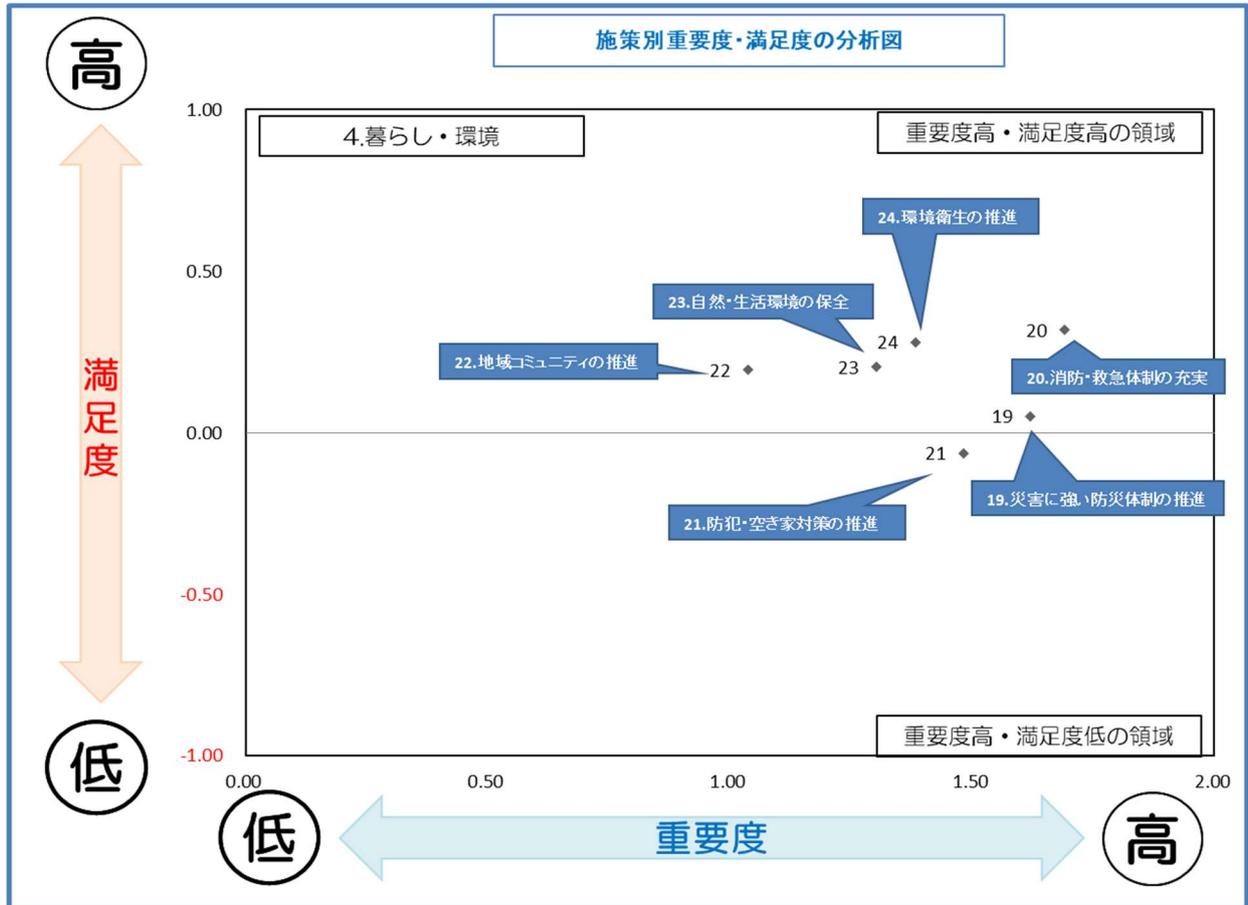


産業振興分野に係る施策は5施策あり、「14. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支」と「15. 農畜産物の販売流通体制の充実」の2施策において重要度高・満足度高に分類されています。

産業振興分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「18. 就労環境の整備」、最も低かった施策は「17. 観光資源の整備と活用」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「15. 農畜産物の販売流通体制の充実」、最も低かった施策は「18. 就労環境の整備」となりました。

「18. 就労環境の整備」は重要度が高い施策であるものの、満足度は低くなっていることがうかがえます。

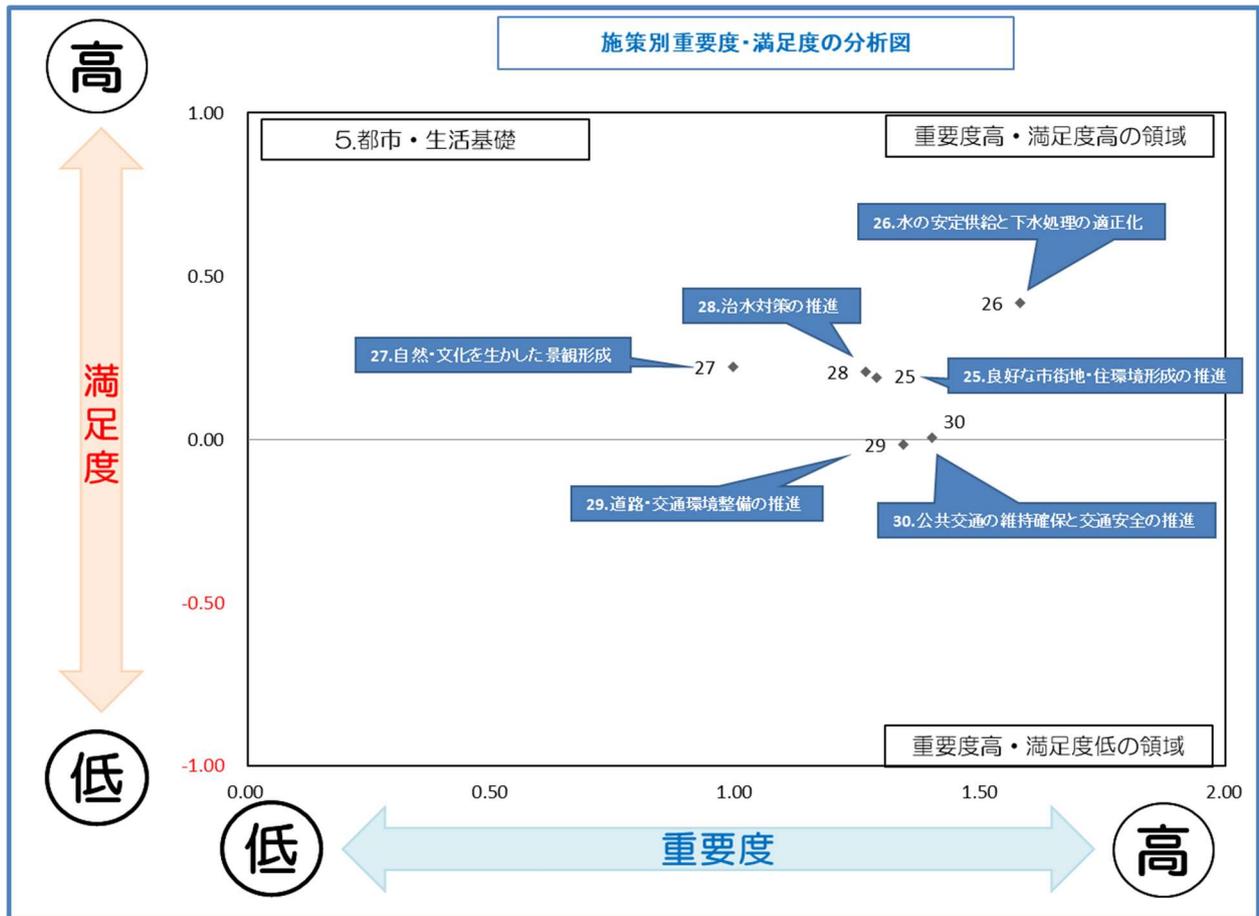
< 4. 暮らし・環境 >



暮らし・環境分野に係る施策は6施策あり、「19. 災害に強い防災体制の推進」「20. 消防・救急体制の充実」「22. 地域コミュニティの推進」「23. 自然・生活環境の保全」「24. 環境衛生の推進」の5施策において重要度高・満足度高に分類されています。

暮らし・環境分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「20. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「22. 地域コミュニティの推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「20. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「21. 防犯・空き家対策の推進」となりました。

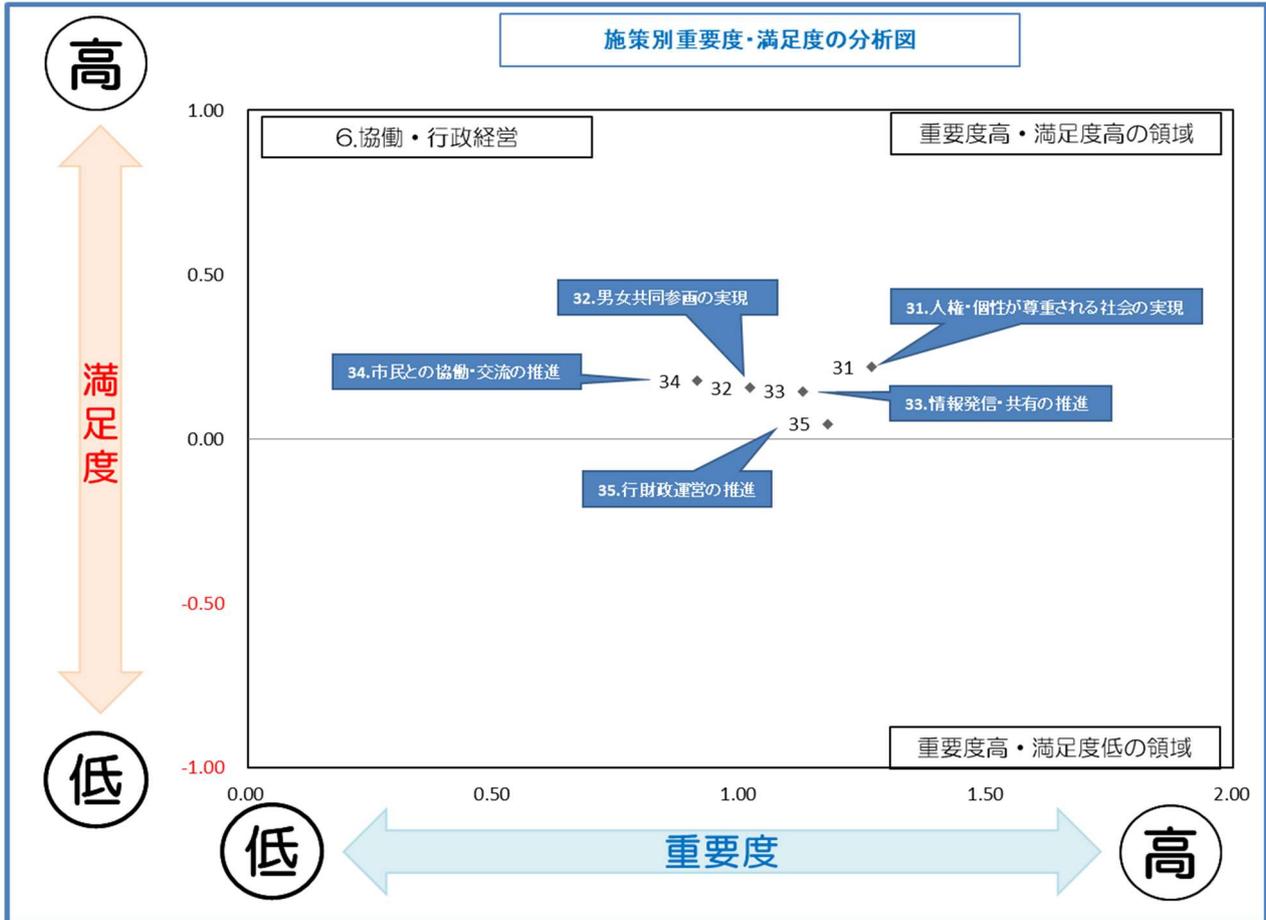
< 5. 都市・生活基礎 >



都市・生活基礎分野に係る施策は6施策あり、「25. 良好な市街地・住環境形成の促進」「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」「27. 自然・文化を生かした景観形成」「28. 治水対策の推進」「30. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」の5施策において重要度高・満足度高に分類されています。

都市・生活基礎分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「27. 自然・文化を生かした景観形成」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「29. 道路・交通環境整備の推進」となりました。

< 6. 協働・行政経営 >



協働・行政経営分野に係る施策は5施策あり、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

協働・行政経営分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「31. 人権・個性が尊重される社会の実現」、最も低かった施策は「34. 市民との協働・交流の推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「31. 人権・個性が尊重される社会の実現」、最も低かった施策は「35. 行財政運営の推進」となりました。

## (2) 地区別

### ➤ 深谷地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	1	子育て支援の充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	4	健康づくりの推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	6	地域福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	20	消防・救急体制の充実
23	自然・生活環境の保全	24	環境衛生の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	25	良好な市街地・住環境形成の推進
32	男女共同参画の実現	26	水の安定供給と下水処理の適正化
34	市民との協働・交流の推進	28	治水対策の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
3	青少年の健全育成の推進	2	保育サービスの充実
11	生涯学習の推進	5	地域医療体制の充実
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	7	高齢者福祉の推進
16	商工業の振興	8	障害者福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
33	情報発信・共有の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
35	行財政運営の推進	18	就労環境の整備
		19	災害に強い防災体制の推進
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進

深谷地区では、重要度が高い施策として、高い順に「20. 消防・救急体制の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「21. 防犯・空き家対策の推進」、「1. 子育て支援の充実」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「21. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「11. 生涯学習の推進」、「17. 観光資源の整備と活用」、「35. 行財政運営の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、深谷地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 藤沢地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	4	健康づくりの推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
13	スポーツ・レクリエーションの推進	19	災害に強い防災体制の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	20	消防・救急体制の充実
25	良好な市街地・住環境形成の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
27	自然・文化を生かした景観形成	28	治水対策の推進
33	情報発信・共有の推進	29	道路・交通環境整備の推進
34	市民との協働・交流の推進	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		31	人権・個性が尊重される社会の実現
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	2	保育サービスの充実
16	商工業の振興	5	地域医療体制の充実
17	観光資源の整備と活用	6	地域福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	7	高齢者福祉の推進
23	自然・生活環境の保全	8	障害者福祉の推進
32	男女共同参画の実現	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
35	行財政運営の推進	18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		24	環境衛生の推進

藤沢地区では、重要度が高い施策として、高い順に「20. 消防・救急体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「1. 子育て支援の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち「5. 地域医療体制の充実」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「16. 商工業の振興」、「17. 観光資源の整備と活用」が挙げられます。これらの施策については、藤沢地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
9	「生きる力」を育む学校教育の推進	2	保育サービスの充実
11	生涯学習の推進	4	健康づくりの推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
13	スポーツ・レクリエーションの推進	20	消防・救急体制の充実
15	農畜産物の販売流通体制の充実	23	自然・生活環境の保全
22	地域コミュニティの推進	24	環境衛生の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
27	自然・文化を生かした景観形成		
28	治水対策の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
18	就労環境の整備	8	障害者福祉の推進
31	人権・個性が尊重される社会の実現	19	災害に強い防災体制の推進
32	男女共同参画の実現	21	防犯・空き家対策の推進
33	情報発信・共有の推進	29	道路・交通環境整備の推進
34	市民との協働・交流の推進	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
35	行財政運営の推進		

幡羅地区では、重要度が高い施策として、高い順に「19. 災害に強い防災体制の推進」、  
「20. 消防・救急体制の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の  
適正化」、「21. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられます。比較的重要度が高い  
施策の中で、「21. 防犯・空き家対策の推進」、「5. 地域医療体制の充実」に関しては、重要  
度に比べ満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「17. 観光資源の整備」、「32. 男女共同参  
画の実現」などの施策が挙げられます。これらの施策については、幡羅地区の市民は、重要  
視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 明戸地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
1	子育て支援の充実	2	保育サービスの充実
3	青少年の健全育成の推進	4	健康づくりの推進
9	「生きる力」を育む学校教育の推進	8	障害者福祉の推進
11	生涯学習の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	18	就労環境の整備
13	スポーツ・レクリエーションの推進	19	災害に強い防災体制の推進
23	自然・生活環境の保全	20	消防・救急体制の充実
24	環境衛生の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
25	良好な市街地・住環境形成の推進		
27	自然・文化を生かした景観形成		
31	人権・個性が尊重される社会の実現		
32	男女共同参画の実現		
34	市民との協働・交流の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
15	農畜産物の販売流通体制の充実	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
28	治水対策の推進	21	防犯・空き家対策の推進
30	公共交通の維持確保と交通安全の推進	29	道路・交通環境整備の推進
33	情報発信・共有の推進		
35	行財政運営の推進		

明戸地区では、重要度が高い施策として、高い順に「19. 災害に強い防災体制の推進」、  
「5. 地域医療体制の重質」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「20. 消防・救急体制  
の充実」、「14. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」などの施策が挙げられ、この  
うち、「5. 地域医療体制の重質」や「14. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」に  
関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「33. 情報発信・共有の推進」、「22. 地域  
コミュニティの推進」、「28. 治水対策の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策に  
ついては、明戸地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかが  
えます。

➤ 大寄地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
1	子育て支援の充実	7	高齢者福祉の推進
2	保育サービスの充実	8	障害者福祉の推進
3	青少年の健全育成の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
4	健康づくりの推進	19	災害に強い防災体制の推進
11	生涯学習の推進	20	消防・救急体制の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	21	防犯・空き家対策の推進
16	商工業の振興	24	環境衛生の推進
17	観光資源の整備と活用	28	治水対策の推進
32	男女共同参画の実現		
33	情報発信・共有の推進		
34	市民との協働・交流の推進		
35	行財政運営の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
13	スポーツ・レクリエーションの推進	5	地域医療体制の充実
15	農畜産物の販売流通体制の充実	6	地域福祉の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
31	人権・個性が尊重される社会の実現	18	就労環境の整備
		22	地域コミュニティの推進
		23	自然・生活環境の保全
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

大寄地区では、重要度が高い施策として、高い順に「20. 消防・救急体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「24. 環境衛生の推進」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「28. 治水対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」に関しては満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「13. スポーツ・レクリエーションの推進」、「15. 農畜産物の販売流通体制の充実」などの施策が挙げられます。これらの施策については、大寄地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 八基地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育サービスの充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	3	青少年の健全育成の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	4	健康づくりの推進
22	地域コミュニティの推進	8	障害者福祉の推進
23	自然・生活環境の保全	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
24	環境衛生の推進	20	消防・救急体制の充実
27	自然・文化を生かした景観形成	33	情報発信・共有の推進
31	人権・個性が尊重される社会の実現		
32	男女共同参画の実現		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	5	地域医療体制の充実
25	良好な市街地・住環境形成の推進	6	地域福祉の推進
34	市民との協働・交流の推進	7	高齢者福祉の推進
		9	「生きる力」を育む学校教育の推進
		16	商工業の振興
		17	観光資源の整備と活用
		18	就労環境の整備
		19	災害に強い防災体制の推進
		21	防犯・空き家対策の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
		28	治水対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		35	行財政運営の推進

八基地区では、重要度が高い施策として、高い順に「8. 障害者福祉の推進」、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「1. 子育て支援の充実」「2. 保育サービスの充実」などの施策が挙げられ、このうち、5. 地域医療体制の充実、「19. 災害に強い防災体制の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「25. 良好な市街地・住環境形成の推進」、「34. 市民との協働・交流の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、八基地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 豊里地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
13	スポーツ・レクリエーションの推進	1	子育て支援の充実
22	地域コミュニティの推進	2	保育サービスの充実
31	人権・個性が尊重される社会の実現	3	青少年の健全育成の推進
32	男女共同参画の実現	4	健康づくりの推進
33	情報発信・共有の推進	7	高齢者福祉の推進
		8	障害者福祉の推進
		20	消防・救急体制の充実
		21	防犯・空き家対策の推進
		24	環境衛生の推進
		25	良好な市街地・住環境形成の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
9	「生きる力」を育む学校教育の推進	5	地域医療体制の充実
10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	6	地域福祉の推進
11	生涯学習の推進	18	就労環境の整備
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	19	災害に強い防災体制の推進
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	23	自然・生活環境の保全
15	農畜産物の販売流通体制の充実	28	治水対策の推進
16	商工業の振興	29	道路・交通環境整備の推進
17	観光資源の整備と活用	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
27	自然・文化を生かした景観形成		
34	市民との協働・交流の推進		
35	行財政運営の推進		

豊里地区では、重要度が高い施策として、高い順に「19. 災害に強い防災体制の推進」、  
「20. 消防・救急体制の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の  
適正化」、「4. 健康づくりの推進」、などの施策が挙げられ、このうち、「19. 災害に強い防災  
体制の推進」や「5. 地域医療体制の充実」に関しては、満足度が低いことから、施策の充  
実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「14. 農地の保全・活用と安定した農業  
経営の支援」、「17. 観光資源の整備と活用」などの施策が挙げられます。これらの施策につ  
いては、豊里地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえ  
ます。

➤ 上柴地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	3	青少年の健全育成の推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	6	地域福祉の推進
23	自然・生活環境の保全	20	消防・救急体制の充実
25	良好な市街地・住環境形成の推進	24	環境衛生の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	26	水の安定供給と下水処理の適正化
28	治水対策の推進	31	人権・個性が尊重される社会の実現
29	道路・交通環境整備の推進		
33	情報発信・共有の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	1	子育て支援の充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育サービスの充実
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	7	高齢者福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	8	障害者福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
32	男女共同参画の実現	18	就労環境の整備
34	市民との協働・交流の推進	19	災害に強い防災体制の推進
35	行財政運営の推進	21	防犯・空き家対策の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

上柴地区では、重要度が高い施策として、高い順に「31. 人権・個性が尊重される社会の実現」、「24. 環境衛生の推進」、「18. 就労環境の整備」、「6. 地域福祉の推進」、「3. 青少年の健全育成の推進」、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「18. 就労環境の整備」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「13. スポーツ・レクリエーションの推進」、「34. 市民との協働・交流の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、上柴地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 南地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
4	健康づくりの推進	2	保育サービスの充実
11	生涯学習の推進	7	高齢者福祉の推進
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	8	障害者福祉の推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	15	農畜産物の販売流通体制の充実
22	地域コミュニティの推進	19	災害に強い防災体制の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	23	自然・生活環境の保全
28	治水対策の推進	24	環境衛生の推進
32	男女共同参画の実現	26	水の安定供給と下水処理の適正化
33		31	人権・個性が尊重される社会の実現
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
6	地域福祉の推進	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
17	観光資源の整備と活用	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
33	情報発信・共有の推進	14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
34	市民との協働・交流の推進	18	就労環境の整備
35	行財政運営の推進	20	消防・救急体制の充実
		21	防犯・空き家対策の推進
		25	良好な市街地・住環境形成の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

南地区では、重要度が高い施策として、高い順に「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「20. 消防・救急体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「21. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「21. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「34. 市民との協働・交流の推進」、「17. 観光資源の整備と活用」などの施策が挙げられます。これらの施策については、南地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 岡部地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	4	健康づくりの推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	8	障害者福祉の推進
22	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
28	治水対策の推進	20	消防・救急体制の充実
32	男女共同参画の実現	26	水の安定供給と下水処理の適正化
33	情報発信・共有の推進	31	人権・個性が尊重される社会の実現
34	市民との協働・交流の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
18	就労環境の整備	19	災害に強い防災体制の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	21	防犯・空き家対策の推進
35	行財政運営の推進	23	自然・生活環境の保全
		24	環境衛生の推進
		25	良好な市街地・住環境形成の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

岡部地区では、重要度が高い施策として、高い順に「19. 災害に強い防災体制の推進」、  
「5. 地域医療体制の充実」、「20. 消防・救急体制の充実」、「26. 水の安定供給と下水処理の  
適正化」、「1. 子育て支援の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられ、  
このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度  
が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「17. 観光資源の整備と活用」、「27. 自然・  
文化を生かした景観形成」などの施策が挙げられます。これらの施策については、岡部地  
区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 川本地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育サービスの充実
13	スポーツ・レクリエーションの推進	3	青少年の健全育成の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	4	健康づくりの推進
22	地域コミュニティの推進	6	地域福祉の推進
27	自然・文化を生かした景観形成	7	高齢者福祉の推進
31	人権・個性が尊重される社会の実現	8	障害者福祉の推進
33	情報発信・共有の推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
34	市民との協働・交流の推進	10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
		20	消防・救急体制の充実
		23	自然・生活環境の保全
		24	環境衛生の推進
		26	水の安定供給と下水処理の適正化
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	18	就労環境の整備
17	観光資源の整備と活用	19	災害に強い防災体制の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	21	防犯・空き家対策の推進
28	治水対策の推進	29	道路・交通環境整備の推進
32	男女共同参画の実現	30	公共交通の維持確保と交通安全の推進
35	行財政運営の推進		

川本地区では、重要度が高い施策として、高い順に「20. 消防・救急体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「5. 地域医療体制の充実」、「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育サービスの充実」などの施策が挙げられ、このうち、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「5. 地域医療体制の充実」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「32. 男女共同参画の実現」、「17. 観光資源の整備と活用」が挙げられます。これらの施策については、川本地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 花園地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
4	健康づくりの推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育サービスの充実
12	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
13	スポーツ・レクリエーションの推進	19	災害に強い防災体制の推進
15	農畜産物の販売流通体制の充実	20	消防・救急体制の充実
22	地域コミュニティの推進	23	自然・生活環境の保全
27	自然・文化を生かした景観形成	24	環境衛生の推進
28	治水対策の推進	26	水の安定供給と下水処理の適正化
31	人権・個性が尊重される社会の実現		
33	情報発信・共有の推進		
34	市民との協働・交流の推進		
35	行財政運営の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
14	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	5	地域医療体制の充実
16	商工業の振興	6	地域福祉の推進
17	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
25	良好な市街地・住環境形成の推進	8	障害者福祉の推進
32	男女共同参画の実現	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
		10	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上
		18	就労環境の整備
		21	防犯・空き家対策の推進
		29	道路・交通環境整備の推進
		30	公共交通の維持確保と交通安全の推進

花園地区では、重要度が高い施策として、高い順に「20. 消防・救急体制の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「19. 災害に強い防災体制の推進」、「26. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「21. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」や「21. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「32. 男女共同参画の実現」、「17. 観光資源の整備と活用」が挙げられます。これらの施策については、花園地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

#### 4. 自由記入欄（まちづくり全般について） ※原文の通り

自由意見から主要な意見を抽出し、施策分野ごとに分類しました。

##### （1）＜子育て・保健・福祉＞に関する意見

- ・医療環境の充実、地元病院から県外等への転院でなく、手術、治療が安心してかけられる大型総合病院の誘致を希望します。
- ・市内に公園が少ないと思う。（子供の遊び場全般）埼玉県全体に言える事だと思うが、救急医療の人手が不足してる様に思う。
- ・広く大きな図書館をつかってほしい。障害者のための生活介護施設を充実させてほしい。
- ・子育てと仕事の両立ができるようにこれからも支援の充実と保育の充実に力をいれてほしい・水道代が少し高いように思う。改善できないのか？・妊娠さんに優しい支援をしてほしい。今回のコロナ騒動で特になにもなかった。同じ埼玉県内の他の市では、マスクを配ったり、優先的に施設を使用できたり、安心して妊娠さんが生活できるように対策を行っていた。
- ・これからは高齢化社会になっていくと思いますので公共交通手段や日常生活の便利な店などが近くにあるような街になってくれればいいなと思います。それから公共物の案内板の字などは出来るかぎりはっきりと大きくかいてもらいたいです。
- ・免許返納するにあたり、代わりの足がないのでは？あるのならば、情報の共有ができてないと思います。くるりんバス、利用したくても廃止だったり、乗換えが不便だったりします。タクシーは経済的でないような…。市街地から遠いため、なかなか車を手離せないと思います。公共交通がもっと便利になるといいなと思います。または補助など…？知らないだけだったらスミマセン…。・健康で働いている私としては、住みやすい街だと思っていますが、高齢者となった時、どのような街になっているか、不安でもあり楽しみでもあります。期待しています。
- ・深谷市をどのような街づくりにしていくかによりますが、市民として医療・福祉・子育てに関しては力を入れてほしいと思います。少子高齢化と言われている現代だからこそ、子育てする親に対しての情報提供をもっと配信。医療に関しては、今回の「コロナウイルス」のような手のうちどころがない場合、テレビの情報だけでなく、医療関係の人がどうしたら市民を不安にさせないようなことをしてもらえるかを発信。現場の意見をもっと聞かせる。（街に放送するなど）福祉は働く人が少ないのも実際的问题もあると思うが、一般人にもボランティアとは違う手助けができると思う。（現状がわからなすぎて、皆の関心がもてない気が）よりよい街にするために情報共有が必要。（一方通行的なことばかり）

## (2) <教育・文化>に関する意見

- ・ 来年の大河ドラマは「渋沢栄一」が主人公なので、深谷市ももっと郷土の偉人として、アピールして、イベント等を行なって欲しいです。記念館も、内容をもう少し充実したものが良いと思います。
- ・ 高齢化社会に向けて高齢者が元気で明るく生活出来ますように体作りの情報や教育、楽しくなるようなイベント等を町全体で（子供会、青年団、婦人会、老人会等を中心に）行って頂けたらと思います。又災害に強い町（昨年秋の台風では避難所が大変混乱したと聞きました）であります様願います。予算の問題もあり大変かと思いますが住み良い、町であります様願います。
- ・ 郷土の文化・偉人等の業績等を積極的に内外に発信することにより市民として誇りが持てる様全力をつくして欲しい（今が絶好の機会、二度とないチャンスである）・更なる医療体制の充実を望む「・魅力がある街（づくり）・皆が住みたい街・誇りがもてる街」→人口の増加→活力
- ・ 文化的な催しをもっと充実してもいいと思う。映画祭をやってみるとか。
- ・ ○スポーツ施設の充実（紫のグラウンド）（タータン陸上競技場）○南下郷（幡羅小の北エリアに公園がない）←旧中山道を境にない○南下郷地区（北大通りに出る側道の整備）特にフレッセイ付近の道○大型ショッピングモールの誘致
- ・ 近隣の市に比べて、家族・子供・お年寄りの方が遊べるスポーツ公園などの施設が少ないと思う。グラウンドゴルフ場や芝生の公園がもう少しあってもいいと思います。休みの日は家族で他市や他県の大きな施設へ出かけてしまう。
- ・ 郷土の歴史・文化の継承に関しては、教育と地域が協働して行えるとよい。青少年が積極的に地域に参加できるまちが理想。青少年への地域のイベントの情報発信など。（正直、広報は若者はなかなか手にとらない。）すみません。いつも市民のためにありがとうございます。

### (3) <産業振興>に関する意見

- ・ 深谷で生まれ育ち、深谷で子育てをしています。職場は隣の熊谷市です。子育ての環境について、熊谷市の方と情報交換することが多いのですが、公園、市民センター、児童館など、子育て環境はハード面では熊谷市の方が充実してると感じます。(雨の日遊ぶ場所を作ってください!) 保健センターの対応等、ソフト面では大変満足しています。・アウトレット、大河ドラマ、新一万円札等、観光に力を入れているのを感じ、市民としても期待しています。メディアの露出も多くなると思います。”遊びに行きたくなる街”になるよう頑張ってください。中山道がもう少し明るくなると思いますが・・・空き家が多く暗い印象です。
- ・ 買い物の中心が上柴、アリオ周辺になっています。私はそこに住んでいるのでとても便利です。運動の為に歩いていきます。少し離れている「ビッグタートル」では人が多く集まるのにまわりには店らしい物もなくとても不便です。出来ましたら駐車場の一角にでも深谷市内で作る野菜、その野菜等で作った弁当などを売るちょっとした直売所的なのがあったらいいなと思います。運動に通っている人の中にも主婦もいます。帰りに野菜など買うことが出来たらいいし、又近くに住んでいるお年寄りも散歩がてら出かけてきて人に会い話も出来楽しいと思え、心も体も健康に向かうと思います。特に運動した後にお腹も空くし甘いものが欲しくなります。ぜひ、直売所を作ってください
- ・ 深谷市に住むようになって10年ほどになります。が、このアンケートを記入してみて、市で行われていることをよく知らないことにあらためて気づきました。自分が暮らす町に望むこと(重要度)はあってもそれが深谷市でどれくらい実現されているのか知らない、わからないことだらけだと思いました。他の地域から来て子供も持たずに生活していると、なかなか自然を知るという機会がないと思います。ただ、深谷市で暮らすようになって、緑の多い町であること、農産物などを新鮮で安価な状態で買う機会が多い事、ごみの収集の仕方など、他の町で生活していた時より暮らしやすいと感じることも多くあります。この町の自然環境やそれにつながる農業などが守られていくようなまちづくりを願っています。
- ・ 農業と自然が、深谷としてのうりだと思いながらももう少し、商業化の発展と医療の充実が、大切だと思います。深谷駅前が発展するとういと思うのと 高齢の方が、車がなくても移動可能で、市内をたのしめる手段をぜひ、ととのえてほしいです。また深谷市もとてもグローバルな地域になってきているので外国の方との交流。すみよい街づくりが必要かと思っています。
- ・ せっかく1万円札が渋沢栄一翁に決まったので、施設とか観光に力を入れて、駅近くに一箇所でも、観光スポットを作ったほうがいいと思います。今のように、ばらばらに地域にちょこっとづつではインパクトに欠けます。
- ・ 観光地としての魅力ある町づくり 救急医療の充実 賃金upによる若者の定住 魅力ある会社づくり テーマパークや大型商業施設による集客 道の駅等地域産業の活性化

#### (4) <暮らし・環境>に関する意見

- ・古くからある建物等を大切に。また若い人が都心に居住地を移すことなく、市内で満足できるお店などを増やす為の取り組み。空き家をよく見かけるので、有効活用してほしい。(高知県梶原町が行ってるような取り組み等)昔ながらの古い家屋が誰も住める状態ではなく放置されているのは、非常にもったいなく感じる。
- ・人通りの少ない場所や道路には街灯を細かい間につけてほしい。空家が多い地区には、防犯の為に細かいかんりをしてほしい。地区の人市役所の人
- ・洪水ハザード地域に住んでるので、昨年だったか台風19号による避難でビッグタートルに避難しましたが、今世紀最大の危機となっている新型コロナウイルスと「共有」してしまうと、避難所がクラスターとなってしまうようで、不安にかられています。国からのマスク2枚がまだ届いていません。(2020年5月20日現在)深谷市独自でマスクを配布していただければ、コロナの第2波、第3波に備えることができると思います。是非ともお願いします。「社会的キョリ」とかいう新しい生活習慣を身につけていくことなどを意識していくと、精神的に誰でもおかしくなってしまうのではと思います。今回の新型コロナウイルスによる経済低下を防ぐため、県南の市町村では独自に水道料金を半額にする方針を示しているところがあります。深谷市独自にできるコロナによる被害を防ぐ方策(水道料金を半額等)を立てていただければ幸いです。
- ・自然だけの公園や子供達が遊ぶための公園 子供達が遊べる公民館、児童施設が増えるとありがたいです・福川からの夕日はとてもきれいなのですが、川が美しくなくて・・・。お散歩コースにしている方が増えてきています。川の雑草除去清掃などがあるとありがたいです。
- ・豊里地区には魅力ある施設や公園がない。是非に整備して欲しいと思います。・空き家対策をお願いしたい。たとえば、10年以上放置されている家屋は、市のものになるとかの条例が出来ればいいなと思います。放置された家は、家ばかりでなく樹木もそのままです。周りの家は大変、迷惑を蒙っていると思いますので…!
- ・市民の地元意識の欠如による影響が今後、多方面で発生してくるものと思います。例えば、防災における自主防災組織のあり方、地元の方々との交流が減少することによる子供の成長への影響など。このため、地域コミュニティを活性化させるような施策を行っていただけよう、お願いします。
- ・深谷駅北口から市役所までの街作りの設計がどの様に計画されているのか、知りたいと思っています。・散歩していると空き家が目立ちます。法律の問題など難しいこともあるのですが、防犯や景観からも、何とかしてほしいことです。

(5) <都市・生活基盤>に関する意見

- ・道路の除草に力を入れてください。・自転車で通勤していますが、線路沿いとか十分でないところもあります。・防犯用電灯をもう少し多くしても良いのでは？少し暗いところが多い気がします（住宅地近辺）。・これからの高齢化社会や障害者対応で段差のない歩道や電柱の地中化を推進してほしいです。・公園も多く深谷市は良い街とは思っています。これからもがんばっていきましょう。
- ・無駄な道路の整備はやめ、本当にやらなくてはならない道路の整備をして下さい。今現在、花園のアウトレットの工事が始まっています。普段、使用していたところが、通れなくなり、大変ふべんです。新しい駅は、必要だったのでしょうか？（花園の）国会議員と同じように、ムダな事、ムダなお金は使わないで下さい。私たち、一生懸命働いて、税金を納めています。公務員の方のお仕事の在り方はどうでしょうか？1万円札にもなる渋沢栄一にはじない、すてきな深谷市にしましょう！と言うかして下さい。
- ・※アウトレット設立に伴い公共路線バスの整備と市道の整備。（歩車道の区分けなど市街地以外での区分けができていない）
- ・町がだんだん古くなって行くのがさびしく感じる。道路がせますぎる。歩道がでこぼこ穴があいていて、あぶない。車道と自動車道がせまいので、もう少し広くしてほしい。自転車と自動車とこすり合っ、たおれたことがあります。どこに行くのにも足は自転車を使うので自転車の道を作って下さい。お願いします。
- ・田舎道には、なかなか目が行き届かないかもしれませんが、市内には、危険な道路がたくさんあります。穴だらけの場所や踏み外せば、堀に落ちてしまうような場所や車の往来が激しいにもかかわらず、歩道の整備が出来ておらずお年寄りや子供たちが危ない思いをしています。市役所や公民館を新しくするのは、構いませんが、市民の安全を考えるのが先だと思えます。もっと隅々まで見て下さい。
- ・小山川の増水が問題になりましたが、唐沢川との合流地点から下流（利根川まで）を見直す必要があると思えます。又、上流地域（美里町、本庄市、寄居町、旧岡部町）に於て、工場団地、住宅地、水路、道路の改良による増水の有無の調査をし、遊水池の必要等もあります。これからは、県と協議をし、県の協力の基にお願いし関係市町も含め進めて行けば良いと思えます。
- ・花園地区に住んでいます。近々アウトレットが出来る様ですが、他のアウトレットを見ていると、かなりの渋滞が予想されます。色々考えられているかと思えますが、花園地区は道を広げる工事もしてる様ですが、住み辛く、出掛けにくくなるのが予想されます。どうか、花園地区をなるべく住みやすく、出掛けやすくしていただける様に、道路の開発やもう少し改良を宜しくお願い致します。例えば、細い道には未だに堀があり、ふたがなかったりしてるので、ふたをして車が細い道でもぬけられる様にとか、その細い道には街灯もありません。治安も悪くなるかもしれません。その道を自転車に乗って子供達が通学してます。どうか、見直し改良を宜しくお願い致します。

## (6) <協働・行政経営>に関する意見

- ・実際に自分が関係する分野に関しては興味があるが（現在だと子育て関係）、他の分野はよくわからないことが多い。若い世代にはSNSを利用してみたり、高齢者にも自宅にいながら市の情報がしっかりと伝わる工夫が必要だと思う。
- ・地域の小さな祭りや中学校の運動会にも市長が顔を出してくださり、子供も市長の顔を知っています。運動会では、市長の登場に会場はわきました。自分が子供の頃、市長の顔なんて知らずに生活していました。人の心をつかんでいてすごいなと思っています。何かしてくれそうという期待にもなっています。・ふっかちゃんが、そこそこ知名度もあり、ネギをアピールしていて県外の人からも深谷に住んでいるというふっかちゃんの！と言われます。市民はみんな大好きですし外へのアピールもこれからはがんばってほしいです。・うちには障害児がいます。（療育手帳）自治体ごとに得られるサービスに差があるので、どこの自治体よりも充実させてほしいです。
- ・市の中心（駅周辺）仲町などは、商店が盛り上がり、色々やっていると思いますが、他の地区（駅・市役所）から離れている所には、まちおこしの情報など入ってこないで、意識がないと思います。深谷のまちづくりをやっているのであれば、どんどん、他の地区にも情報を提供して、市民も（特に若い世代、子供も含め！！）参加できる事を増やした方が良くと思います。
- ・高齢者にとって住みやすい市とは思いますが、若い世代にとってはそうとも思わない。アウトレット建設、招致は雇用や集客を望めるので評価できるが、HPや市報を見ても情報がうすい。若い世代を増やすための政策（子育て支援など）は厚くすべきだが、それ以前にどのようにすれば住みたい町・市になるか。駅前も栄えておらず、ふっかちゃん横丁に到っては一部の人間のみで盛り上がるだけで一見さんお断り状態。不要に感じている。ただ、小島市長の精力的な活動は引き続き応援したい。
- ・HPや広報以外での発信を考えて頂きたいです。ネットが使えない市民、広報等を読れない市民が、市内の重要な事柄などをどう知ったら良いか、細かく配慮していただきたいです。あと防災（行政？）無線がながれる時、最近思うのですが、男性の方がとても聞きやすいです。隣の熊谷市同様、暑さ対策は徹底して下さい。深谷市も十分暑いです。
- ・箱物行政が多すぎる。まだまだ使えるものをこわしてまで新しい物を作る必要はあるのか？
- ・今までの施策（古い考え方）にセンスを感じない。（人口15万人がいるのに、どうしてこんなに地味な市なのか？）・世代交代させ（若い人達の意見を尊重する。力を添える。施策考案メンバーに組み入れるなど）魅力あるまち、住みたいまち、住み続けたいまちづくりを目指して欲しい。・思いきった奇策が出てこないのか？新たに各分野から募り、まちづくり委員会などを設置させたらいいのでは。・大河（渋沢）1万円札、ここでの認知度、魅力度UPに向けて頑張ってください。

### 3. Ⅲ. アンケート調査結果の単純集計結果

#### 1. 深谷市のまちづくりについて

深谷市の現状を把握し、今後のまちづくりの参考とします。該当する番号に○をつけてください。

##### 1. 深谷市のまち全体の印象について

問1. これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. ずっと住み続けたい   | 65.7% |
| 2. 当分の間は住みたい   | 27.3% |
| 3. できれば転居したい   | 4.8%  |
| 4. すぐにもでも転居したい | 0.5%  |
| 無回答            | 1.8%  |

##### 2. 子育て・保健・福祉について

問1. 地域で子どもを育む活動に参加していますか。(例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など)

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 参加している     | 12.4% |
| 2. ときどき参加している | 8.8%  |
| 3. あまり参加していない | 11.9% |
| 4. 参加していない    | 64.5% |
| 無回答           | 2.5%  |

問2. 小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。仕事と子育てを両立できていると思いますか。

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. 両立できていると思う      | 19.9% |
| 2. ある程度は両立できていると思う | 57.5% |
| 3. あまり両立できていないと思う  | 13.7% |
| 4. 両立できていないと思う     | 8.9%  |
| 無回答                | 0.0%  |

問3. 中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う  | 15.1% |
| 2. ある程度はそう思う | 57.8% |
| 3. あまりそう思わない | 19.9% |
| 4. そう思わない    | 7.2%  |
| 無回答          | 0.0%  |

問4. 普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に取り組んでいる | 27.5% |
| 2. ときどき取り組んでいる | 35.2% |
| 3. あまり取り組んでいない | 23.0% |
| 4. 取り組んでいない    | 12.9% |
| 無回答            | 1.5%  |

問5. 定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1. 受けている  | 72.9% |
| 2. 受けていない | 25.8% |
| 無回答       | 1.3%  |

問6. かかりつけのお医者さんはいますか。

- |        |       |
|--------|-------|
| 1. いる  | 75.0% |
| 2. いない | 23.8% |
| 無回答    | 1.2%  |

問7. 健康的な食生活に気をつけていますか。

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に気をつけている | 44.5% |
| 2. ときどき気をつけている | 35.5% |
| 3. あまり気をつけていない | 16.7% |
| 4. 気をつけていない    | 2.1%  |
| 無回答            | 1.2%  |

問8. 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。

- |        |       |
|--------|-------|
| 1. いる  | 50.0% |
| 2. いない | 46.8% |
| 無回答    | 3.2%  |

##### 3. 教育・文化について

問1. 生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に実践している | 12.9% |
| 2. ときどき実践している | 22.7% |
| 3. あまり実践していない | 26.3% |
| 4. 実践していない    | 35.5% |

無回答 2.7%

問2. この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. たいへんあった  | 6.4%  |
| 2. ある程度はあった | 22.8% |
| 3. あまりなかった  | 31.1% |
| 4. なかった     | 38.8% |

無回答 0.9%

問3. スポーツやレクリエーションをどの程度行っていますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 12.0% |
| 2. ときどき行っている | 27.2% |
| 3. あまり行っていない | 27.3% |
| 4. 行っていない    | 32.2% |

無回答 1.2%

#### 4. 産業振興について

問1. 市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. よく目にする   | 15.3% |
| 2. たまに目にする  | 40.5% |
| 3. あまり目にしない | 30.4% |
| 4. 目にしない    | 12.4% |

無回答 1.4%

問2. 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. いつも心掛けている  | 22.5% |
| 2. たまに心掛けている  | 41.6% |
| 3. あまり心掛けていない | 25.4% |
| 4. 心掛けていない    | 9.2%  |

無回答 1.3%

問3. ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか）。

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. とてもバランスが取れている  | 20.8% |
| 2. ややバランスが取れている   | 50.1% |
| 3. あまりバランスが取れていない | 19.0% |
| 4. バランスが取れていない    | 6.9%  |

無回答 3.2%

#### 5. 暮らし・環境について

問1. ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はありますか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 十分ある    | 3.7%  |
| 2. ある程度はある | 40.7% |
| 3. あまりない   | 41.7% |
| 4. ない      | 12.7% |

無回答 1.2%

問2. 地震発生時の避難所・避難場所を知っていますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 76.2% |
| 2. 知らない  | 22.8% |

無回答 1.1%

問3. この1年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. ある | 2.3%  |
| 2. ない | 96.5% |

無回答 1.2%

問4. 日ごろ、防犯対策をとっていますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 十分とっている    | 8.5%  |
| 2. ある程度はとっている | 57.5% |
| 3. あまりとっていない  | 26.9% |
| 4. とっていない     | 6.1%  |

無回答 1.1%

問5. 地域活動（自治会や町内会での活動など）への程度参加していますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に参加している | 17.4% |
| 2. ときどき参加している | 31.7% |
| 3. あまり参加していない | 24.1% |
| 4. 参加していない    | 25.9% |

無回答 0.9%

問6. 環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っていますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 21.4% |
| 2. ときどき行っている | 37.6% |
| 3. あまり行っていない | 25.4% |
| 4. 行っていない    | 14.5% |

無回答 1.2%

問7. 環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになりましたか。

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 55.4% |
| 2. 変わらない          | 42.8% |
| 3. 以前より意識しなくなった   | 0.9%  |
| 無回答               | 0.9%  |

問8. 普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。

- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. いつも心がけている   | 34.1% |
| 2. ある程度は心がけている | 51.6% |
| 3. あまり心がけていない  | 12.4% |
| 4. 心がけていない     | 1.4%  |
| 無回答            | 0.5%  |

## 6. 都市・生活基盤について

問1. 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. たいへんとれている  | 3.7%  |
| 2. ある程度はとれている | 55.1% |
| 3. あまりとれていない  | 29.8% |
| 4. とれていない     | 8.3%  |
| 無回答           | 3.0%  |

問2. お住まい周辺の住環境に満足していますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. とても満足している  | 17.9% |
| 2. やや満足している   | 52.3% |
| 3. あまり満足していない | 21.4% |
| 4. 満足していない    | 7.8%  |
| 無回答           | 0.6%  |

問3. あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. たいへんある  | 21.1% |
| 2. ある程度はある | 51.1% |
| 3. あまりない   | 23.1% |
| 4. ない      | 4.2%  |
| 無回答        | 0.5%  |

問4. 市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. たいへんある  | 5.8%  |
| 2. ある程度はある | 41.6% |
| 3. あまりない   | 42.6% |
| 4. ない      | 9.0%  |
| 無回答        | 0.9%  |

問5. 水害に対して安心した生活を送ることができていますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. たいへんできている  | 17.8% |
| 2. ある程度はできている | 54.1% |
| 3. あまりできていない  | 19.2% |
| 4. できていない     | 8.1%  |
| 無回答           | 0.9%  |

問6. 市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 感じない    | 14.4% |
| 2. あまり感じない | 36.4% |
| 3. ときどき感じる | 39.1% |
| 4. いつも感じる  | 9.1%  |
| 無回答        | 0.9%  |

問7. 市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 感じない    | 17.1% |
| 2. あまり感じない | 35.5% |
| 3. ときどき感じる | 29.3% |
| 4. いつも感じる  | 15.9% |
| 無回答        | 2.2%  |

## 7. 協働・行政経営について

問1. 深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う  | 5.7%  |
| 2. ある程度はそう思う | 56.2% |
| 3. あまりそう思わない | 28.6% |
| 4. そう思わない    | 6.3%  |
| 無回答          | 3.2%  |

問2. この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. ある | 8.9%  |
| 2. ない | 89.7% |
| 無回答   | 1.4%  |

問3. お互いの人権について意識をして生活をしていきますか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に意識している | 29.4% |
| 2. ときどき意識している | 35.2% |
| 3. あまり意識していない | 27.6% |
| 4. 意識していない    | 6.8%  |
| 無回答           | 1.1%  |

問4. 市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1. よく聞く     | 1.3%  |
| 2. ときどき聞く   | 8.3%  |
| 3. あまり聞かない  | 42.3% |
| 4. 聞いたことがない | 47.8% |
| 無回答         | 0.4%  |

問5. 性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思いますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う  | 4.3%  |
| 2. ある程度はそう思う | 57.5% |
| 3. あまりそう思わない | 28.3% |
| 4. そう思わない    | 7.8%  |
| 無回答          | 2.1%  |

問6. 男女共同参画の意識は以前と比べて変化していますか。

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 20.8% |
| 2. 変わらない          | 73.6% |
| 3. 以前より意識しなくなった   | 2.9%  |
| 無回答               | 2.7%  |

問7. 市の財政状況や行政サービス、まちづくりのほか、行事・イベント等に興味や関心をお持ちですか。

- |               |       |
|---------------|-------|
| 1. たいへん持っている  | 13.1% |
| 2. ある程度は持っている | 53.7% |
| 3. あまり持っていない  | 23.7% |
| 4. 持っていない     | 8.8%  |
| 無回答           | 0.7%  |

問8. 市から得られる情報はその公表手段（ホームページや広報など）も含めて充実していますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. とても充実している | 11.2% |
| 2. やや充実している  | 57.4% |
| 3. やや不足している  | 24.6% |
| 4. とても不足している | 4.6%  |
| 無回答          | 2.2%  |

問9. 市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思いますか。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う  | 3.6%  |
| 2. ある程度はそう思う | 45.9% |
| 3. あまりそう思わない | 40.5% |
| 4. そう思わない    | 6.8%  |
| 無回答          | 3.2%  |

問10. 市民活動（NPO 団体での活動やボランティア活動など）の中で、興味のある活動はありますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. とてもある | 3.2%  |
| 2. 少しある  | 25.1% |
| 3. あまりない | 47.1% |
| 4. ない    | 22.9% |
| 無回答      | 1.8%  |

問11. 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. 知っている | 48.2% |
| 2. 知らない  | 51.3% |
| 無回答      | 0.5%  |

問12. 花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1. 興味がある | 68.0% |
| 2. 興味がない | 31.1% |
| 無回答      | 0.9%  |

問13. 花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいですか。

- |            |       |
|------------|-------|
| 1. 参加したい   | 39.5% |
| 2. 参加したくない | 57.7% |
| 無回答        | 2.8%  |

## 2. 深谷市の施策について

あなたは、深谷市の次の各分野別の行政施策について、どのくらい重要だと思いますか？また、現在の深谷市の取り組みについて、どのくらい満足していますか？  
それぞれあてはまるものを1つずつ選び、○をつけてください。

### ●重要度に関する回答

	重要度 (%)					無回答 (%)	重要度 (点数)
	重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

### ◆<子育て・保健・福祉>に関すること

子育て支援の充実	66.6	17.5	2.3	0.4	9.6	3.6	1.47
保育サービスの充実	62.1	21.4	2.0	0.5	9.8	4.2	1.42
青少年の健全育成の推進	48.2	32.9	3.9	0.5	9.7	4.8	1.24
健康づくりの推進	55.7	29.9	5.4	0.5	4.9	3.6	1.35
地域医療体制の充実	77.8	12.9	1.5	0.2	4.0	3.6	1.66
地域福祉の推進	57.5	27.8	5.6	0.5	5.0	3.6	1.36
高齢者福祉の推進	61.0	29.2	4.0	1.5	4.6	2.8	1.41
障害者福祉の推進	57.6	29.8	3.3	1.1	5.3	3.0	1.39

### ◆<教育・文化>に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	55.8	26.1	4.8	0.7	8.3	4.3	1.31
家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	52.3	32.0	4.7	0.4	6.4	4.2	1.31
生涯学習の推進	32.5	42.5	12.4	0.9	7.2	4.4	0.93
郷土の歴史・文化の継承と活用	34.2	42.5	12.3	1.1	6.3	3.6	0.96
スポーツ・レクリエーションの推進	29.1	42.8	16.9	1.4	5.8	4.0	0.81

### ◆<産業振興>に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	47.1	32.0	4.1	1.1	11.7	4.1	1.19
農畜産物の販売流通体制の充実	43.2	35.6	4.1	0.8	11.2	5.0	1.16
商工業の振興	43.5	35.5	3.7	0.8	11.4	5.0	1.17
観光資源の整備と活用	38.3	35.2	9.5	1.6	10.4	5.0	0.99
就労環境の整備	52.7	29.4	2.3	0.1	10.2	5.3	1.32

重要度 (%)					無回答 (%)	重要度 (点数)
重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		

◆<暮らし・環境>に関すること

災害に強い防災体制の推進	77.1	14.8	0.9	3.0	4.0	0.1	1.62
消防・救急体制の充実	78.6	13.2	1.4	0.0	3.3	3.5	1.69
防犯・空き家対策の推進	61.4	28.5	3.3	0.0	3.4	3.4	1.48
地域コミュニティの推進	37.1	42.2	9.7	1.5	5.3	4.2	1.03
自然・生活環境の保全	48.8	37.5	4.6	0.2	4.8	4.1	1.30
環境衛生の推進	54.1	33.9	3.7	0.0	4.3	4.0	1.38

◆<都市・生活基盤>に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	49.5	34.7	4.9	0.1	5.4	5.4	1.28
水の安定供給と下水処理の適正化	69.5	21.3	1.9	0.2	3.4	3.7	1.57
自然・文化を生かした景観形成	35.5	41.7	11.6	0.9	5.8	4.4	0.99
治水対策の推進	50.4	31.1	5.0	0.2	8.4	4.9	1.26
道路・交通環境整備の推進	52.8	34.0	4.8	0.4	4.2	3.9	1.34
公共交通の維持確保と交通安全の推進	57.0	30.5	3.6	0.5	4.1	4.3	1.39

◆<協働・行政経営>に関すること

人権・個性が尊重される社会の実現	50.6	31.5	5.3	0.5	7.5	4.7	1.26
男女共同参画の実現	37.1	39.0	8.9	1.3	8.8	4.9	1.01
情報発信・共有の推進	41.9	37.5	6.9	0.9	7.7	5.0	1.12
市民との協働・交流の推進	32.8	40.4	11.1	1.9	9.0	4.8	0.91
行財政運営の推進	45.4	33.5	5.4	0.7	10.4	4.6	1.17

●満足度に関する回答

	満足度 (%)					無回答 (%)	満足度 (点数)
	満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

◆<子育て・保健・福祉>に関すること

子育て支援の充実	5.7	36.4	12.3	5.5	33.1	7.0	0.24
保育サービスの充実	5.6	32.8	14.0	5.3	35.0	7.2	0.19
青少年の健全育成の推進	2.6	34.2	13.0	4.0	38.8	7.5	0.18
健康づくりの推進	4.9	43.1	17.2	4.4	23.8	6.5	0.26
地域医療体制の充実	6.2	32.2	24.2	12.7	18.6	6.1	-0.05
地域福祉の推進	3.7	33.4	20.6	5.1	30.6	6.5	0.10
高齢者福祉の推進	4.0	33.2	19.6	6.3	31.7	5.3	0.08
障害者福祉の推進	3.6	31.5	15.5	5.0	38.4	5.8	0.13

◆<教育・文化>に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	2.2	30.8	13.8	4.2	41.1	7.8	0.13
家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	3.4	31.8	16.4	4.7	36.1	7.7	0.12
生涯学習の推進	3.0	32.2	14.7	2.7	39.5	7.8	0.18
郷土の歴史・文化の継承と活用	5.3	38.3	13.7	3.5	32.2	7.0	0.28
スポーツ・レクリエーションの推進	5.1	35.5	14.7	4.0	33.5	7.1	0.23

◆<産業振興>に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	3.4	24.2	15.9	5.7	42.8	8.1	0.03
農畜産物の販売流通体制の充実	4.9	31.9	12.1	3.9	39.0	8.2	0.21
商工業の振興	2.7	27.5	15.9	7.5	38.0	8.5	0.01
観光資源の整備と活用	2.9	27.6	17.5	8.1	35.4	8.5	0.00
就労環境の整備	2.1	22.8	17.8	9.7	38.4	9.2	-0.10

満足度 (%)					無回答 (%)	満足度(点数)
満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		

◆<暮らし・環境>に関すること

災害に強い防災体制の推進	4.6	32.6	21.5	7.5	26.1	7.8	0.05
消防・救急体制の充実	9.6	40.1	15.0	6.2	22.0	7.2	0.31
防犯・空き家対策の推進	3.9	27.2	21.5	9.8	30.8	7.4	-0.06
地域コミュニティの推進	3.3	36.8	15.3	4.2	32.6	7.8	0.19
自然・生活環境の保全	4.0	38.2	15.8	4.9	29.6	7.6	0.20
環境衛生の推進	5.7	39.6	13.6	4.7	28.5	7.9	0.28

◆<都市・生活基盤>に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	5.1	38.8	18.1	6.0	23.2	8.8	0.19
水の安定供給と下水処理の適正化	14.7	40.8	11.9	8.2	16.9	7.5	0.41
自然・文化を生かした景観形成	4.4	40.1	15.4	5.6	26.9	7.6	0.22
治水対策の推進	5.1	34.3	14.6	4.7	33.2	8.1	0.20
道路・交通環境整備の推進	5.0	35.2	23.8	11.4	17.1	7.5	-0.11
公共交通の維持確保と交通安全の推進	4.8	36.2	19.6	12.7	19.4	7.2	0.00

◆<協働・行政経営>に関すること

人権・個性が尊重される社会の実現	4.0	35.4	13.4	4.0	35.5	7.7	0.21
男女共同参画の実現	2.6	33.1	14.7	4.0	37.7	7.9	0.15
情報発信・共有の推進	4.4	34.0	15.2	6.5	32.0	7.8	0.14
市民との協働・交流の推進	3.3	32.5	12.0	4.7	39.3	8.3	0.17
行財政運営の推進	2.6	27.8	15.9	6.2	40.1	7.5	0.04

### 3. 自由記入欄（まちづくり全般について）

これからの深谷市のまちづくりについて、ご意見などがありましたら自由にお書き下さい。

353 件

### 4. 最後に、あなた自身のことについておたずねします。

次のア～ウについて、あてはまる番号に○をつけてください。

ア. 性別 (無回答 4.2%)	1	男性 (41.0%)	2	女性 (56.7%)	
イ. 年齢 (無回答 1.8%)	1	20 歳代 (7.1%)	2	30 歳代 (13.3%)	3 40 歳代 (18.1%)
	4	50 歳代 (16.2%)	5	60 歳代 (21.8%)	6 70 歳以上 (21.8%)
ウ. お住まいの地区 (公民館の区域) (無回答 2.5%)	1	深谷地区 (25.0%)	2	藤沢地区 (6.1%)	3 幡羅地区 (12.3%)
	4	明戸地区 (3.0%)	5	大寄地区 (1.9%)	6 八基地区 (1.3%)
	7	豊里地区 (2.6%)	8	上柴地区 (11.8%)	9 南地区 (6.0%)
	10	岡部地区 (10.7%)	11	川本地区 (8.1%)	12 花園地区 (8.2%)